

湖西市文化財調査報告第29集

こ さい  
湖西一ノ宮工業団地内遺跡  
発掘調査報告書

平成3年度



1992

静岡県企業局  
こ さい  
静岡県湖西市教育委員会

湖西<sup>こさい</sup>一ノ宮工業団地内遺跡発掘調査報告書

- 一ノ宮峠場第1地点古窯跡
- 一ノ宮峠場第2地点古窯跡
- 一ノ宮事業場古窯跡
- 殿田第4地点古窯跡
- 東笠子第25地点古窯跡
- 東笠子第44地点古窯跡
- 東笠子第43地点古窯跡

平成3年度

1992

静岡県企業局

静岡県湖西<sup>こさい</sup>市教育委員会

口絵 1



一ノ宮峠場第1地点Ⅰ・Ⅱ号窠跡（南より）

口絵 2



一ノ宮峠場第1地点1号窠跡（南より）

口絵 3



一ノ宮峠場第1地点1号（古）窠跡（南より）

## 序 文

ここに一ノ宮工業団地事業に伴います発掘調査報告書が、整理完了されて刊行できますことを喜びますとともに、直接発掘に関係された皆様や静岡県企業局の関係機関のご苦勞に対し、厚く感謝申し上げます。

今回の報告は、平成元年に発掘調査を行い2カ年をかけて整理報告を行うという3カ年にわたった調査でした。発掘調査では、窯跡7基土坑2基を調査し、遺物では須恵器と埴輪をも焼いていたことが判った他に、窯跡1基を型取りし保存することができました。湖西市は、ご案内のとおり古窯跡が多く、その数では国内屈指と聞き及んでいますが、近年の急増な開発の中でその数が減ってまいりました。今後は、記録保存ばかりではなく保護保存も積極的に努め、後世に郷土の遺産として残してまいりたいと考えます。

本報告書を通し、大方の学究の諸氏が研究の資とされると共に、一層のご指導をいただければ幸いです。一端を記して、刊行の辞とします。

平成4年3月

湖西市教育委員会

教育長 守 田 住 夫

# 例 言

1. 本書は、湖西市教育委員会が静岡県企業局の委託を受けて、平成元年度から平成3年度にかけて実施した一ノ宮工業団地内遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査体制は下記の通りである。

[平成元年度]

調査主体者 湖西市教育委員会教育長 山本祐一

調査員 後藤建一（主任主事） 石川浩久（主事）

事務局 吉田建二（社会教育課長）、相沢惇夫（社会教育課長補佐）、菅沼攻（文化振興係長）、高橋一敏（主任主事）

作業員 加藤明、加藤房次郎、菅沼孝治郎、森岡正男、岡部元次、鈴木佐吉、池田勇、清水一二三、菅本光雄、本馬秋男、飯田秀雄、中畑昭二、佐藤静雄、伊藤協三、山本武、岡田五男、竹上孝男、木村達郎、夏目栄、小池庄太郎、柴田荒吉、吉田文吉、藤田芳春、菅沼勇、居沢貴弘、豊田澄江、岡田豊子、木原正江、豊田育子、山本真弓、山本幸子

[平成2年度]

調査主体者 湖西市教育委員会教育長 守田住夫

調査員 後藤建一（主任主事）

事務局 吉田建二（社会教育課長）、相沢惇夫（社会教育課長補佐）、伏見廣志（文化振興係長）、高橋一敏（主任主事）

作業員 加藤明、加藤房次郎、菅沼孝治郎、森岡正男、岡部元次、鈴木佐吉、池田勇、清水一二三、菅本光雄、本馬秋男、飯田秀雄、中畑昭二、佐藤静雄、伊藤協三、山本武、木村達郎、夏目栄、小池庄太郎、柴田荒吉、加藤松雄、吉田文吉、藤田芳春、居沢貴弘、吉田文子、豊田澄江、岡田豊子、蛭川智子、袴田喜久恵、木原正江、豊田育子、山本真弓、山本幸子

[平成3年度]

調査主体者 湖西市教育委員会教育長 守田住夫

調査員 後藤建一（主任主事）

事務局 相沢惇夫（社会教育課長）、豊田吉博（社会教育課長補佐）、伏見廣志（文化振興係長）、高橋一敏（主任主事）

作業員 蛭川智子、木原正江、豊田育子、山本真弓、山本幸子

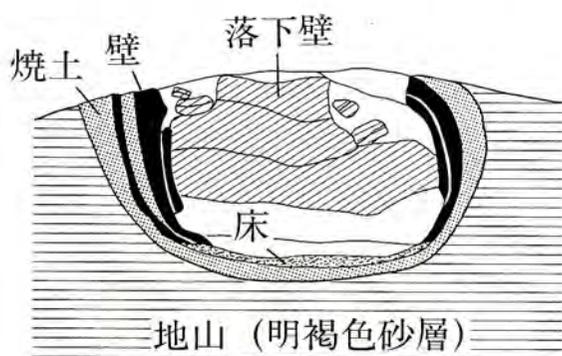
3. 遺構の測図および航空写真は髷フジヤマに、窯跡の型取りは髷森田環境企画に委託した。測図の一部を後藤・石川が行った。遺構の浄書、遺物の測図・浄書、遺構遺物写真は、後藤が行った。

なお、遺物測図内の矢印は篋削りの際の粒子の移動方向を表し、断面黒塗りは須恵器、

白抜きは土師器を表す。また、遺構測図の図柄は、下図による。遺物出土の区画呼称は、調査区高位を仮北として北東隅のポイント呼称に代表させている。土層は、新しい土層から古い土層へとアラビア数字で表し、床面も同様である。

4. 本書は、1～5(1)と6, 7を後藤が執筆し、5(2)と8を鈴木敏則氏に執筆をお願いした。なお、7に関わる挿図や遺物実測は後藤により、8に関わる挿図や写真図版は鈴木氏による。
5. 調査に関する資料および遺物は、湖西市教育委員会で保管管理している。
6. 調査に関する問い合わせ先

〒431-04 静岡県湖西市吉美3268番地 湖西市教育委員会社会教育課 ☎053(576)4793



# 目 次

## 表紙 調査区全景（南より）

口絵	1. 一ノ宮峠場第1地点I・II号窯跡（南より）	
	2. 一ノ宮峠場第1地点I号窯跡（南より）	
	3. 一ノ宮峠場第1地点I号（古）窯跡（南より）	
1.	調査経過	(3)
	(1)調査位置 (2)調査経緯と経過	
2.	一ノ宮峠場第1地点古窯跡	(6)
	(1)I号窯 (2)II号窯 (3)土坑 (4)III号窯 (5)IV号窯 (6)V号窯 (7)灰原	
3.	一ノ宮峠場第2地点古窯跡	(14)
	(1)I号窯 (2)II号窯 (3)土坑 (4)灰原	
4.	一ノ宮事業場古窯跡	(16)
5.	出土遺物	(20)
	(1)須恵器 (2)埴輪	
6.	まとめ	(46)
7.	参考となる古窯跡	(48)
	(1)殿田第4地点古窯跡 (2)東笠子第25地点古窯跡 (3)東笠子第44地点古窯跡	
	(4)東笠子第43地点古窯跡	
8.	湖西市内の埴輪	(121)

## 挿入図版目次

第1図	位置図	(1)
第2図	周辺遺跡分布図	(2)
第3図	調査区地形図	(3)
第4図	一ノ宮峠場第1地点古窯跡全体図(1)	(5)
第5図	一ノ宮峠場第1地点I号窯跡実測図	(6)
第6図	一ノ宮峠場第1地点II号窯跡実測図	(8)
第7図	一ノ宮峠場第1地点土坑実測図	(9)
第8図	一ノ宮峠場第1地点III号窯跡実測図	(10)
第9図	一ノ宮峠場第1地点IV号窯跡実測図	(11)
第10図	一ノ宮峠場第1地点古窯跡全体図(2)	(12)
第11図	一ノ宮峠場第1地点V号窯跡実測図	(13)
第12図	一ノ宮峠場第1地点灰原実測図	(14)
第13図	一ノ宮峠場第2地点古窯跡全体図	(15)

第14図	一ノ宮峠場第2地点I号窯跡実測図	(16)
第15図	一ノ宮峠場第2地点II号窯跡実測図	(17)
第16図	一ノ宮峠場第2地点土坑実測図	(18)
第17図	一ノ宮峠場第2地点灰原実測図	(19)
第18図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(1)	(21)
第19図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(2)	(22)
第20図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(3)	(23)
第21図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(4)	(24)
第22図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(5)	(25)
第23図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(6)	(26)
第24図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(7)	(27)
第25図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(8)	(28)
第26図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(9)	(29)
第27図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(10)	(30)
第28図	一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(11)	(31)
第29図	一ノ宮峠場第2地点出土遺物実測図(1)	(32)
第30図	一ノ宮峠場第2地点出土遺物実測図(2)	(33)
第31図	一ノ宮事業場古窯跡出土遺物実測図	(34)
第32図	一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(1)	(40)
第33図	一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(2)	(41)
第34図	一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(3)	(42)
第35図	一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(4)	(43)
第36図	殿田第4地点古窯跡位置図	(54)
第37図	殿田第4地点古窯跡全体図	(54)
第38図	殿田第4地点1号窯跡実測図	(54)
第39図	東笠子遺跡群遺跡分布図	(55)
第40図	東笠子第25・44地点古窯跡位置図	(56)
第41図	東笠子第25地点古窯跡全体図	(56)
第42図	東笠子第44地点古窯跡全体図	(56)
第43図	東笠子第44地点VII号窯跡実測図	(56)
第44図	東笠子第43地点古窯跡位置図	(57)
第45図	東笠子第43地点古窯跡全体図	(58)
第46図	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(1)	(59)
第47図	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(2)	(60)
第48図	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(3)	(61)

第49图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(4)	(62)
第50图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(5)	(63)
第51图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(6)	(64)
第52图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(7)	(65)
第53图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(8)	(66)
第54图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(9)	(67)
第55图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(10)	(68)
第56图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(11)	(69)
第57图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(12)	(70)
第58图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(13)	(71)
第59图	殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(14)	(72)
	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(1)	(72)
第60图	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(2)	(73)
第61图	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(3)	(74)
第62图	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(4)	(75)
第63图	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(5)	(76)
第64图	東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(6)	(77)
第65图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(1)	(78)
第66图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(2)	(79)
第67图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(3)	(80)
第68图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(4)	(81)
第69图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(5)	(82)
第70图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(6)	(83)
第71图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(7)	(84)
第72图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(8)	(85)
第73图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(9)	(86)
第74图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(10)	(87)
第75图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(11)	(88)
第76图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(12)	(89)
第77图	東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(13)	(90)
第78图	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(1)	(91)
第79图	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(2)	(92)
第80图	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(3)	(93)
第81图	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(4)	(94)
第82图	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(5)	(95)

第83図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(6)……………	(96)
第84図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(7)……………	(97)
第85図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(8)……………	(98)
第86図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(9)……………	(99)
第87図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(10)……………	(100)
第88図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(11)……………	(101)
第89図	東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(12)……………	(102)
第90図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(1)……………	(131)
第91図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(2)……………	(132)
第92図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(3)……………	(133)
第93図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(4)……………	(134)
第94図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(5)……………	(135)
第95図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(6)……………	(136)
第96図	湖西市一の宮古墳出土埴輪(7)……………	(137)
第97図	湖西市一の宮南古墳・御経塚北古墳出土埴輪……………	(138)
第98図	湖西市明通り古窯出土埴輪……………	(139)
第99図	湖西市利木古墳出土埴輪(1)……………	(140)
第100図	湖西市利木古墳出土埴輪(2)……………	(141)
第101図	遠江と伊勢の淡輪系埴輪の編年図……………	(142)

### 表目次

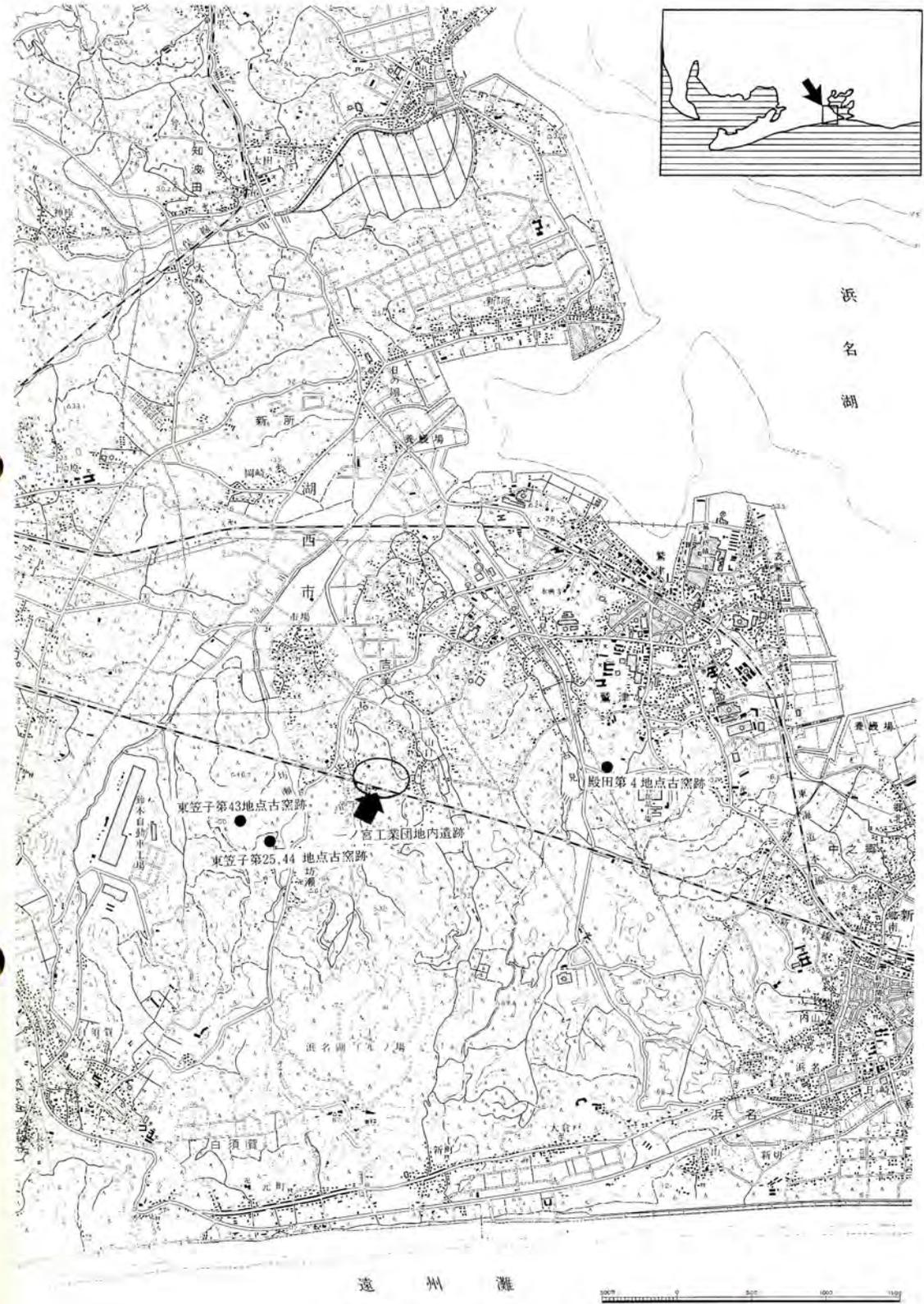
表1	一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覧表(1)……………	(35)
表2	一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覧表(2)……………	(36)
表3	一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覧表(3)……………	(37)
表4	一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覧表(4)……………	(38)
	一ノ宮峠場第2地点出土遺物法量値一覧表(1)……………	(38)
表5	一ノ宮峠場第2地点出土遺物法量値一覧表(2)……………	(39)
	一ノ宮事業場地点出土遺物法量値一覧表……………	(39)
表6	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(1)……………	(103)
表7	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(2)……………	(104)
表8	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(3)……………	(105)
表9	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(4)……………	(106)
表10	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(5)……………	(107)
表11	殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(6)……………	(108)
	東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(1)……………	(108)

表12	東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(2).....	(109)
表13	東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(3).....	(110)
表14	東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(1).....	(111)
表15	東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(2).....	(112)
表16	東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(3).....	(113)
表17	東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(4).....	(114)
表18	東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(5).....	(115)
	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(1).....	(115)
表19	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(2).....	(116)
表20	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(3).....	(117)
表21	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(4).....	(118)
表22	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(5).....	(119)
表23	東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(6).....	(120)

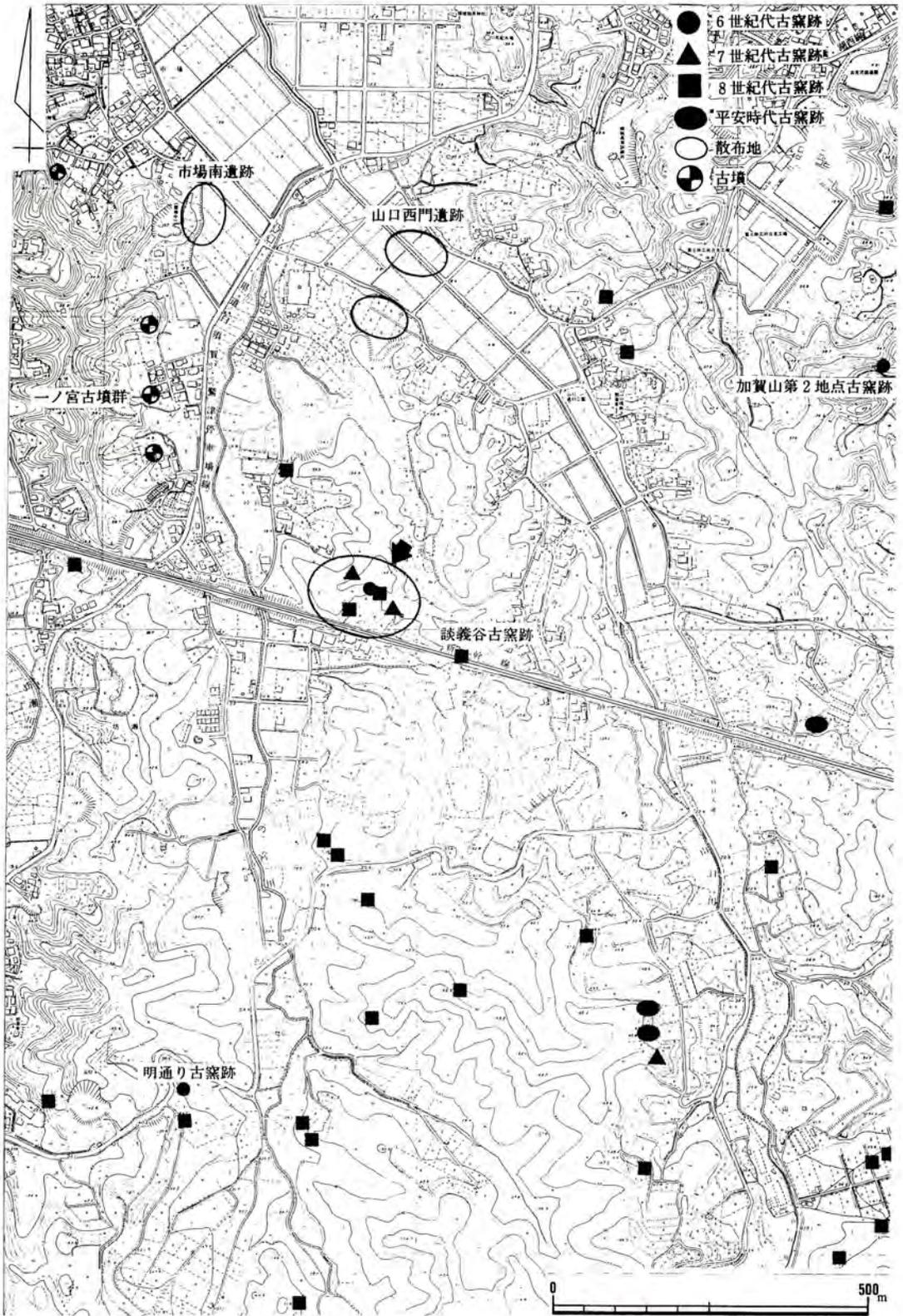
#### 写真図版

図版1	A) 調査区全景 (南より)	B) 調査区近景 (南より)
図版2	A) 一ノ宮峠場第1地点I・II号窯跡 (南より)	B) II号窯跡全景 (南より)
図版3	A) II号窯跡側壁 (東南より)	B) II号窯跡階段部 (南西より)
図版4	A) 一ノ宮峠場第1地点I号窯跡1次面 (南より)	B) I号窯跡2次面 (南より)
図版5	A) I号窯跡3次面 (南より)	B) I・II号窯跡作業風景 (南西より)
図版6	A) 一ノ宮峠場第1地点III・IV号窯跡 (南より)	B) IV号窯跡 (西より)
図版7	A) 一ノ宮峠場第1地点V号窯跡 (南より)	B) V号窯跡床面状況 (南より)
図版8	A) 一ノ宮峠場第2地点全景 (北西より)	B) I号窯跡と土坑 (北西より)
図版9	A) I号窯跡 (西より)	B) I号窯跡階段部 (北より)
図版10	A) I号窯前提部と土坑 (東より)	B) 土坑 (北西より)
図版11	A) I・II号窯跡 (西より)	B) II号窯跡 (北西より)
図版12	A) 灰原 (西より)	B) 作業風景 (西より)
図版13	A) 一ノ宮事業場古窯跡全景 (北東より)	B) 作業風景 (北東より)
図版14	峠場第1地点出土遺物(1)	
図版15	峠場第1地点出土遺物(2)	
図版16	峠場第1地点出土遺物(3)	
図版17	峠場第2地点, 事業場出土遺物	
図版18	峠場第1地点出土埴輪	
図版19	一の宮古墳(1)	
図版20	一の宮古墳(2)	

- 図版21 一の宮古墳(3)  
図版22 一の宮古墳(4)・御経塚北古墳  
図版23 利木古墳(1)  
図版24 利木古墳(2)  
図版25 利木古墳(3)  
図版26 利木古墳(4)



第1図 位置図



第2図 周辺遺跡分布図



第3図 調査区地形図

## 1. 調査経過

### (1) 調査位置

湖西市は浜名湖の西岸に位置し、愛知県豊橋市に隣接する静岡県西端の市である。総面積は55km<sup>2</sup>ほどで、東西5.8km南北10.6kmの南北に細長い市域に、4万3千人ほどが住んでいる。

地形地質は、北西部には赤石山系から延びる弓張山脈の山塊、南部に広がる洪積台地および丘陵、そして東側の浜名湖に面する沖積地とに大別できる。山脈は、標高を450mから320mへと徐々に低くし、県境の主尾根から静岡県と愛知県の東西方向に支尾根を延ばしている。地質は西南日本構造線の外帯に属し、秩父古生層の珪岩、砂岩、粘板岩で構成される老年期地形である。南部の台地は、天伯原台地と呼ばれ西の渥美半島まで広がる。地質は、第四紀洪積世の高位段丘礫質堆積物を基礎とし、更新世以来の後背地の隆起によって成立している。台地は、北に向かって次第に低くなる逆傾斜の地形で、浜名湖に注ぐ大小の河川の浸食によって、狭長な丘陵となっている。丘陵の南端は、太平洋の荒波によって浸食され標高70mの海食崖となり、渥美半島まで続いている。

今回調査を行った一ノ宮工業団地内遺跡は、一ノ宮川と山口川に挟まれた丘陵地の一角にあ

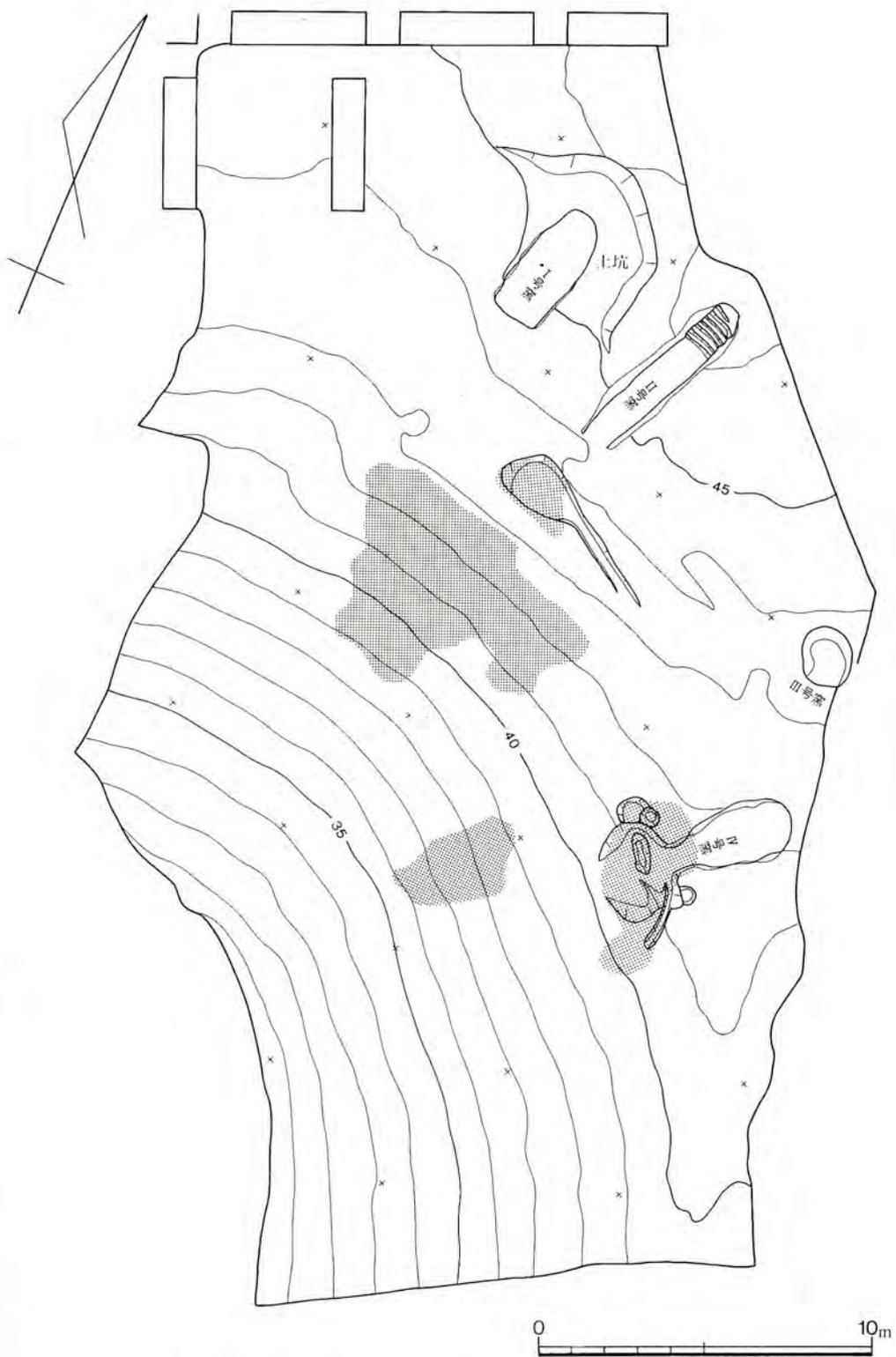
る。北に延びる主尾根に東西に小谷が入り込み、複雑な地形となっている。調査地は主尾根より西に延びた支尾根に位置している。周辺には、古窯跡が数多く分布している。一ノ宮川流域には、5世紀代の明通り古窯跡や同時期の一ノ宮古墳群など、古い古窯跡や古墳が存在している。今回調査された古窯跡もそれに続く時期の所産である。丘陵の先端に位置している山口西門遺跡や市場南遺跡は、窯業生産に関わる遺跡である。

## (2)調査経緯と経過

平成元年4月19日に湖西市産業振興課より、かねてより計画されていた一ノ宮工業団地内の事前調査の依頼が教育委員会にあった。教育委員会では、同年5月30、31日に現地踏査を行い3ヶ所の古窯跡、1ヶ所の散布地、2ヶ所の可能性地点を回答した。これを受けて、教育委員会・産業振興課・静岡県企業局による三者協議がもたれ、発掘調査による記録保存の方法が検討された。当時、教育委員会では別途に総合パイロット事業に係わる発掘調査を行っており、直ちに対応するに困難であった。このため、別途の調査を迅速に終了すべく隣接する浜名郡新居町より岡本聡氏を派遣して頂き、その終了後に調査を手掛けることとなった。

同年8月1日に契約書を交わし事業を開始したが、発掘調査を実施したのは10月に入ってからであった。調査は、尾根にトレンチを配し遺構の確認を行い、確認された3ヶ所をさらに広げ平面調査を行った。調査の後半に、峠場第1地点II号窯の表面剥ぎを行い標本取りし保存した。発掘調査は平成2年3月中旬に終了した。整理作業は、平成2年2月より開始し平成3年9月に終了した。その後、報告書刊行に係わる作業を行った。

なお、古窯跡の名称は、調査箇所を地元で峠場（とうげんば）事業場（じぎょうば）と呼称していたことによる。



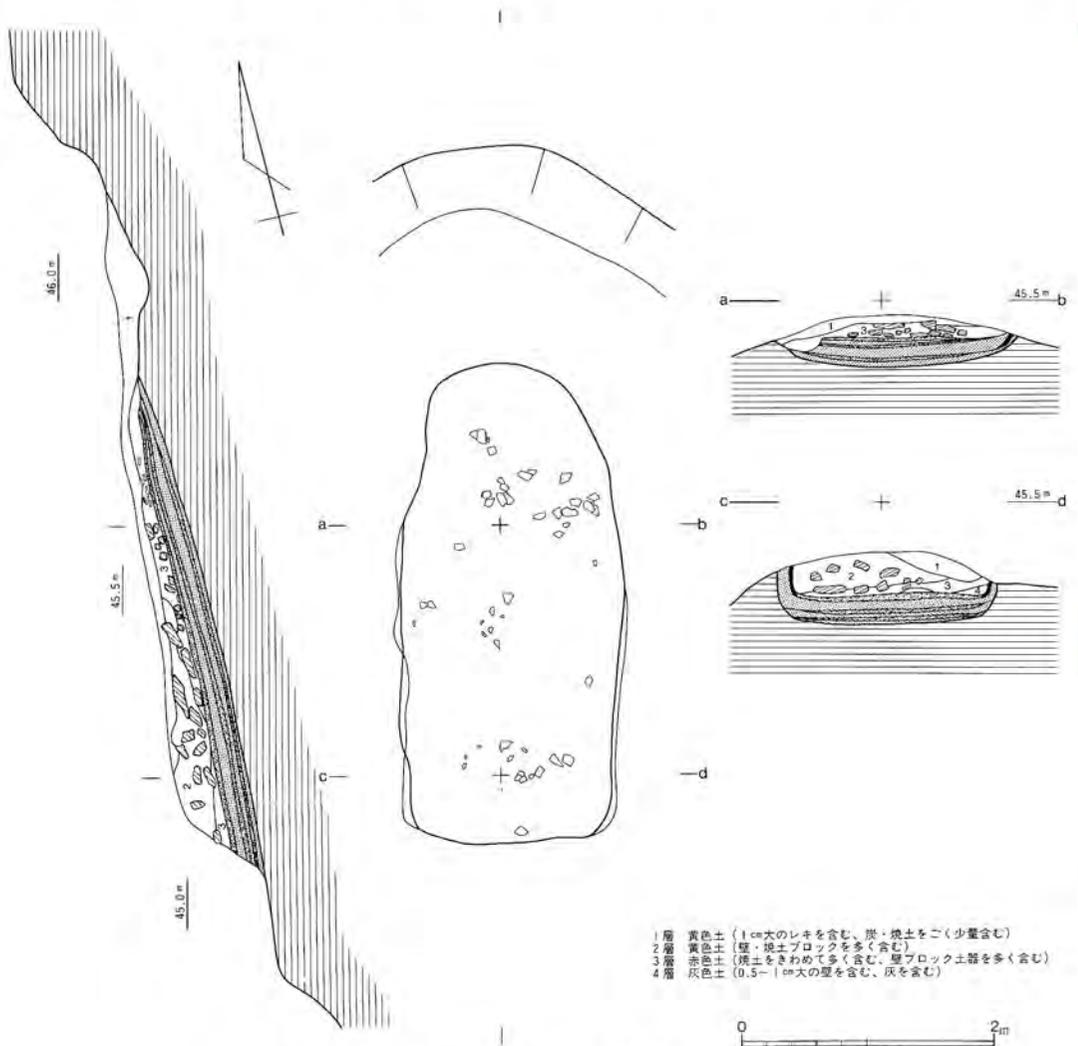
第4图 一ノ宮峠場第1地点古窯跡全体図(1)

## 2. 一ノ宮峠場第1地点古窯跡

北西に延びる主尾根の南西斜面に位置する。窯跡は尾根近くに構築され、急峻な斜面に灰原が薄く堆積している。I号窯とII号窯、III号窯とIV号窯がそれぞれ隣接し、V号窯は40mほど東に離れている。

### (1) I号窯

I号窯は、前庭部および窯体前半部を南西方向に配された第2次世界大戦時の塹壕により、壊されている。さらに、煙出部と窯体後半部および上半部を土坑により壊されている。主軸方位を東へ14度ほど振り、長さ3.9m幅1.7mの残存規模を測る。幅を全体に同じとするので、窯体構造はII号窯から階段を除いた形状となろう。壁は、窯の上半部が土坑により削平されてい



第5図 一ノ宮峠場第1地点I号窯跡実測図

るので、高い箇所では20cm程度の高さを測る。緩やかに湾曲しつつ立ち上がる壁は、粘土により成り立っている。壁は、酸化して赤く焼き締まっている箇所や、還元し灰色となっている箇所が見られる。壁と同様に粘質土から成る床面は、固く焼き締まっており、砂を一面に敷き傾斜角12度を測る。床面は3面確認され、上より1次面、2次面、3次面と呼称し、平面形に変化はない。各床面より、埴輪や坏蓋が出土しているので、当初から終了まで埴輪と須恵器の併焼窯であったことがわかる。埋土状況は、営窯終了後に土砂の流入とともに天井が落下した。

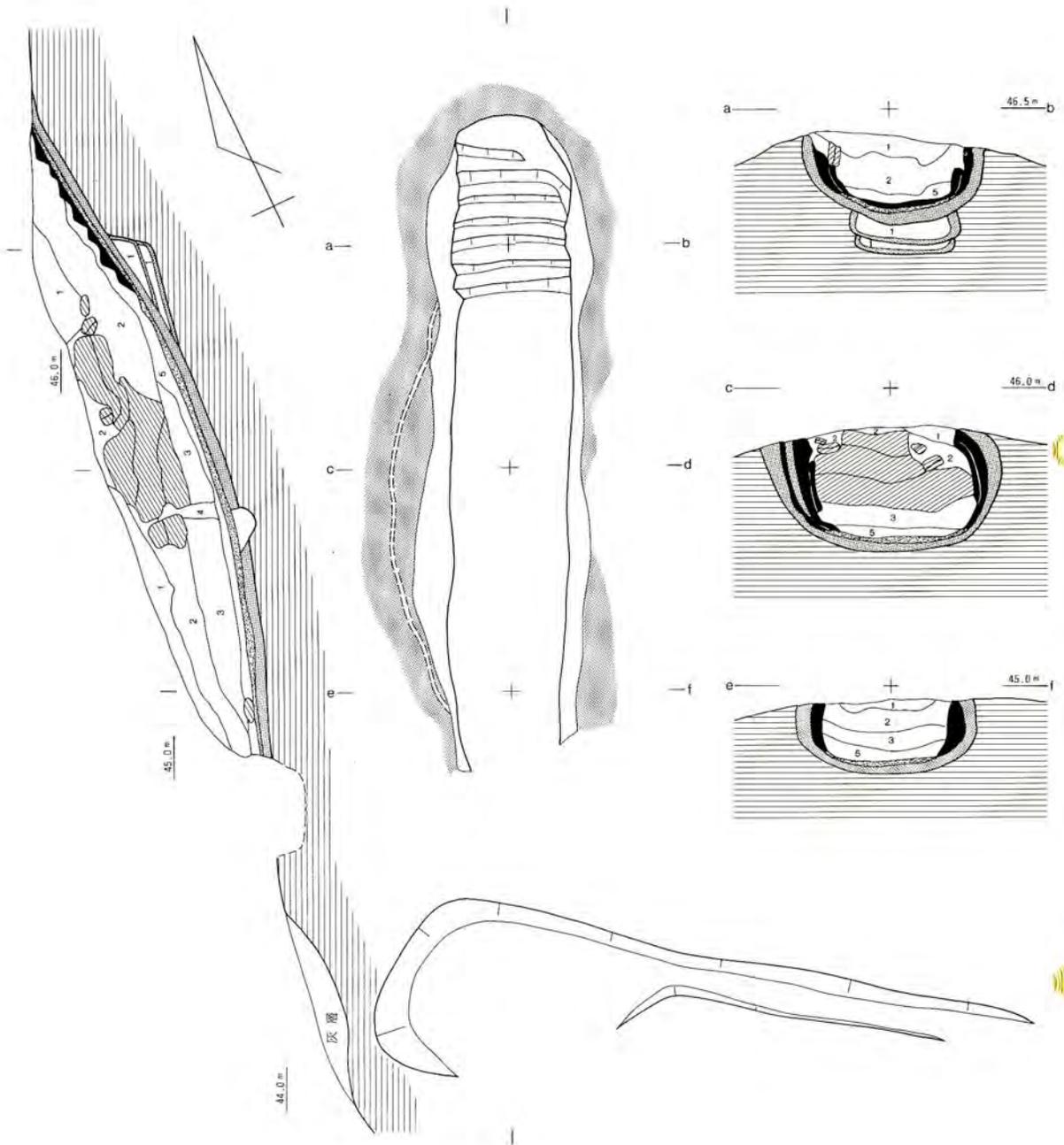
## (2)II号窯

II号窯は、I号窯より3mほど東に離れている。焚口部は南西方向に配された第2次世界大戦時の塹壕により壊され、煙出部は造林のため削平を受けている。主軸を東へ25度ほど振り、窯本体の長さ6mを測り、床面幅がほぼ1mと変わらないので、平面形は短冊状となる。窯体の後半1/3ほどに階段を設けている。階段部は残存長1.6m幅1mほどで、奥行き10cmで高さ15cmないしは10cmの段を7段数える。階段は粘土により構成され、傾斜角30度を測る。階段部を除去すると、下から新たな床面が現れた。新たな床面は、焼成部床面に連なるので、II号窯は新旧の窯構造から成ることがわかった。新旧の平面形は同形であるので、短冊状の平面で階段の無い旧の窯構造に、階段を敷設したのが新の窯構造ということになる。壁と天井は階段部と同様、粘土より成る。燃焼部は壁をほぼ直立に立ち上がらせ天井高も低いものの、焼成部に移行すると壁を湾曲させ最大幅1.4m天井高も1mほどになり胴膨れの状態となる。階段部に至って、壁は緩やかに湾曲し、天井高もやや低くなる。壁は全体に2面の補修を認め、焼成部の西壁では3面確認された。床面は粘土構成で固く焼き締まっており、砂を一面に敷いている。床面傾斜角度は、燃焼部の10度から焼成部の20度、さらに階段部の30度と徐々に角度を増している。窯内埋土状況は、営窯終了後もしばらく天井が残っており、その空間に土砂が流入した後には天井が落下した。天井は、焼成部位に落下を認め階段部では落下した天井が確認されなかった。おそらく、営窯時にその部位の天井が取り払われていたであろう。前提部は、窯体から1mほど下方にある。前庭部は、長さ1.5m幅2.5m深さ30cmほどの横に長い楕円形の土坑で、灰が充満していた。上方半分には壁を有し下方には壁を作らず、東側に長さ3m幅40cmの溝を配している。

II号窯を断ち割ったところ、階段部の下より別の窯が検出された。この窯をII号窯(古)、前述をII号窯(新)と呼称する。II号窯(古)は、幅80cm長さ60cmの方形状に残存しており、壁は高さ20cmで赤く焼け締まっている。II号窯(古)は、II号窯(新)により大半が削られ、最奥が残存している。床面は1次と2次の2面確認され、埴輪破片と須恵器破片が出土しているので、先のI号窯と同様の併焼窯である。したがって、I号窯とII号窯(古)が築かれ、停止後にII号窯(古)を壊してII号窯(新)を築いた。

## (3)土坑

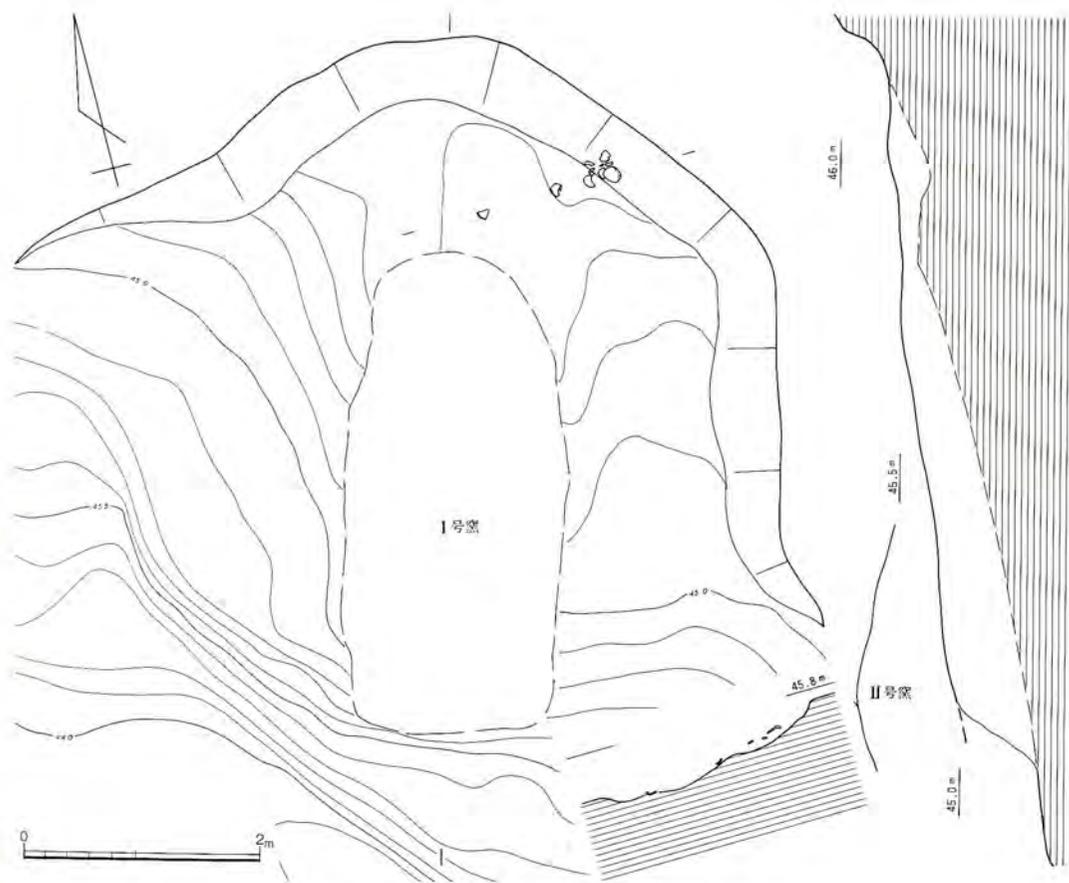
I号窯を削平して成る土坑は、II号窯の西に隣接している。おおむね4m四方の方形状を呈し、深さ40cmの平坦面を形作る。南と西は、塹壕により失われている。覆土中からは、須恵器



- 1層 黄褐色土 (しまりなし)
- 2層 赤褐色土 (焼土を多く含む壁ブロックを含む)
- 3層 赤褐色土 (2層より焼土が多くしまっている  
3-5cm大の壁を含む)
- 4層 黄色土 (しまりなし)
- 5層 灰褐色土 (灰を含む特にたき口附近に多い)

0 2m

第6図 一ノ宮峠場第1地点II号窯跡実測図



第7図 一ノ宮峠場第1地点土坑実測図

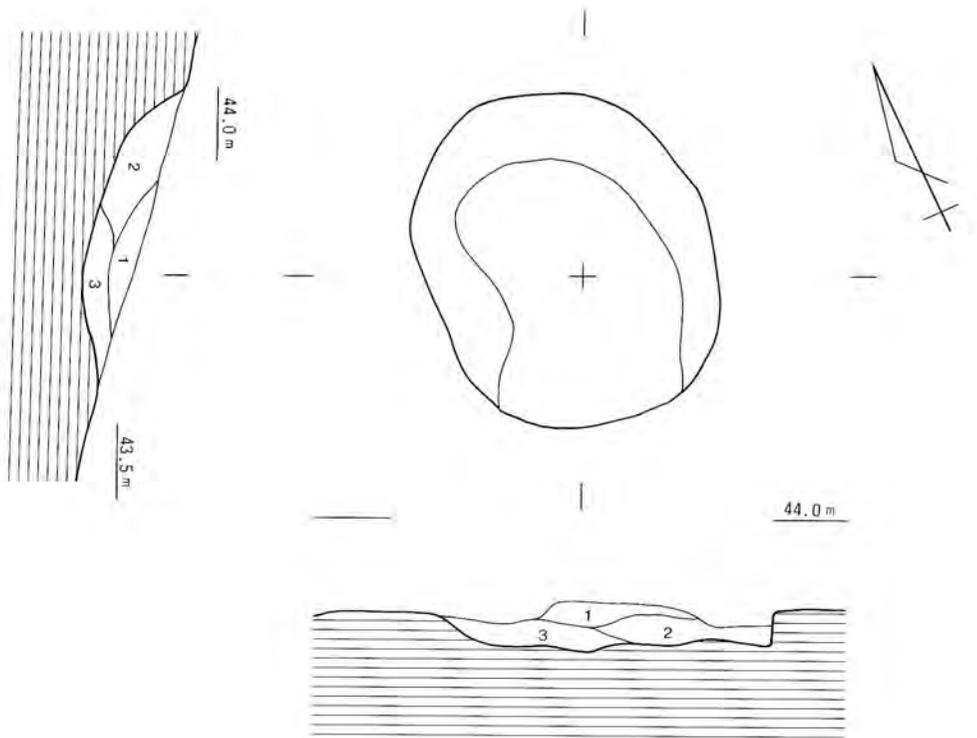
が出土しているが、それらはII号窯（新）に並行するので、土坑はII号窯（新）に伴う遺構となる。土坑は、後述の第2地点の土坑のように窯に隣接した作業場として考えることもできようが、通例その種の土坑は床が平坦であることはなく、大小の土坑が穿たれ凹凸がある。床が平坦で方形状であることや、6世紀代に遡るII号窯（新）に伴うことから、おそらく西笠子第64号窯跡で確認された住居跡（湖西市教育委員会『西笠子第64号窯跡発掘調査報告書』1987年）と同種の遺構と考えられる。

#### (4) III号窯

III号窯は、造林の際に削平を受け大半を失っている。灰原がIV号窯の覆土中に見ることができその量は少なく、長期間にわたる営窯は伺えない。そして、窯体の残存具合や散乱範囲から、他の窯より規模の小さな窯である。

#### (5) IV号窯

窯後半部が造林により壊されている他は、完存している。主軸は47度東に振れ、窯体の残存長3.7mを測る。焚口部は幅70cmで壁が垂直に立ち上がり、天井が架けられていた痕跡はない。



- 1層 黄色土  
 2層 灰褐色土 (黄色土・焼土・壁・灰の混在)  
 3層 暗灰褐色土 (2層と同様に混在層であるが灰を多く含む)

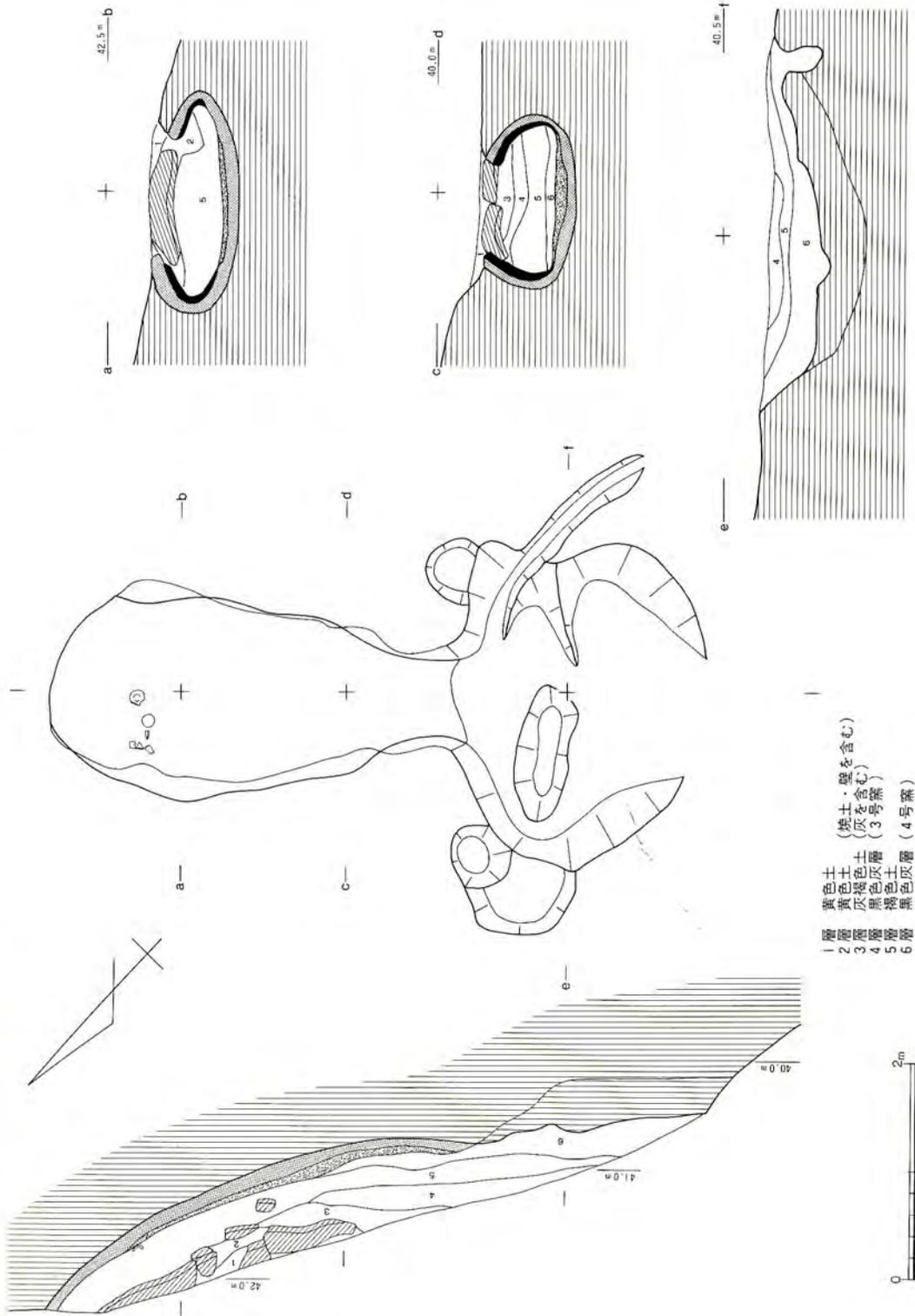


第8図 一ノ宮峠場第1地点Ⅲ号窯跡実測図

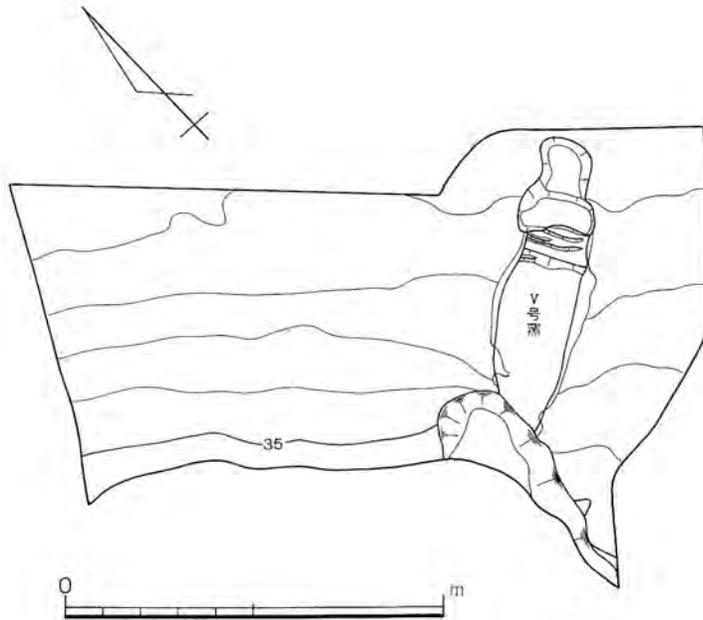
焚口部から燃焼部へ逆「八」の字状に広がって移行し、焼成部では1.8mの最大幅となる。壁は湾曲して立ち上がり、天井は50cmほどの高さとなる。後半部が失われているが、階段部を有する構造と考えられる。床面は、平坦な焚口部から15度の燃焼部、さらに30度の焼成部と傾斜を増していく。前庭部は、横に長い幅3m長さ2mの楕円形を呈し、おおむね平坦で下方壁を欠いている。焚口部東より、長さ2m幅30cm深さ30cmを測る溝が延びている。前庭部と溝には灰が充満していた。Ⅳ号窯は、営窯終了以降、Ⅳ号に後続するⅢ号窯の営窯時でも天井が落下しなかった。その空間に第5層が流入し、Ⅲ号窯の灰が堆積した。そして第3層土砂が流入した後、天井が落下している。

(6) V号窯

V号窯は、Ⅰ～Ⅳ号窯の調査区より40mほど東に離れている。両者の間には、窯跡の存在は伺えなかった。V号窯の前庭部と焚口部は開墾により、階段と煙出部は後世の土坑によって、



第9图 一ノ宮峠場第1地点IV号窯跡実測图

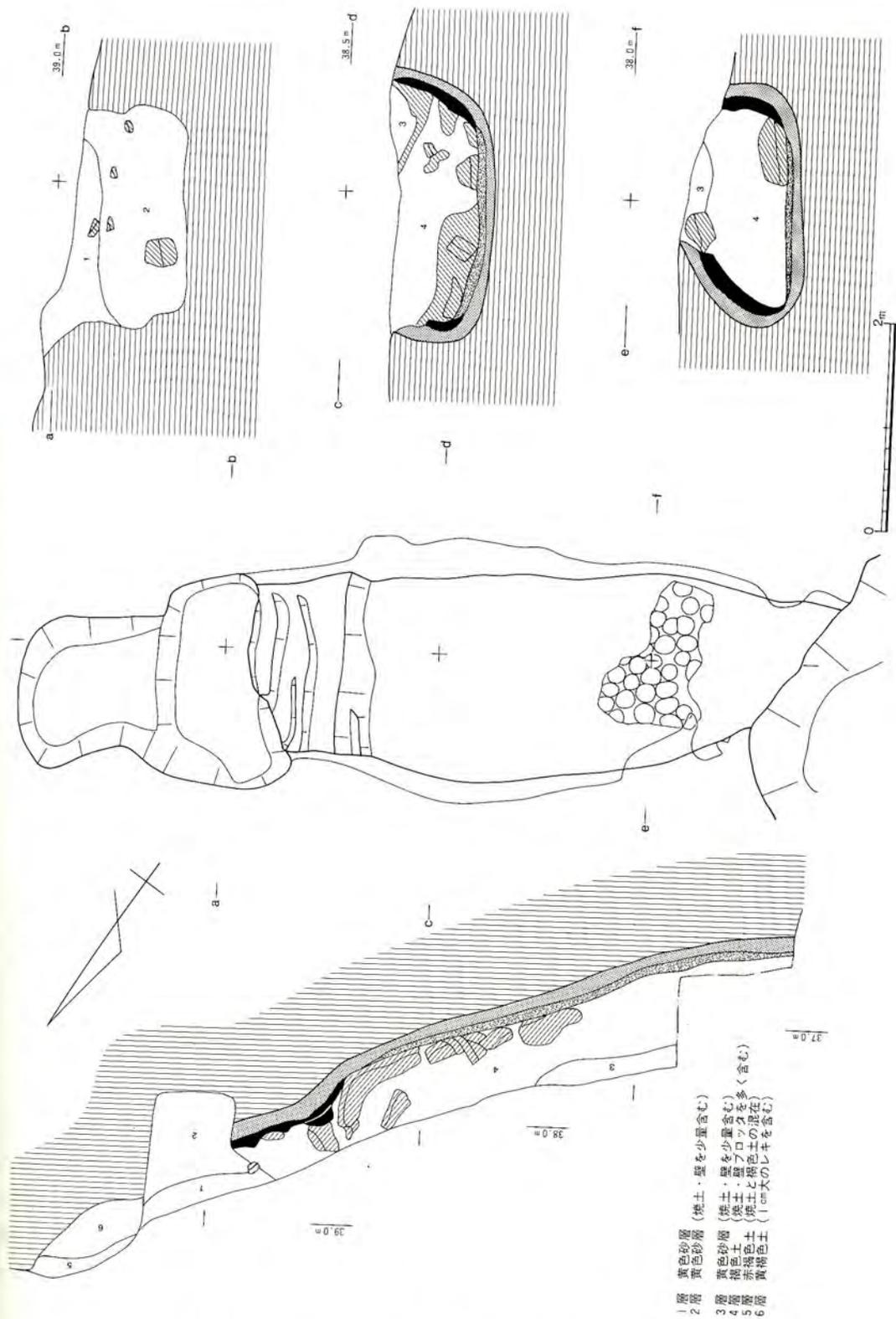


第10図 一ノ宮峠場第1地点古窯跡全体図(2)

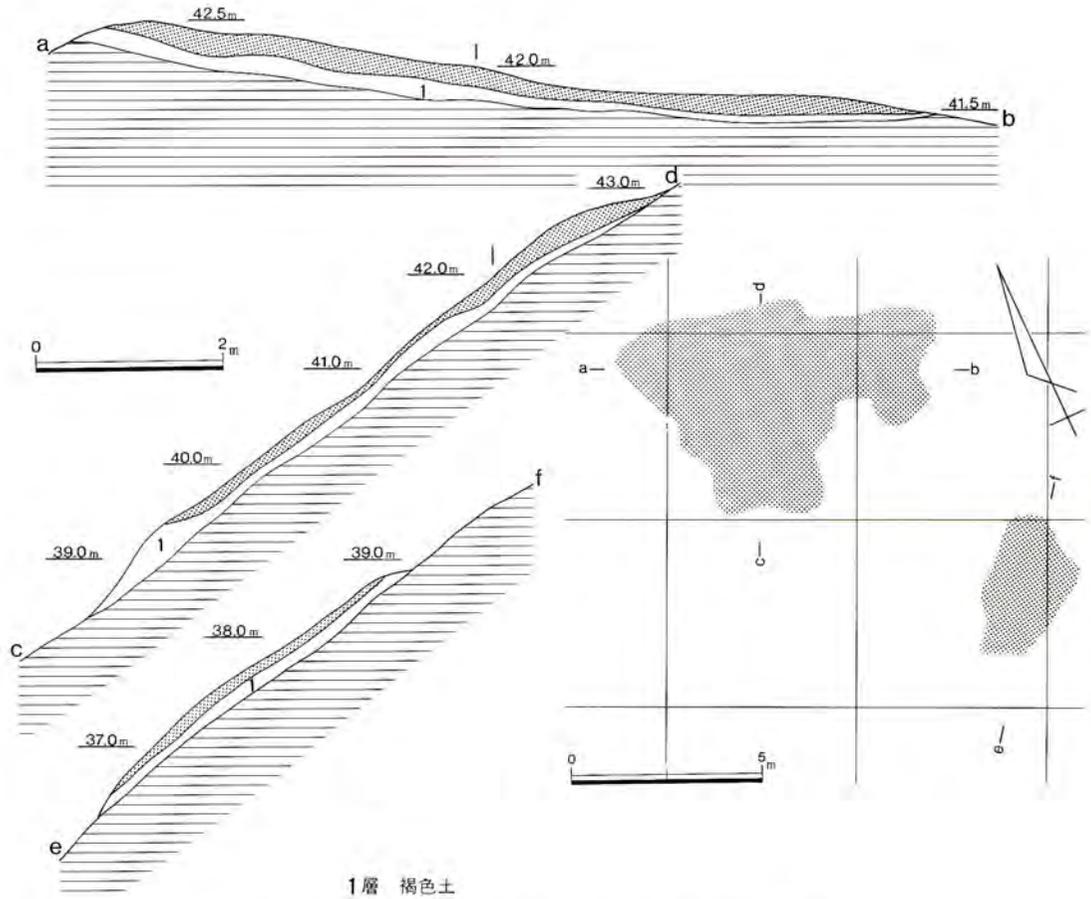
失われている。主軸は55度東に振れ、窯体の残存長5.2mを測る。燃烧部は、逆「八」の字状に広がり長さ1m幅1.4mを測る。烧成部では2mの最大幅となる。壁は湾曲して立ち上がり、天井は80cmほどの高さとなる。階段部は残存長1m幅1.6mで、最初の一段を50cmと高くし、以降を高さ10cmの段を3段数える。床面は、10度の燃烧部から35度の烧成部と緩やかに傾斜していく。烧成部の前半床面には、蓋坏を据え置いた直径15cmほどの窪みが数多く検出された。同様な類例として古見第14地点3号窯がある（湖西市教育委員会『加賀山第1～3地点・古見第14・16地点古窯跡発掘調査報告書』1991年）。両者とも蓋坏を据え置いた窪みは、烧成部の前半に見出せるので、小型製品は前方に窯詰めしたのであろう。埋土状況は、営窯終了後に天井が落下し土砂が堆積した。

#### (7)灰原

灰原は、I号窯とII号窯の前方に1ヶ所、IV号窯の前方に1ヶ所検出されている。I号窯とII号窯の前方の灰原は、40度もある急峻な南西斜面に幅15m長さ6mの範囲に広がっている。灰原堆積は、窯近くが20cmの厚みで大半が10cmと薄い。両窯が混在しており峻別は出来ない。IV号窯前方の灰原は、IV号窯に伴っており、幅2m長さ4mの範囲に広がっている。灰原堆積は、10cmの堆積で薄い。



第11図 一ノ宮峠場第1地点V号窟跡実測図



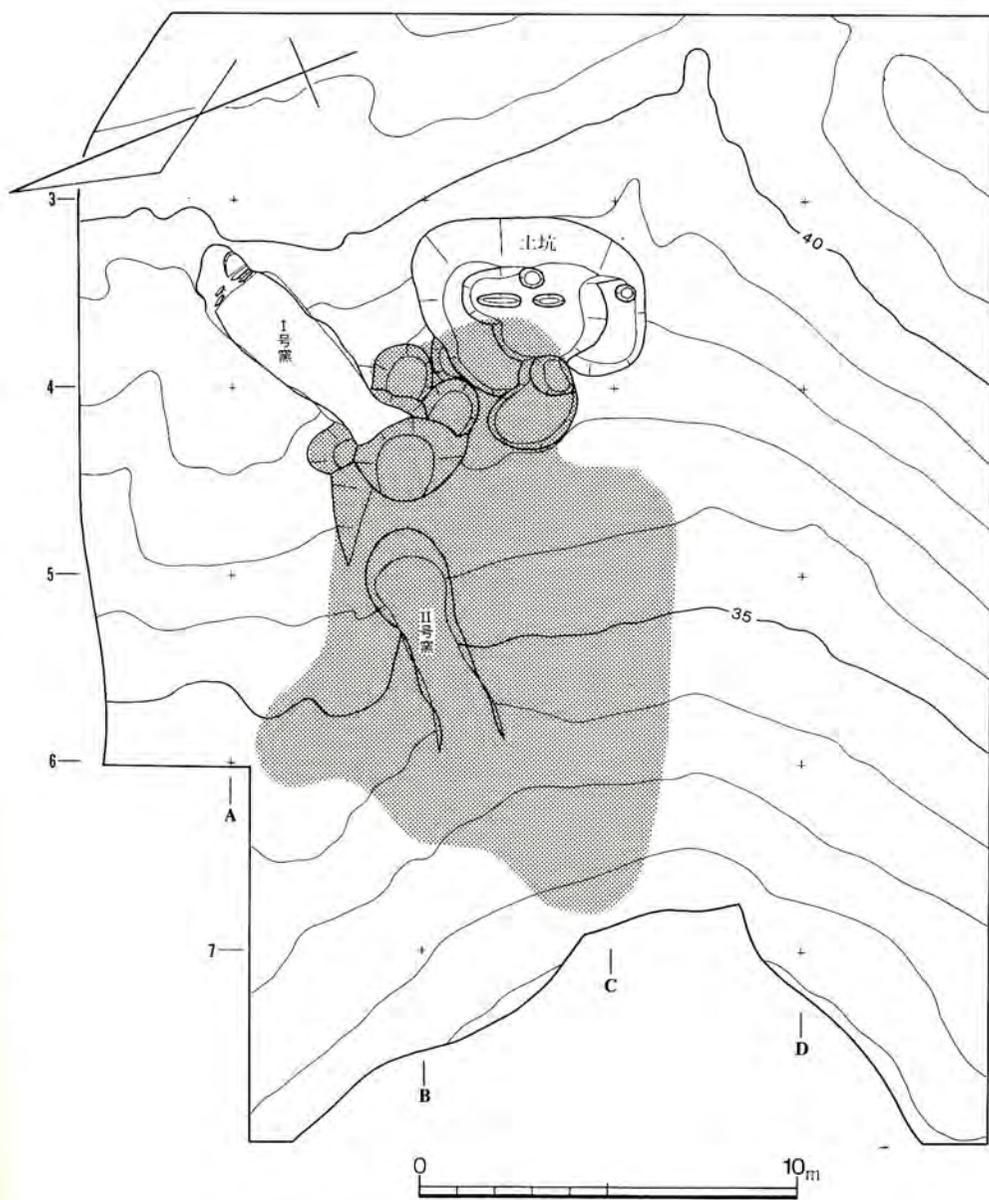
第12図 一ノ宮峠場第1地点灰原実測図

### 3. 一ノ宮峠場第2地点古窯跡

北西に延びる主尾根の北西斜面に位置する。窯跡は尾根近くに構築され、2基の窯と土坑1基、灰原が検出された。

#### (1) 1号窯

煙出部と階段部は、地境の溝により壊されている。主軸を東へ70度ほど振り、残存長8.7mを測る。焚口部は幅1mで壁が直立し、燃焼部へ逆「八」の字状に広がって移行し、焼成部では1.9mの最大幅となる。焚口部から焼成部最奥まで5.4mを測る。壁は湾曲して立ち上がり、天井は1mほどの高さとなる。焚口部の床面は平坦であるが、1.2mまでの床は褐色土に1cm大の壁を混入した状態で3面を数え、燃焼部位から粘土貼りの床となる。焼成部は床面傾斜を10度とし、焼成部では15度と徐々に角度を増す。床面は5面、壁は3面の補修を数える。階段部は、北側を溝により壊されており、数段を数えるだけである。階段部は3面の補修が確認される。



第13图 一ノ宮峠場第2地点古寨跡全体図

前庭部は、断面を摺鉢状の円形土坑で、長さ2m幅3m深さ70cmを測る。土坑には灰が充満していた。窯の埋土状態は、當窯終了後に土砂が流入し、燃燒部の天井が落下し、さらに土砂が堆積した。焼成部の天井は、堅固で調査時でも残存していた。

#### (2)II号窯

II号窯はI号窯のすぐ下方に位置し、I号窯の灰原を除去する際に検出された。II号窯は、構築途中で放棄された窯である。類例に東笠子第12地点II号窯がある（湖西市教育委員会『東笠子遺跡群発掘調査概報』1983年）。主軸を東に向け、長さ7m幅1.5mを測る。側壁を直立させ、奥に行くに従い高さが高くなり、最奥部では壁は湾曲する。床面には凹凸なく、15度の傾斜となる。埋土状態は、II号窯を放棄直後にI号窯を築いたようで、I号窯構築時排土の第6、7層がまず堆積している。そして、I号窯當窯時の灰原が堆積した。

#### (3)土坑

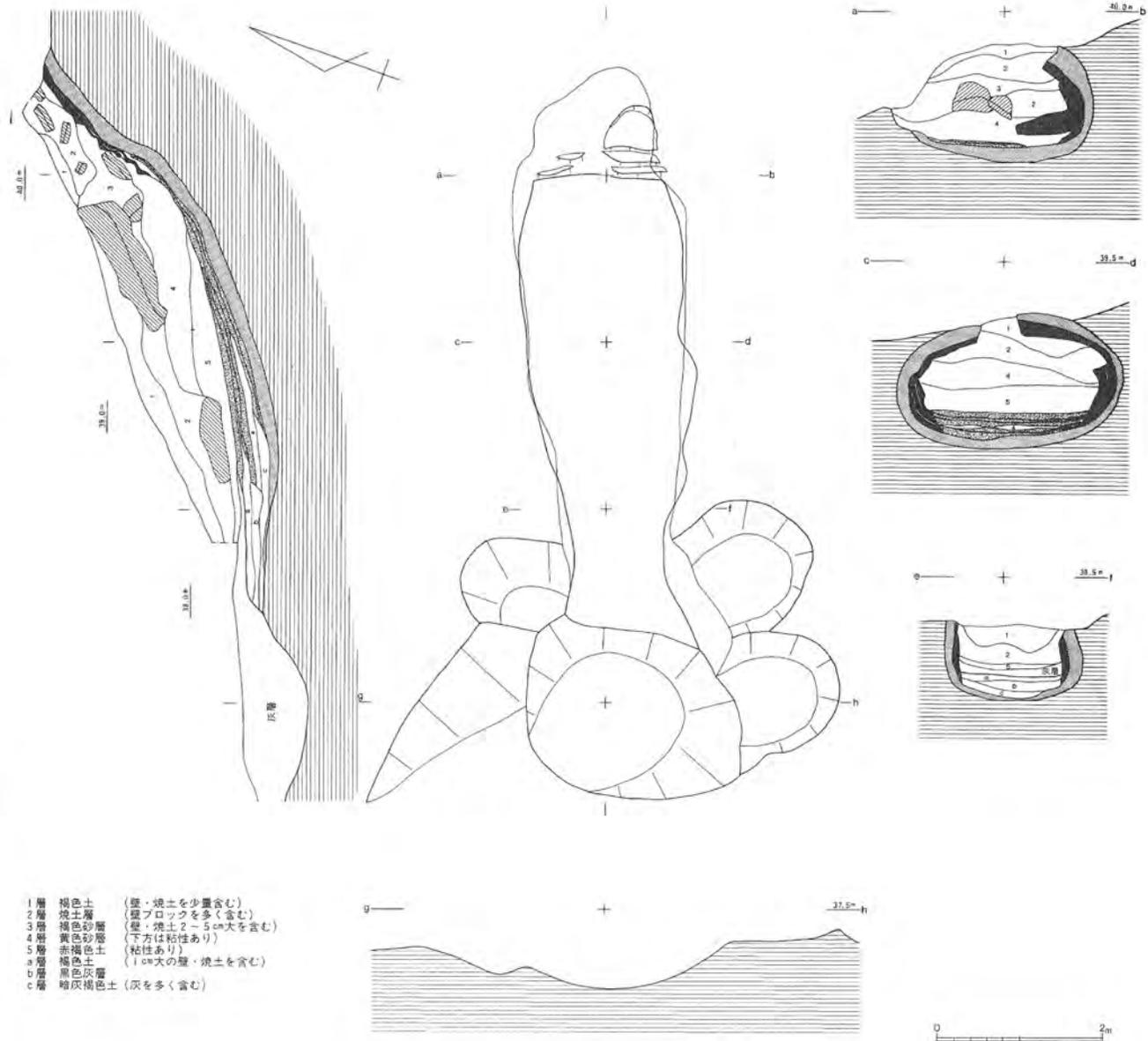
I号窯の右隣に位置し、長さ4.5m幅6mほどを測る楕円の平面形を呈する。壁は直立し、斜面上方は1.6mと壁が高いが、急斜面なため下方は30cmほどである。土坑の中央には、長さ2.5m幅3m深さ40cmないしは60cmほどの楕円形にさらに穿たれ、兩段を有する床面となっている。そして、長さ2.5m幅2m深さ30cmの土坑が取り付けられている。これらの土坑は、當窯時の作業場として利用されていたのであろう。

#### (4)灰原

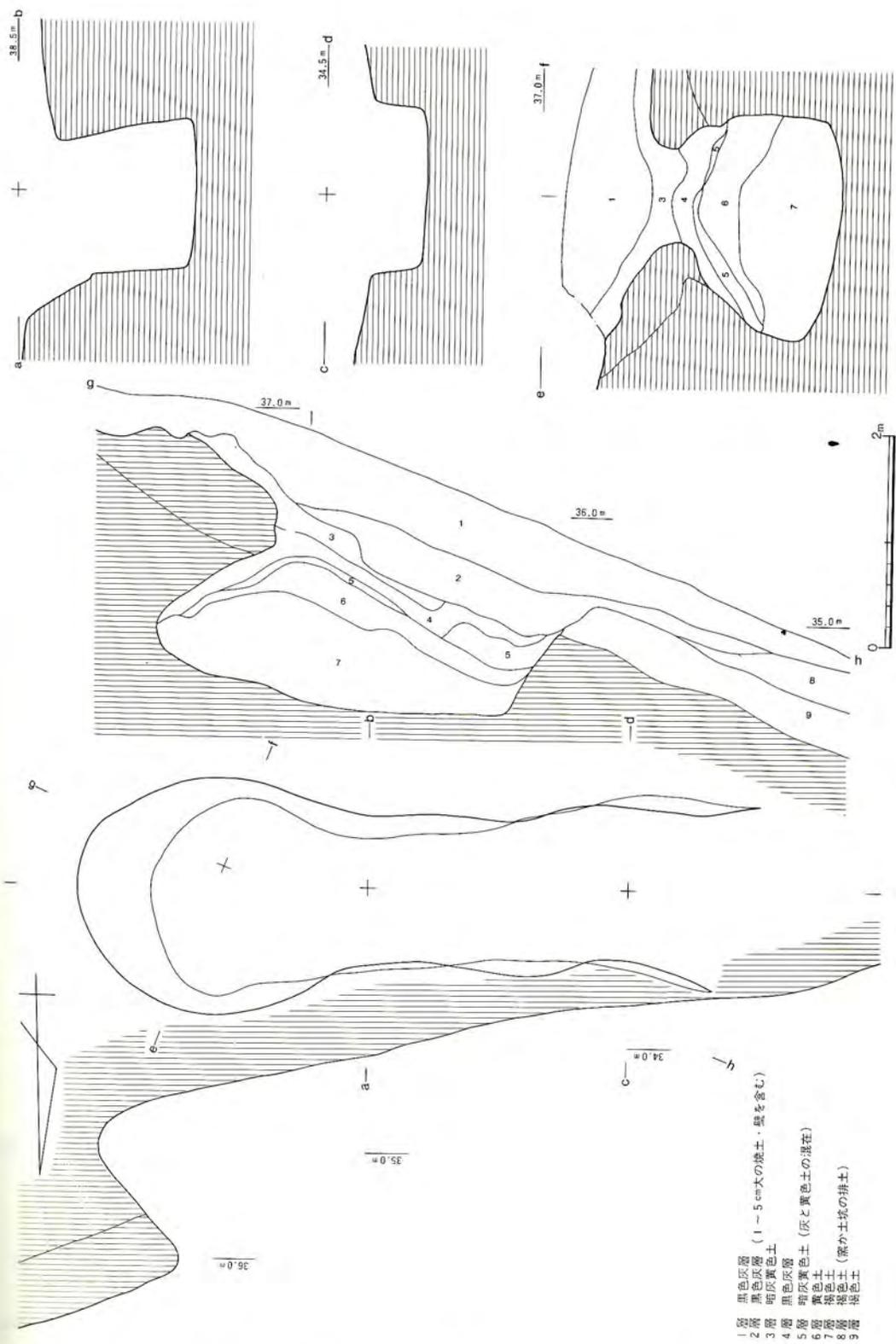
灰原は、傾斜25度の斜面に長さ15m幅10mほどの範囲に広がっている。灰原は、上方が80cmと厚く徐々に20cmと薄くなっていく。I号窯に伴う灰原である。

### 4. 一ノ宮事業場古窯跡

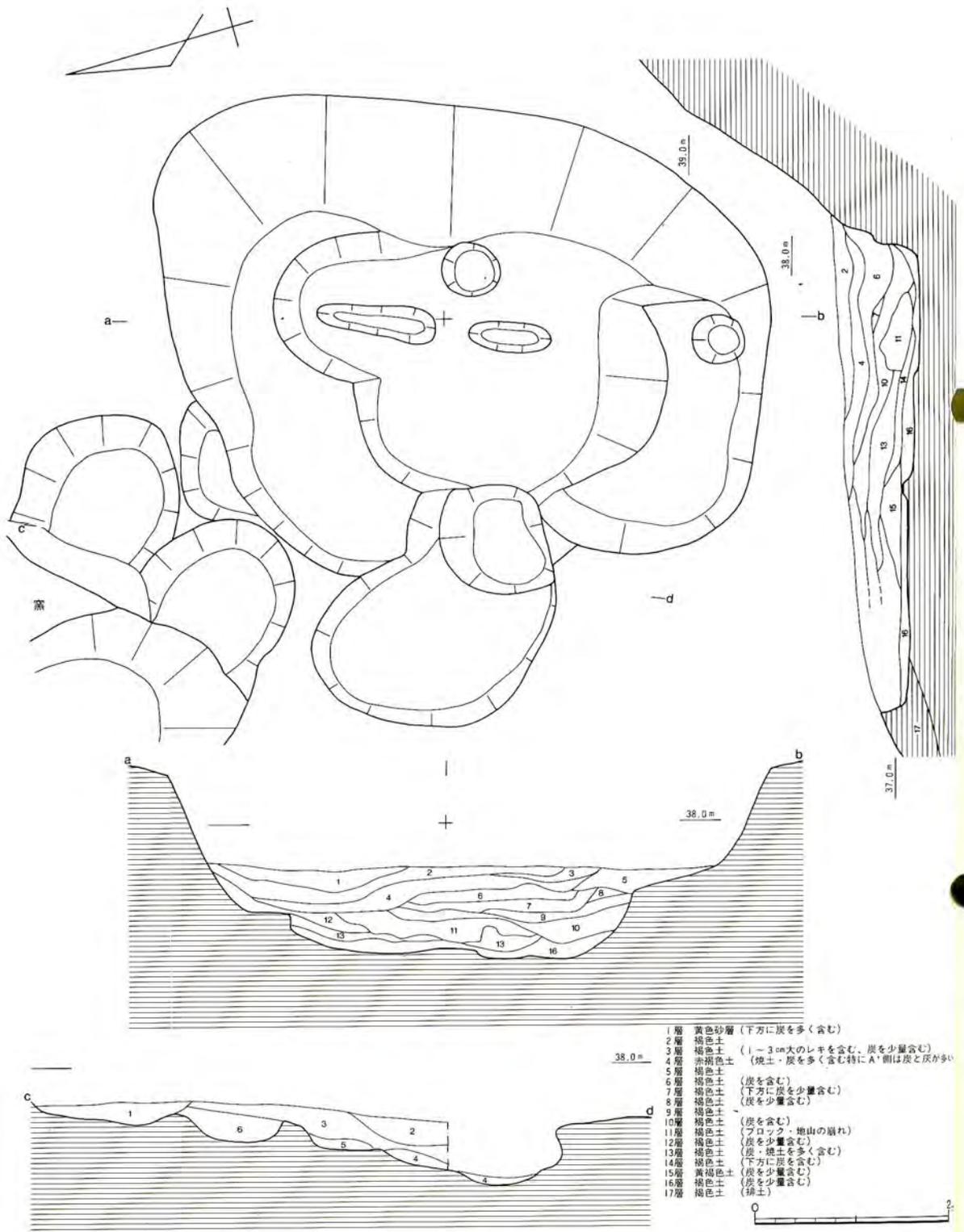
主尾根から西に支尾根が延びた南斜面に位置している。古窯跡は果樹園造成によって、全てが失われ、遺物が散乱するのみであった。調査は、幅20m長さ25mの範囲にグリットを組み、遺物採取を行った。尾根頂きにもグリットを配して調査したが、遺構は検出できなかった。



第14図 一ノ宮峠場第2地点1号竈跡実測図

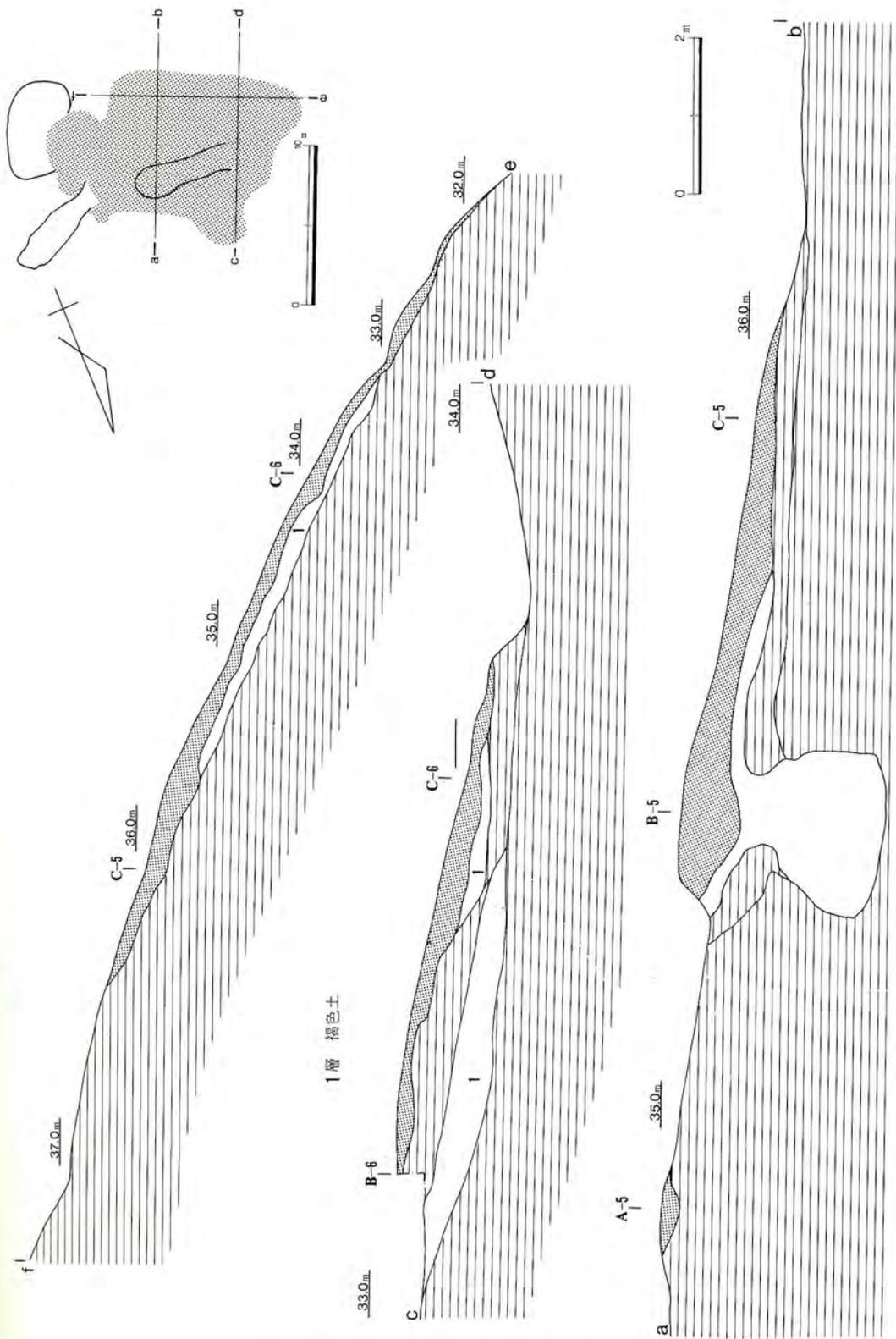


第15図 一ノ宮峠場第2地点II号窯跡実測図



- 1層 黄色砂層 (下方に炭を多く含む)
- 2層 褐色土
- 3層 褐色土 (1-3cm大のレキを含む、炭を少量含む)
- 4層 赤褐色土 (焼土・炭を多く含む特にA'層は炭と灰が多い)
- 5層 褐色土
- 6層 褐色土 (炭を含む)
- 7層 褐色土 (下方に炭を少量含む)
- 8層 褐色土 (炭を少量含む)
- 9層 褐色土
- 10層 褐色土 (炭を含む)
- 11層 褐色土 (ブロック・地山の崩れ)
- 12層 褐色土 (炭を少量含む)
- 13層 褐色土 (炭・焼土を多く含む)
- 14層 褐色土 (下方に炭を含む)
- 15層 黄褐色土 (炭を少量含む)
- 16層 褐色土 (炭を少量含む)
- 17層 褐色土 (焼土)

第16図 一ノ宮峠場第2地点土坑実測図



第17図 一ノ宮峠場第2地点灰原実測図

## 5. 出土遺物

### (1) 須恵器

須恵器の分類表記は、『静岡県の窯業遺跡』（註1）による。

#### ● 峠場第1地点Ⅰ号窯とⅡ号窯に伴う須恵器

1～41は合子状坏蓋A類。42は合子状坏蓋B類。43～59は合子状坏蓋C類。60～104は合子状坏身A・B a類。105～134は合子状坏身B b・C類。135, 136, 139～148は、高坏の蓋である。137, 149, 150は有蓋高坏である。138, 151～153は無蓋高坏。154, 155は壺。156, 157は器台の脚部で159は器台部である。158, 160～165は甕。166は提瓶。

#### ● 峠場第1地点Ⅲ号窯に伴う須恵器

167, 168, 178は坏蓋D a。169～177は坏蓋C b。179～182は坏I C・I d。183～185は蓋付平底無台坏身A d。186は鉢C d。187は坏E b。188～191は皿A b。192, 193は台付皿E。194は陶鍾。

#### ● 峠場第1地点Ⅳ号窯に伴う須恵器

195～217は坏蓋A c～A e・B c～B e。218～231は蓋付有台坏身A d～A h。232～239は坏E a・E b。240は坏I a。241は鉢C bの蓋。242は鉢。243は長頸瓶B類。244, 245は壺。246, 247は甕。248, 249は陶鍾。250, 251は丸瓦。252は平瓦。

#### ● 峠場第1地点Ⅴ号窯に伴う須恵器

253～256は合子状坏蓋C 3・D 1。257～262は合子状坏身D 2。263, 264は蓋付無台坏身B 2類。265は長頸瓶A c 2。

#### ● 峠場第2地点Ⅰ号窯に伴う須恵器

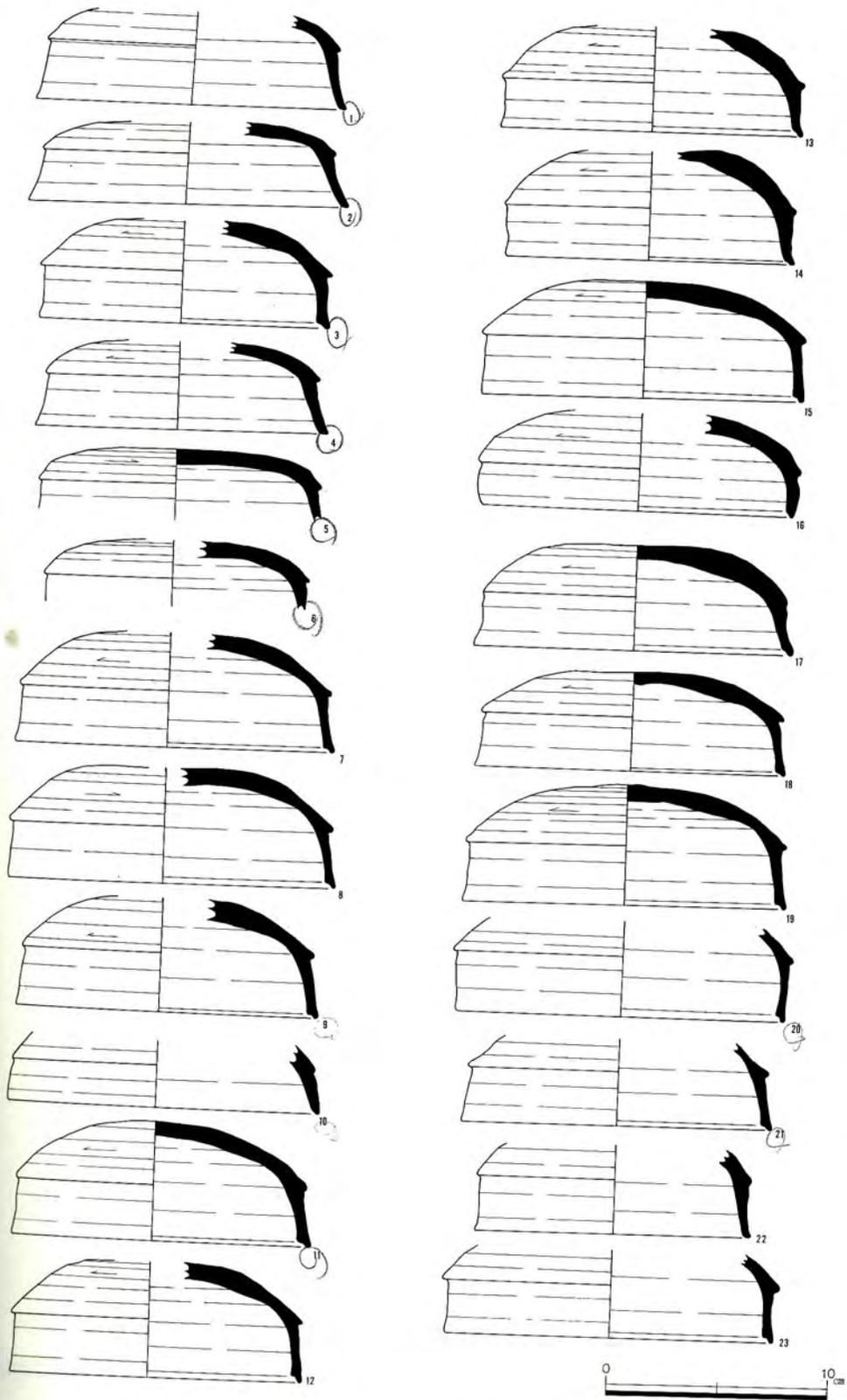
1～18は合子状坏蓋D 2。19～39は合子状坏身D 2。263, 264は蓋付無台坏身B 2類。40はかえり付坏蓋C 1 a。41はかえり付坏蓋B 3 b。42はかえり付坏蓋B 1 a。43はかえり付坏蓋A 3。44, 45はかえり付坏蓋A 4。46～53は蓋付無台坏身B類。54は蓋付無台坏身C類。55は瓶類の蓋。56～58は壺蓋。59は高坏B類。60～65は高坏A類。66はハソウB b。67は鉢。68, 69は長頸瓶A c 3。71はこね鉢。70は平瓶。72は高盤A b。

#### ● 事業場古窯跡に伴う須恵器

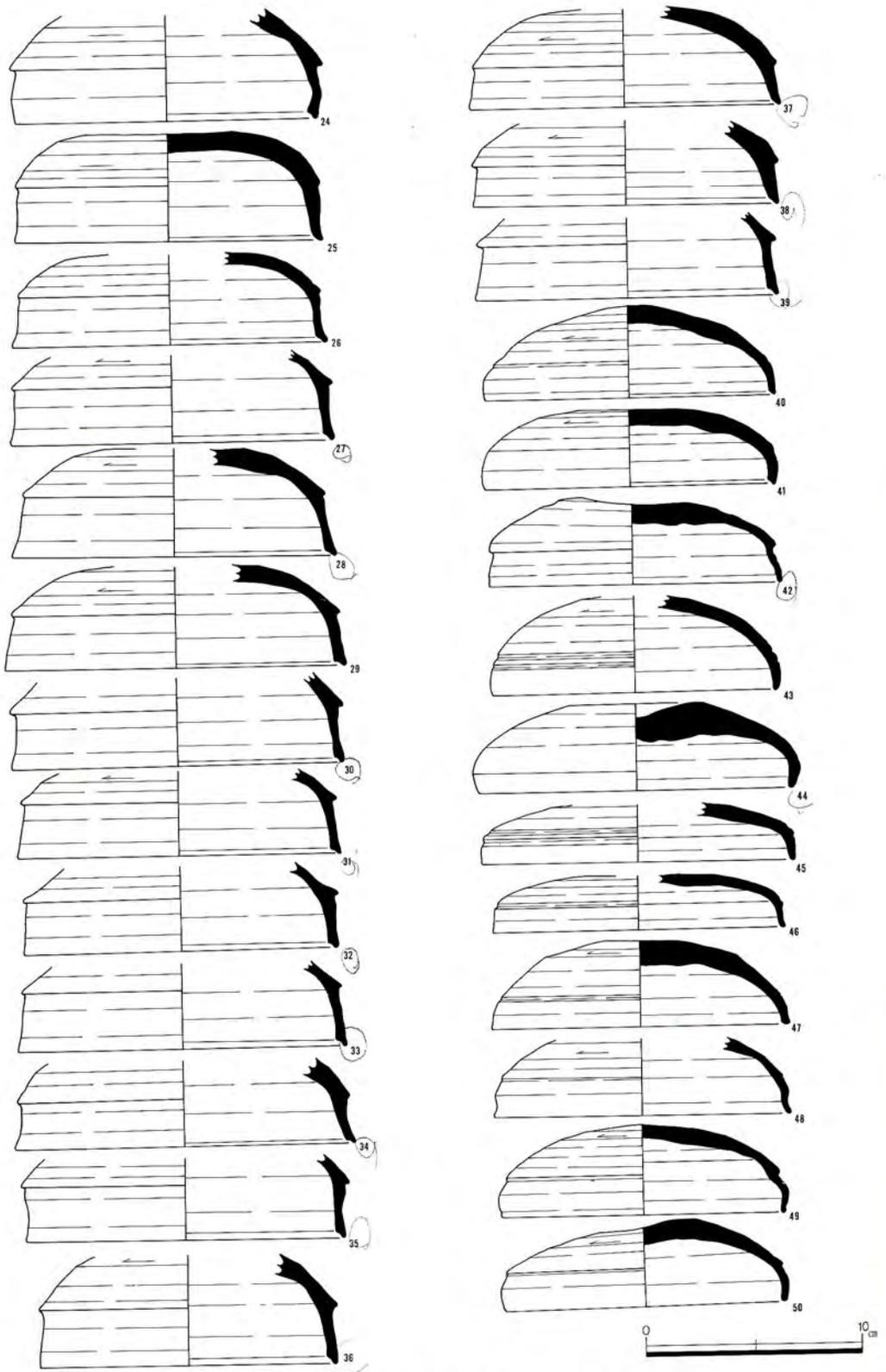
1は坏蓋A類。2, 3は蓋付有台坏身A f。4, 5は坏E b。6は円面硯。7は大型ハソウ。8は把手付鉢。9は甕。

註

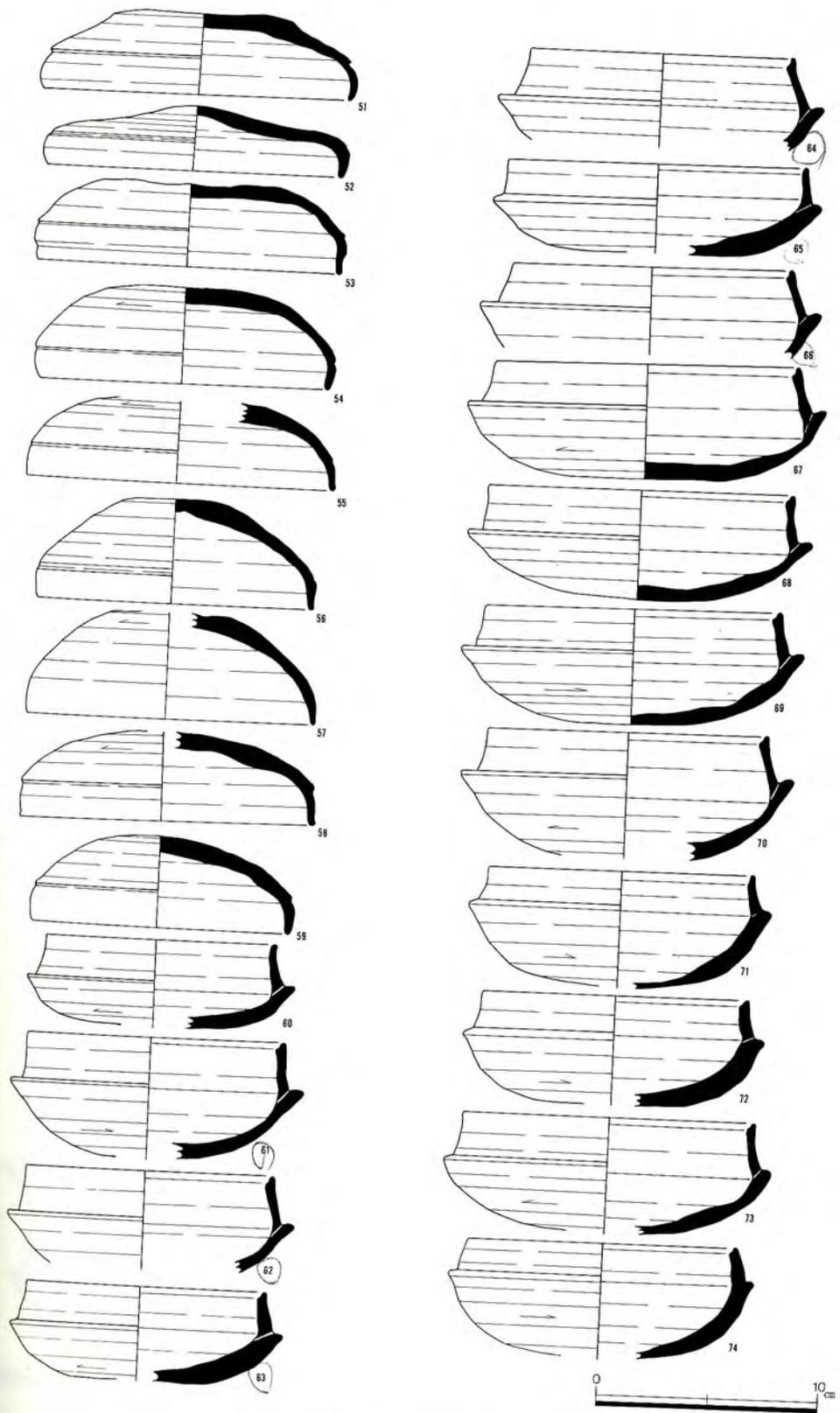
1) 後藤建一：「湖西古窯群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡』 1989年 静岡県教育委員会



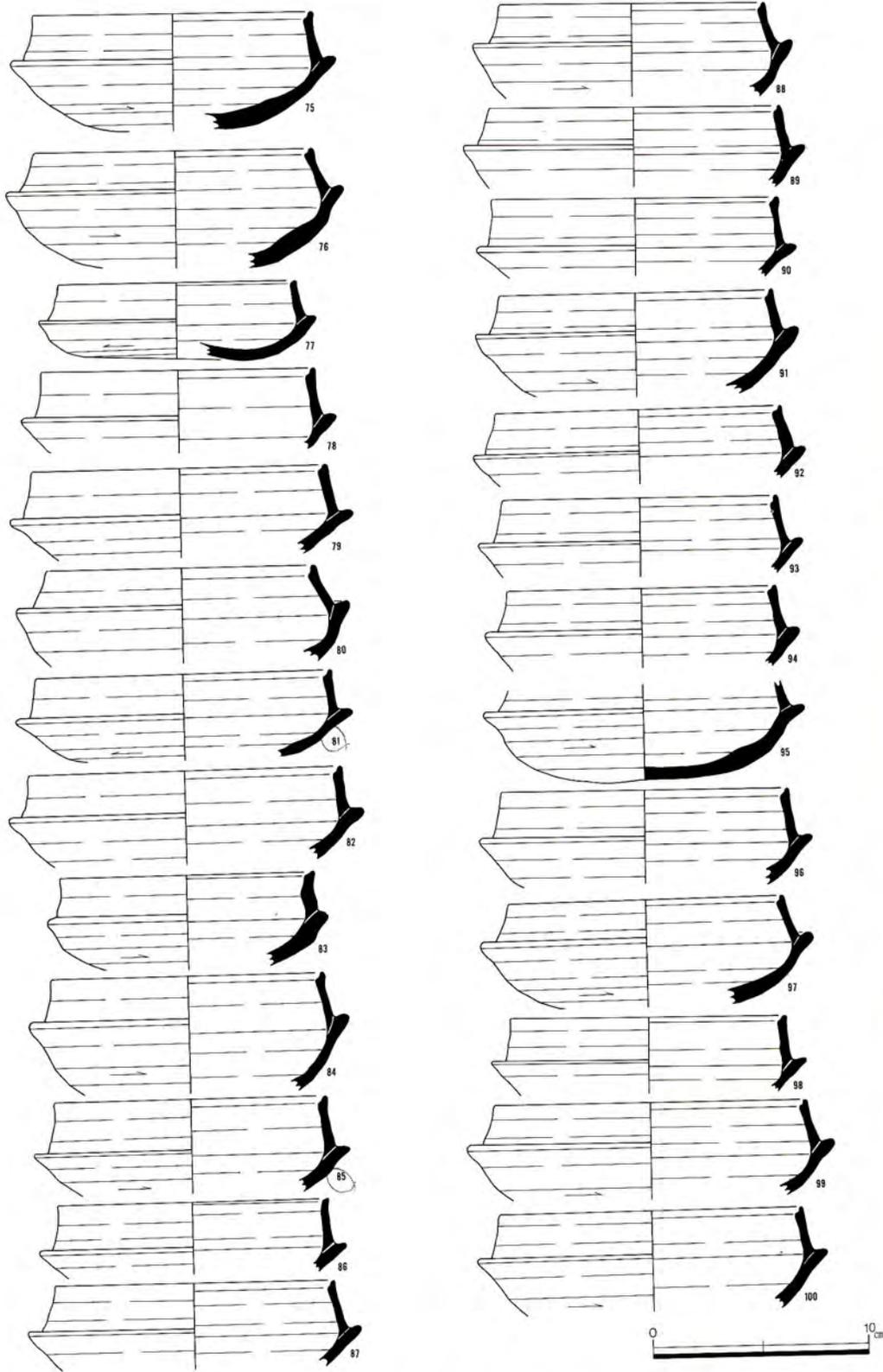
第18图 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(1)



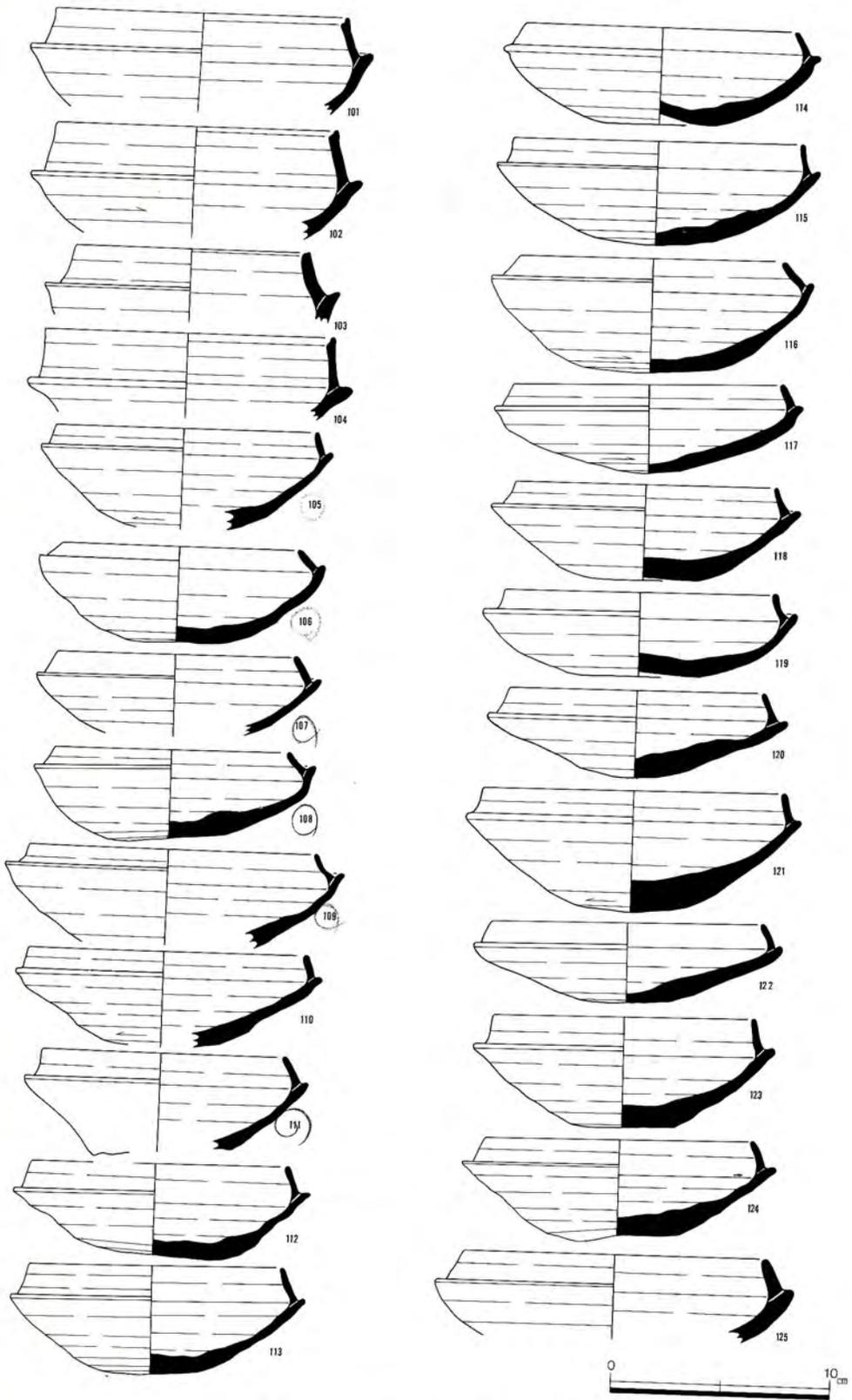
第19図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(2)



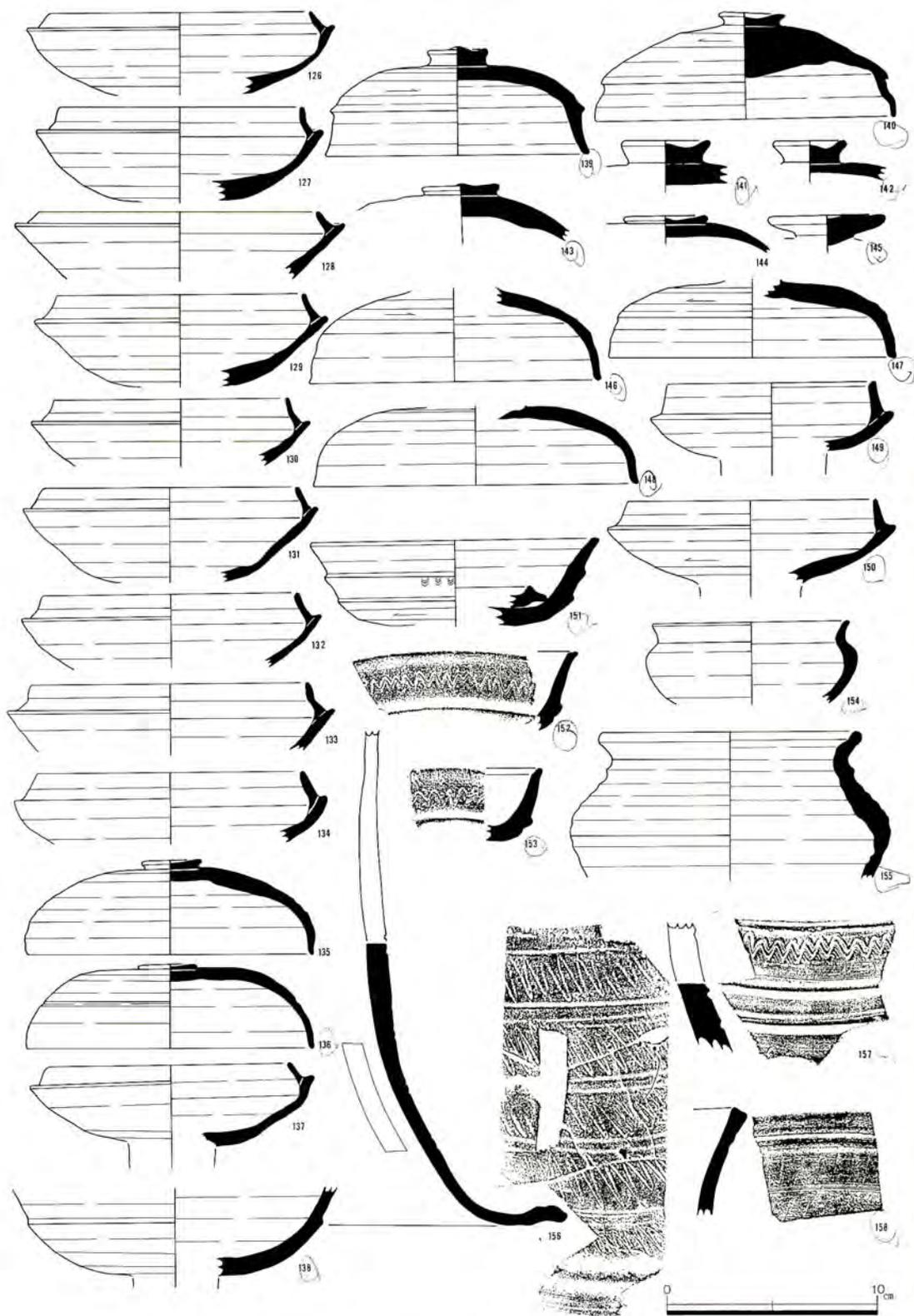
第20図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(3)



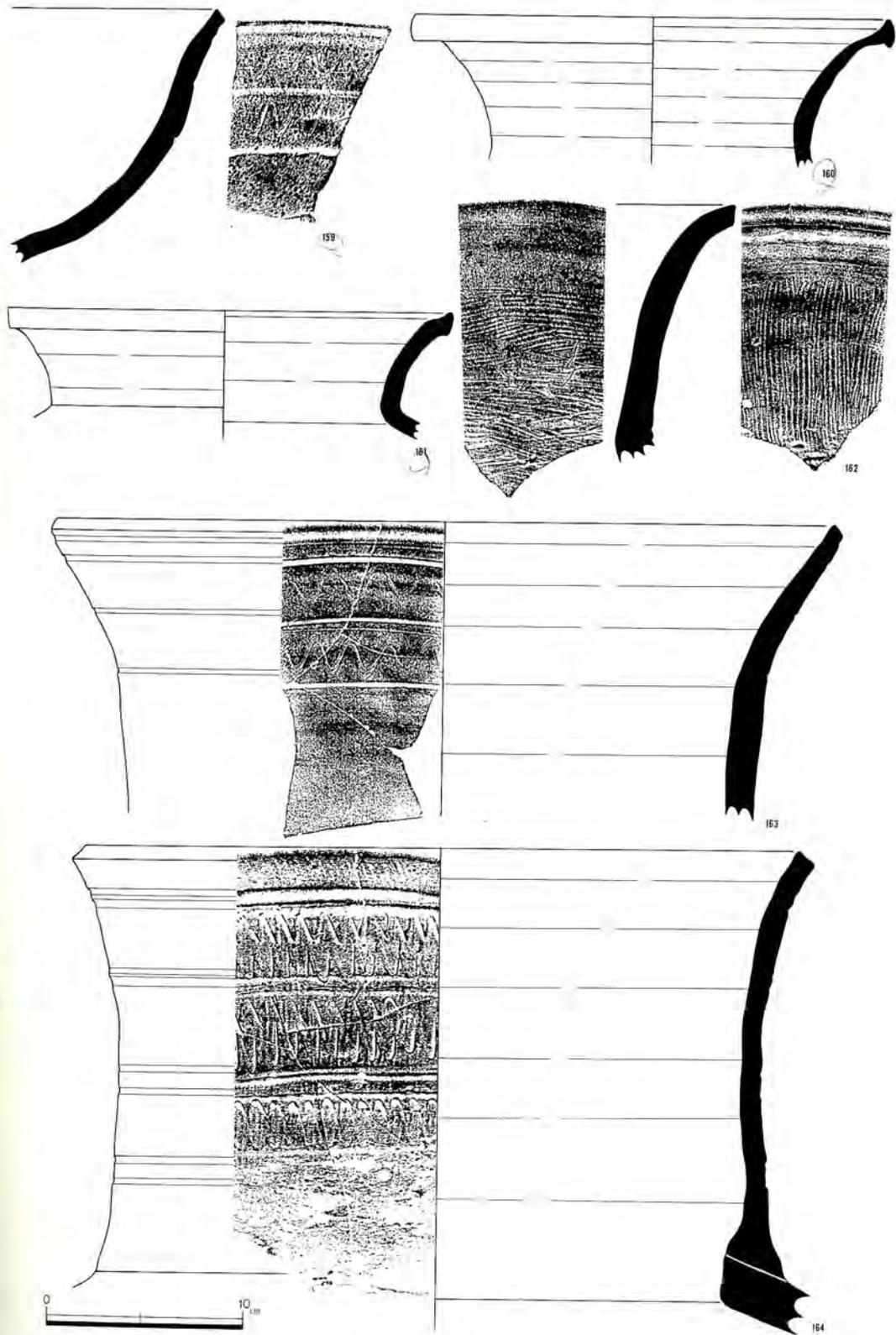
第21図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(4)



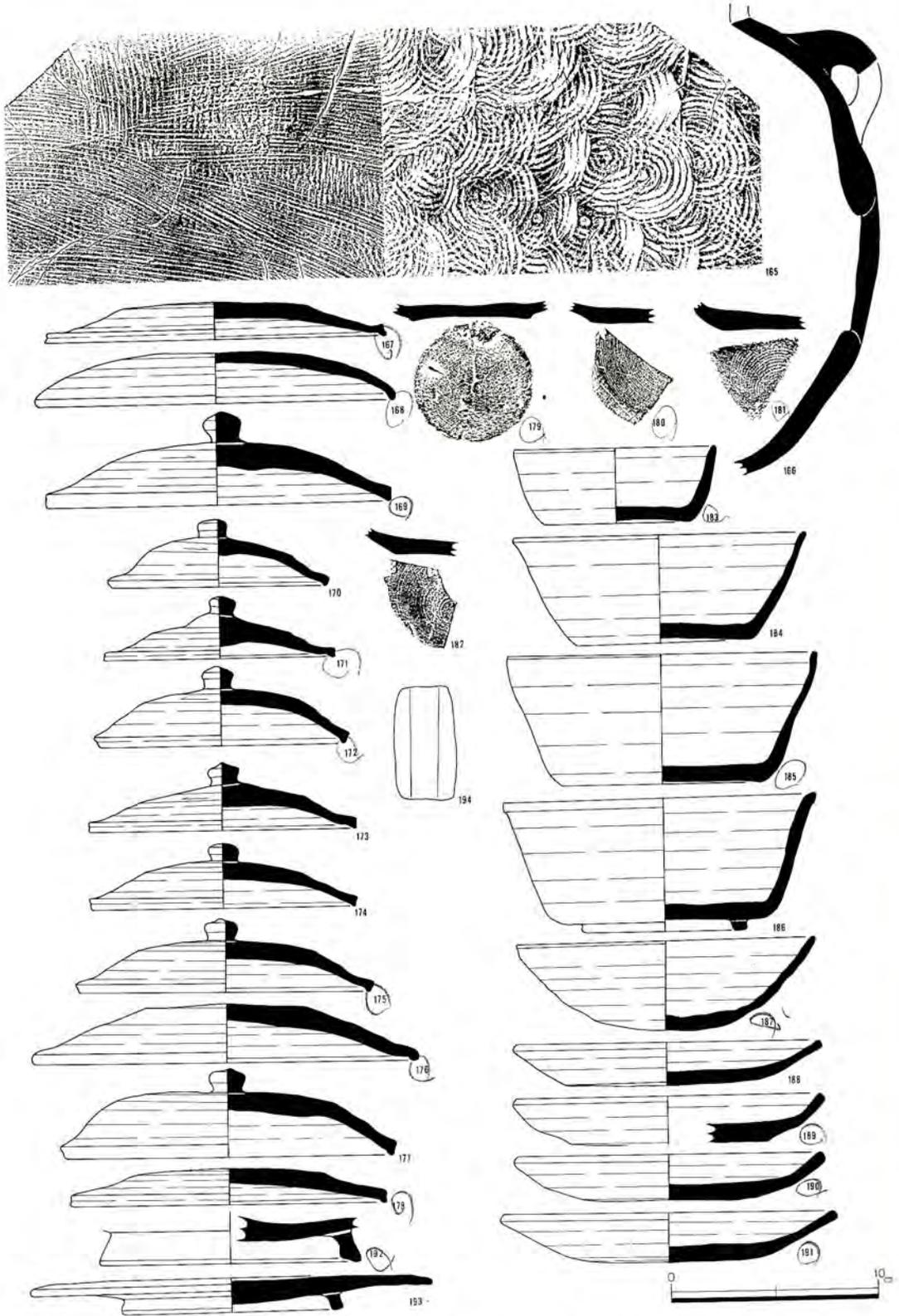
第22図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(5)



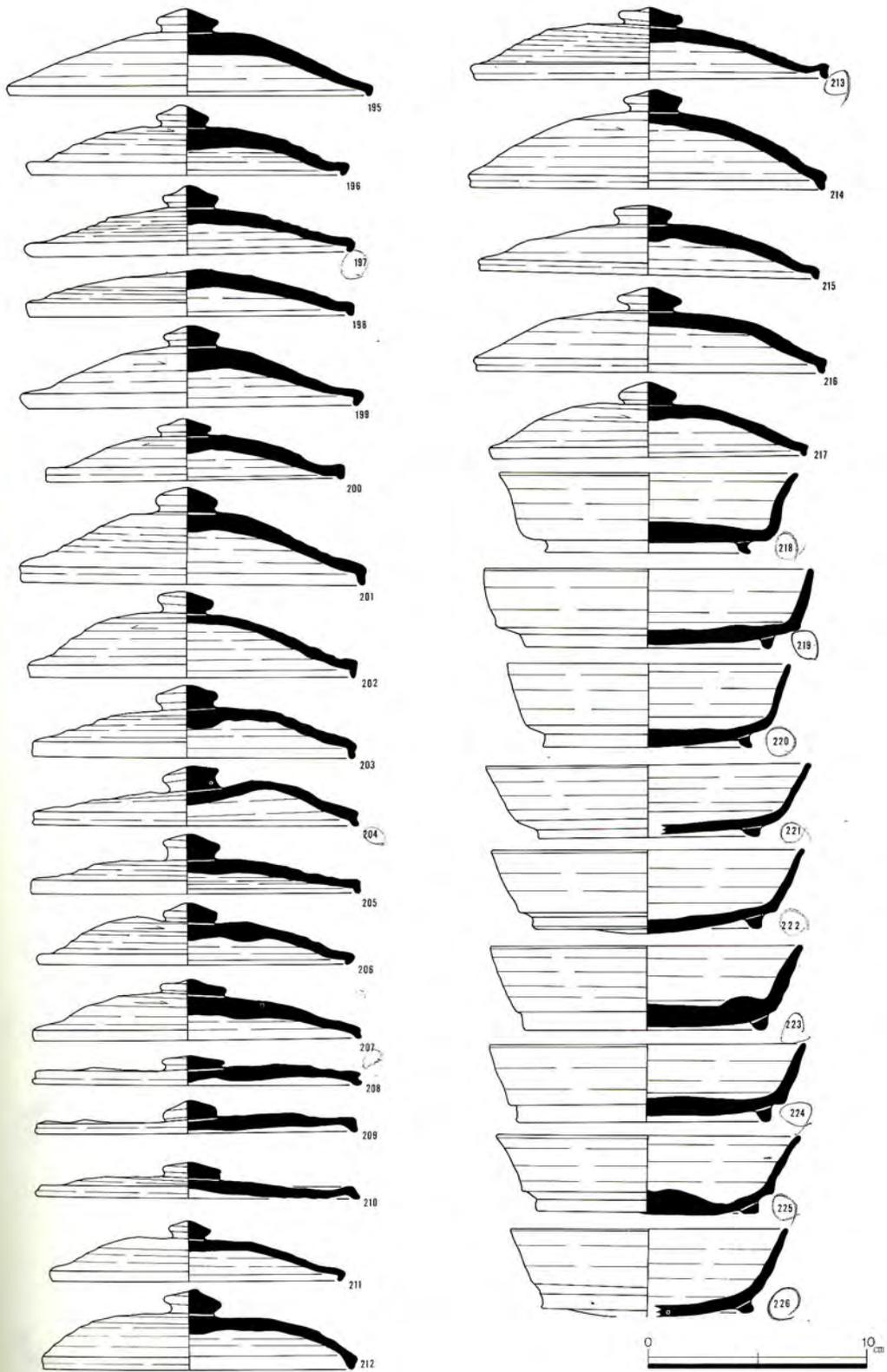
第23図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(6)



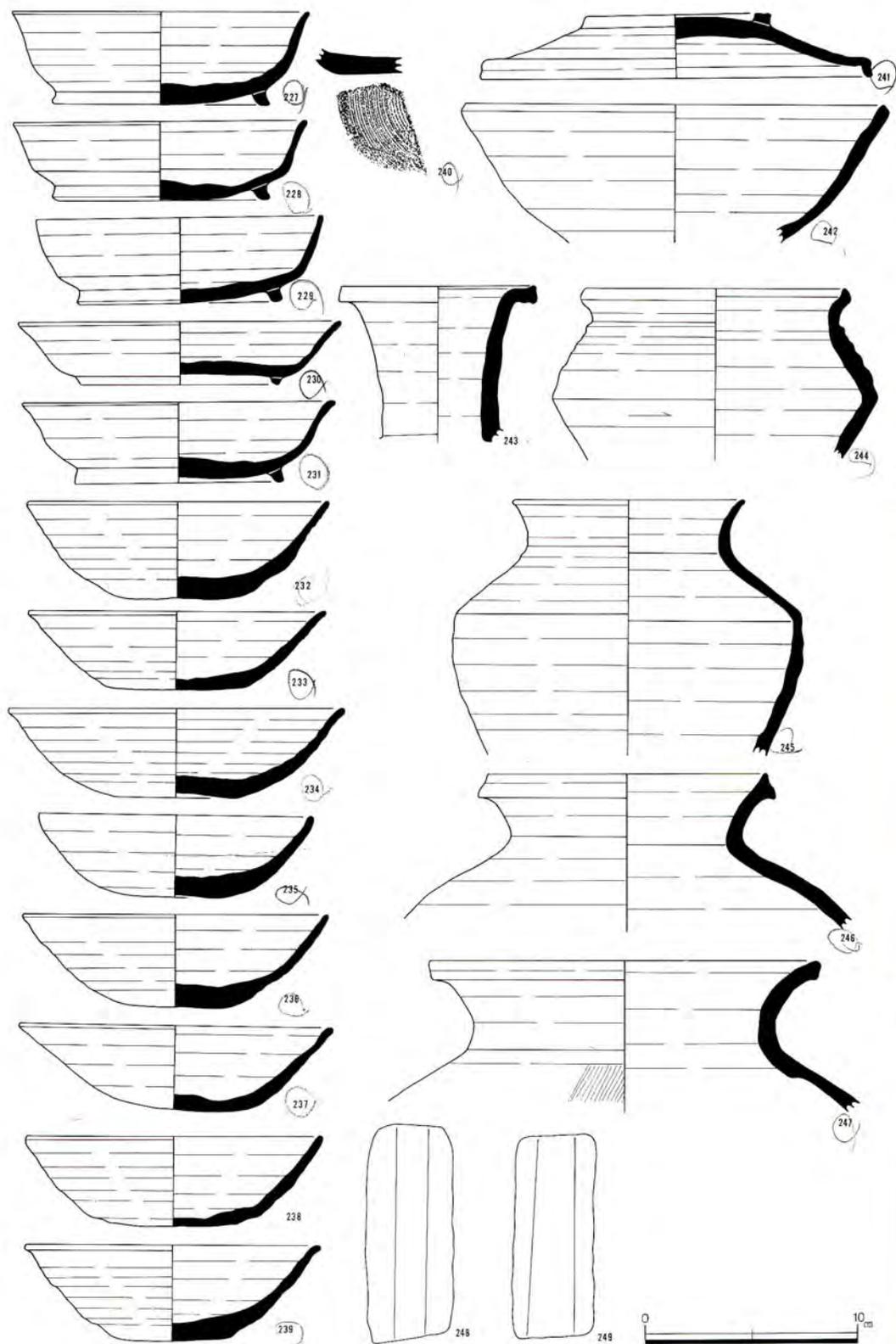
第24図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(7)



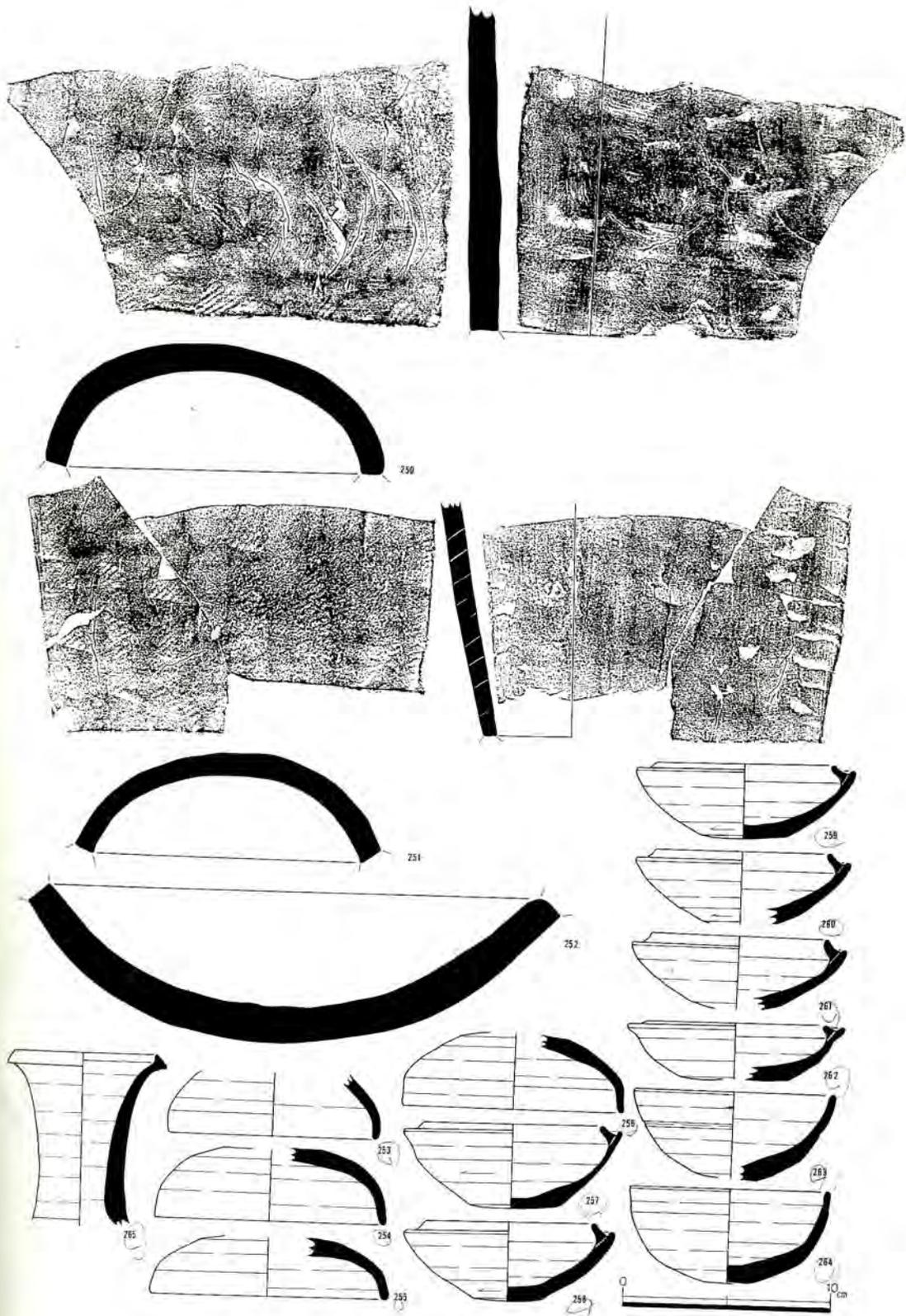
第25図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(8)



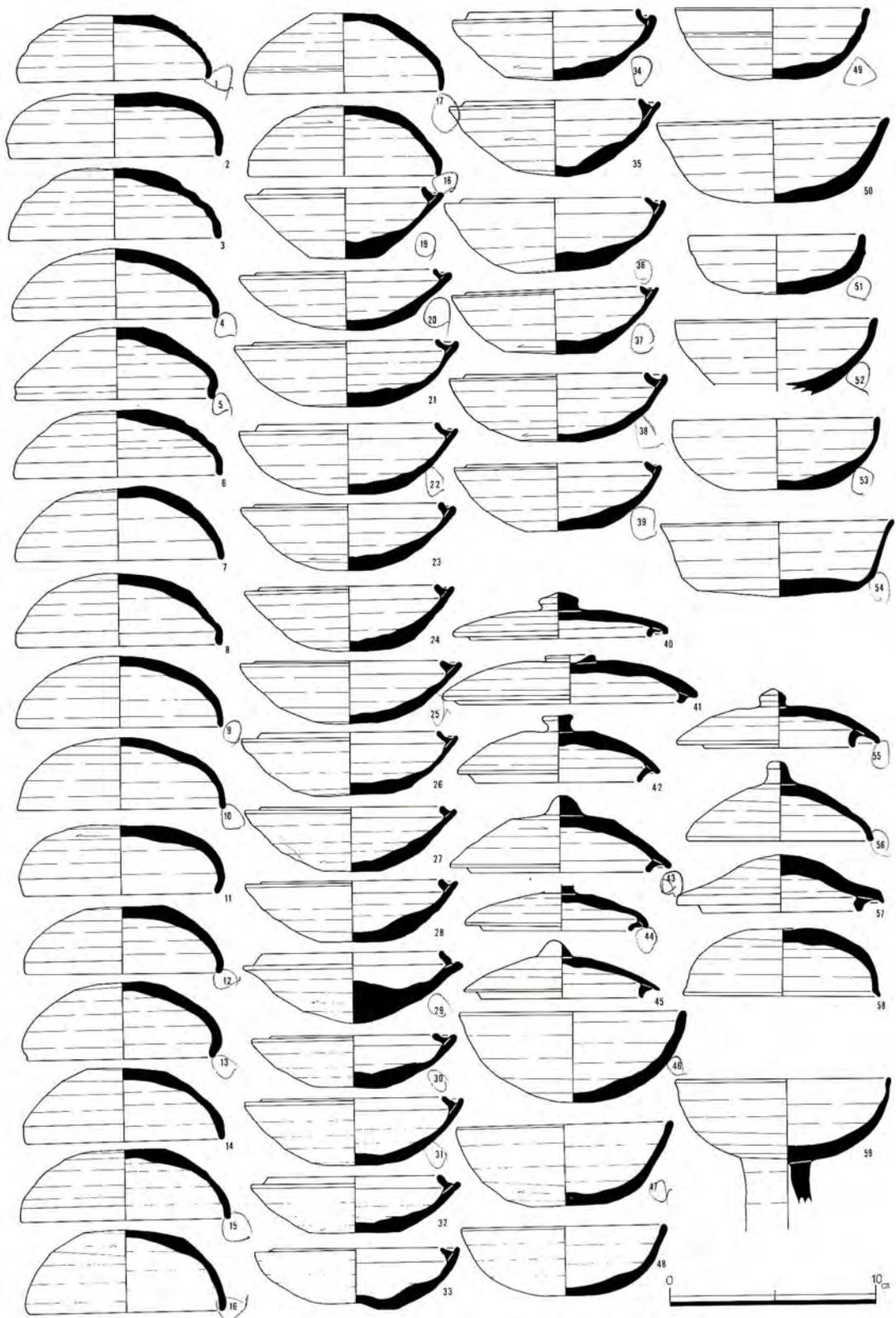
第26図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(9)



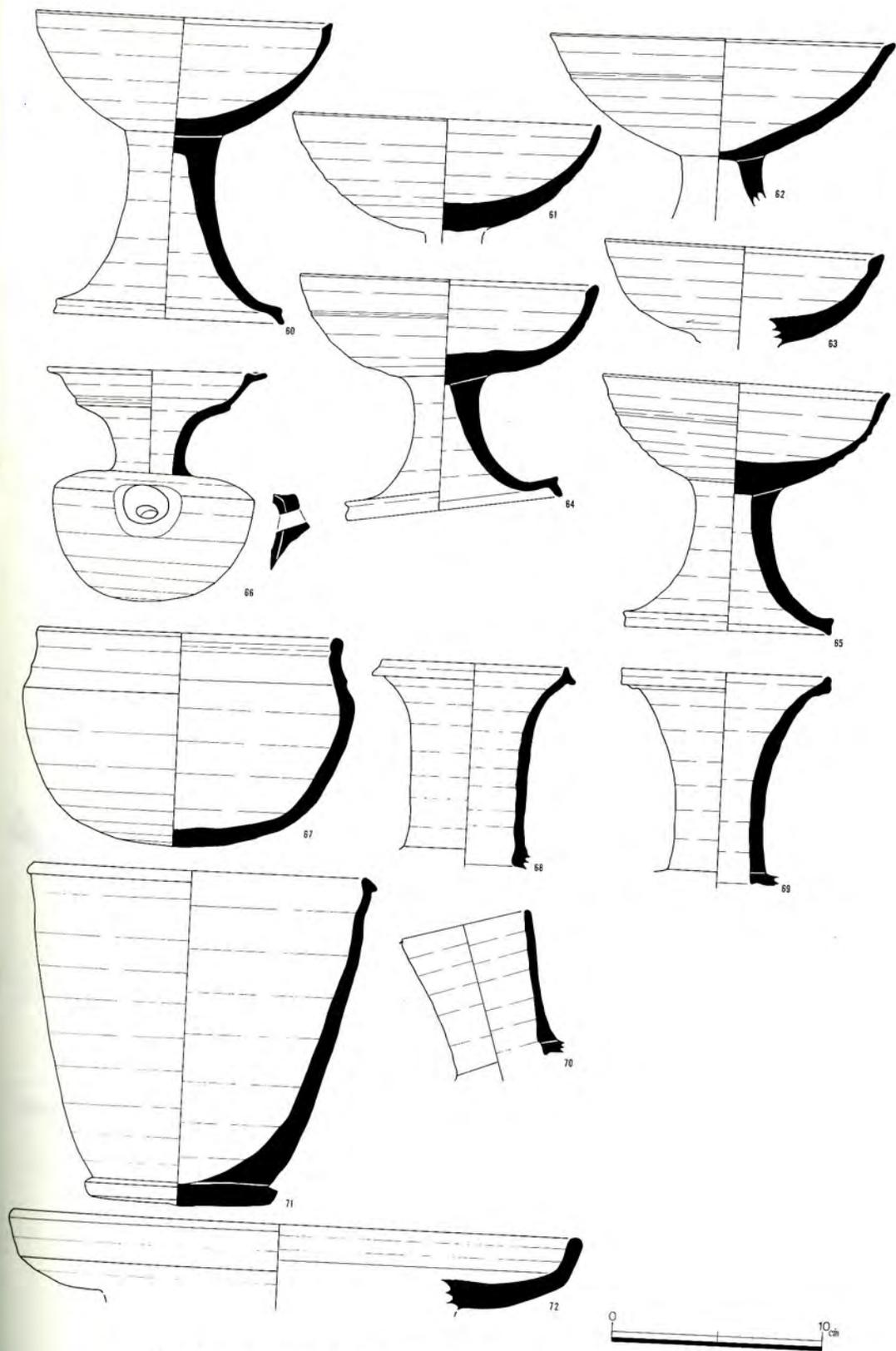
第27図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(10)



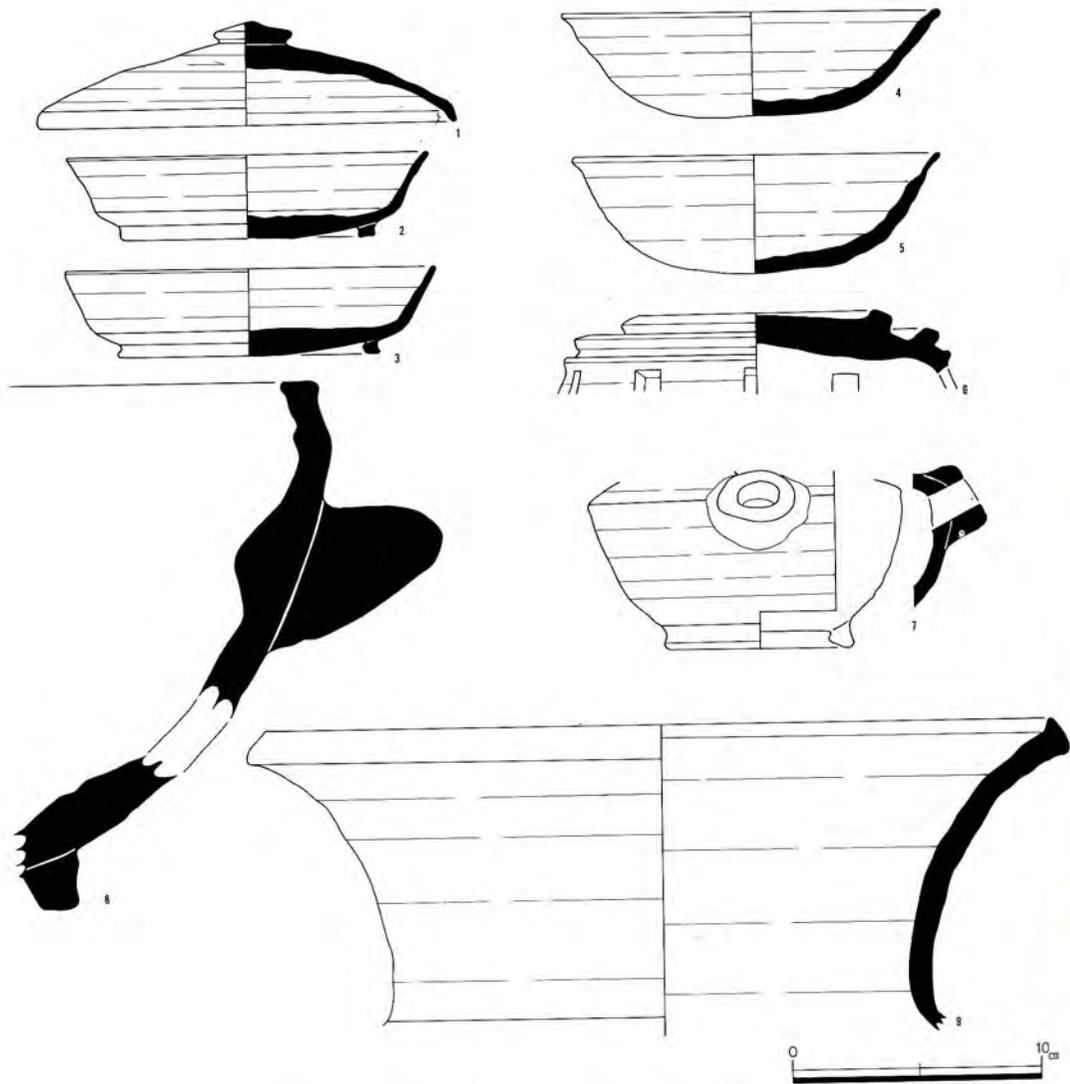
第28図 一ノ宮峠場第1地点出土遺物実測図(11)



第29図 一ノ宮峠場第2地点出土遺物実測図(1)



第30図 一ノ宮峠場第2地点出土遺物実測図(2)



第31図 一ノ宮事業場古窯跡出土遺物実測図

表1 一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覽表(1)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	備考
1	合子状坏蓋	I号窯1次床面直上	14.3	—	13.5	
2	"	"	14.8	—	13.4	
3	"	I号窯埋土層	13.4	4.8	13.4	
4	"	土坑埋土層	13.6	—	12.8	
5	"	"	—	—	13.3	
6	"	"	—	—	12.4	
7	"	III号窯埋土層	15.2	—	14.8	
8	"	"	15.8	5.3	15.5	
9	"	"	14.6	—	14.0	
10	"	"	15.0	—	14.8	
11	"	IV号窯埋土層	14.7	5.5	14.7	
12	"	I, II号窯灰原	14.5	5.3	14.4	
13	"	"	13.6	4.8	13.7	
14	"	"	13.1	5.1	13.2	
15	"	"	14.6	5.3	14.7	
16	"	"	14.0	—	14.6	
17	"	"	14.0	5.3	13.9	
18	"	"	14.0	4.5	13.7	
19	"	"	14.6	5.5	14.6	
20	"	"	15.0	—	15.4	
21	"	"	14.6	—	13.6	
22	"	"	12.4	—	12.4	
23	"	"	14.9	—	15.2	
24	"	"	13.8	—	14.3	
25	"	"	14.0	5.0	14.0	
26	"	"	14.4	4.3	13.8	
27	"	"	14.8	—	14.6	
28	"	"	14.8	5.0	13.8	
29	"	"	15.6	—	14.6	
30	"	"	15.2	—	15.2	
31	"	"	14.8	—	14.5	
32	"	"	14.4	—	14.4	
33	"	"	14.6	—	15.0	
34	"	"	15.6	—	15.2	
35	"	"	14.6	—	15.1	
36	"	"	13.6	—	13.6	
37	"	"	14.2	4.6	14.0	
38	"	"	14.0	—	14.0	
39	"	"	14.0	—	13.8	
40	"	"	13.4	4.3	—	
41	"	"	13.4	3.6	—	
42	"	土坑床面直上, 埋土層	13.4	4.1	13.2	
43	"	"	13.0	—	—	
44	"	III号窯埋土層	14.3	4.1	—	
45	"	"	14.4	—	—	
46	"	I, II号窯灰原	13.4	2.6	—	
47	"	"	13.6	4.0	—	
48	"	"	13.6	—	—	
49	"	"	13.0	4.2	—	
50	"	"	13.0	4.0	—	
51	"	"	14.0	3.8	—	
52	"	"	13.4	3.0	—	
53	合子状坏蓋	I, II号窯灰原	14.0	3.8	—	
54	"	"	13.4	4.5	—	
55	"	"	14.4	—	—	
56	"	"	13.0	4.8	—	
57	"	"	13.5	4.8	—	
58	"	"	14.0	4.1	—	
59	"	"	12.2	4.2	—	
60	合子状坏身	I号窯1次床面直上	11.0	4.0	12.8	
61	"	I号窯埋土層	12.4	5.6	14.2	
62	"	"	12.1	—	14.0	
63	"	"	11.8	4.4	13.4	
64	"	"	12.0	—	14.8	
65	"	III号窯埋土層	13.6	4.1	14.6	
66	"	IV号窯内上部灰層	12.8	—	15.4	
67	"	I, II号窯灰原	13.8	5.3	16.2	
68	"	"	13.9	5.1	15.6	
69	"	"	13.4	5.3	15.5	
70	"	"	12.7	—	15.0	
71	"	"	12.0	5.4	13.7	
72	"	"	12.0	5.1	13.6	
73	"	"	13.2	—	14.8	
74	"	"	12.2	5.2	13.8	

「X」記号

表2 一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覽表(2)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径			備考
75	合子状坏身	I, II号窯灰原	12.9	—	14.9			
76	"	"	12.7	—	15.4			
77	"	"	11.9	3.7	12.7			
78	"	"	12.6	—	14.4			
79	"	"	13.6	—	15.7			
80	"	"	12.4	—	15.2			
81	"	"	13.6	—	15.5			
82	"	"	14.4	—	16.3			
83	"	"	11.7	—	12.9			
84	"	"	12.5	—	14.6			
85	"	"	12.6	—	14.5			
86	"	"	12.4	—	14.0			
87	"	"	12.8	—	15.3			
88	"	"	12.0	—	14.6			
89	"	"	13.4	—	15.6			
90	"	"	13.2	—	14.7			
91	"	I, II号窯灰原	12.5	—	14.8			
92	"	"	13.0	—	15.2			
93	"	"	12.6	—	14.8			
94	"	"	12.2	—	14.4			
95	"	"	—	—	14.7			
96	"	"	13.0	—	15.2			
97	"	"	12.6	—	15.3			
98	"	"	12.7	—	14.4			
99	"	"	14.2	—	16.9			
100	"	"	13.8	—	16.0			
101	"	"	13.6	—	15.8			
102	"	"	13.0	—	15.4			
103	"	"	10.8	—	13.6			
104	"	"	13.4	—	15.0			
105	"	土坑床面直上	12.0	—	13.5			
106	"	土坑床面直上, 埋土層	11.0	4.5	13.3			
107	"	土坑埋土層	11.0	—	13.2			
108	"	I号窯埋土層, 灰原	11.0	4.4	13.2			
109	"	土坑埋土層	13.4	—	16.0			
110	"	"	13.0	4.5	14.5			
111	"	"	11.4	—	13.4			
112	"	"	12.0	4.4	14.2			
113	"	"	12.0	5.0	14.0			
114	"	"	12.2	4.5	14.4			
115	"	"	13.0	4.8	14.8			
116	"	"	12.0	5.3	14.7			
117	"	"	12.2	4.1	14.0			
118	"	"	11.8	4.4	14.0			
119	"	"	12.4	3.9	14.3			
120	"	"	11.6	4.0	13.6			
121	"	"	13.7	5.7	15.2			
122	"	"	12.2	3.7	14.0			
123	"	"	11.8	5.1	13.7			
124	"	"	12.1	4.7	14.2			
125	"	I, II号窯灰原	13.6	—	16.3			
126	"	"	12.4	—	14.6			
127	"	"	11.6	4.6	13.6			
128	"	"	13.2	—	15.1			
129	"	"	11.8	4.4	13.8			
130	"	"	11.0	—	13.2			
131	"	"	12.0	—	14.0			
132	"	"	12.0	—	14.2			
133	"	"	12.0	—	15.6			
134	"	"	13.0	—	15.6			
135	"	"	12.6	—	14.8			
136	高坏蓋	土坑埋土層	13.6	4.5	—	2.8	0.4	凹状つまみ
137	高坏蓋	土坑埋土層	13.5	4.0	—	2.7	0.2	凹状つまみ
138	蓋付高坏	"	11.4	—	13.5			
139	高坏蓋	I号窯埋土層	—	—	—			
140	高坏蓋	I, II号窯灰原	12.4	5.2	12.0	2.8	1.1	宝珠状つまみ
141	高坏蓋鈕	"	14.2	5.2	13.6	3.1	0.7	凹状つまみ
142	"	"	—	—	—	4.2	1.0	宝珠状つまみ
143	"	"	—	—	—	3.5	1.0	"
144	"	"	—	—	—	3.6	0.6	"
145	"	"	—	—	—	4.0	0.3	凹状つまみ
146	"	"	—	—	—	5.5	1.0	"
147	高坏蓋	"	13.8	—	—			
148	"	"	13.6	—	—			
	"	"	15.4	—	—			

表3 一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覽表(3)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
149	蓋付高坏	I, II号窯灰原	9.9	—	11.5	—	—	—
150	"	"	11.8	—	13.7	—	—	—
151	高坏	I号窯3次床面直上	13.6	—	—	—	—	—
152	"	I, II号窯灰原	—	—	—	—	—	—
153	"	"	—	—	—	—	—	—
154	小壺	I号窯埋土層	9.3	—	—	—	—	—
155	短頸壺	I, II号窯灰原	12.5	—	—	—	—	—
156	器台	I号窯埋土層, 灰原	—	—	—	—	—	—
157	器台	I, II号窯灰原	—	—	—	—	—	—
158	壺	"	—	—	—	—	—	—
159	器台	"	—	—	—	—	—	—
160	"	"	—	—	—	—	—	—
161	"	I号窯埋土層	22.8	—	—	—	—	—
162	"	I, II号窯灰原	21.4	—	—	—	—	—
163	大壺	"	—	—	—	—	—	—
164	"	"	36.8	—	—	—	—	—
165	"	"	33.8	—	—	—	—	—
166	提瓶	"	—	—	—	—	—	—
167	坏蓋	III号窯埋土層	16.2	1.9	—	—	—	—
168	"	"	17.2	2.5	—	—	—	つまみ無し
169	"	"	16.5	4.5	—	—	—	"
170	"	IV号窯内上部灰層	10.6	3.3	—	1.8	1.5	—
171	"	I, II号窯灰原	16.0	4.3	—	1.5	0.9	—
172	"	IV号窯内上部灰層	12.2	3.9	—	1.7	1.1	—
173	"	"	12.8	3.4	—	1.5	1.1	—
174	"	"	12.8	3.2	—	1.5	1.1	—
175	"	"	14.2	3.6	—	1.5	0.9	—
176	"	"	18.4	2.9	—	1.5	1.1	—
177	"	"	12.4	3.4	14.5	—	—	つまみ無し
178	坏	I, II号窯灰原	15.0	1.8	—	4.0	0.5	—
179	坏	III号窯灰層	—	—	—	—	—	つまみ無し
180	"	"	—	—	—	—	—	糸切り底
181	"	"	—	—	—	—	—	"
182	"	III号窯埋土層	—	—	—	—	—	"
183	蓋付平底坏身	I, II号窯灰原	9.6	3.1	6.8	—	—	—
184	"	IV号窯前庭部灰層	14.0	5.1	8.4	—	—	—
185	"	III号窯埋土層	14.0	6.3	9.6	—	—	—
186	ワ	III号窯灰層	14.9	6.5	7.8	—	—	—
187	坏	IV号窯内上部灰層	14.2	4.3	—	—	—	—
188	皿	III号窯灰層	14.8	2.1	—	—	—	—
189	"	"	14.9	2.3	—	—	—	—
190	"	"	14.9	2.3	—	—	—	—
191	"	"	16.1	2.4	—	—	—	—
192	合付皿	I, II号窯灰原	—	—	12.0	—	—	—
193	"	"	19.2	1.6	10.6	—	—	—
194	陶鉢	III号窯灰層	3.0	5.5	—	—	—	—
195	坏蓋	IV号窯床面直上	16.9	4.0	—	2.7	1.0	50g
196	"	IV号窯前庭部灰層	14.9	3.4	—	2.3	1.0	—
197	"	IV号窯灰原	15.4	3.2	—	2.4	1.1	—
198	"	IV号窯埋土層	15.2	—	—	—	—	—
199	"	IV号窯灰原	16.0	3.8	—	2.5	0.9	—
200	"	IV号窯埋土層	13.9	2.9	—	2.4	0.8	—
201	"	"	16.4	4.5	—	2.8	1.2	—
202	"	IV号窯灰原	15.4	4.0	—	2.6	1.0	—
203	"	"	15.4	3.4	—	2.8	1.1	—
204	"	"	15.6	2.8	—	2.6	1.0	—
205	"	"	15.8	2.8	—	2.6	1.0	—
206	"	"	15.4	2.9	—	2.6	1.2	—
207	"	"	15.9	2.8	—	2.4	0.9	—
208	"	"	16.0	6.5	—	3.1	0.7	—
209	"	"	15.7	1.6	—	2.9	0.5	—
210	"	"	15.7	1.6	—	2.5	0.9	—
211	"	"	15.8	1.8	—	2.7	0.8	—
212	"	"	14.5	2.8	—	2.0	0.8	—
213	"	"	15.5	3.8	—	2.7	1.2	—
214	"	IV号窯内上部灰層	16.4	2.2	—	2.9	0.8	—
215	"	IV号窯灰原	16.4	4.6	—	2.6	1.0	—
216	"	"	15.5	3.2	—	2.6	1.0	—
217	"	I, II号窯灰原	15.7	3.9	—	2.9	1.1	—
218	蓋付有台坏身	IV号窯床面直上	14.2	3.5	—	2.6	1.1	—
219	"	IV号窯灰原	13.7	3.7	9.4	—	—	—
220	"	"	15.0	3.7	11.0	—	—	—
221	"	"	12.9	3.9	9.5	—	—	—
222	"	"	14.8	3.4	10.0	—	—	—
223	"	"	14.2	3.9	10.4	—	—	—

表4 一ノ宮峠場第1地点出土遺物法量値一覽表(4)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
223	蓋付有台坏身	IV号窯内上部灰層	14.2	3.6	11.2			
224	"	IV号窯灰原	14.4	3.6	11.6			
225	"	IV号窯内上部灰層	13.8	3.6	10.2			
226	"	IV号窯灰原	12.7	—	9.7			
227	"	"	13.8	4.4	10.1			
228	"	I, II号窯灰原	13.7	3.8	10.1			
229	"	"	13.4	4.1	9.5			
230	"	"	15.0	3.0	9.2			
231	"	"	14.6	3.8	9.7			
232	坏	IV号窯床面直上	14.0	4.6				
233	"	IV号窯前庭部灰層	13.8	3.7				
234	"	"	15.7	4.3				
235	"	IV号窯埋土層	12.8	3.9				
236	"	"	14.2	4.5				
237	"	"	14.6	4.1				
238	"	IV号窯灰原	13.8	4.3				
239	"	I, II号窯灰原	13.8	4.6				
240	"	IV号窯灰原	—	—	—			糸切り底
241	ワシ蓋	IV号窯埋土層	18.2	3.0		8.6		
242	鉢	IV号窯灰層	20.0	—				
243	長頸瓶	IV号窯前庭部灰層	9.2	(7.1)				
244	短頸壺	IV号窯灰層	12.7	—				
245	"	"	10.8	—				
246	甕	"	13.9	—				
247	"	"	18.2	—				
248	陶 鍾	"	4.0	10.0				170g
249	"	"	3.7	9.5				100g
250	丸 瓦	"	16.5	—				
251	"	"	—	—				
252	平 瓦	IV号灰原	26.0	—				
253	合子状坏蓋	V号窯埋土層	10.2	—				
254	"	"	11.2	3.7				
255	"	V号窯床面直上	11.6	—				
256	"	"	10.0	3.7				
257	合子状坏身	"	8.5	4.1	10.5			
258	"	"	8.0	3.9	10.0			
259	"	"	8.4	3.7	10.5			
260	"	V号窯埋土層	8.2	—	10.3			
261	"	"	8.4	—	10.3			
262	"	"	8.6	3.8	10.4			
263	蓋付無台坏身	"	9.8	4.3				
264	"	"	9.6	4.6				
265	長頸瓶	"	8.6	(8.1)				

一ノ宮峠場第2地点出土遺物法量値一覽表(1)

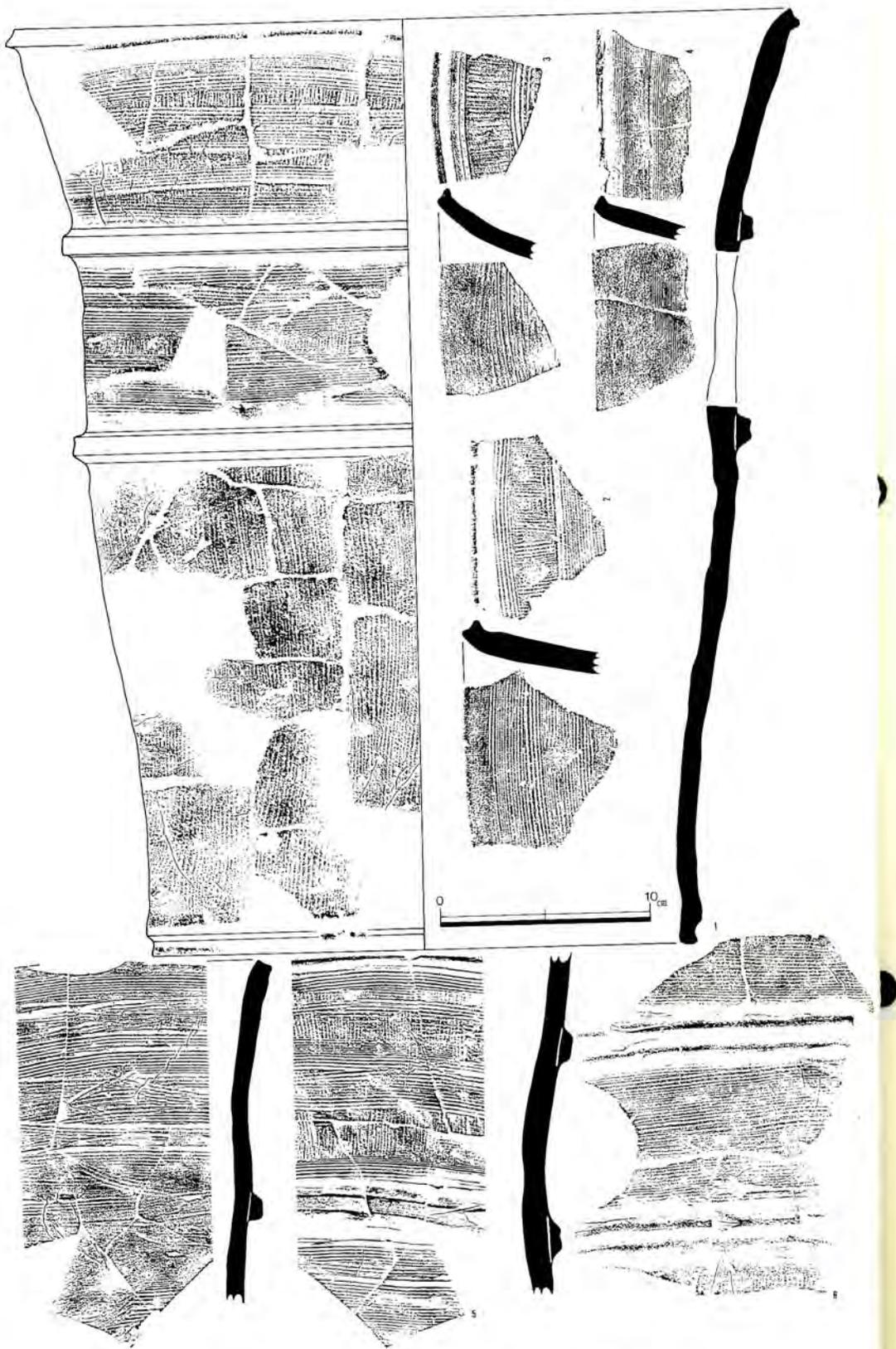
No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
1	合子状坏蓋	I号窯埋土層	9.4	3.2				
2	"	"	10.4	3.2				
3	"	"	10.1	3.5				
4	"	I号窯床面直上	9.9	3.4				
5	"	I号窯前庭部灰層	9.8	3.5				
6	"	土坑埋土上層	10.0	3.3				
7	"	"	10.0	3.6				
8	"	"	9.8	3.5				
9	"	"	9.8	3.5				
10	"	"	10.0	3.5				
11	"	土坑埋土下層	9.8	3.4				
12	"	土坑埋土最下層	9.6	3.3				
13	"	D-4区灰層	9.6	3.7				
14	"	B-5区灰層	9.4	3.5				
15	"	C-5区灰層	10.0	3.5				
16	"	"	9.6	4.0				
17	"	"	9.6	3.9				
18	"	C-6区灰層	9.3	3.4				
19	合子状坏身	A-4区灰層	7.7	3.5	9.5			
20	"	I号窯埋土層	8.6	2.9	10.2			
21	"	"	8.8	3.2	10.8			
22	"	I号窯前庭部灰層	8.6	3.5	10.5			
23	"	土坑埋土上層	8.8	3.3	10.2			
24	"	"	8.6	3.1	10.0			
25	"	"	8.9	3.0	10.6			
26	"	"	8.6	3.1	10.4			

表5 一ノ宮峠場第2地点出土遺物法量値一覽表(2)

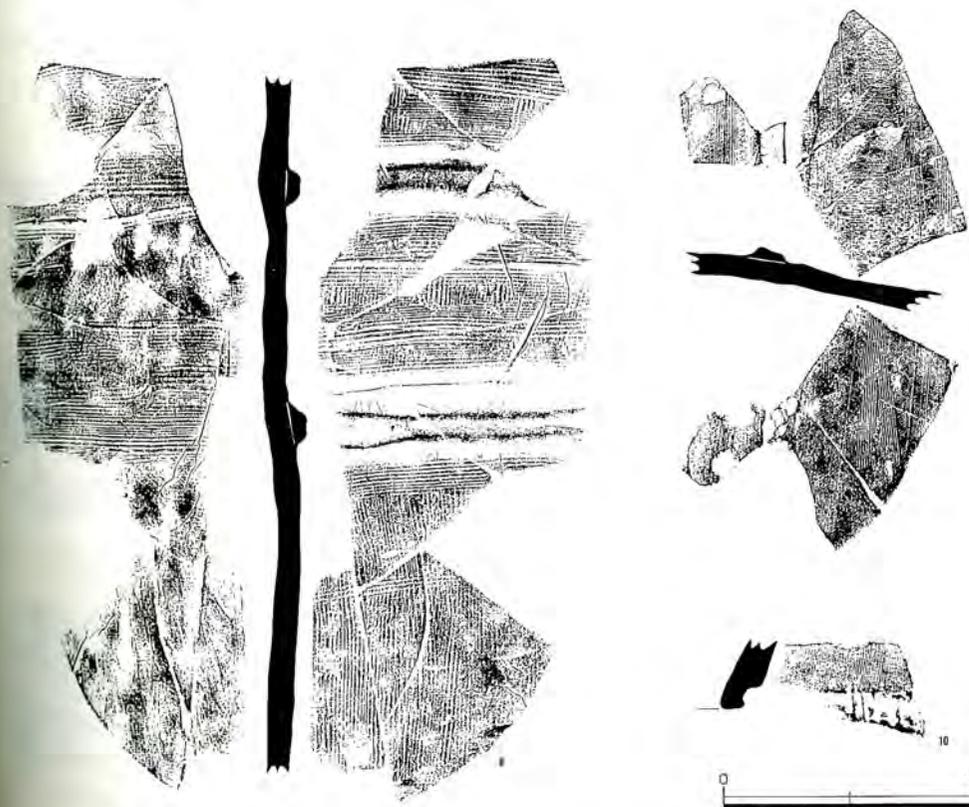
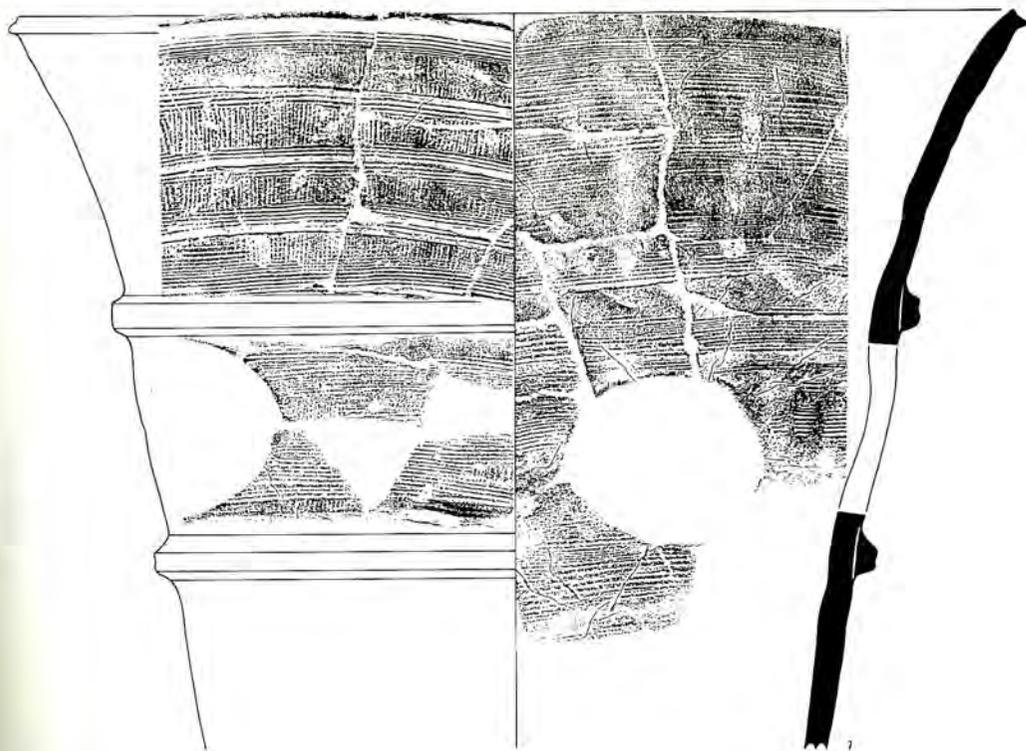
No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
27	合子状坏身	土坑埋土上層	8.6	3.1	10.1			
28	"	"	8.6	3.0	10.2			
29	"	"	8.6	3.5	10.6			
30	"	"	7.8	2.6	9.8			
31	"	土坑埋土下層	8.6	3.3	10.4			
32	"	C-4区灰層	8.2	2.7	10.0			
33	"	"	8.0	3.0	9.9			
34	"	D-4区灰層	8.0	3.4	9.8			
35	"	B-5区灰層	8.4	3.7	10.2			
36	"	C-5区灰層	8.7	3.6	10.6			
37	"	"	8.4	3.1	9.8			
38	"	D-5区灰層	8.6	3.4	10.4			
39	"	B-6区灰層	8.6	3.2	10.0			
40	かえり付坏蓋	B-3区灰層	8.6	2.2	10.2	1.9	0.8	宝珠状つまみ
41	"	C-4区灰層	10.6	2.4	12.2	2.4	0.4	凹状つまみ
42	"	D-5区灰層	8.0	3.3	9.8	1.4	0.8	"
43	"	B-6区上部灰層	8.6	3.7	10.1	1.8	0.9	乳頭状つまみ
44	"	"	7.0	8.7				
45	"	"	7.6	2.6	9.3	1.6	0.8	乳頭状つまみ
46	蓋付無合坏身	1号窯前庭部灰層	10.8	4.4				
47	"	"	10.3	4.0				
48	"	土坑埋土上層	9.8	3.4				
49	"	土坑埋土最下層	9.3	3.5				
50	"	土坑埋土下層	11.1	4.0				
51	"	土坑埋土最下層	8.5	2.9				
52	"	C-5区灰層	9.7	—				
53	"	"	10.0	3.4				
54	"	D-5区灰層	11.3	3.7				
55	壺蓋	C-5区灰層	7.2	2.9	9.8	1.3	0.9	宝珠状つまみ
56	"	D-5区灰層	9.0	4.0		1.0	1.1	乳頭状つまみ
57	"	土坑埋土上層	7.5	2.8	10.0			
58	"	C-6, D-4, 5区灰層	9.5	3.2	9.8			
59	高坏	B-6区灰層	10.5	—				
60	"	1号窯前庭部灰層	14.6	14.6	11.4			
61	"	土坑埋土上層	14.6	—				
62	"	1号前庭部, C-4, 5区灰層	16.4	—				
63	"	D-4, 5区灰層	13.2	—				
64	"	B-6, C-5, D-4区灰層	14.2	11.1	10.2			
65	"	B-5, B-6区灰層	13.7	10.0	13.0			
66	ハソウ	C-6区灰層	11.0	11.1				
67	鉢	1号窯前庭部, D-4, 5区灰層	15.5	10.4				
68	長頸瓶	C-4, 5区灰層	9.6	(9.0)				
69	"	C-4区灰層	10.0	(9.6)				
70	平瓶	D-4区灰層	6.3	(7.0)				
71	こね鉢	1号窯前庭部, 土坑最下層	17.8	16.1	9.8			
72	高盤	1号窯前庭部, B-5区灰層	28.9	—				

一ノ宮事業場地点出土遺物法量値一覽表

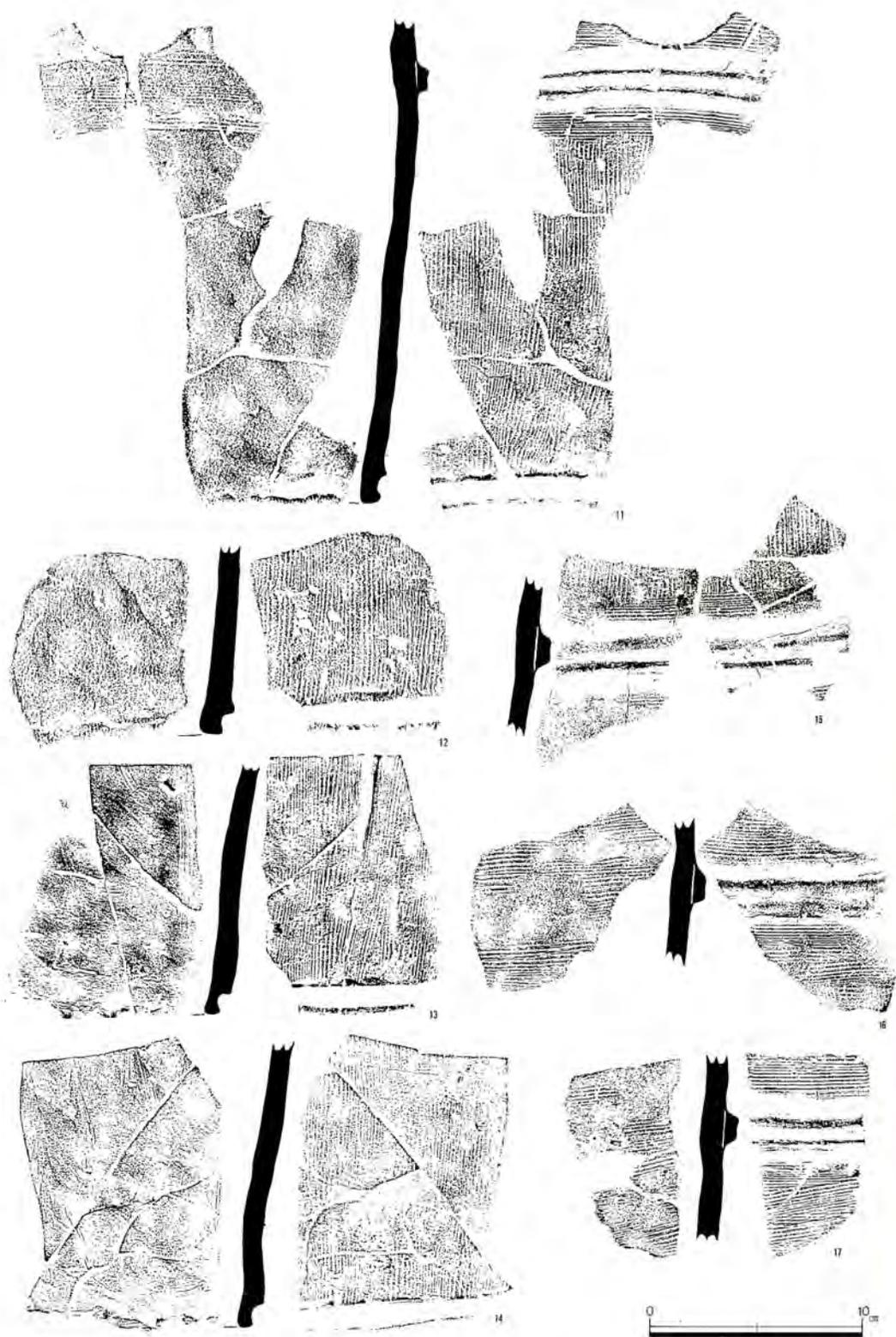
No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
1	坏蓋	流出層	16.6	4.1				
2	蓋付有合坏身	"	14.2	3.4	10.0	3.0	0.9	
3	"	"	14.7	3.5	10.2			
4	坏	"	15.0	4.2				
5	"	"	14.5	4.7				
6	円直視	"	15.2	—				
7	ハソウ	"	—	—				
8	把持付鉢	"	—	—				
9	盤	"	22.9	—				



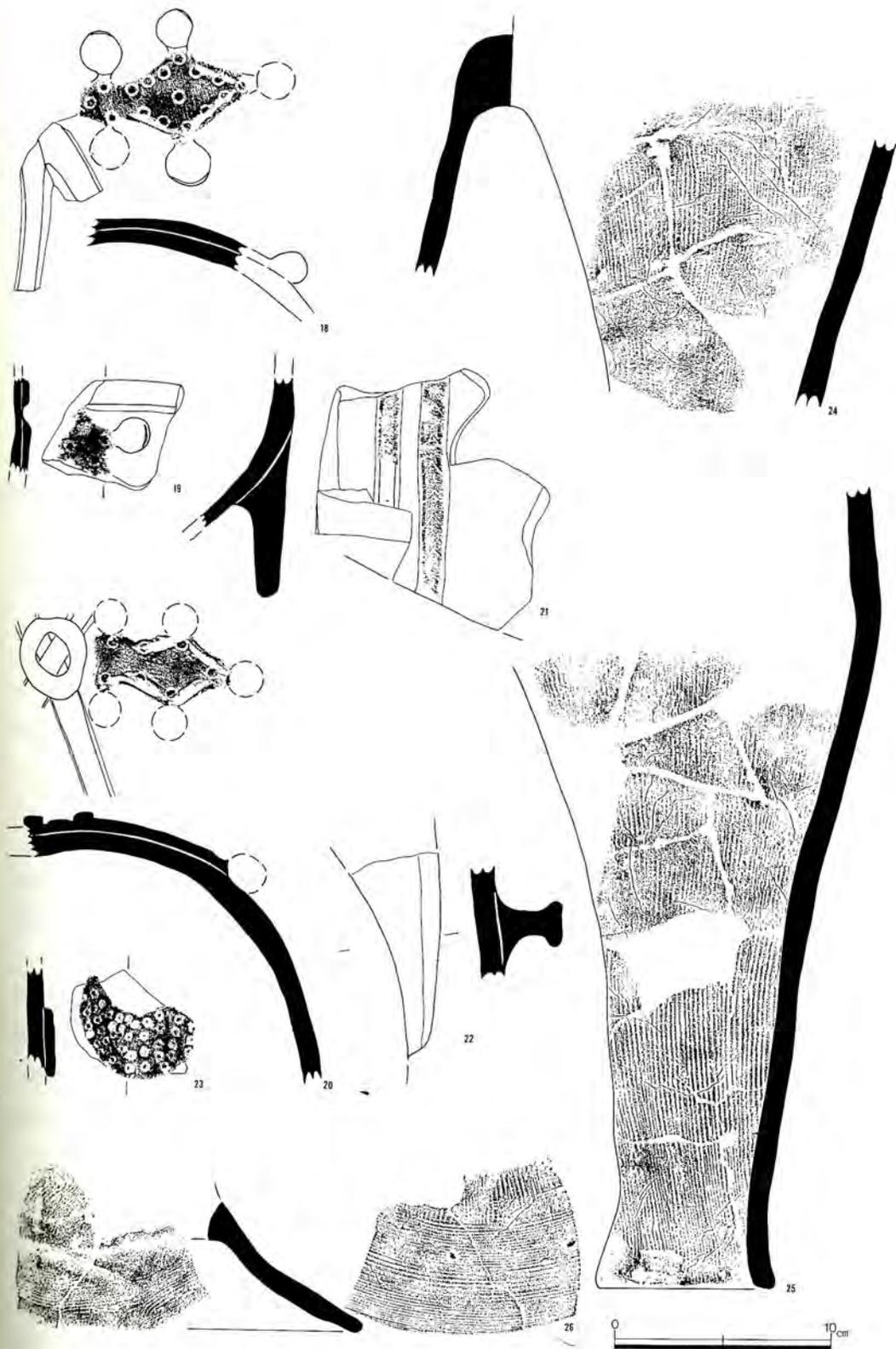
第32図 一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(1)



第33図 一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(2)



第34図 一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(3)



第35図 一ノ宮峠場第1地点出土埴輪実測図(4)

## (2)埴輪

今回出土した埴輪には、円筒埴輪の他に馬形埴輪が確実に存在する。また、人物もしくは蓋、盾形らしき破片も存在する。出土位置は45頁の表に示しておいた。

円筒埴輪は1~17に示しているが、唯一全体形が判明したのは1だけである。大きさは器高が45cm、口径が38cm、底径が26.7cmである。突帯は2段である。第1突帯は器高の中位よりも上に設定され、第2突帯は口縁部と第1突帯のちょうど中央に施されている。なお擬口縁をなす乾燥の単位は、第1突帯の下の器高のほぼ中位にある。製作は2工程で行われている。透かしは円孔で突帯間に1対施されている。口縁部は端面を有するが、ヨコナデ調整されるため、多少窪んでいる。突帯は断面形がM字形をしたものであり、一次調整タテハケの後に設定されている。外面調整は今述べたように一次調整がタテハケであり、二次調整がカキメ状の回転ヨコハケ（C種ヨコハケ=川西1978）である。口縁部は外反しているため、一次調整のタテハケが良く残る。突帯間では、一次タテハケは、部分的に残る程度である。基部は二次調整が施されず、一次調整タテハケが見られるだけである。内面調整は、風化が進み摩滅しているため、不明である。しかし他の例から見て、下半部ではナデ上げ、上半部ではヨコハケであったと推定される。

底部は、輪をはめて作られているため、段状をなしている。1の底部の段には、輪の端部を結束した部分の圧痕がはっきり残存していなかったが、10のような刻目状圧痕が一ヶ所存在したはずである。焼成は言うまでもなく窯窯焼成であり、黒斑をもたない。外面は灰青色で須恵質であるが、内面は赤黄色で土師器的である。

1以外の破片も、1と同じ成形、調整、技法で製作されている。2~5、7は口縁部もしくは、上半部の破片である。いずれも内面は、第1突帯から上ではヨコハケが加えられている。3は櫛歯状ではなく、粗いハケ状工具が用いられている点で、他のものと異なる。粗いハケのものは、少数派であり、圧倒的に櫛歯状のものが多い。しかし、櫛歯状と言っても尾張や伊勢といった伊勢湾沿岸地域のものと比べると、遠江のハケは粗い。7の口径は40.8cmである。

6と8と10~14は、基底部の破片である。底部は、図示していないものも含めて、すべてに段を有し、部分的に10のような輪の端部を結束した刻目状圧痕をもつ。基部の内面は8や12や14に見られるように、ナデ上げ調整が良く行われる。基部の外面二次調整は、1では行われていなかったが、8と11では第1突帯直下でヨコハケが1回転施されている。ヨコハケを加えるものは破片も含めてこの2点である。1と同じように基底部の二次調整が省略されるものは、6を含め、図示していない1点を加えて、合計3点が存在する。

なお、すべての破片が底部に段を有していることから、形象の基部(円筒部)の底部にも段を有していたものと推定される。また、いずれの破片も底端部までヨコハケを加えるものは皆無であり、ヨコハケを加えると言っても第1突帯直下に1回で施すだけである。9と15~17は突帯部の破片である。突帯はいずれも断面形がM字形を呈している。9は極めて細かいハケ工具で調整されたものである。量的には大変少ないものである。なお朝顔形埴輪は見られなかった。

形象埴輪には、馬形埴輪の破片が多く検出された。24と25は脚の破片であり、タテハケで調整されている。18~20は、五鈴付剣菱形杏葉を表現した部分の破片である。いずれも竹管文で鈺が表現されている。18は鈺が比較的密接に、20は要所のみに施されている。20は円環に表現された辻金具に、杏葉が吊りさげられた状態である。23はf字形鏡板が表現されたものだろうが、巴形をなしている。内面には竹管文が充填されている。22は馬形埴輪の鞍の破片である。

21は盾形埴輪の破片のようである。図では横位になっているが、ヘラ描の羽状文が施された突帯2条は水平である。円筒部に盾面が作り出されている。盾面は長方形ではなく、石見型盾のように切り込みが存在した可能性もある。なお馬形埴輪の泥障の可能性も否定できないが、下端が水平ではないことから、盾と考えた。

26は、人物形埴輪の着衣の裾部の破片であろうか。当初、蓋形埴輪の笠部の端部とも考えたが、正円形ではないことから、着衣裾とした。

円筒埴輪と形象埴輪を問わず、焼成は、灰色で完全に須恵質のもの、部分的に須恵質のもの、赤黄色の土師器的なものが存在する。須恵器はいずれも灰色に焼き上がっていることから、埴輪は赤色にするために、故意に酸化炎焼成された可能性がある。

No.	器種	出土位置	備考
1	円筒	1号窯埋土 1・2・3次・灰原	全形
2	円筒	1号窯、2次	口縁部片
3	円筒	1号窯 1次	口縁部片
4	円筒	1号窯 2・3次	口縁部片
5	円筒	1号窯 1・2・3次、灰原	口縁部片
6	円筒	1号窯 1次	突帯部片
7	円筒	1号窯 1・2・3次、灰原	上半部
8	円筒	1号窯 1・2・3次	突帯部片
9	円筒	1号窯 3次	突帯部片
10	円筒	灰原	底部片
11	円筒	1号窯 2・3次、灰原	底部片
12	円筒	灰原	底部片
13	円筒	1号窯 1・2・3次	底部片
14	円筒	1号窯 1・2次、灰原	底部片
15	円筒	1号窯 2次床面、2号窯(古)床面	突帯部片
16	円筒	2号窯(古)床面	突帯部片
17	円筒	2号窯(古)床面	突帯部片
18	馬形	1号窯 2・3次	五鈴剣菱形杏葉
19	馬形	1号窯 2・3次	五鈴剣菱形杏葉
20	馬形	1号窯 1次	五鈴剣菱形杏葉
21	盾形?	1号窯 2・3次	盾面?
22	馬形	灰原	鞍片
23	馬形	灰原	f字形鏡板
24	馬形	1号窯 3次、灰原	股間
25	馬形	1号窯 2・3次	脚部
26	人物?		人物着衣裾?

埴輪出土位置一覧表

## 6. まとめ

検出遺構の時期は、下記の通り（註1）。

### ●峠場第1地点

I号窯……湖西第II期第1小期（5世紀末～6世紀第2四半世紀）

II号窯（古）……湖西第II期第1小期（5世紀末～6世紀第2四半世紀）

II号窯（新）……湖西第II期第2小期～第4小期（6世紀中頃～7世紀初頭）

土坑……II号窯（新）と同時期

III号窯……湖西第V期第4小期～第IV期第1小期（8世紀末～9世紀初頭）

IV号窯……湖西第IV期第1小期～第3小期前（701年～730年）

V号窯……湖西第II期第4小期～第III期第2小期（6世紀末～671年）

### ●峠場第2地点

I号窯……湖西第II期第6小期～第III期第2小期（7世紀第2四半世紀～671年）

II号窯……I号窯より前。

土坑……I号窯と同時期

### ●事業場古窯跡……湖西第IV期第2小期

今回の調査による大きな成果は、明通り古窯跡に続く古窯跡の存在はかねてより指摘されていたが（註2）、峠場第1地点I号窯・II号窯（古）によって確認できたことである。そして、後続の湖西第II期第2小期以後は須恵器専用窯となることが西笠子第64号窯跡例によって明らかなので（註3）、埴輪と須恵器を併焼するのは峠場第1地点I号窯・II号窯（古）の湖西第II期第1小期までであることが判明した。

次に窯構造について触れてみたい。かつて、窯構造については論述した（註4）。湖西第II期第4小期は、湖西古窯跡群に階段を有するC-I式構造が初めて登場する時期であるが、峠場第1地点II号窯（新）の最終構造は階段を有する窯構造で、その時期は湖西第II期第4小期であるから矛盾はない。しかし、B式構造に階段を単に敷設した構造のII号窯（新）とC-I式構造には違いがある。C-I式構造の導入時期には、湖西古窯跡群内でも東西の丘陵によって違いのあることはすでに指摘したが、西側丘陵の当該地域はC-I式構造の導入が一律に行われた東側丘陵地域とは異なるので、B式構造に階段を単に敷設した構造のII号窯（新）はその様相を反映していると理解される。

出土遺物では、峠場第1地点IV号窯に伴う丸瓦と平瓦が注意を引く。これらの瓦の作成方法は、須恵器技法の粘土紐の積み上げにより成形し、外側を平行叩き内側を撫で調整し、丸瓦は二分割、平瓦は四分割に篋切りしている。近隣の消費遺跡では、このような瓦の出土例を聞かないし、湖西古窯跡群内でも唯一の例である。この瓦の時期は、湖西第IV期第3小期前に該当する。

註  
1) 行  
2) 言  
3) 説  
4) 言

註

- 1) 後藤建一：「湖西古窯群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡』 1989年 静岡県教育委員会
- 2) 註1に同じ。
- 3) 湖西市教育委員会：『西笠子第64号窯跡発掘調査報告書』 1987年
- 4) 註1に同じ。

## 7. 参考となる古窯跡

一ノ宮工業団地内遺跡の調査によって、湖西古窯跡群須恵器編年の空白時期であった湖西第II期第1小期の概要が明らかとなった。現在までの編年資料には、灰原を完掘し須恵器概要を捉えることのできる資料と補足的編年資料がある。報告書の刊行されている各資料は以下の通り。

### 概要の明らかな編年資料

- ① 峠場第1地点I号窯・II号窯(古) ……湖西第II期第1小期
- ② 西笠子第64号窯跡(註1) ……湖西第II期第2小期～第II期第4小期
- ③ 峠場第2地点古窯跡 ……湖西第II期第6小期～第III期第2小期
- ④ 吉美中村遺跡A地点出土須恵器(註2) ……湖西第III期第2小期～第IV期第1小期
- ⑤ 大沢第4地点古窯跡(註3) ……湖西第IV期第1小期～第IV期第3小期前
- ⑥ 古見第14地点1・2号窯(註4) ……湖西第IV期第3小期前後
- ⑦ 古見第16地点古窯跡(註5) ……湖西第IV期第3小期前～第V期第1小期
- ⑧ 早稲川古窯跡(註6) ……湖西第V期第1小期
- ⑨ 東笠子第13地点古窯跡(註7) ……湖西第V期第4小期
- ⑩ 東笠子第36地点VI号窯(註8) ……湖西第VI期第1小期
- ⑪ 東笠子第24地点古窯跡(註9) ……湖西第VI期第2小期

### 補足資料

- イ、明通り古窯跡(註10) ……湖西第I期前後
- ロ、川尻2号窯(註11) ……湖西第II期第3小期前～第II期第4小期
- ハ、加賀山第2地点2号窯(註12) ……湖西第II期第3小期前～第II期第4小期
- ニ、大沢第3号窯(註13) ……湖西第II期第5小期～第III期第3小期
- ホ、青平古窯跡(註14) ……湖西第III期第3小期後～第IV期第2小期
- ヘ、山口西門遺跡(註15) ……湖西第III期第3小期～第IV期第1小期
- ト、峠場第1地点IV号窯 ……湖西第IV期第1小期～第IV期第3小期前
- チ、東笠子第36地点III・IV・V号窯(註16) ……湖西第V期第1小期～第V期第3小期
- リ、峠場第1地点III号窯 ……湖西第V期第4小期～第VI期第1小期

これらに後述する古窯跡を加える。内容は以下の通り。

### 概要の明らかな編年資料

- 殿田第4地点1号窯 ……湖西第II期第5小期～第III期第3小期
- 東笠子第25地点I号窯(古)・II号窯 ……湖西第II期第5小期～第III期第1小期
- 東笠子第44地点I号窯 ……湖西第IV期第1小期～第IV期第3小期後

東笠子第44地点Ⅶ号窯……湖西第Ⅴ期第1小期

東笠子第43地点Ⅰ・Ⅱ号窯……湖西第Ⅴ期第1小期・第2小期

### 補足資料

東笠子第44地点Ⅱ号窯～Ⅵ号窯……湖西第Ⅳ期第1小期～第Ⅳ期第3小期

なお、遺物出土の区画呼称は、調査区の高位を仮北として、ラインの交差する北東ポイントをもって代表させている。遺構名は、窯をローマ数字もしくはアラビア数字とし、土坑などは出土区の名称をもって呼称している。土層や床面は、新しい層から古い層へとアラビア数字を与えており、第1層・第2層という場合、第1層が新しく第2層が古い。床面も1次面と2次面では、1次面が新しく2次面が古いのである。

#### (1) 殿田第4地点古窯跡

古見川と横須賀川に挟まれた丘陵地の一角にある。北に延びる主尾根の西斜面に位置している。調査は谷上土地区画整理事業に伴って、1981年の6月から7月に湖西市教育委員会によって行われた。周辺には、発掘調査された殿田2・3号窯(註17)や谷上第2地点古窯、御墓古窯(註18)がある。掲載したのは調査区全体図と1号窯実測図、出土遺物の大半である。殿田第4地点古窯跡は、西斜面の尾根近くで検出された。遺構は、窯跡3基・土坑3基である。窯跡は並列に並び、その間に土坑が位置している。

中央に位置する1号窯は、主軸を東から北へ75度振り、全長10.6mと完存している。焚口部幅60cmを測り、燃烧部はほぼ同じ幅で2mの長さとなる。燃烧部床はほぼ平坦とするが、床面は全体に流失し、焼土が露出している。焼成部へは徐々に幅を広げ最奥で幅1.4m床面は25度の角度を測る。天井は燃烧部で80cm焼成部で1mの高さとなり、4面を数える。天井や側壁が厚いことから、床面を掘り下げて改修を行っているようで、そのため燃烧部幅が細くなってしまったのであろう。階段部は粘土貼りで、長さ1.8mで幅は1.6mから徐々に狭め60cmの台形状を呈する。最初の段を1.1mの高さとし、以降を高さ15cm奥行き20cmで、5段を数える。階段部は、4面確認された。煙出部は、素掘り状態で地山が熱を受け焼土化している。平面形は、長さ1.6m幅1.4mを測る不整の長方形を呈する。前庭部は、径2mの円形土坑で深さ40cmの摺鉢状の断面を呈する。下方壁は、窯排土により構築されている。焚口部左より長さ3m幅60cm深さ30cmの溝が延びている。長さ13m幅16mに広がる灰原の大半が1号窯によって廃棄され、灰原堆積は厚い箇所でも1mにもおよび、上部・中部・下部の3層に大別が可能である。

検出された3つの土坑は、1号窯に伴っている。1号窯の右隣に接するG-5土坑が最も大きく、長さ5m幅8mほどの長方形を呈する。床は幾つかの小土坑により階段状となっているが、おおむね平坦である。埋土状態は、土坑内に1号窯の灰層が充満しており、部分的に上部・中部・下部の3層に大別が可能である。土坑右半分は、右側に位置する2号窯の構築時の排土で埋められ、その上に2号窯灰層が堆積している。したがって、1号窯→2号窯の前後関

係となる。

2号窯は、階段部を失っており、床面が2面確認された。3号窯は、煙出部が失われ、3面の床と2面の階段部が確認された。1回の補修と1回の改修が行われている。2・3号の灰原は、斜面下方に認められたが、いずれも広がりはなく薄い堆積に終わっている。

時期は、1号窯が湖西第Ⅱ期第5小期～第Ⅲ期第3小期。三つの土坑はいずれも1号窯に伴う。2号窯と3号窯は、湖西第Ⅳ期第1小期に該当し、1号窯に後続する。窯構造は、1号窯がC-Ⅱ式、2・3号窯はC-Ⅲa式である。

## (2)東笠子第25地点古窯跡

坊瀬川と東笠子川に挟まれた丘陵地の一角にある。丘陵地は昭和55年から昭和58年にかけて区画整理事業に伴って発掘調査が行われた。東笠子第25地点古窯跡は、昭和57年に調査が行われ概報が刊行されている(註19)。概報では、出土遺物の一部が掲載されたが、この度は出土遺物の大半を掲載した。

東笠子第25地点古窯跡は、南北に走る主尾根から北東に派生する小丘陵の南斜面に位置している。尾根部は温室による畑作利用のため削平を受け、裾部も人家および豚舎により削られ、斜面の中腹が現況を止めている。遺構は、上位に並列して2基の古窯跡と住居跡1軒、下位に1基、計3基検出された。いずれも改変を受け半壊状態であり、最も破壊の著しいⅡ号窯は灰原も攪乱を受けている。10mほど西に東笠子第44地点古窯跡が位置しているが、東笠子第25地点古窯跡から東笠子第44地点古窯跡への推移であるので、両地点は同一の古窯跡群を形成していると考えられる。両地点の間の斜面は削られており遺構は検出されなかったが、本来は古窯跡が数基存在していたと推定できる。

Ⅰ号窯は並列する2基の中で東側に位置する。焼成部後半から煙出部にかけて、温室造成工事によって消失していた。焚口部までの本体残存部も、重機等の圧力を受けて変形するにいたっている。床面は2面確認された。前庭部はほぼ完存し、2.2m×4mと縦に長い隅丸長方形の土坑で占められている。前庭部上方から東側に、長さ2.6m幅5.5m深さ25cmの溝が斜面下方に向かって付設されていた。灰原は2回にわたって大きな流れが認められた。

Ⅱ号窯はⅠ号窯の西側に並列する。大半が破壊されており、焚口部付近で側壁をわずかに残し、その形状を知り得る。前庭部も70cm×1.3mの楕円形の土坑として残存するのみである。灰原は、前庭部から右下方の斜面5m周辺には痕跡として残る程度でしかない。しかし、さらにそれより下ると、Ⅰ号窯灰層の下に検出することができた。したがって、Ⅱ号窯→Ⅰ号窯という営窯関係となる。

Ⅲ号窯は、Ⅰ号窯の南東裾部に位置している。焼成部から焚口部の西側半分は、豚舎建築時に削られ消失している。前庭部は整地されており、まったく形状を止めていない。粘土質の黄橙色基盤層と灰層とが混在した攪乱土層がわずかに残っている。この層より、蓋坏などわずかに須恵器が採取された。全長4.7m最大幅1.3m床面傾斜角度は20度前後を一定に保っている。

主軸方向はN-16度-Wである。平面形は焚口部で幅75cmと一旦幅を狭め、それ以後は煙出部に至るまで明瞭に胴を張ることもなく、長方形を呈する。煙出部は半円形に突出し、焼成部から60度の角度で立ち上がる。床や壁には補修された痕跡がなく、比較的薄い造りとなっており、當窯期間の短いことを示している。

II号窯の西に隣接して、40cmほど掘り込んだ竪穴式住居跡が検出されている。南側は削平されて不明であるが、元は4m四方の正方形と推定される。床は暗黄褐色粘土を叩いて造った貼り床である。遺物はI・II号窯に伴う。

時期は、II・I号窯(古)と住居跡は湖西第II期第5小期～第III期第1小期、I号窯(新)は湖西第IV期第1小期、III号窯は湖西第II期第1小期に該当する。窯構造は、I・II号窯がC-II式、III号窯はA式とB式の指標を混在している。

### (3)東笠子第44地点古窯跡

東笠子第25地点古窯跡の西隣に位置する。両地点は、同一の古窯跡と理解できる。調査は昭和58年に行われた。工事中に偶然に発見されたため、新発見の古窯跡となる。東斜面に窯7基・土坑3つが、3mほど間隔で並列している。反対側の斜面には、2基の中世古窯跡が検出され、既に報告されている(註20)。掲載したのは調査区全体図とVII号窯実測図、出土遺物の大半である。

残存状況は、I号窯とII号窯は畑の削平により階段部が消失し、III号窯とV号窯・F-3土坑・II号窯～VII号窯の灰原が、斜面下方の人家によって削られている。IV号窯は、工事によって階段部が削られた。灰原は、I・II号窯とVII号窯が比較的残っており、他は失われている。最も右に位置するC-IVa式のI号窯には右隣にI-3土坑が伴い、湖西第IV期第2小期～第IV期第3小期後の時期である。II号窯もI号窯と同様である。III号窯は湖西第IV期第1小期～第2小期。IV号窯は土坑を隣接し、湖西第IV期第1小期～第2小期である。V号窯はC-IIIb式でD-3土坑を配し、湖西第IV期第1小期～第2小期である。なお、D-3土坑はVI号窯構築の際に埋められている。最も小さなVI号窯は、湖西第IV期第2小期である。これらの構築順序は、V号窯→III号窯・IV号窯・V号窯→I号窯・II号窯である。最も新しい窯は、VII号窯である。

VII号窯は、最も左側に位置している。煙出部が失われている以外は、残存している。主軸は60度西に振り、残存長7mを測る。焚口幅80cmで「八」の字形に開いて燃焼部となる。幅2mほどを保ち焼成部に移行し、長さ3.5mの長方形を呈する。床面は、15度から20度と徐々に角度を増す。階段部は焼成部より幅1mと縮小し、一段目は30cmの高さで以降は高さ15cm奥行き10cmの2段を数える。前庭部は、一段下がって幅2m長さ1mの三日月状に焚口を取り囲む土坑状を呈する。床を平坦とし、下方壁を欠いている。時期は湖西第V期第1小期で、窯構造はC-V式である。

#### (4)東笠子第43地点古窯跡

坊瀬川と東笠子川に挟まれた丘陵地の一角にある。丘陵地は昭和55年から昭和58年にかけて区画整理事業に伴って発掘調査が行われた。東笠子第43地点古窯跡は、昭和57年に調査が行われ概報が刊行されている(註21)。概報では、出土遺物の一部が掲載されたが、この度は出土遺物の大半を掲載した。

尾根部は昭和初年の砂防工事によって削平を受け、緩斜面に加工されている。工事の影響を受けていない中腹は、35~40度の傾斜角度をもち急峻である。窯跡は、尾根近くの南斜面に2基並列しており、削平によってそれぞれの天井部とII号窯の煙出部が破壊され、灰原を含め比較的保存状態はよい。

I号窯は東側に位置する窯である。主軸はN-21度-Wで残存長7.3mを測る。焚口幅を70cmとし燃焼部へ「八」の字状に広がり、側壁は内彎して立ち上がり2面確認され、同様に床面も2面確認された。焼成部は幅2.2mと広げ、床面角度も急となる。階段部は高さ16cmの段を残すだけで大半が失われていた。前庭部は焚口部よりに「八」の字状に長さ1mの平坦面を設け、2.2m×3.5mの楕円形土坑を配する。灰原は、暗黄褐色礫土を挟んで2層の灰層が確認された。間層の暗黄褐色礫土は改修時の排土で、2層の灰はその前後の営窯時の灰層となる。

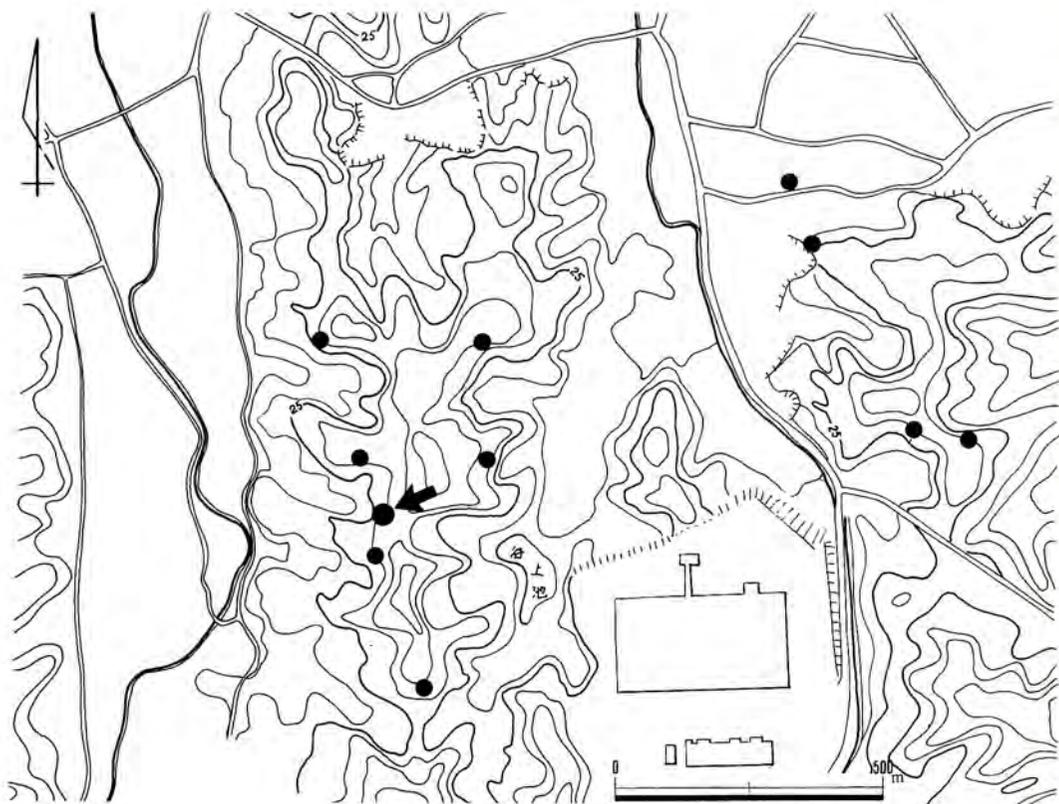
II号窯は西側に位置する窯である。主軸はN-18度-Wで残存長6.8mを測る。焚口幅を1mとし燃焼部へ「八」の字状に広がり幅2.1m床面角度は25度の焼成部となる。焼成部後半は失われている。前庭部は焚口部よりに「八」の字状に長さ1mの平坦面を設け、1m×2.6mの楕円形土坑を配する。灰原は斜面でI号窯と混在し区別できない。連続して、I号窯→II号窯という順序となる。

I号窯前庭部の東に、1.7m×3.1mの楕円形の土坑が取り付けられている。土坑はI号窯に伴う。時期は、I・II号窯は湖西第V期第1小期・第2小期に該当する。窯構造は、I・II号窯ともにC-V式である。

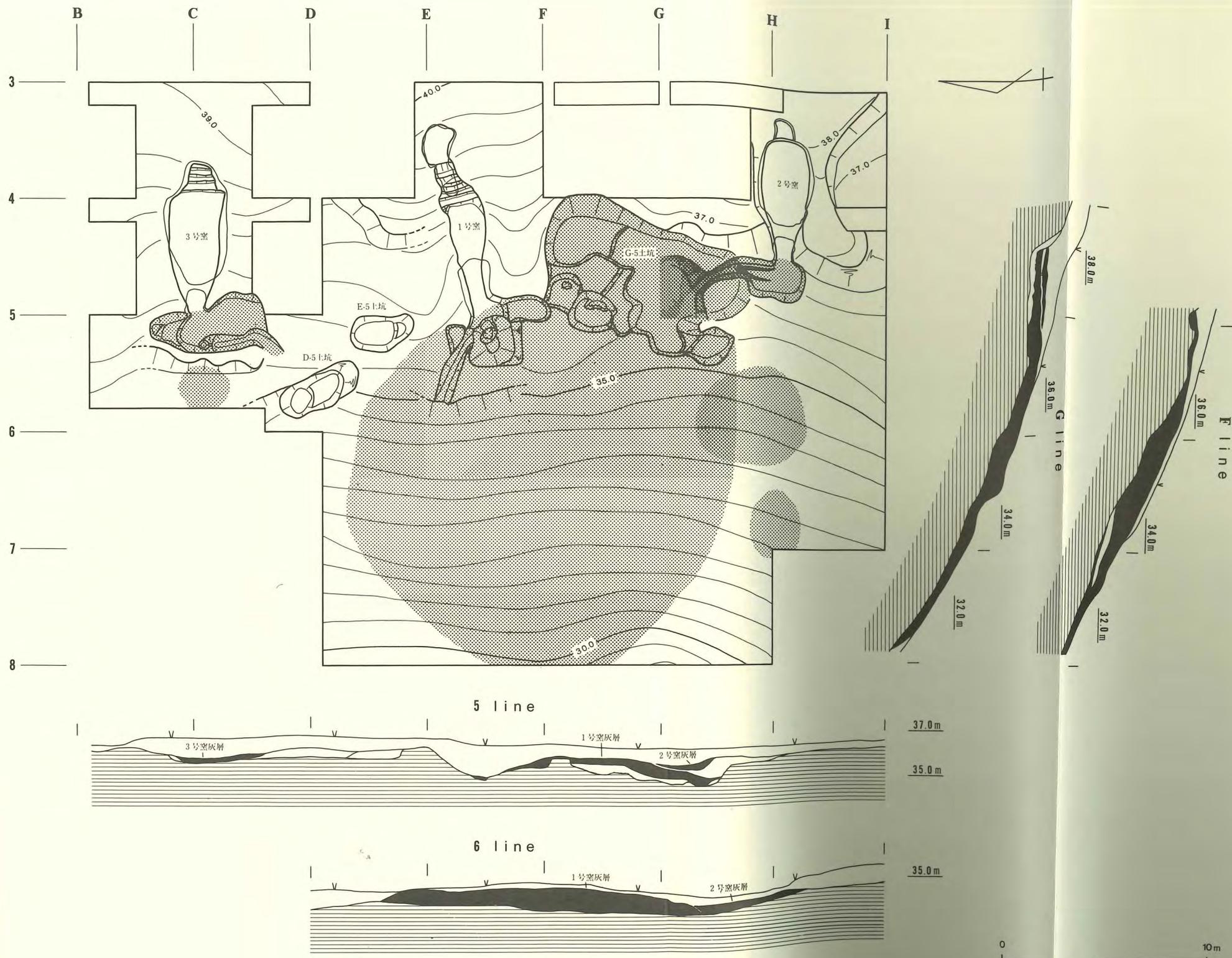
#### 註

- 1) 湖西市教育委員会：『西笠子第64号窯発掘調査報告書』 1987年
- 2) 同上：『吉美中村遺跡』 1990年
- 3) 同上：『大沢第4・5地点遺跡発掘調査報告書』 1985年
- 4) 同上：『賀賀山第1~3地点・古見第14・16地点古窯跡発掘調査報告書』 1991年
- 5) 註4に同じ。
- 6) 湖西市教育委員会：『早稲川古窯跡』 1975年
- 7) 同上：『東笠子遺跡群発掘調査概報』 1983年
- 8) 註7)に同じ。
- 9) 註7)に同じ。
- 10) 註1)に同じ。
- 11) 湖西町教育委員会：『大沢・川尻古窯跡調査報告書』 1966年
- 12) 註4)に同じ。
- 13) 註11)に同じ。

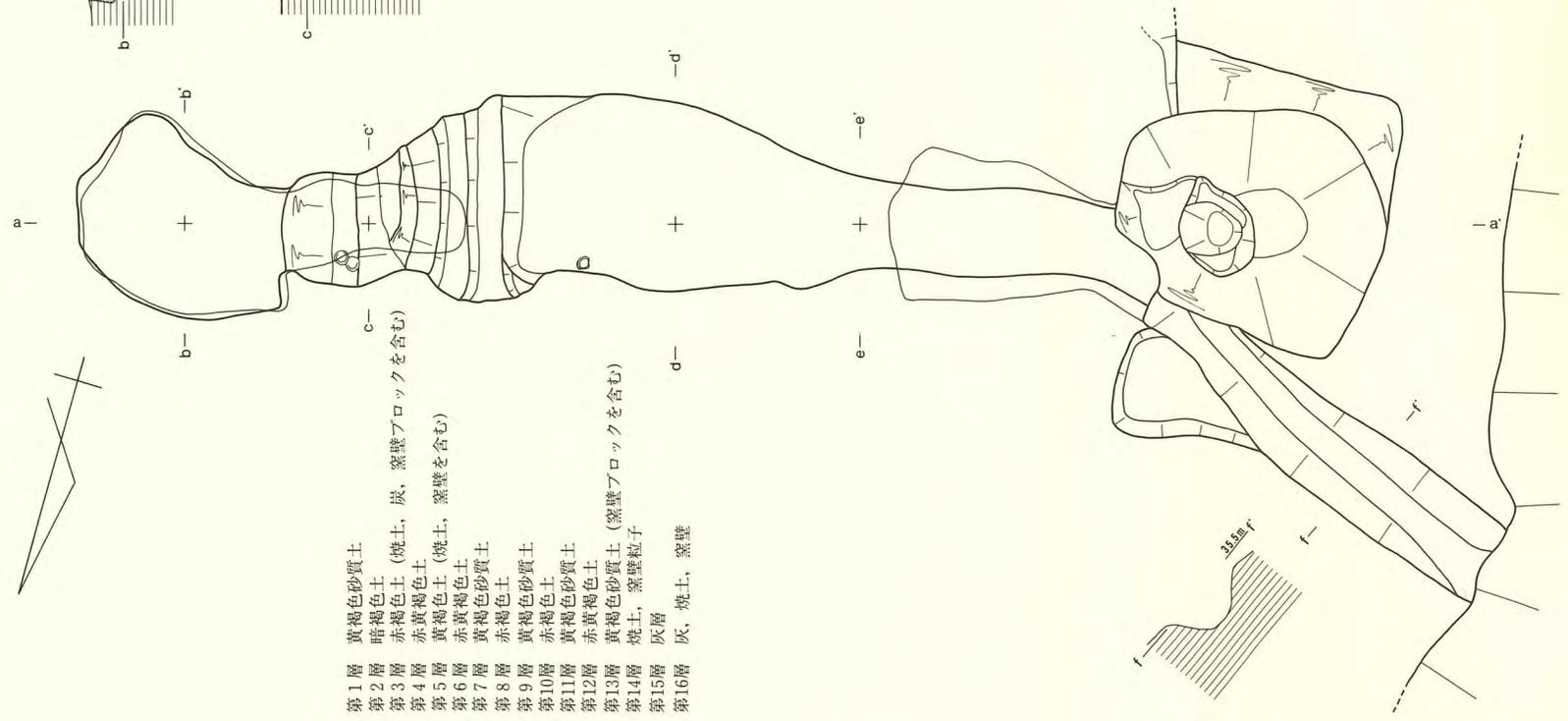
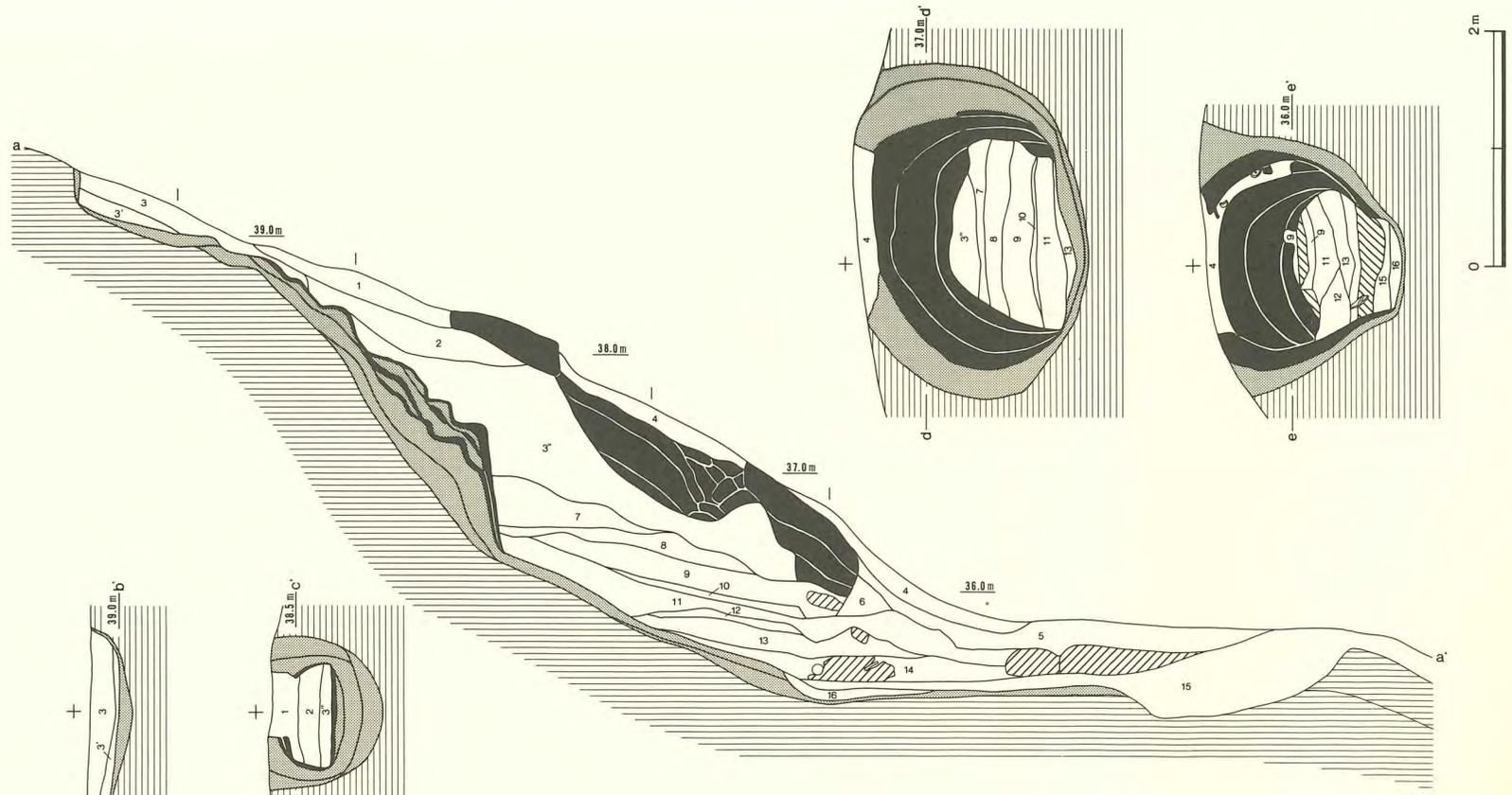
- 14) 湖西市教育委員会：『青平古窯跡・新古古窯跡発掘調査報告書』 1984年
- 15) 同上：『昭和54年度湖西市埋蔵文化財発掘調査概報』 1980年
- 16) 註7) に同じ。
- 17) 湖西市教育委員会：『昭和53年度湖西市埋蔵文化財発掘調査概報』 1978年
- 18) 新居町：『新居町史第四巻』 1986年
- 19) 註7) に同じ。
- 20) 湖西市教育委員会：『山口第17地点古窯跡発掘調査報告書』 1991年
- 22) 註19) に同じ。



第36図 殿田第4地点古窯跡位置図

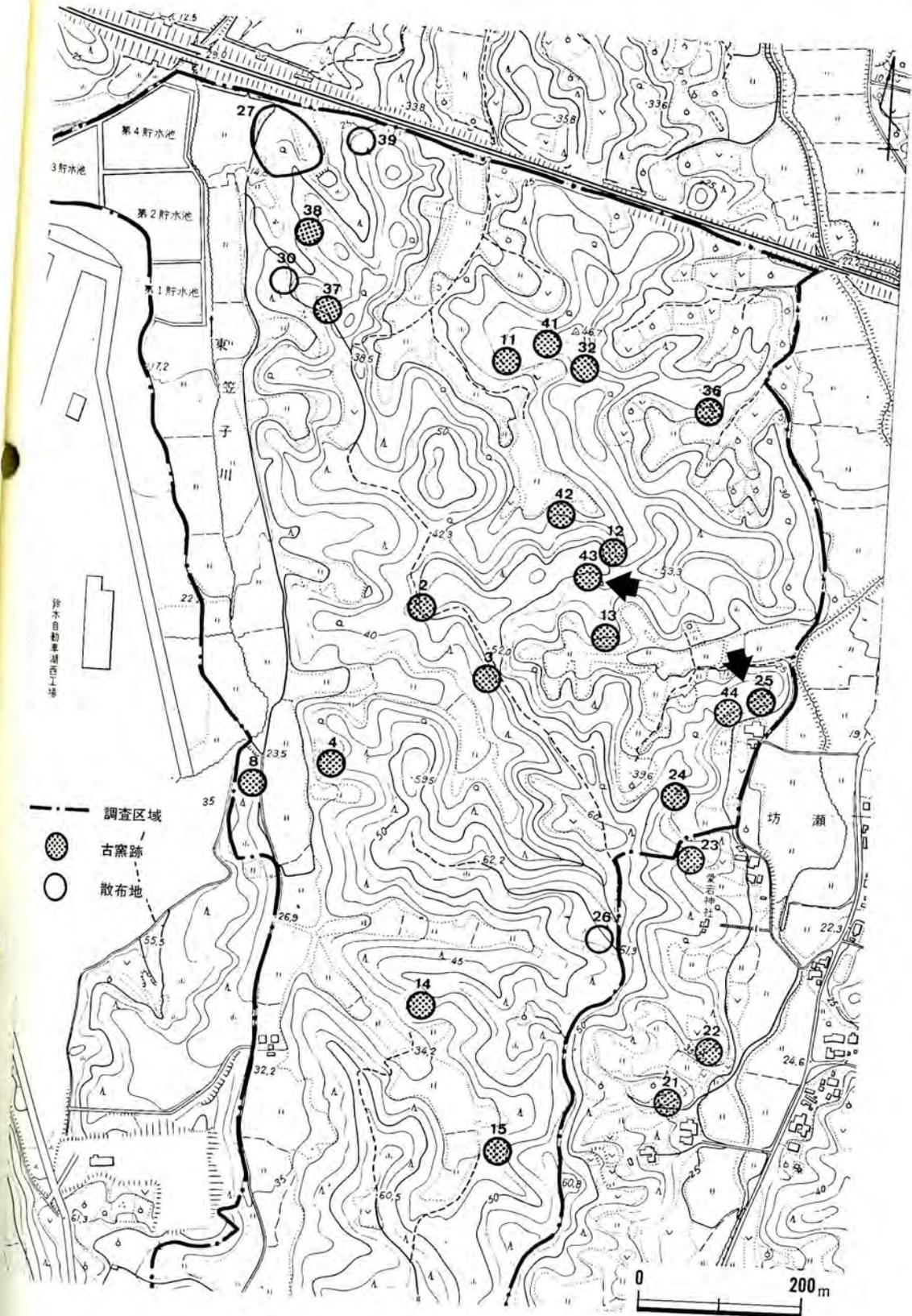


第37图 殿田第4地点古寨迹全体图

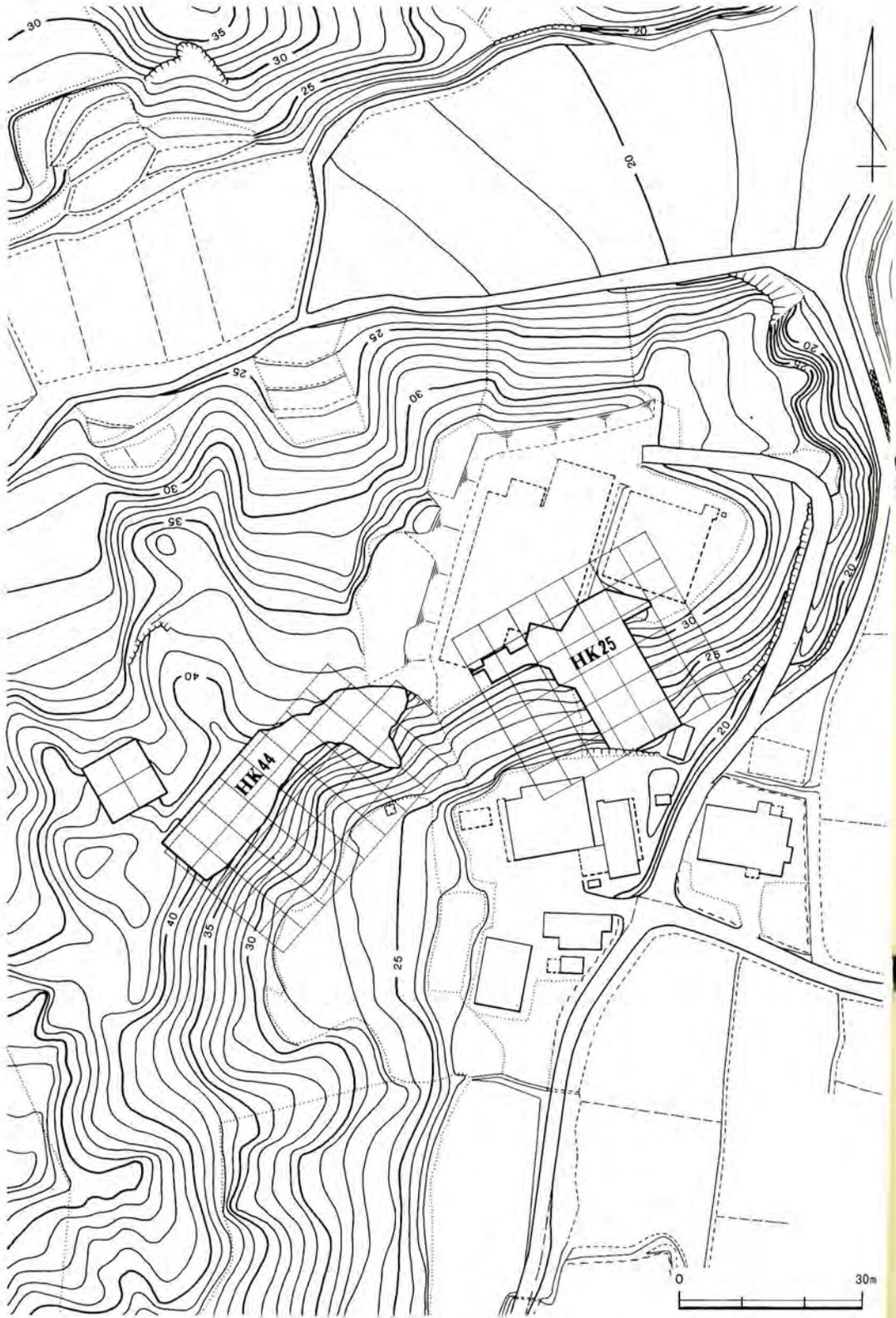


- 第1層 黄褐色砂質土
- 第2層 暗褐色土 (焼土, 炭, 窯壁ブロックを含む)
- 第3層 赤褐色土
- 第4層 赤黄褐色土 (焼土, 窯壁を含む)
- 第5層 黄褐色土 (焼土, 窯壁を含む)
- 第6層 赤黄褐色土
- 第7層 黄褐色土
- 第8層 赤褐色土
- 第9層 黄褐色砂質土
- 第10層 赤褐色土
- 第11層 黄褐色砂質土
- 第12層 赤黄褐色土 (窯壁ブロックを含む)
- 第14層 黄褐色砂質土 (窯壁粒子)
- 第15層 焼土, 窯壁
- 第16層 灰, 焼土, 窯壁

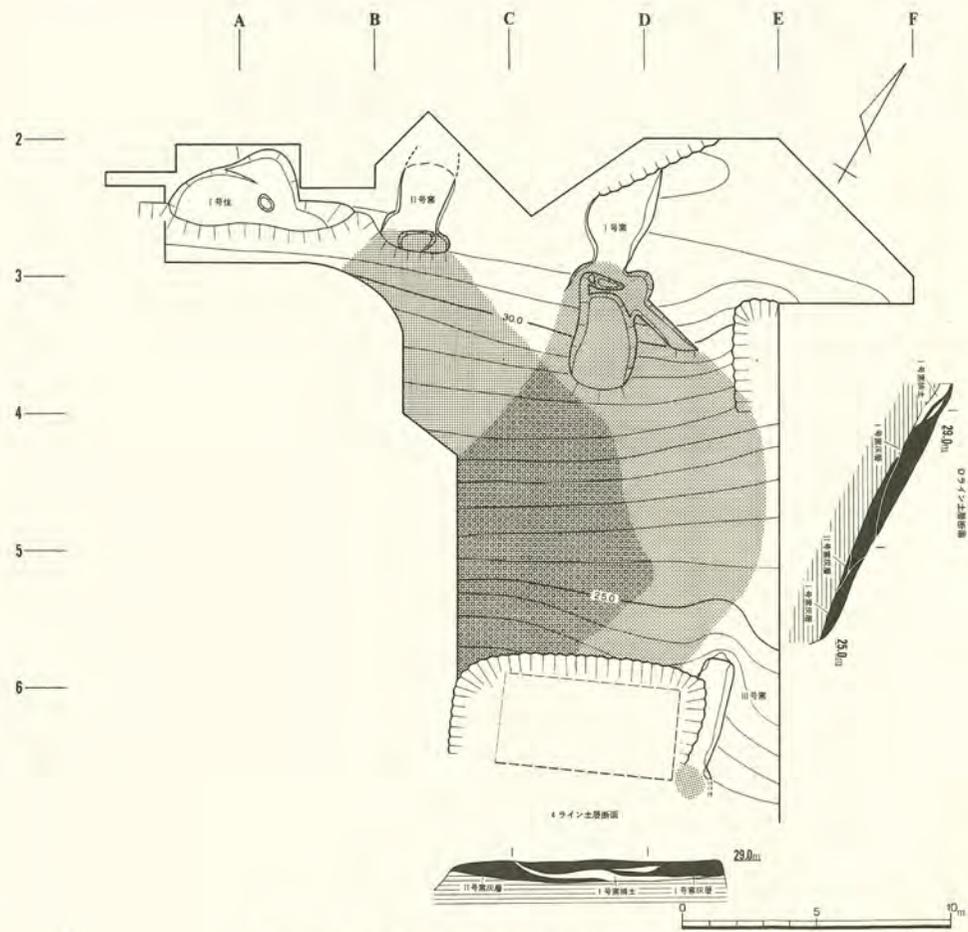
第38図 毘田第4地点1号窯跡実測図



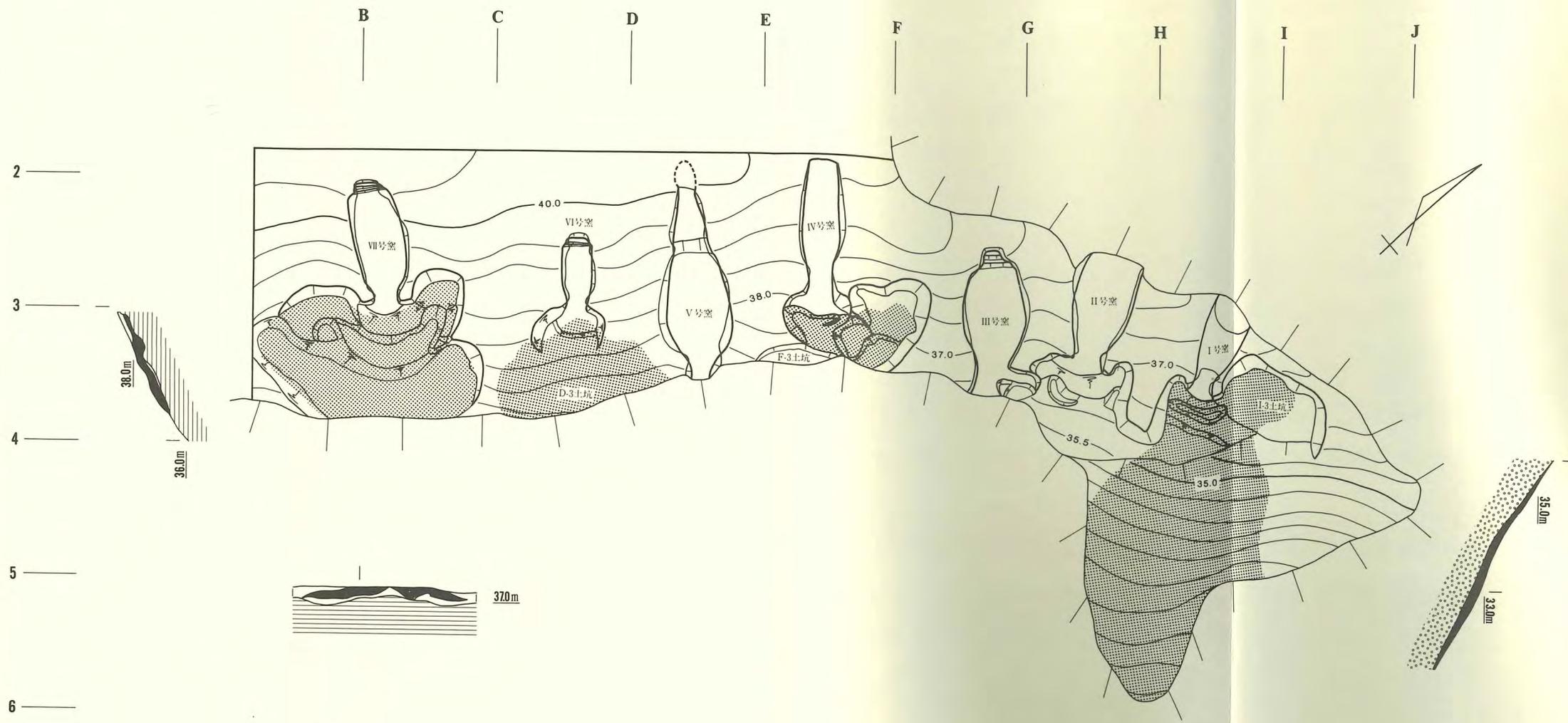
第39図 東笠子遺跡群遺跡分布図



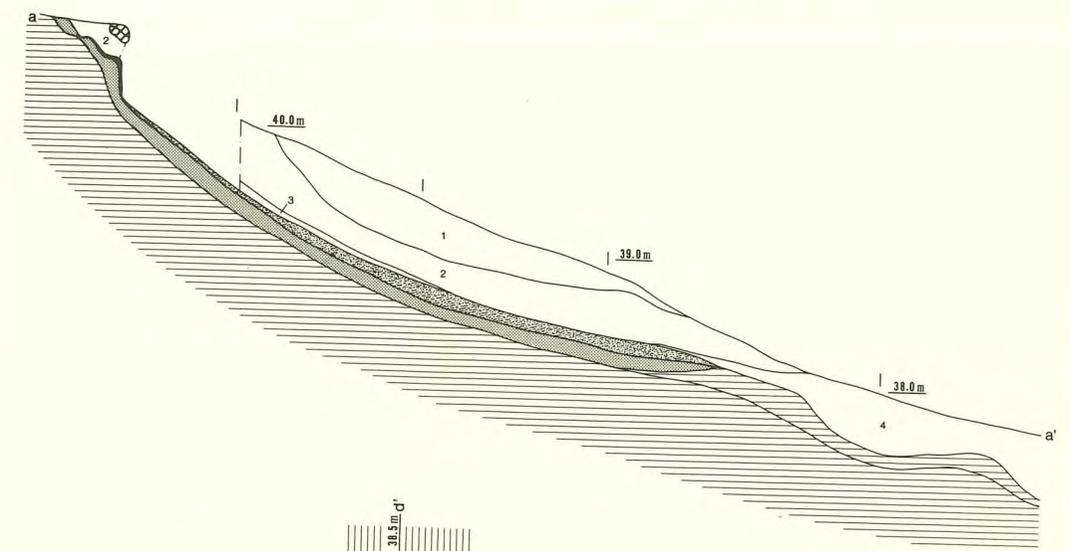
第40図 東笠子第25・44地点古窯跡位置図



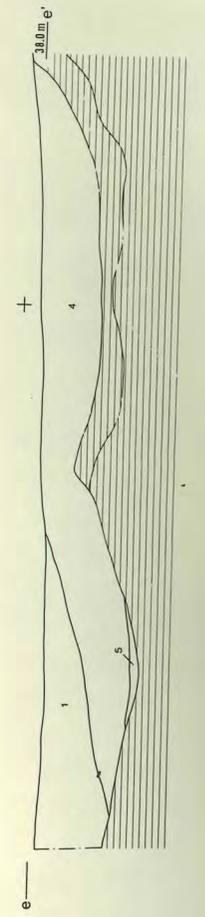
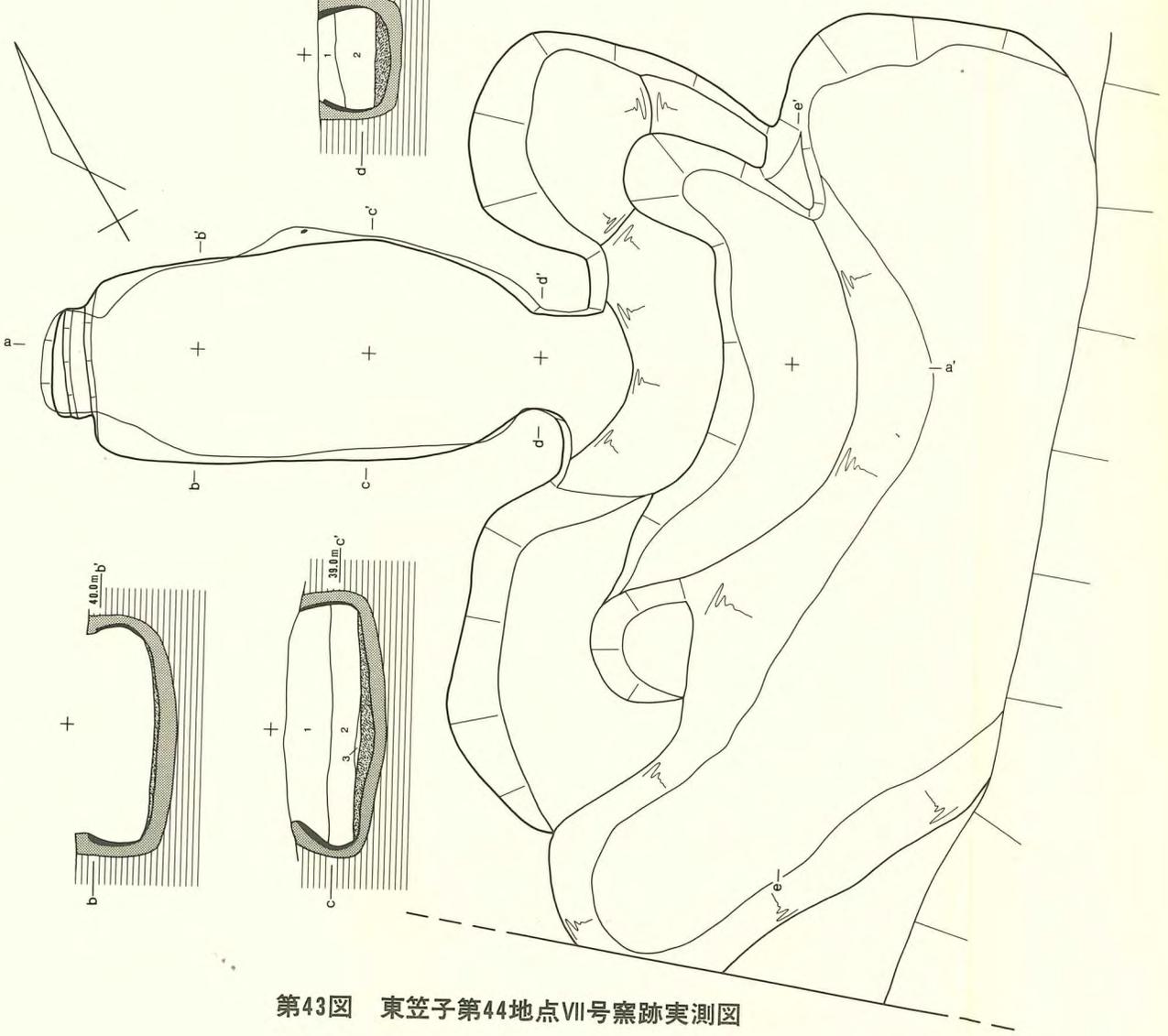
第41図 東笠子第25地点古窯跡全体図



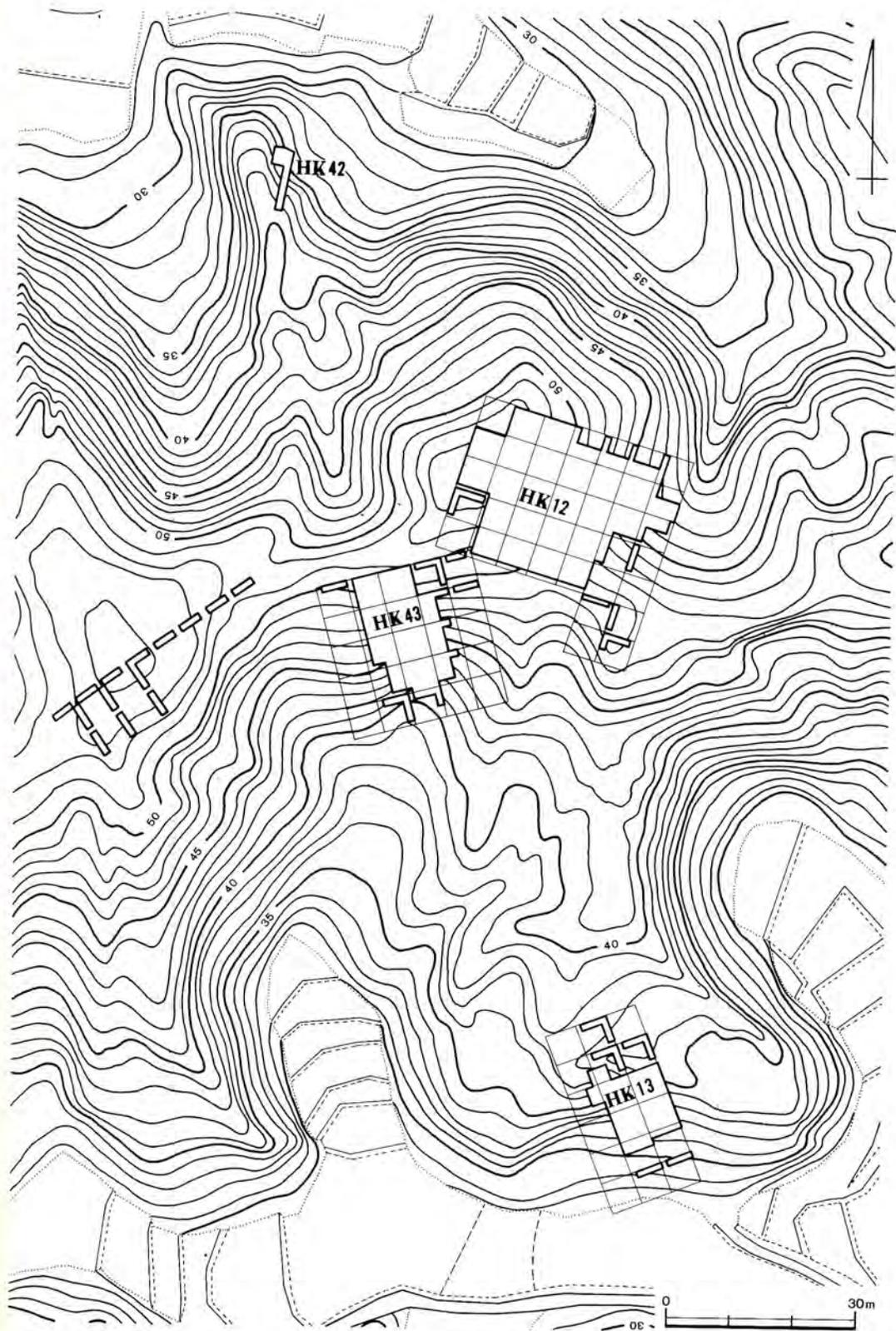
第42图 東笠子第44地点古窯跡全体図



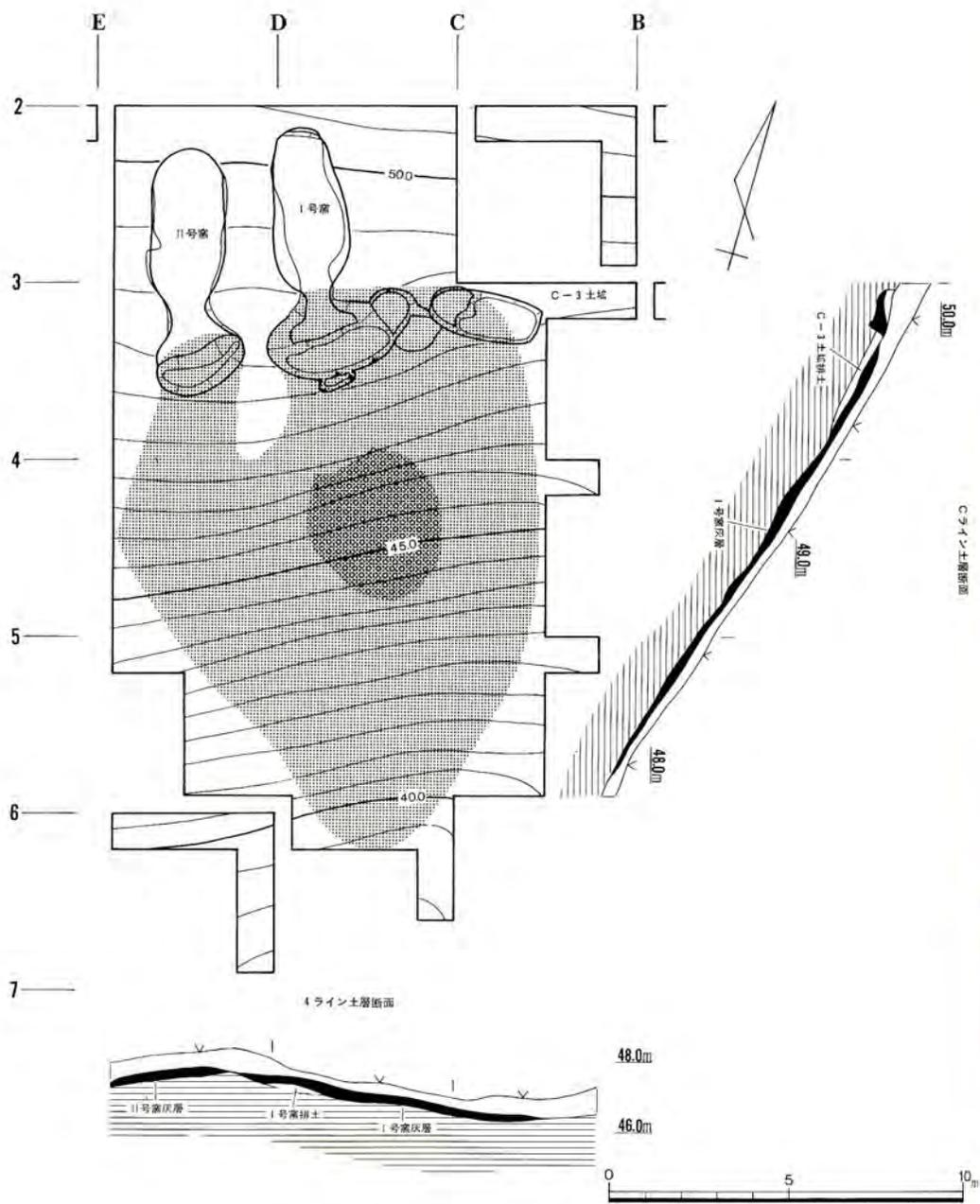
- 第1层 褐色土
- 第2层 赤褐色土
- 第3层 暗褐色土
- 第4层 灰层
- 第5层 黑褐色土



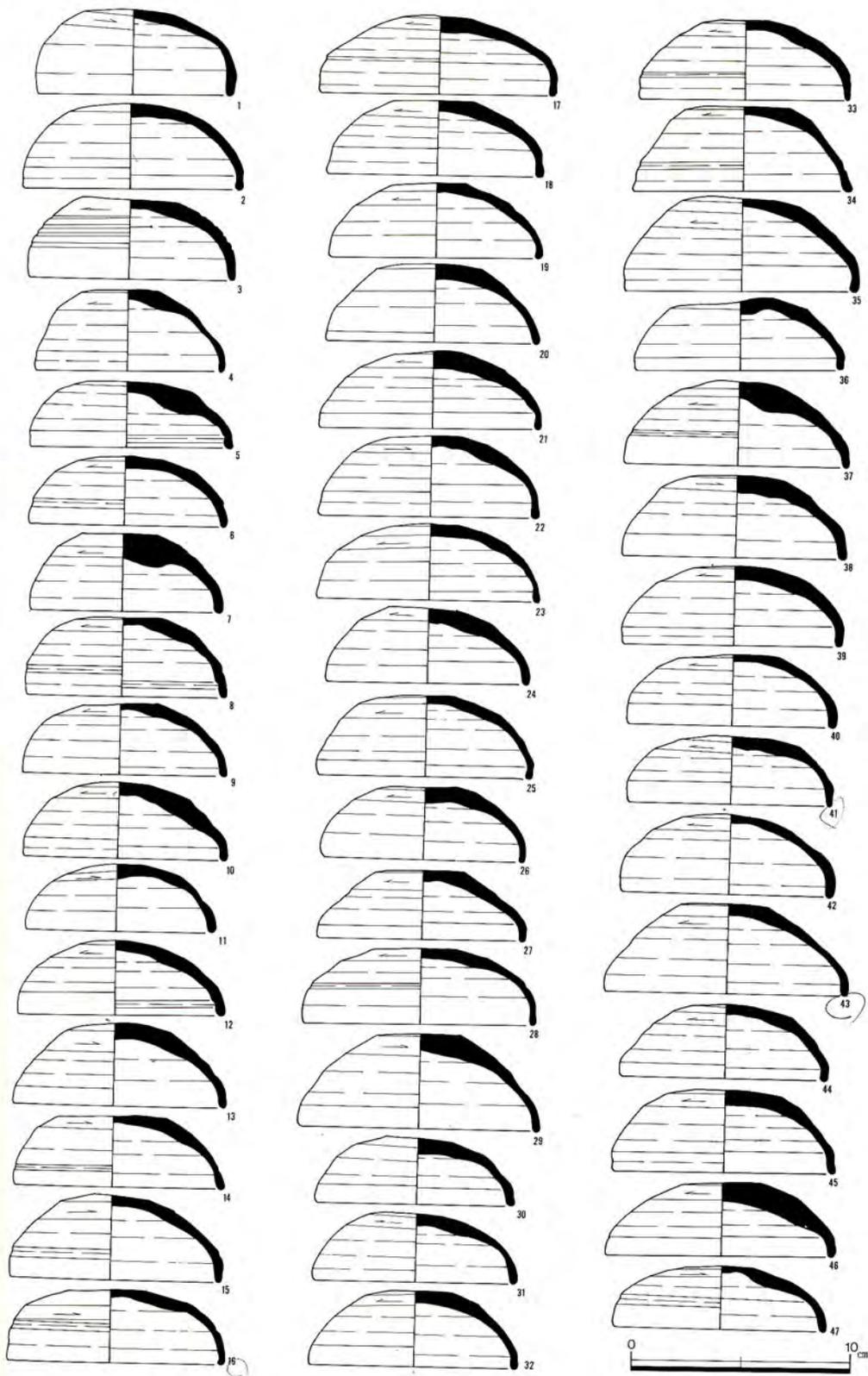
第43图 东笠子第44地点VII号窯跡実測图



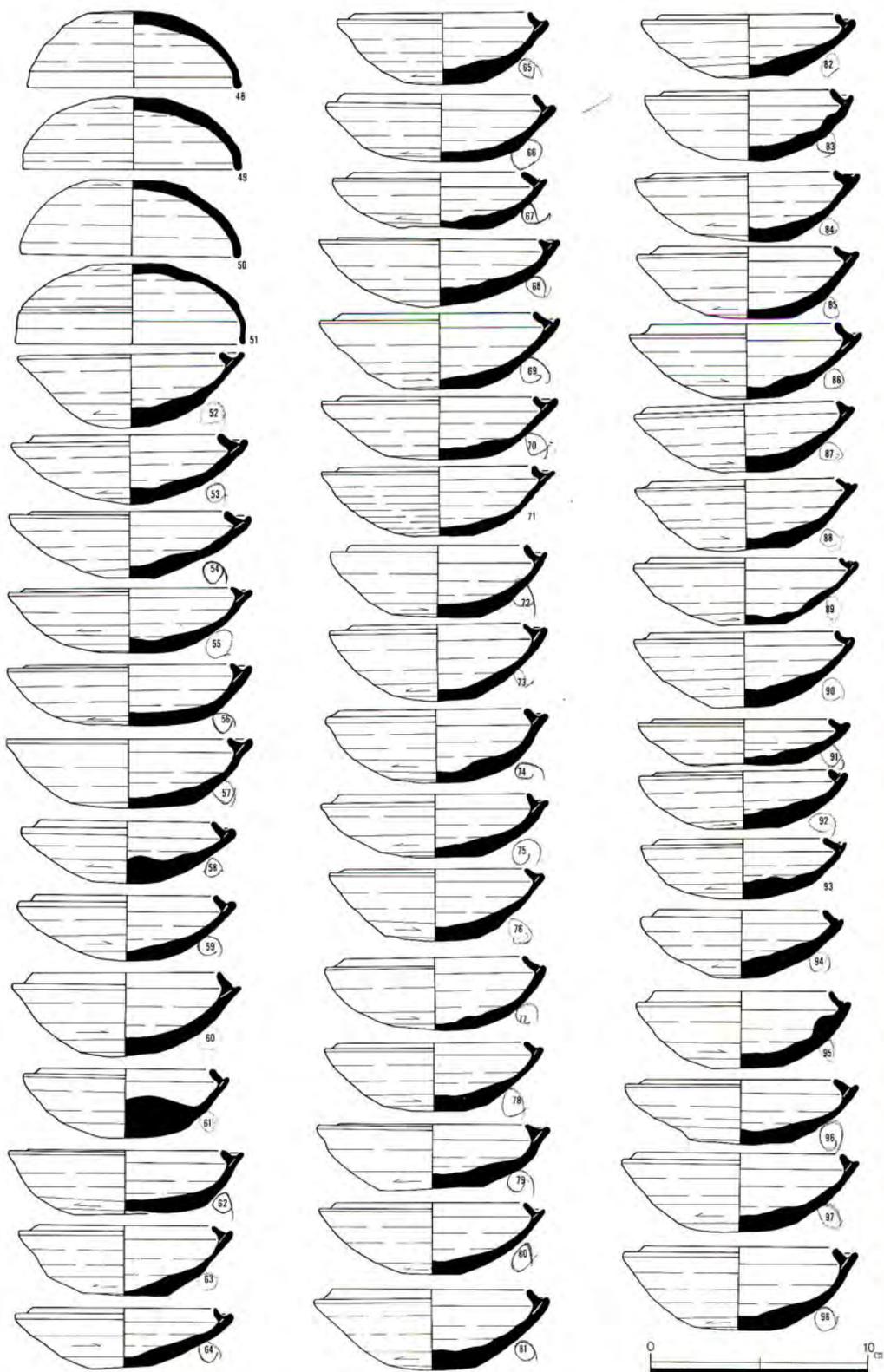
第44図 東笠子第43地点古寨跡位置図



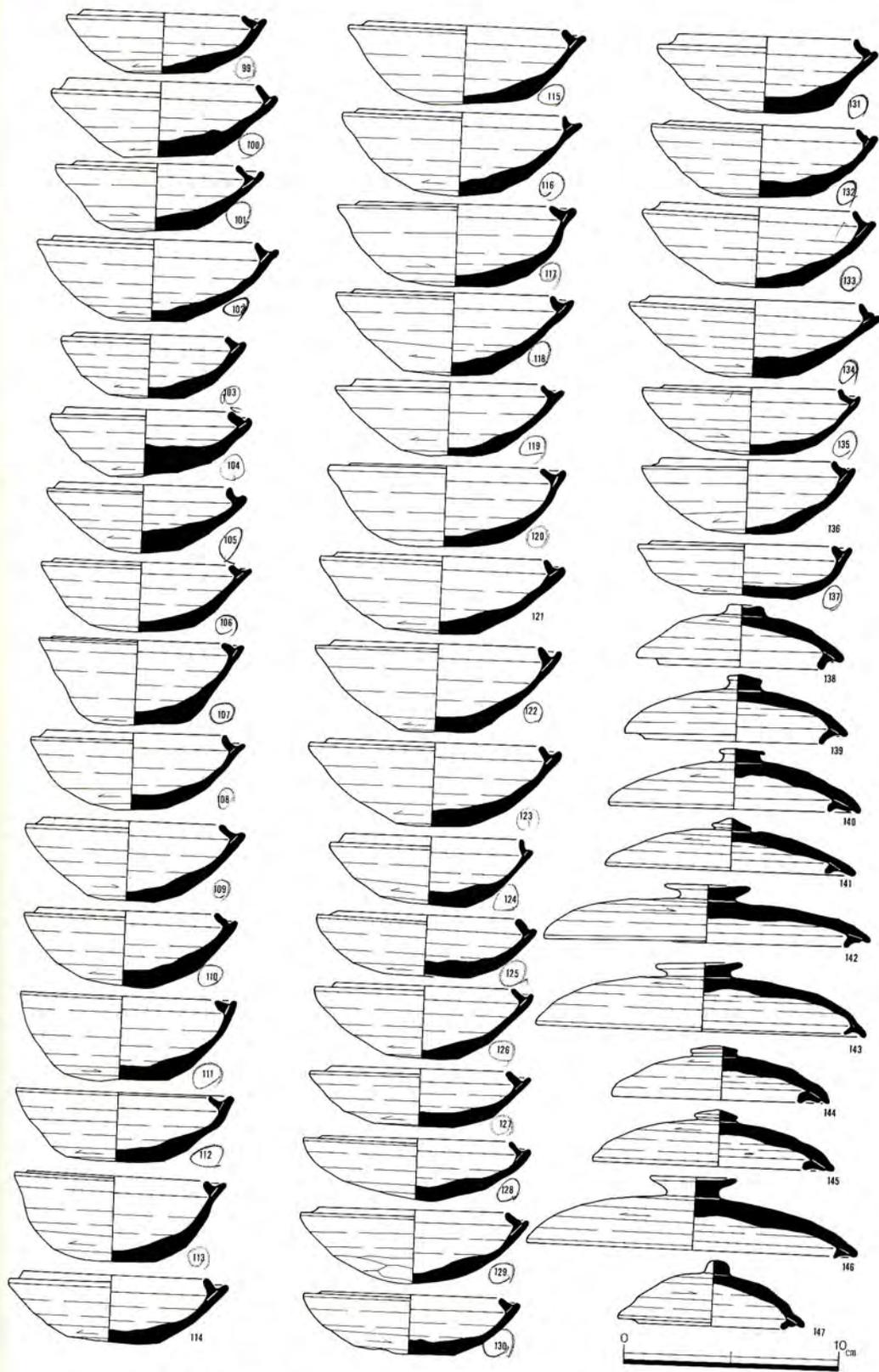
第45図 東笠子第43地点古窯跡全体図



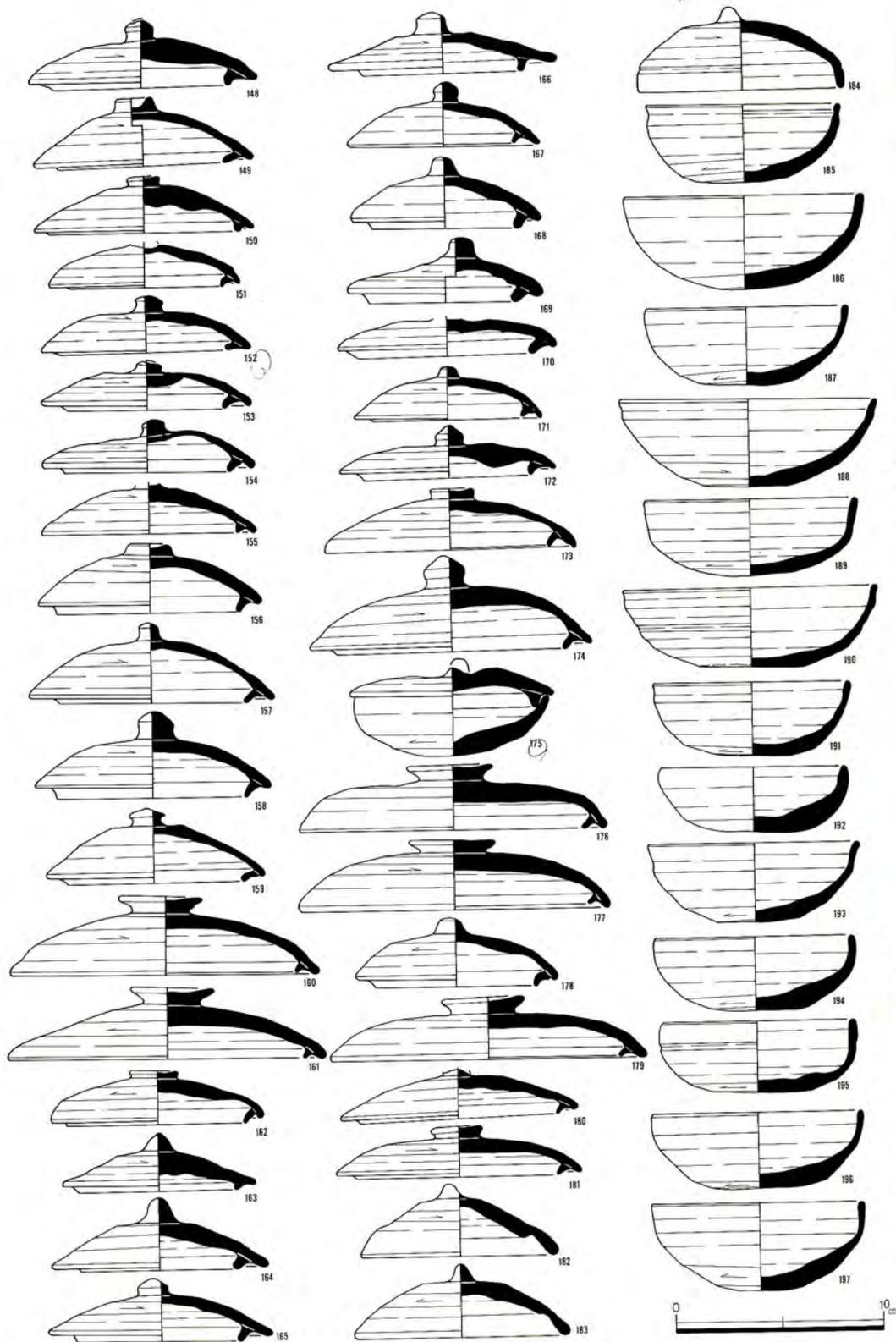
第46図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(1)



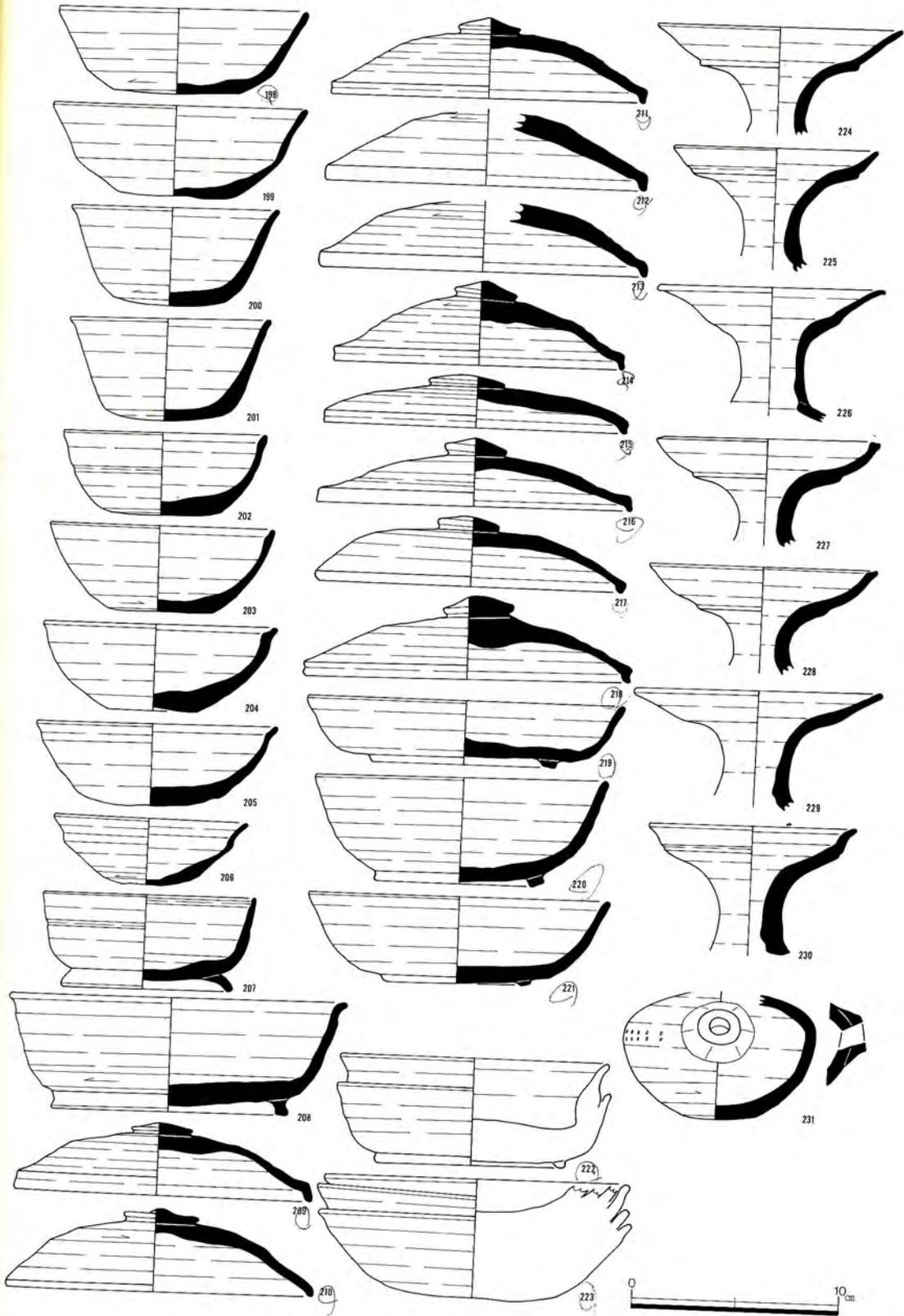
第47図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(2)



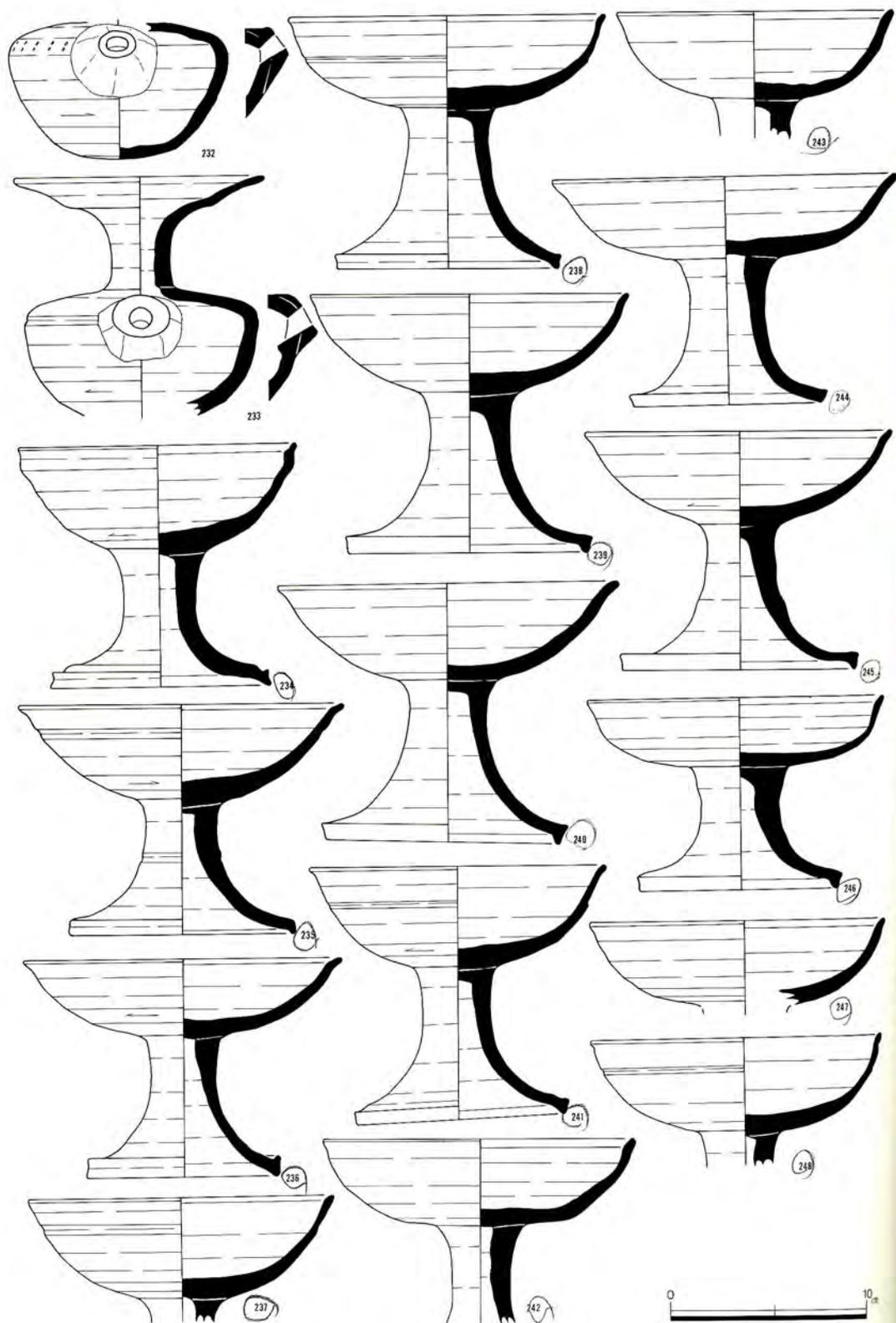
第48図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(3)



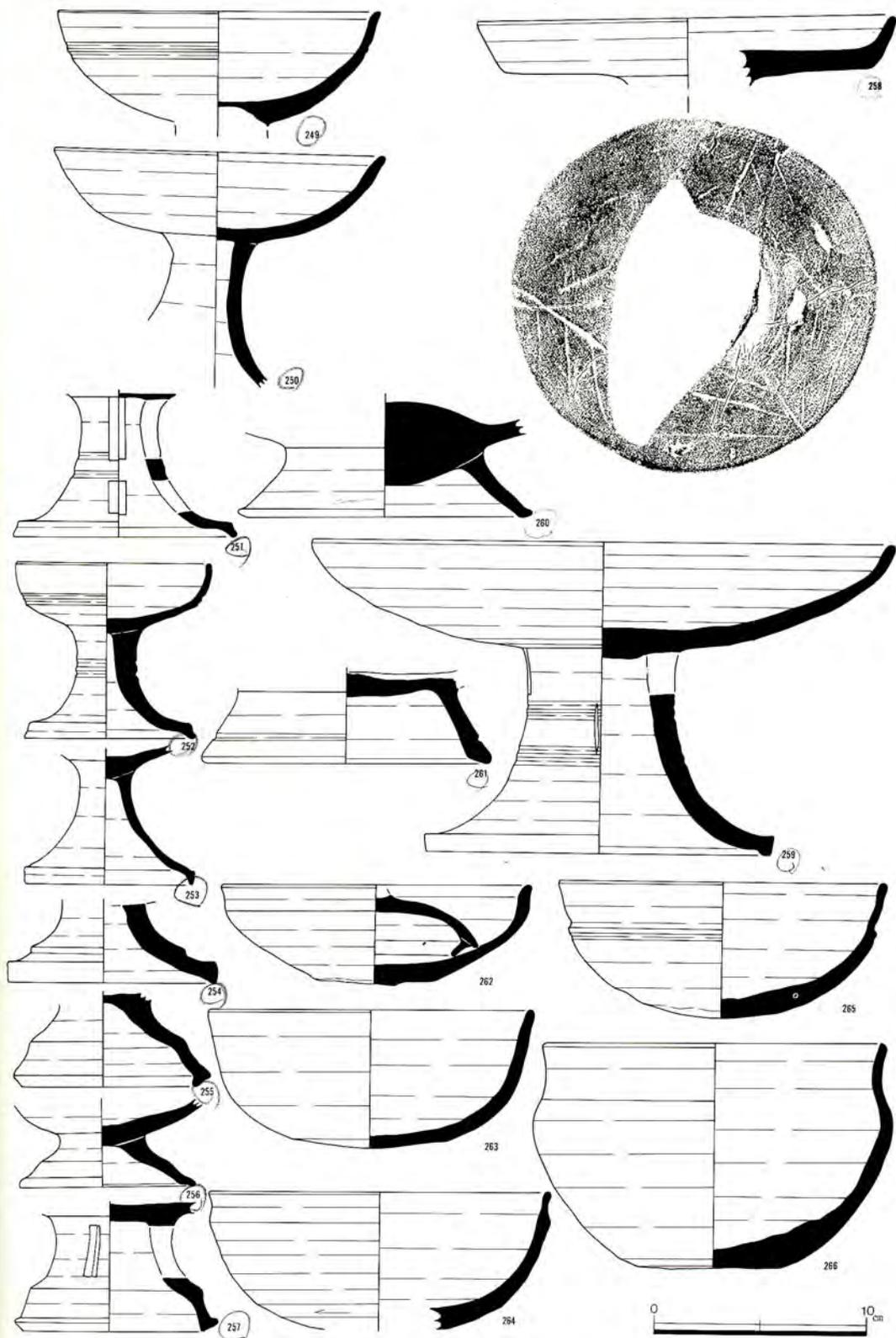
第49图 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(4)



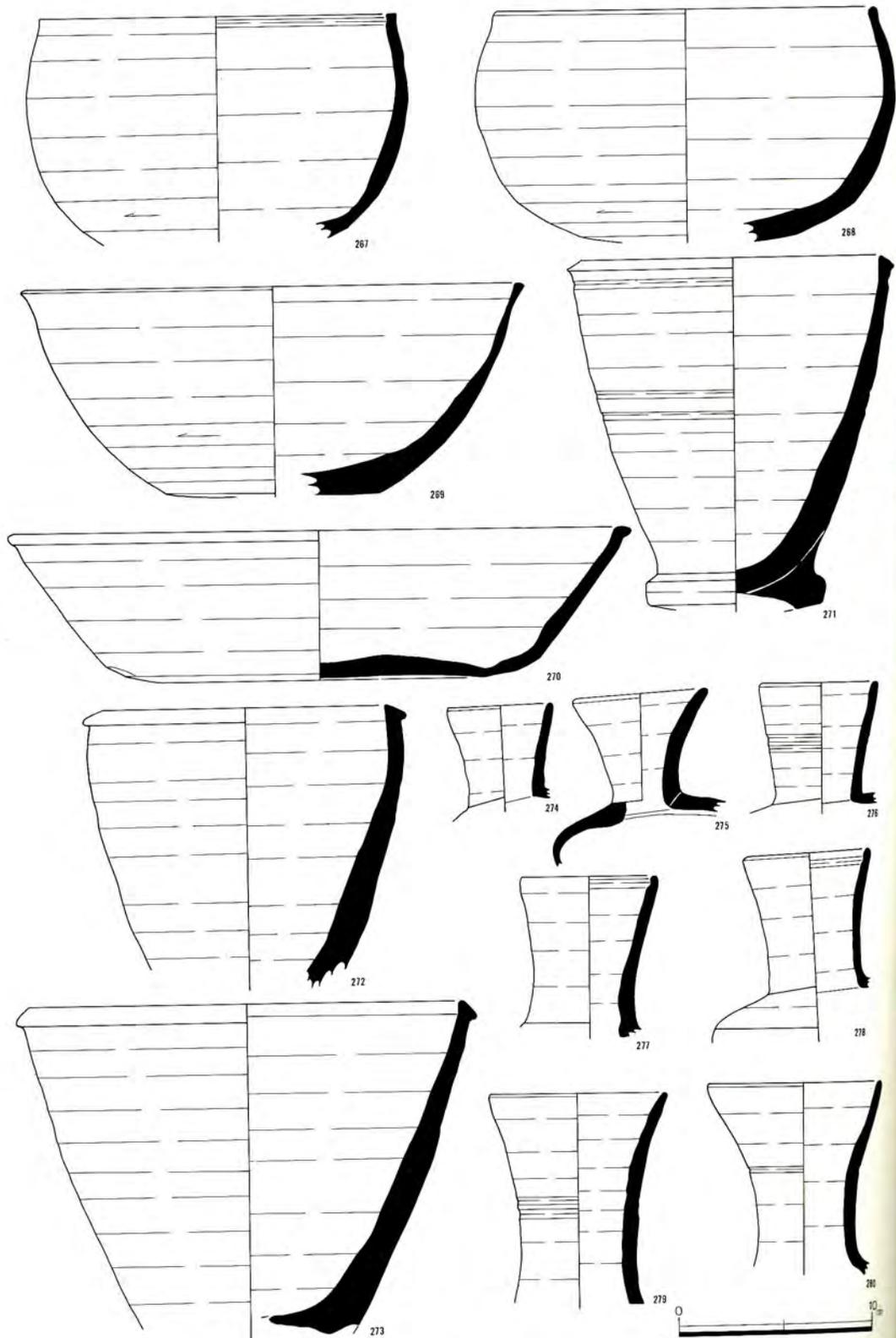
第50図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(5)



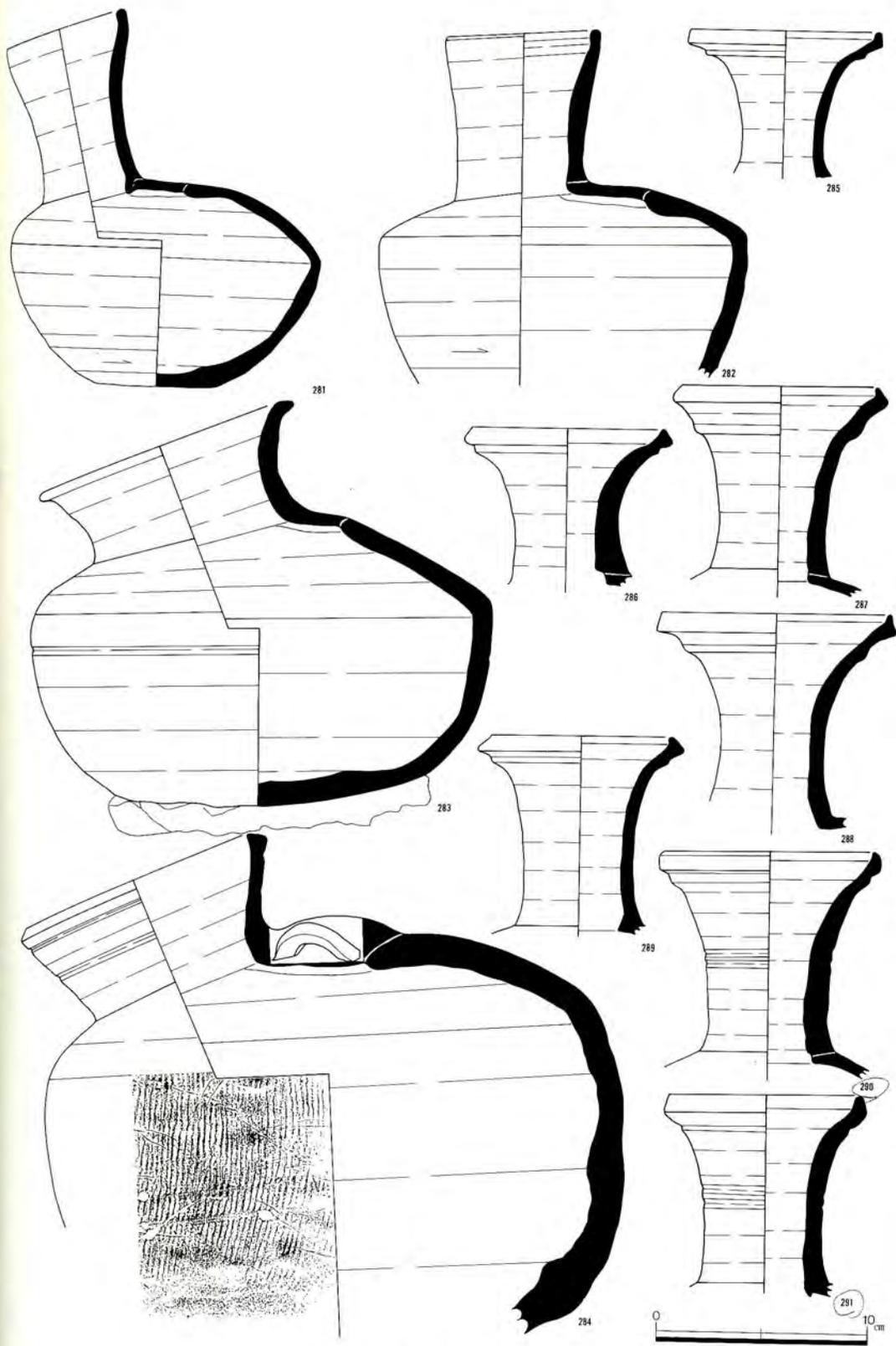
第51図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(6)



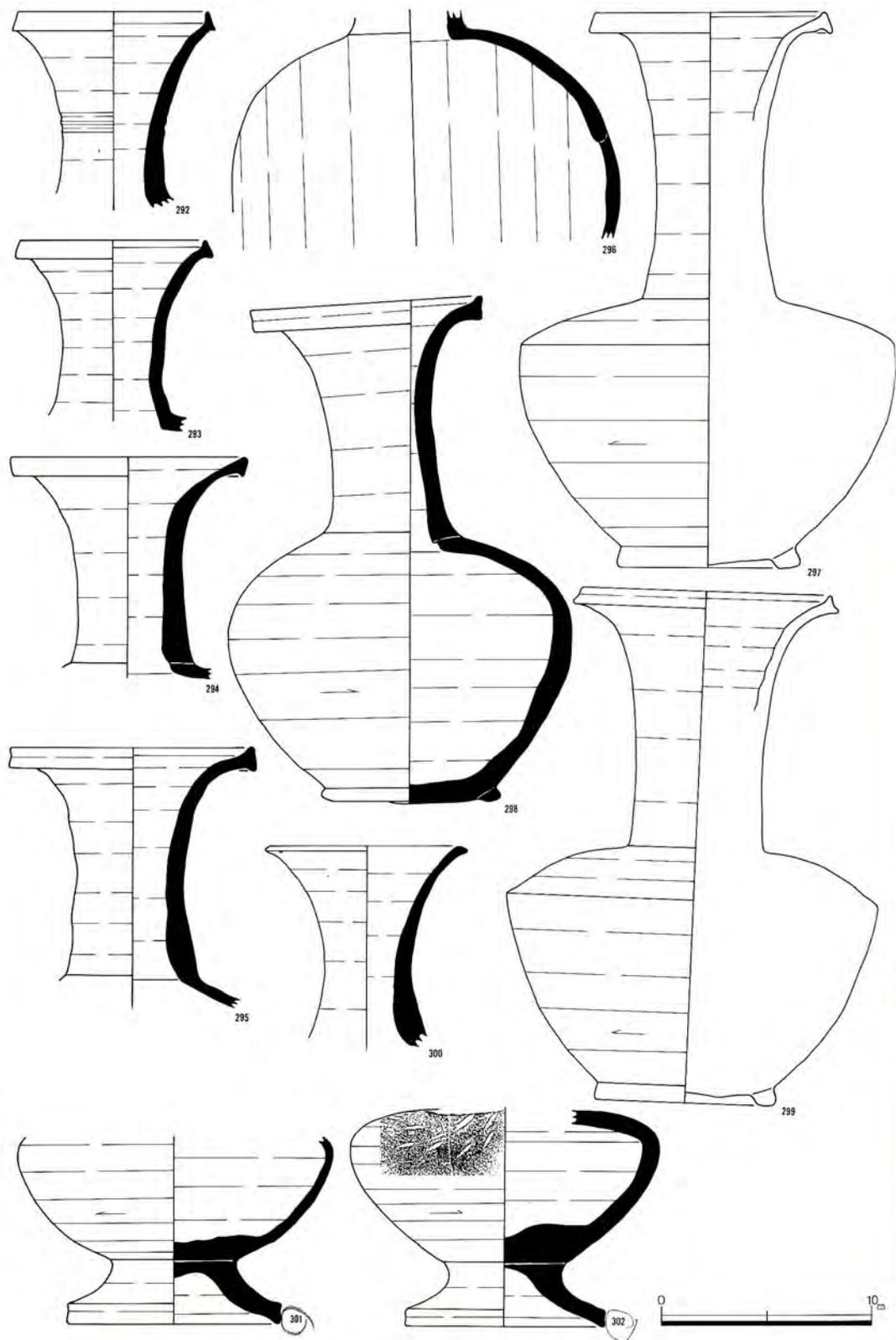
第52図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(7)



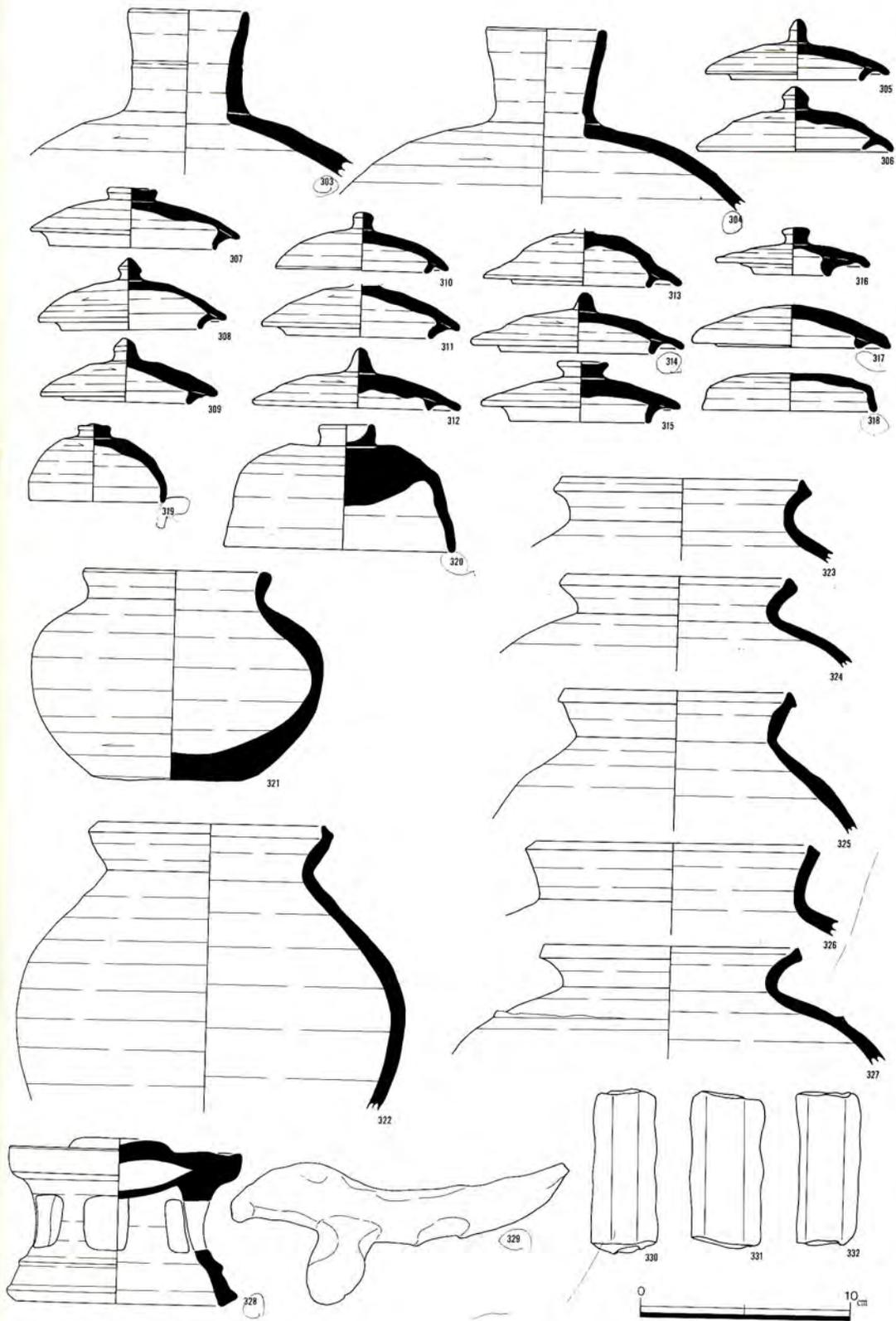
第53図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(8)



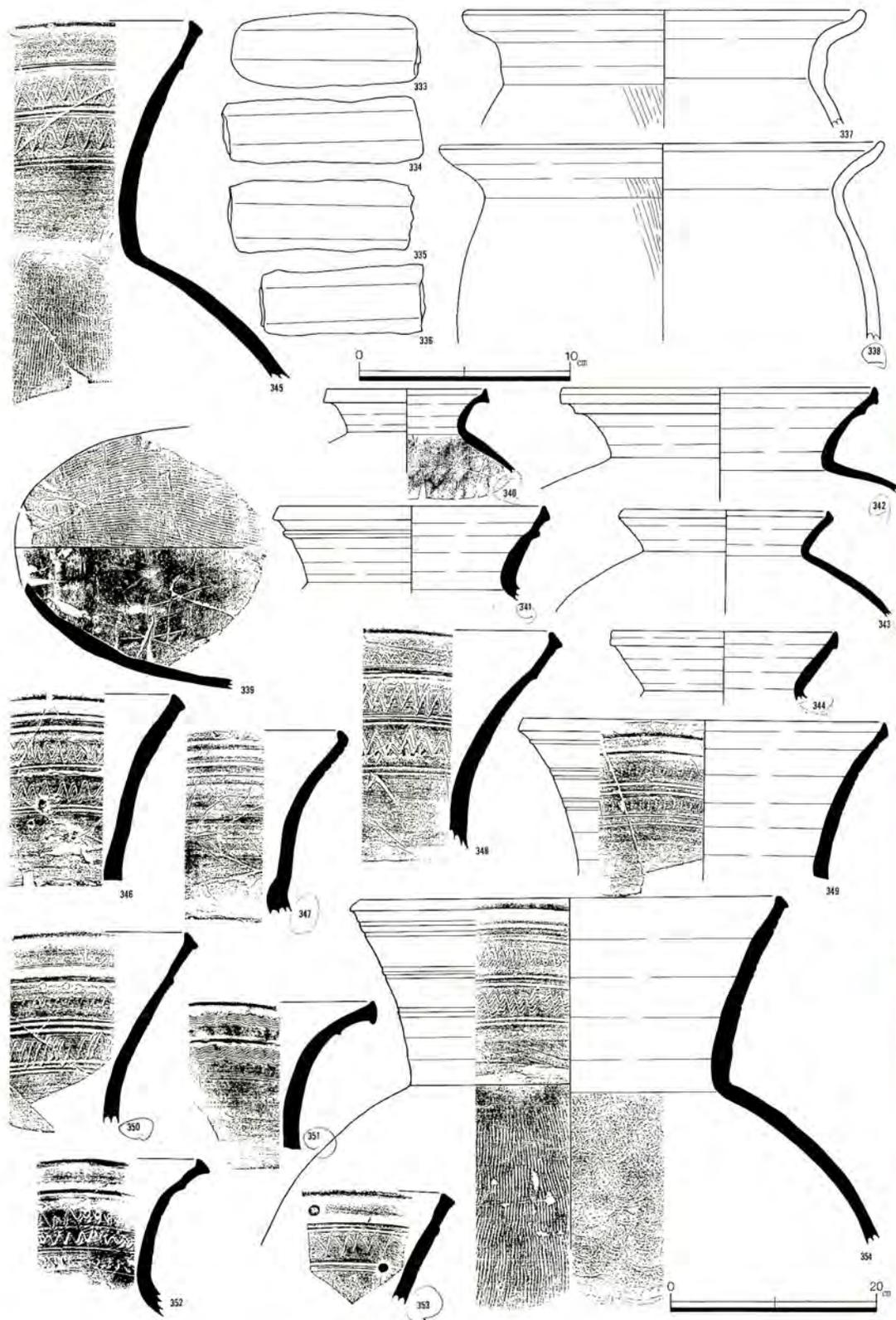
第54図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(9)



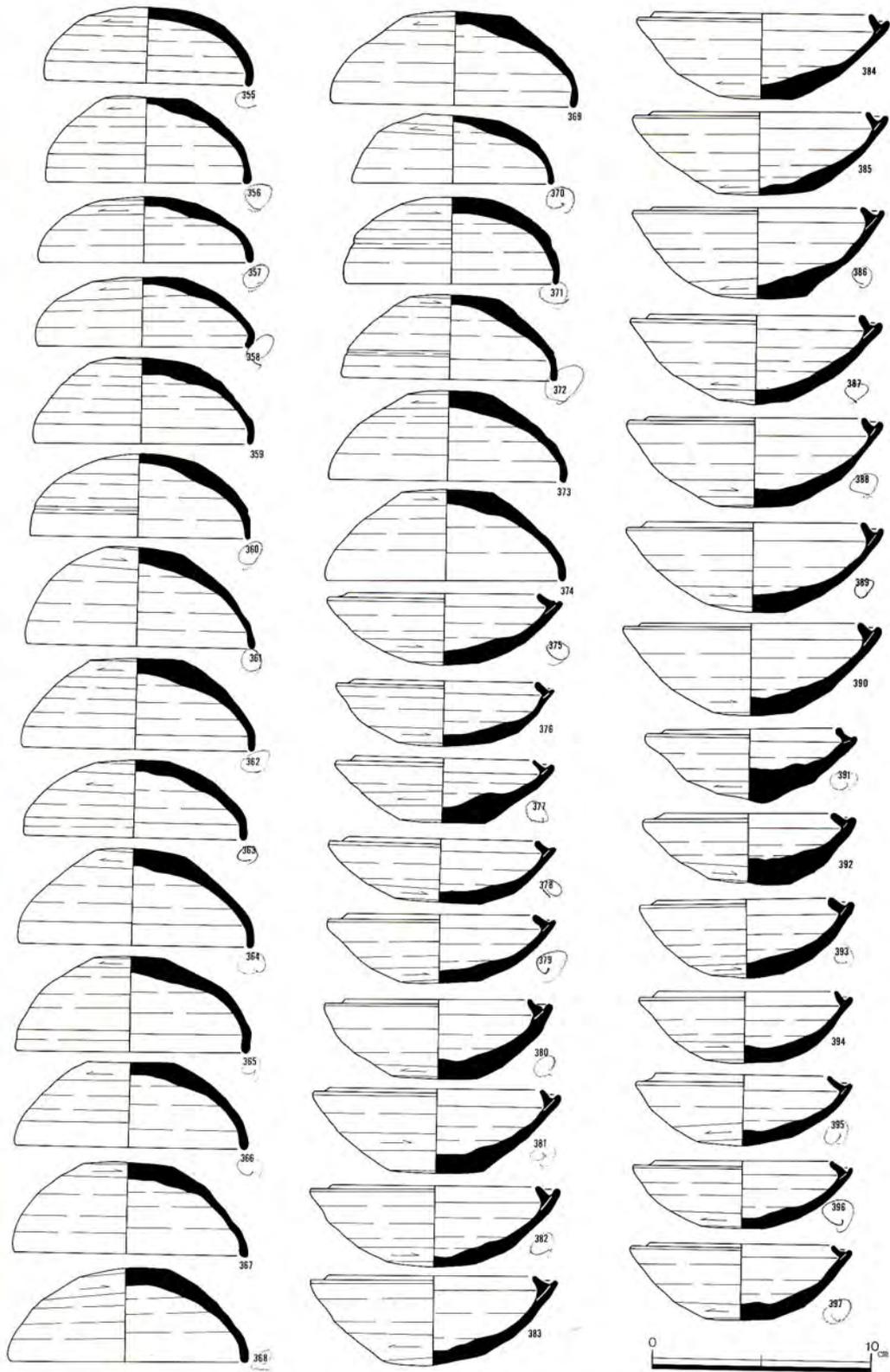
第55図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(10)



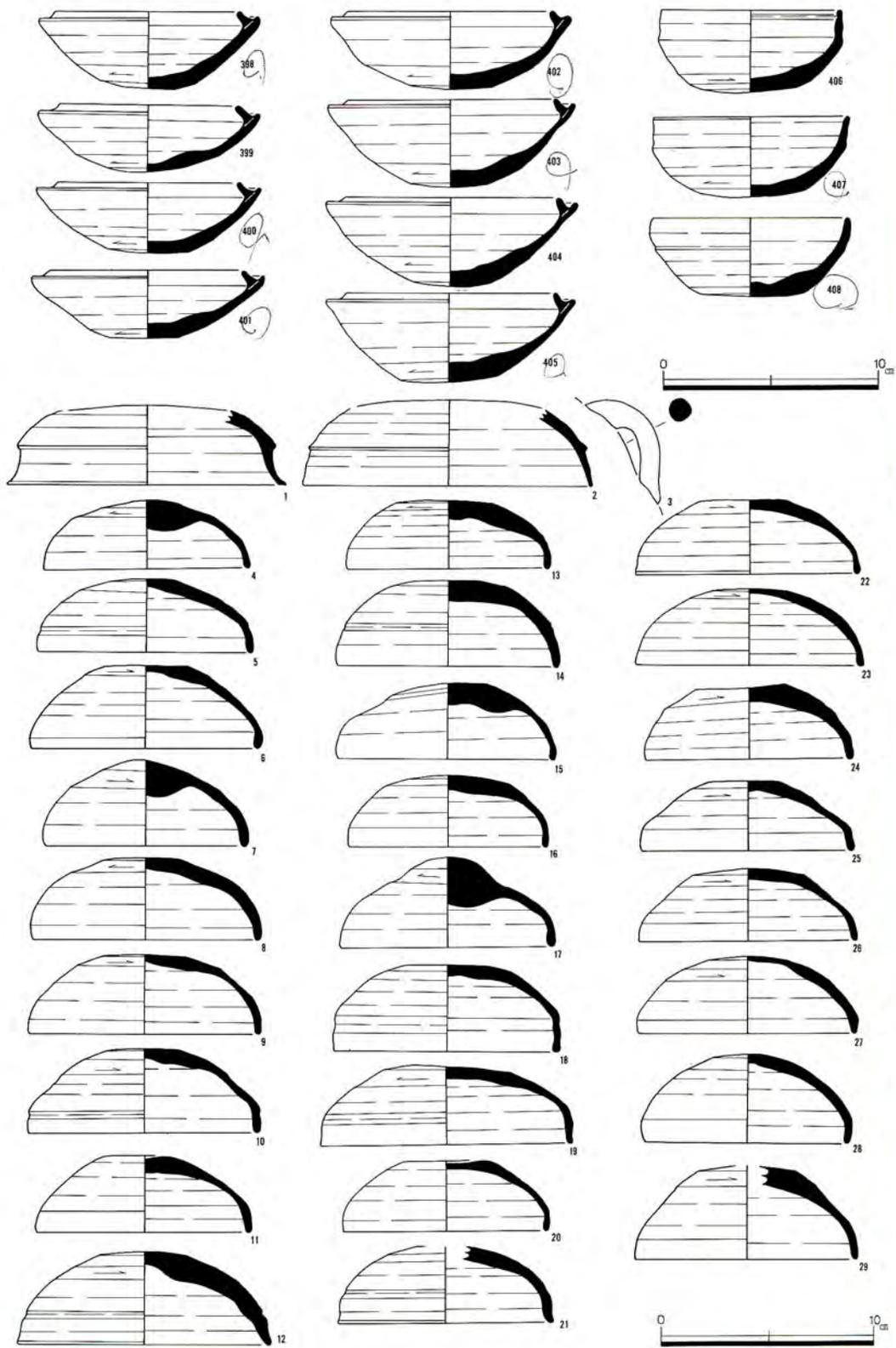
第56图 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(11)



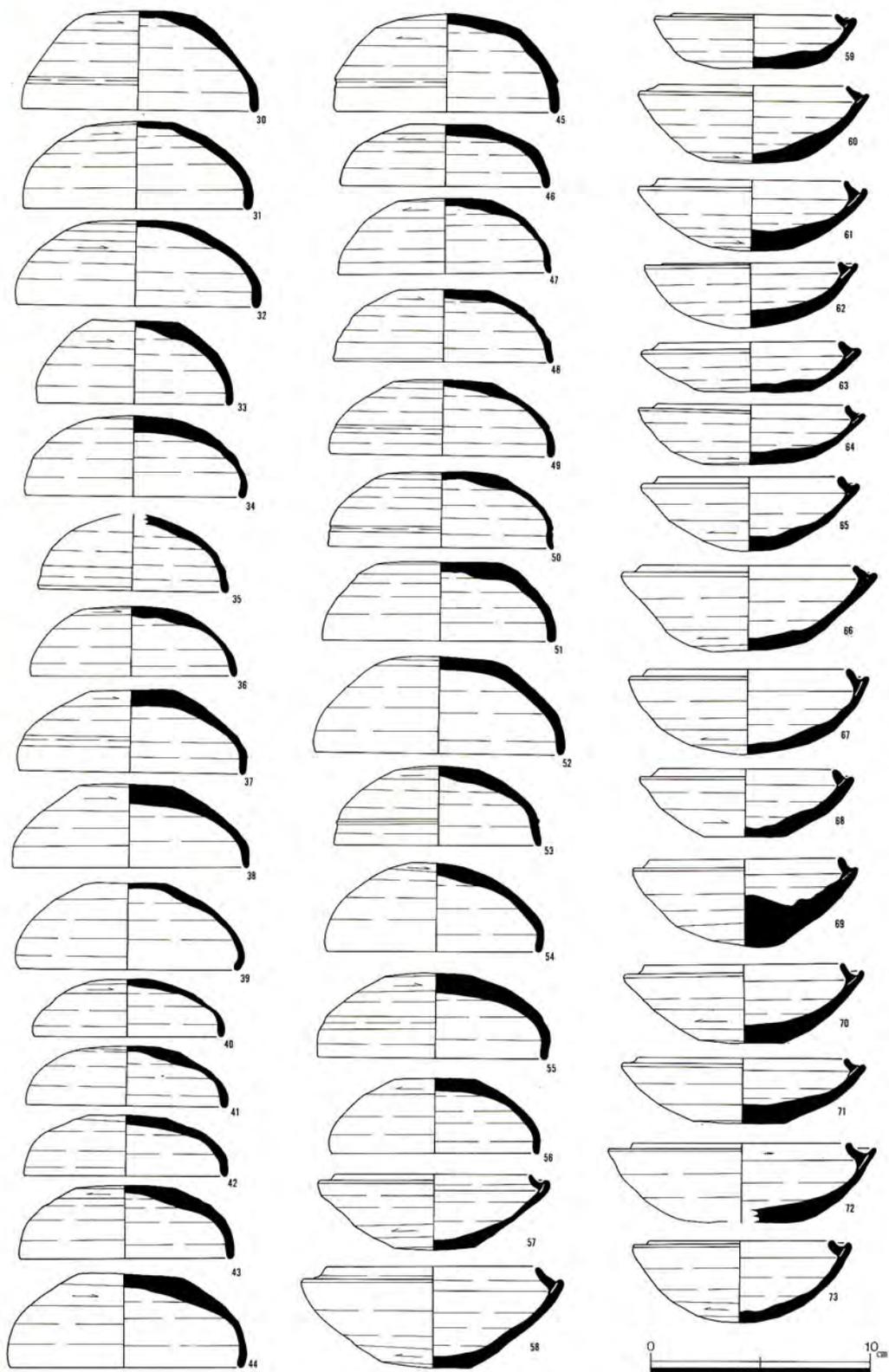
第57图 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(12)



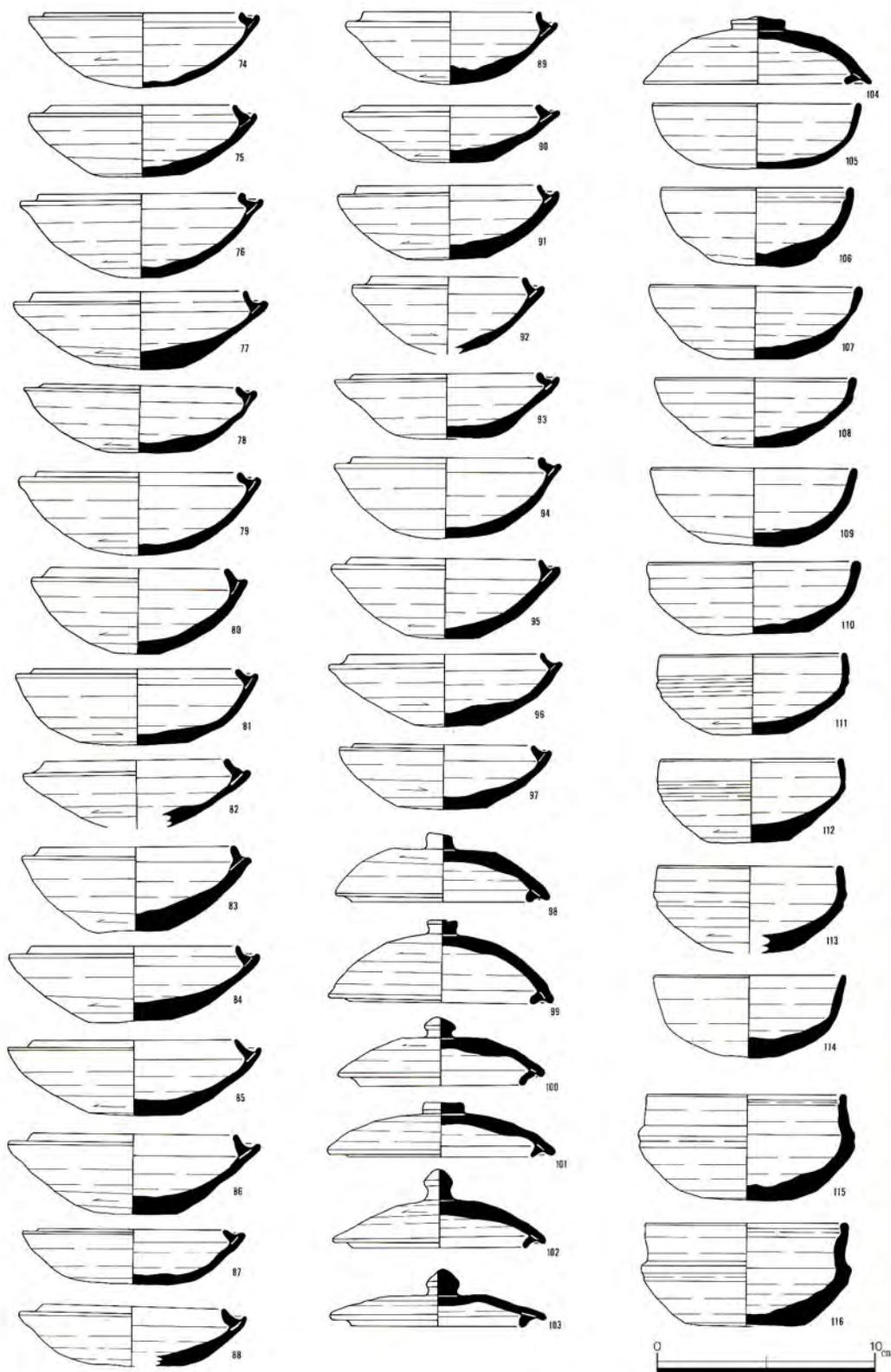
第58図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(13)



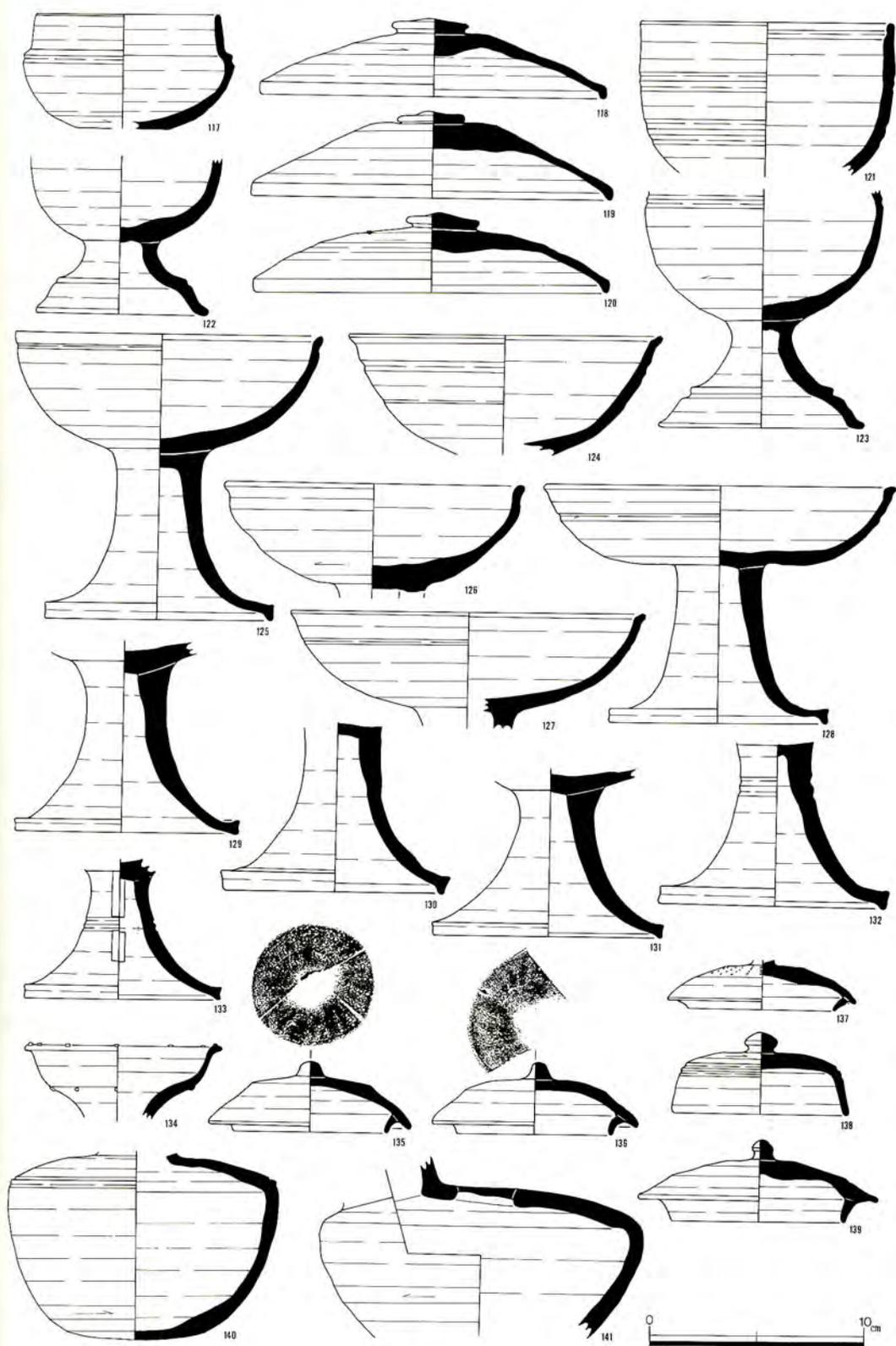
第59図 殿田第4地点古窯跡出土遺物実測図(14)  
東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(1)



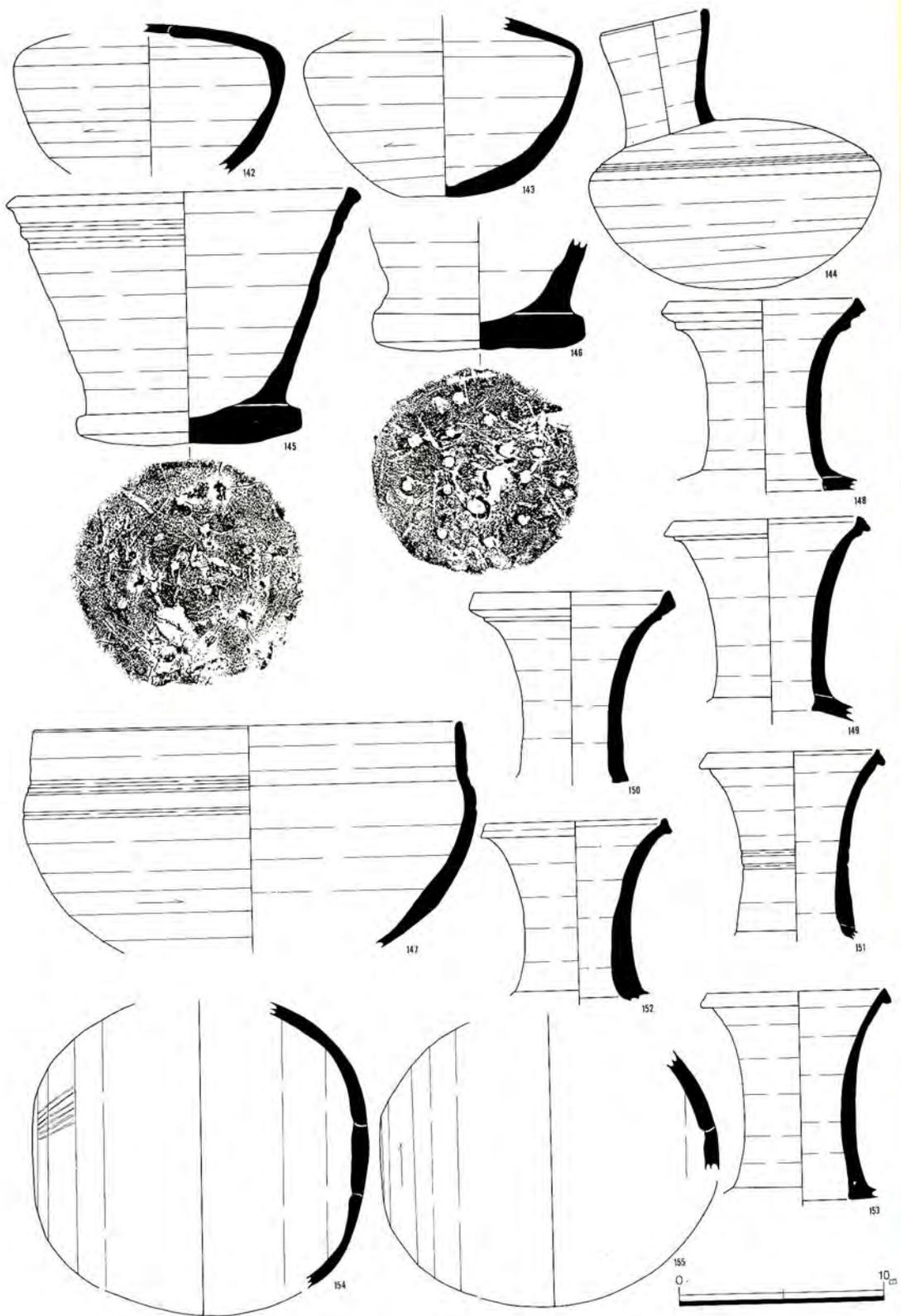
第60图 東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(2)



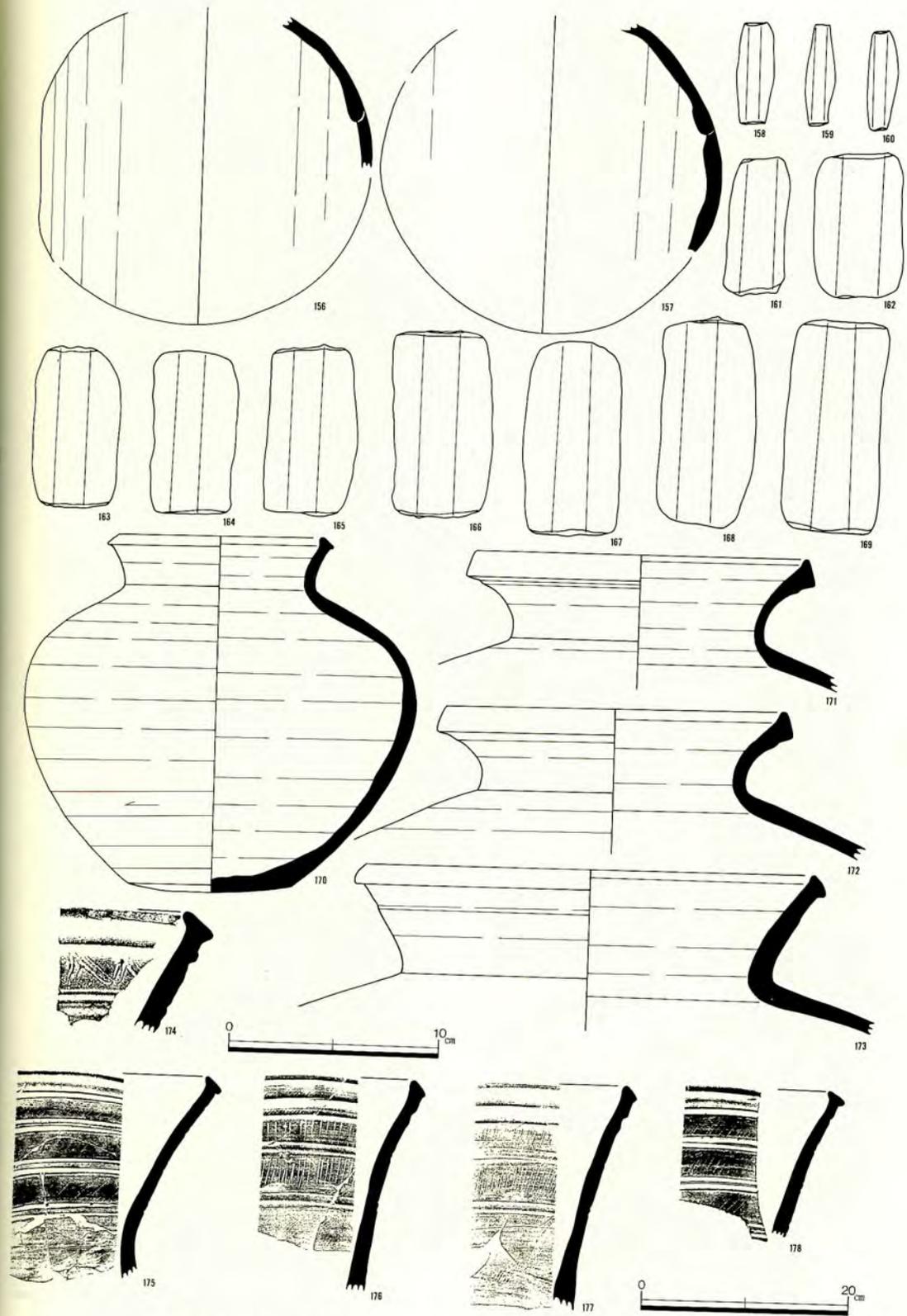
第61図 東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(3)



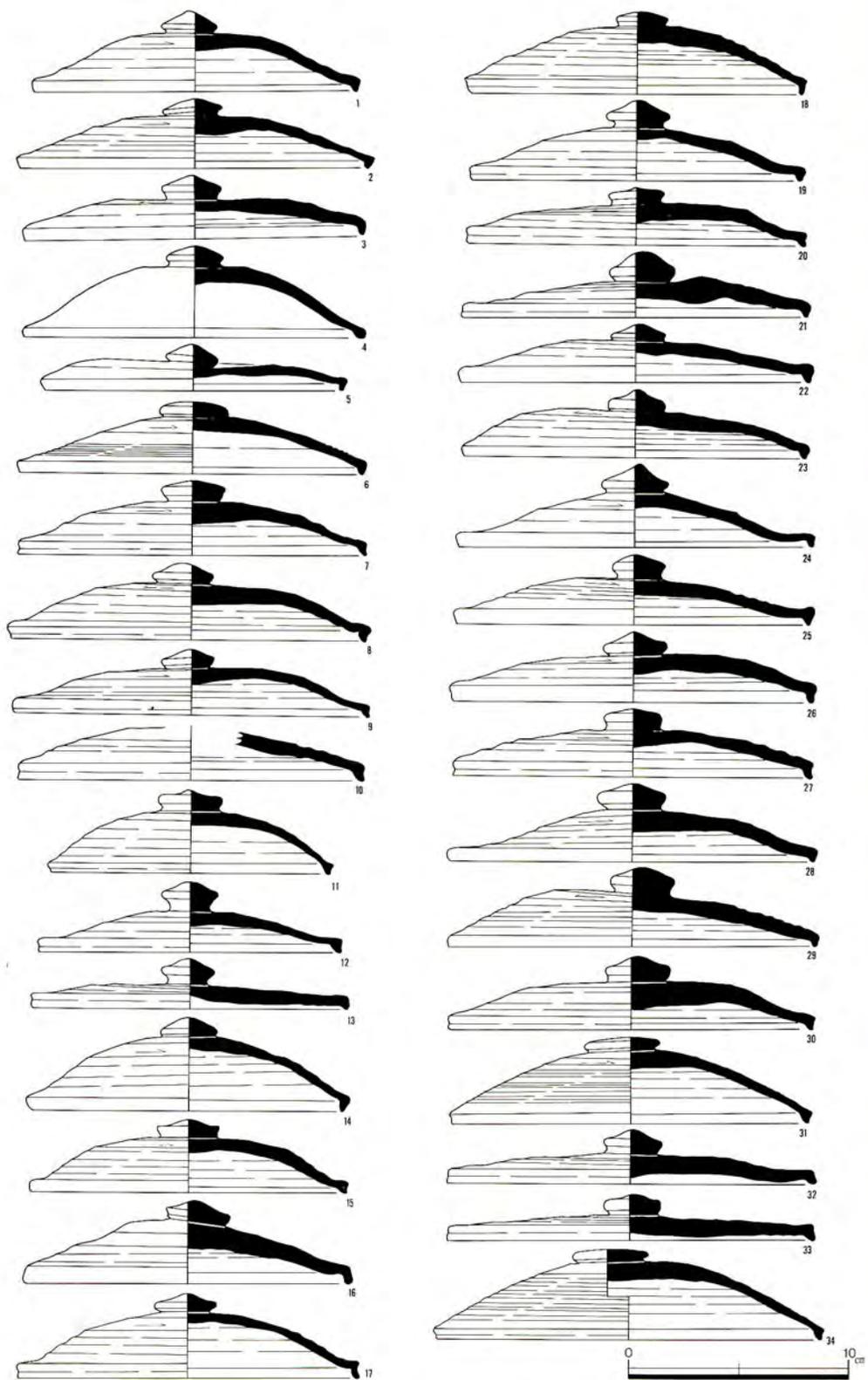
第62図 東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(4)



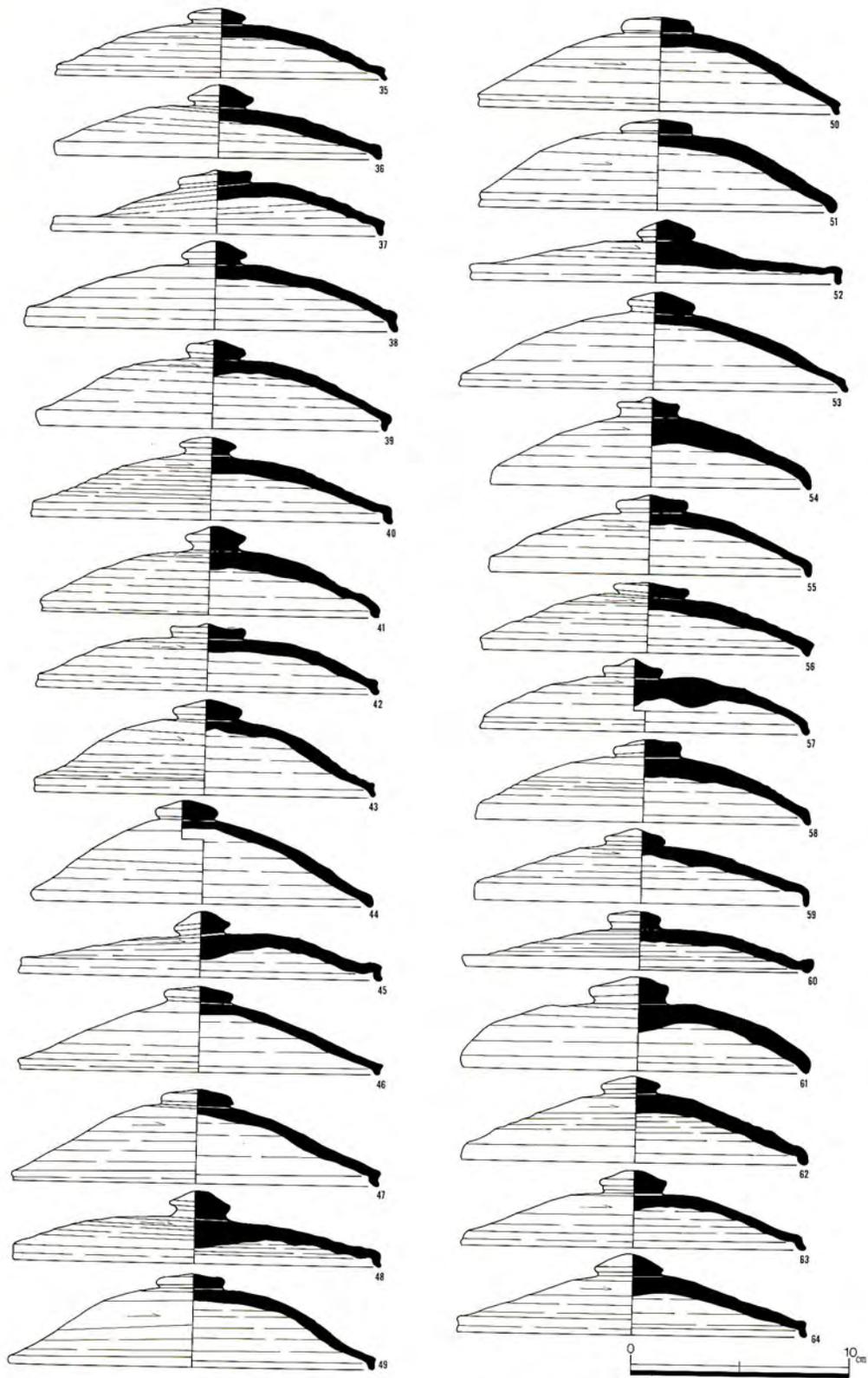
第63図 東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(5)



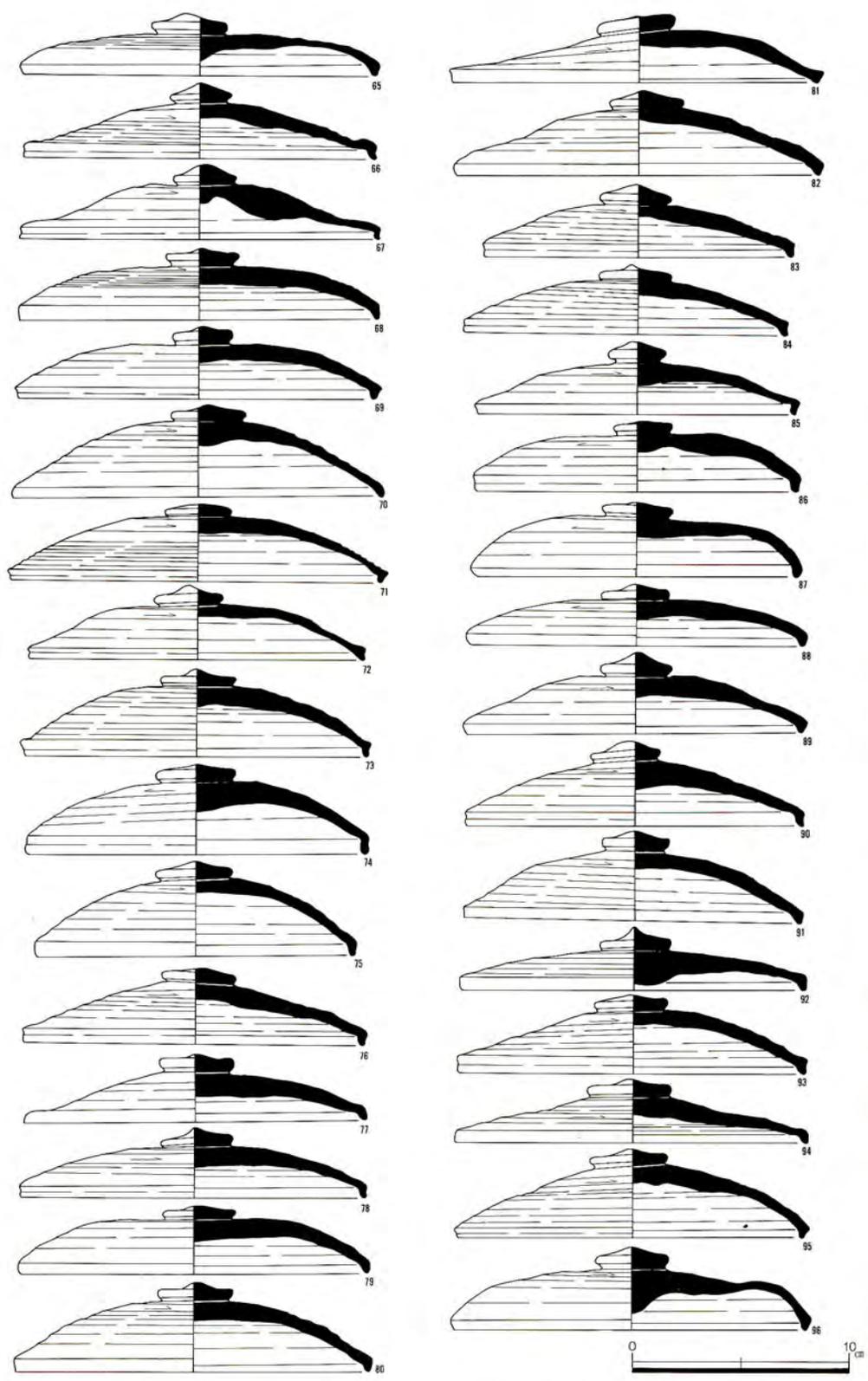
第64図 東笠子第25地点古窯跡出土遺物実測図(6)



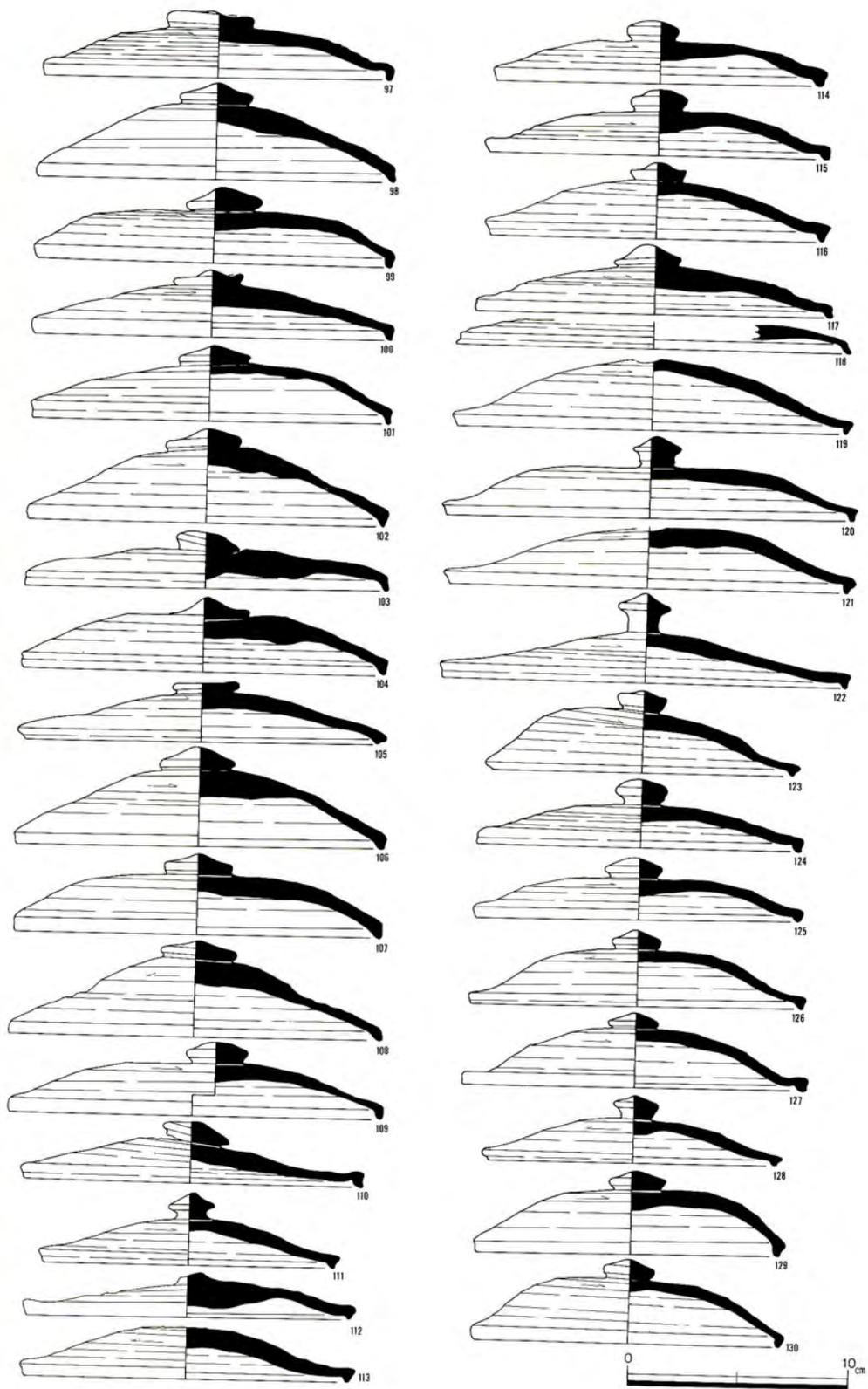
第65图 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(1)



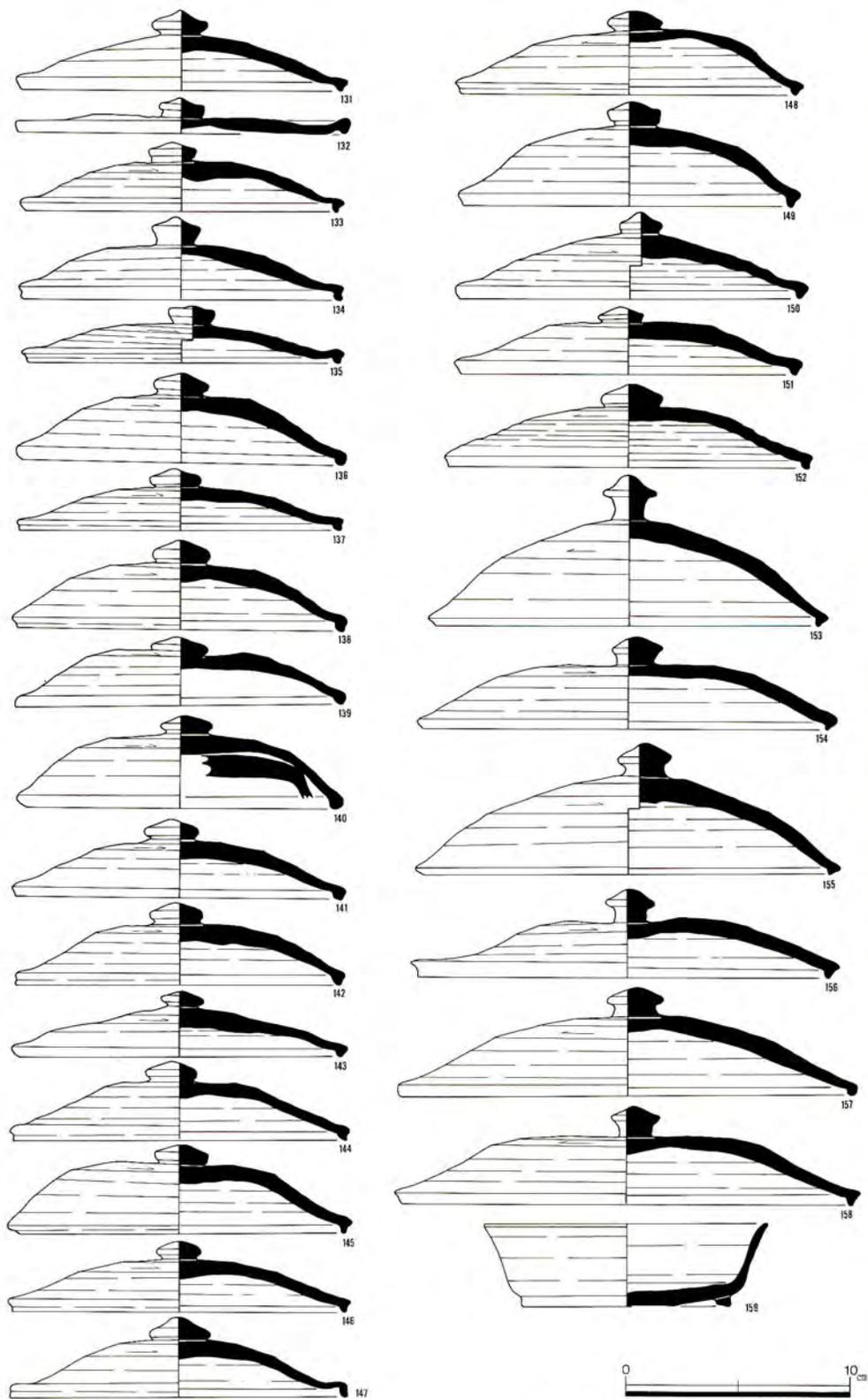
第66图 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(2)



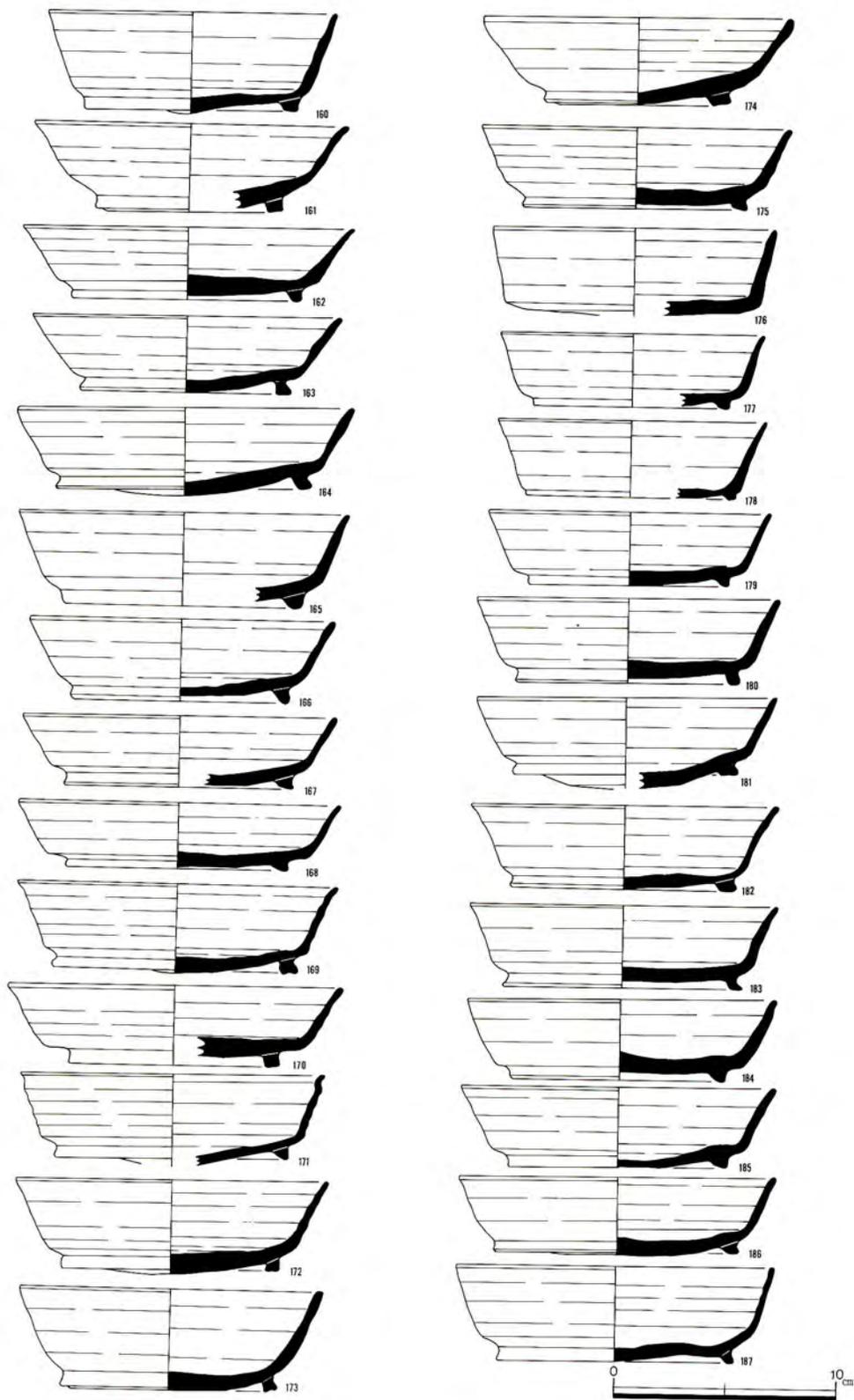
第67图 東笠子第44地点古窠跡出土遺物実測図(3)



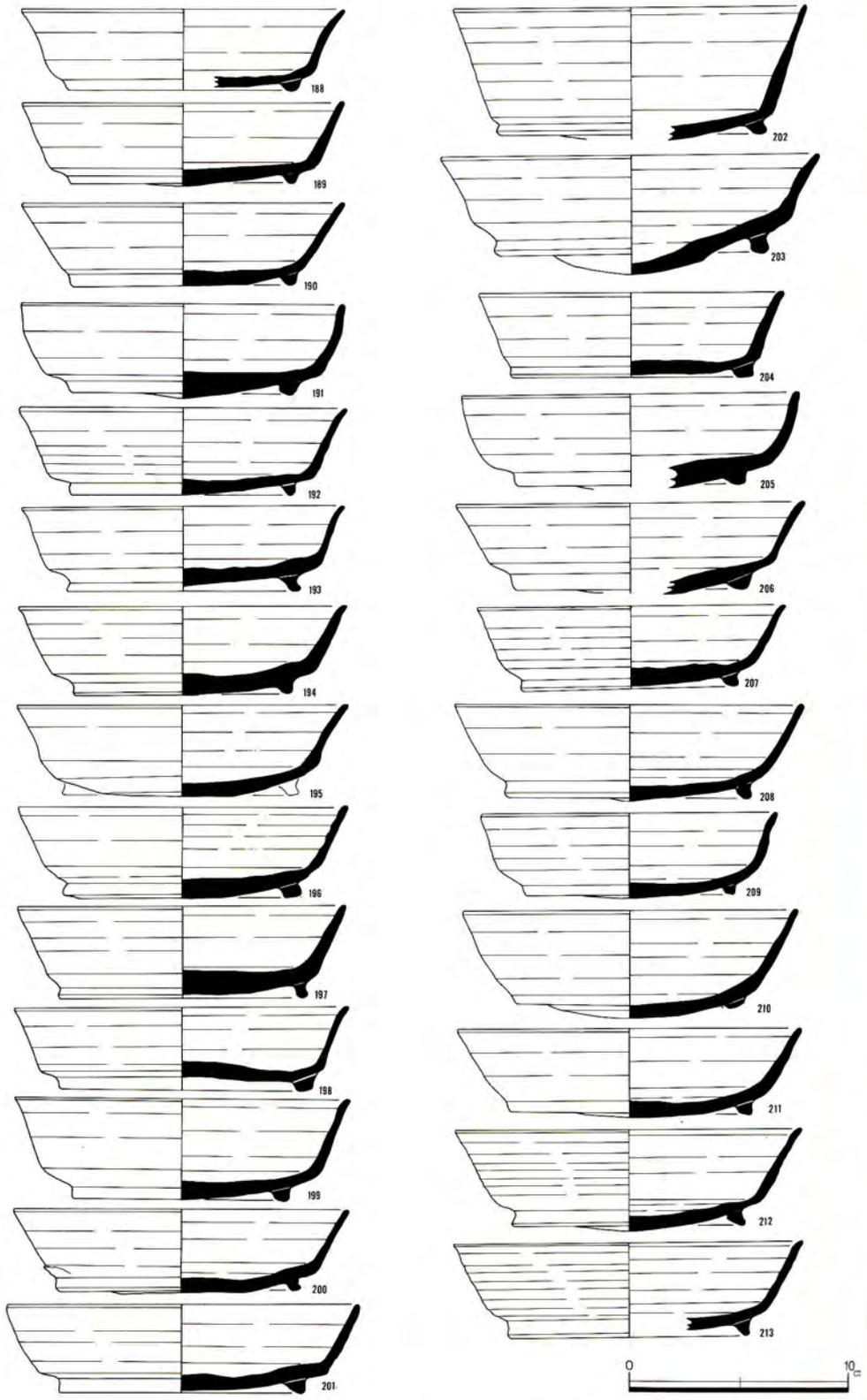
第68図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(4)



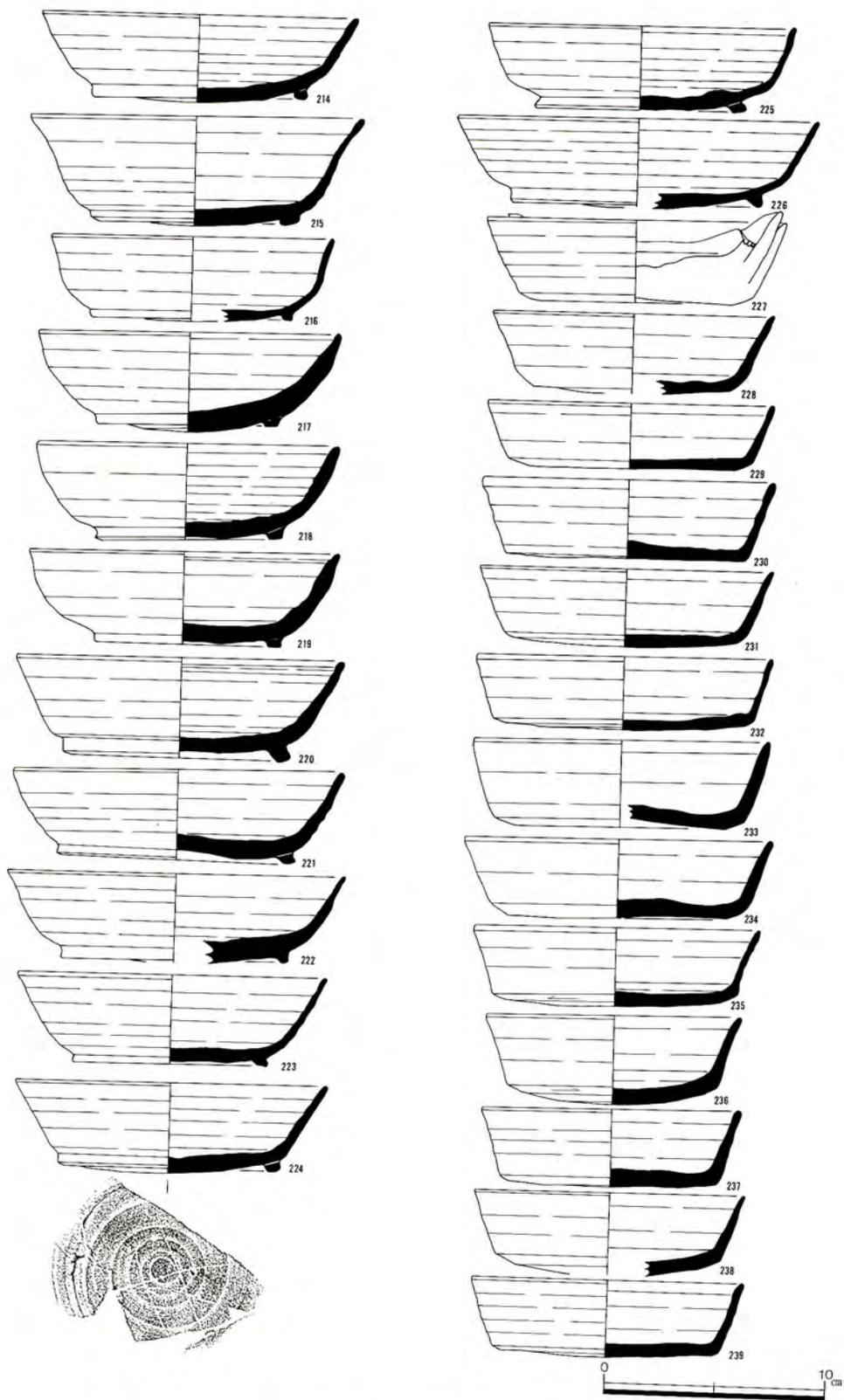
第69図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(5)



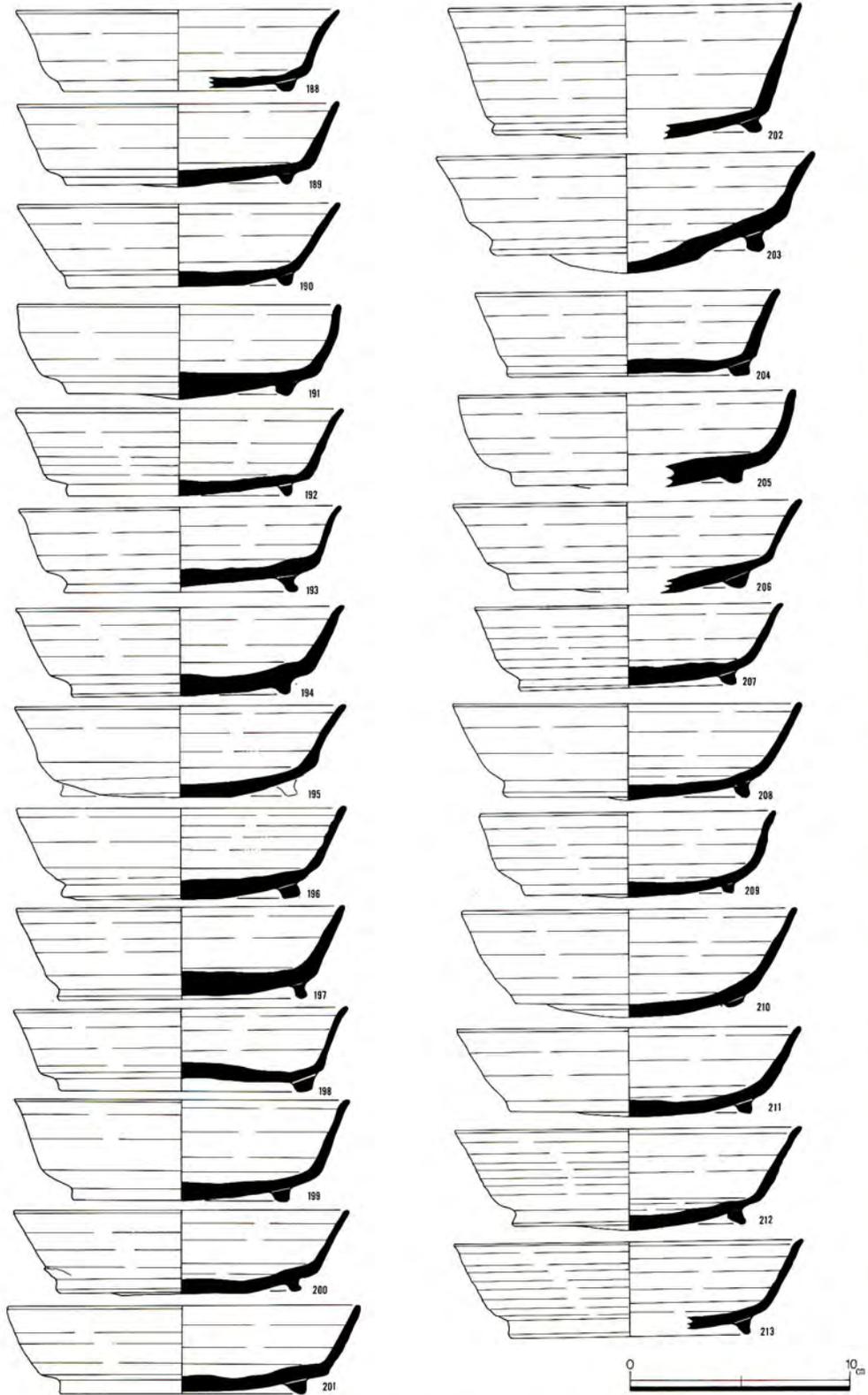
第70図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(6)



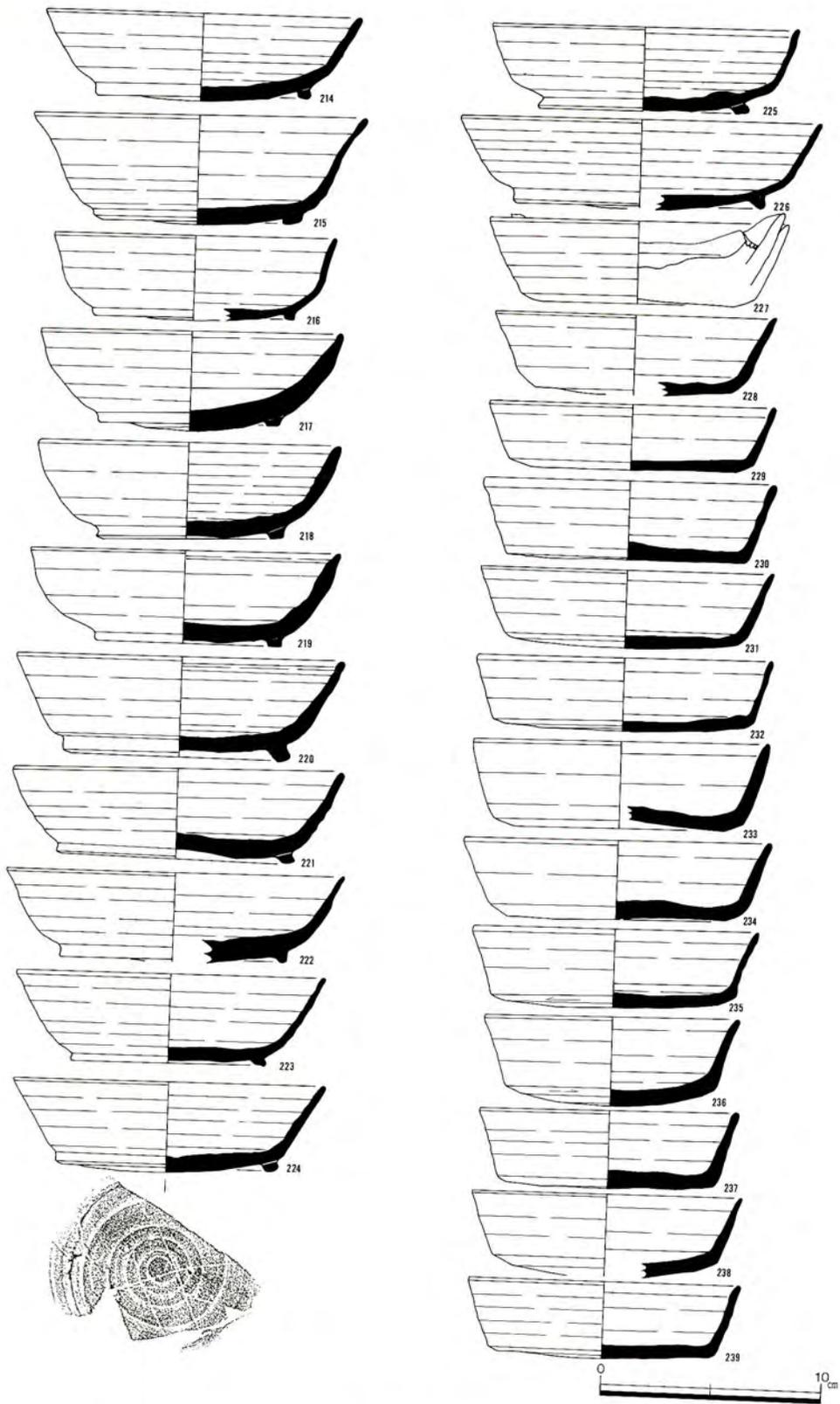
第71図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(7)



第72図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(8)



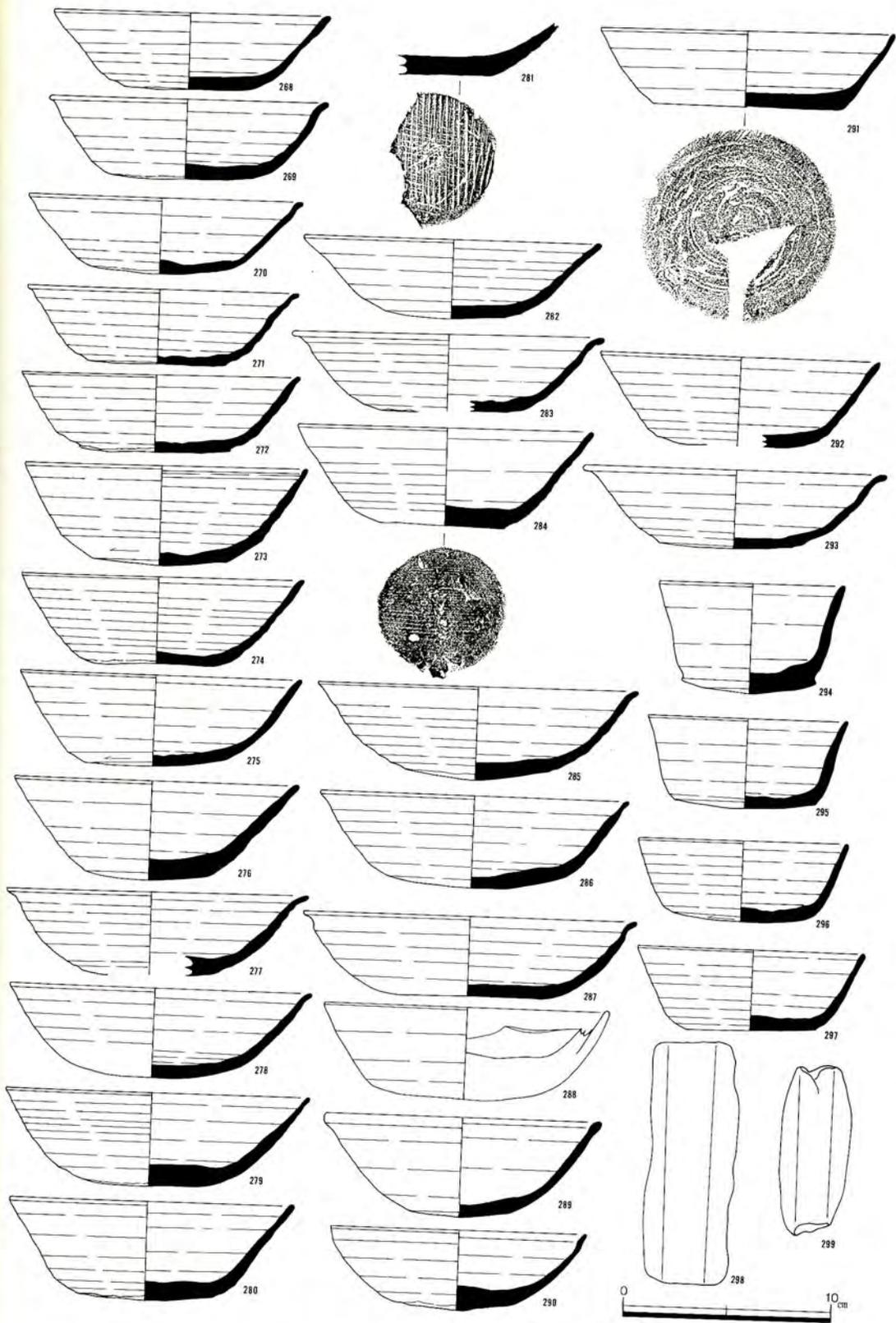
第71図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(7)



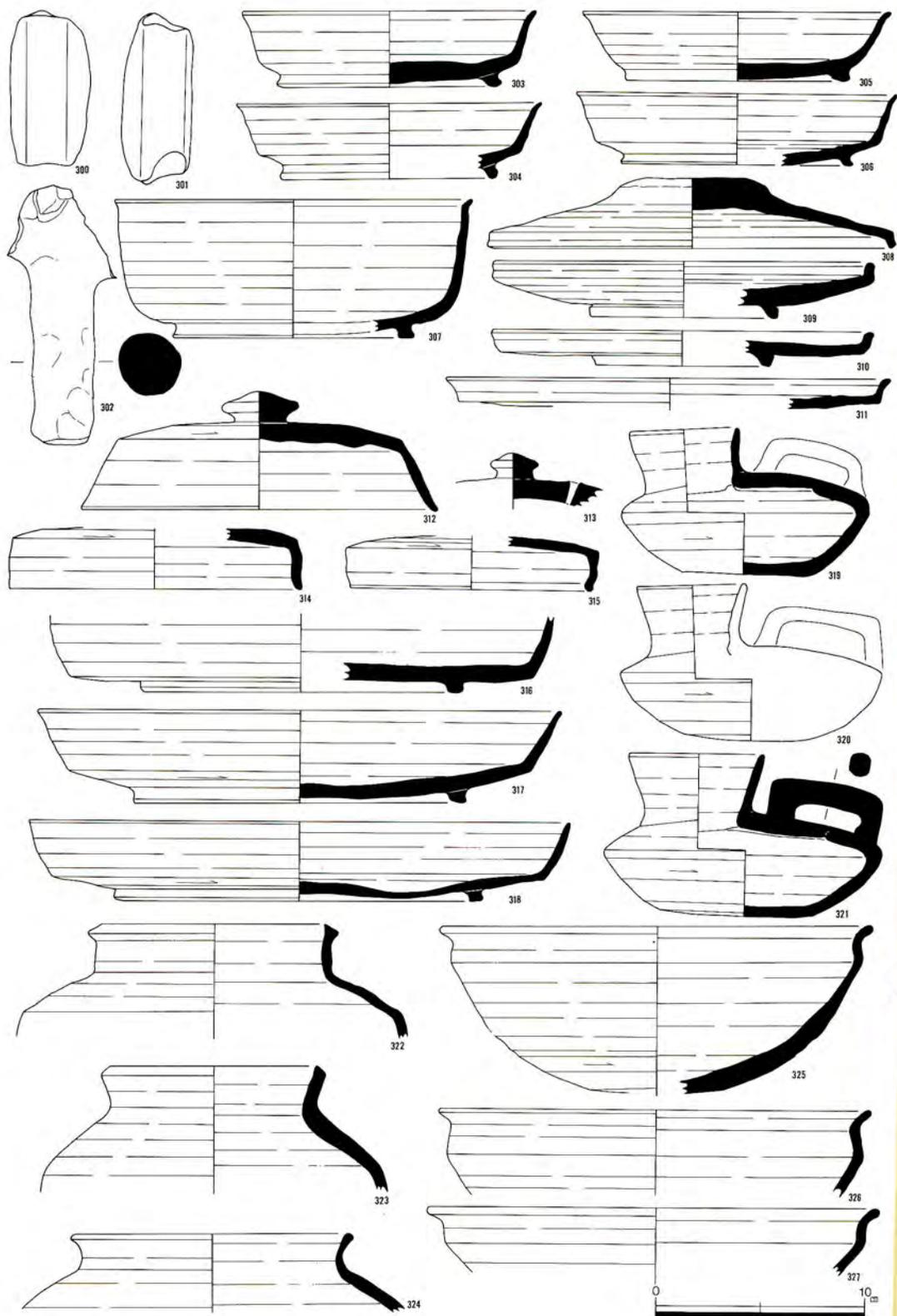
第72図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(8)



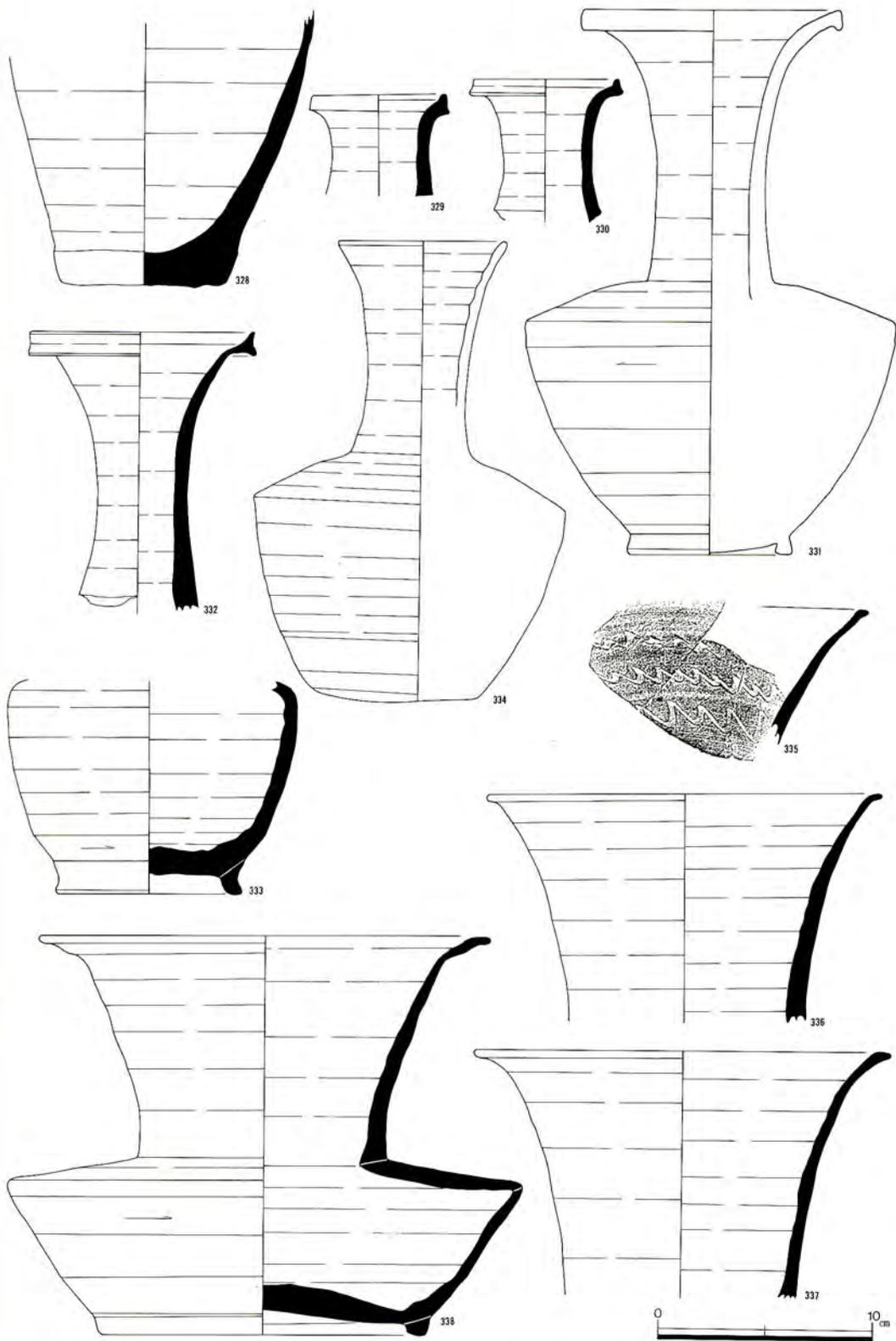
第73図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(9)



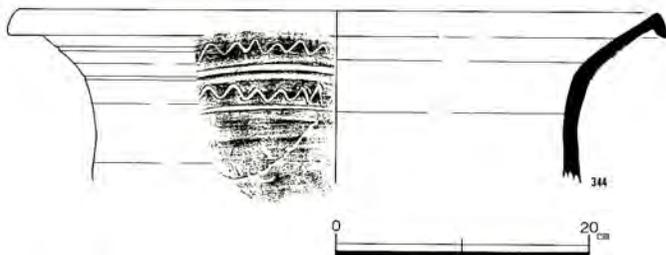
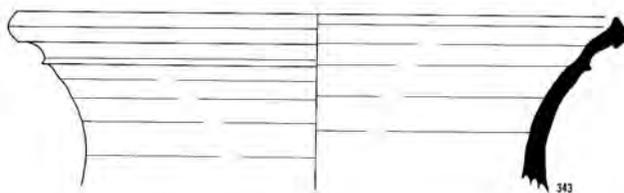
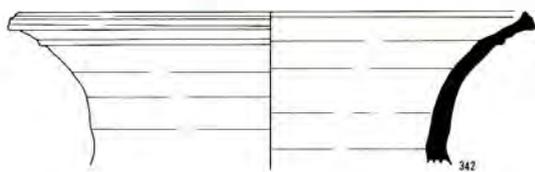
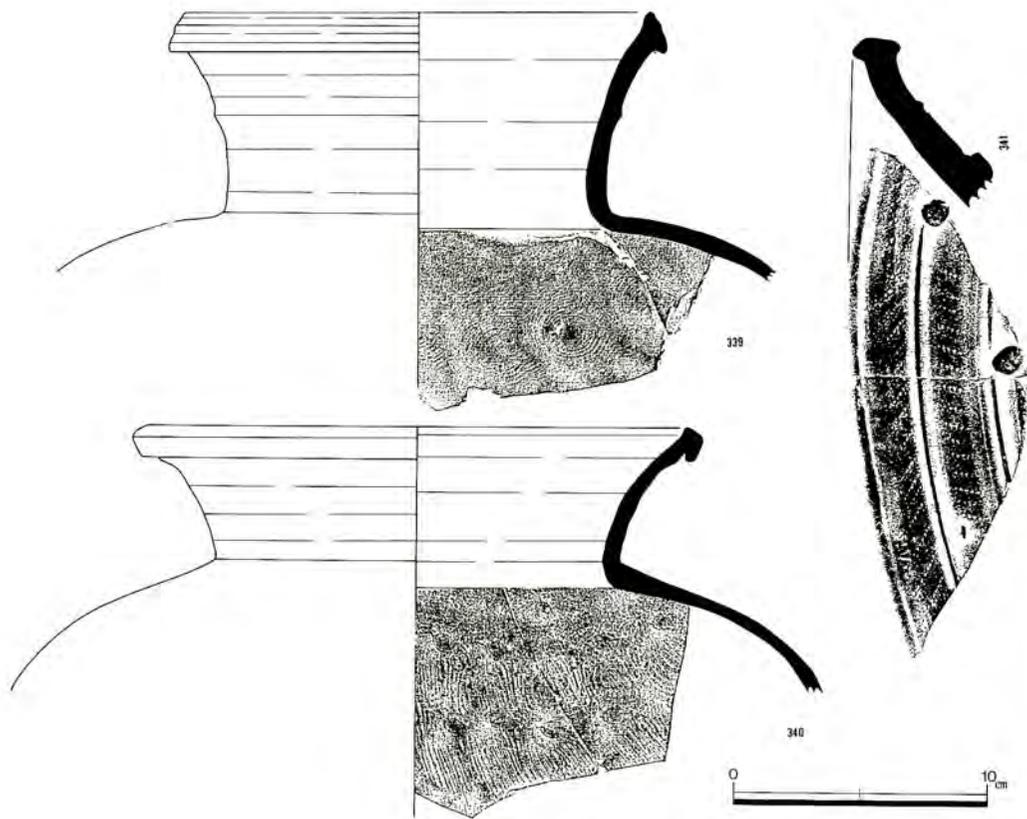
第74图 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(10)



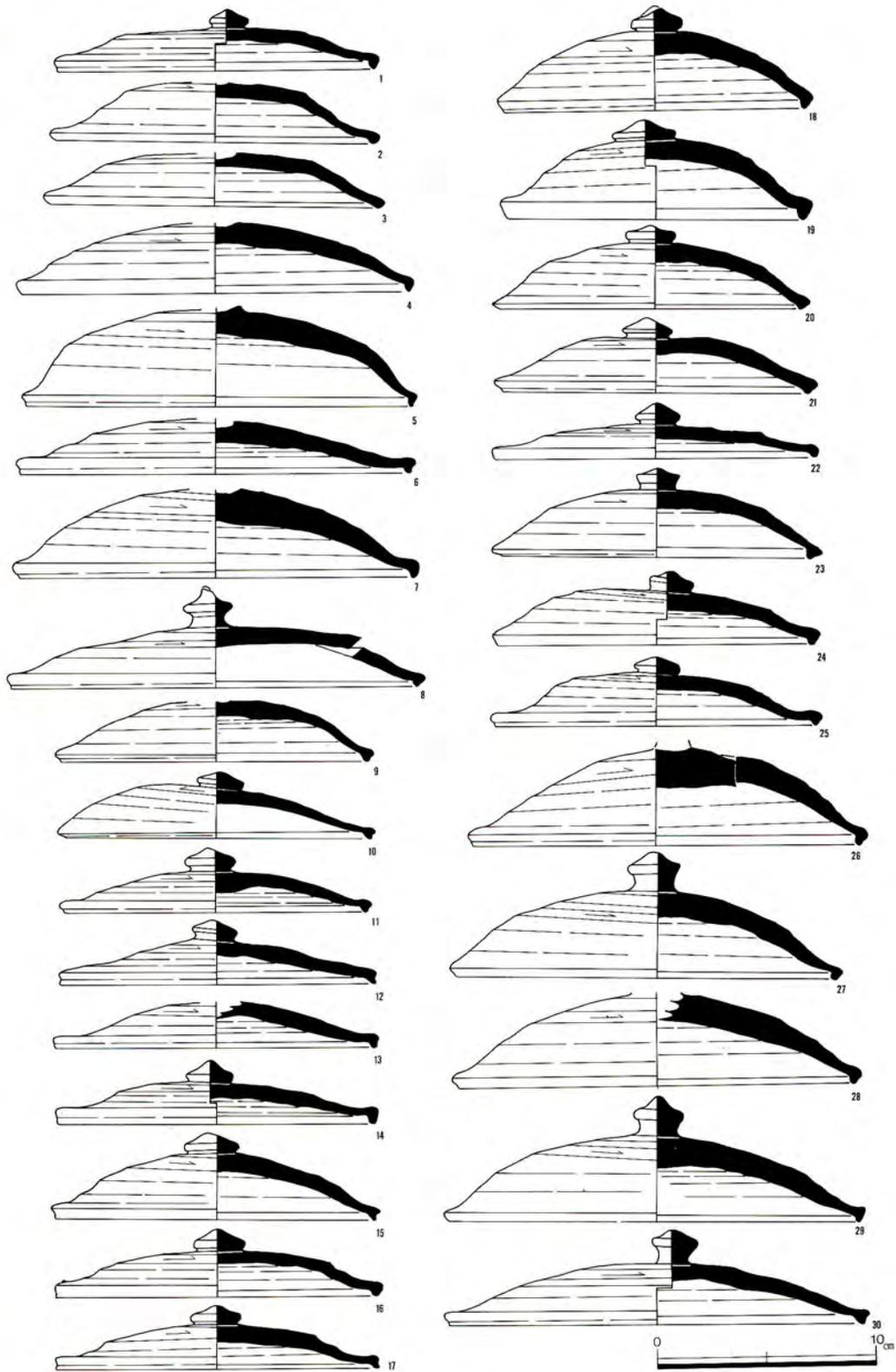
第75図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(11)



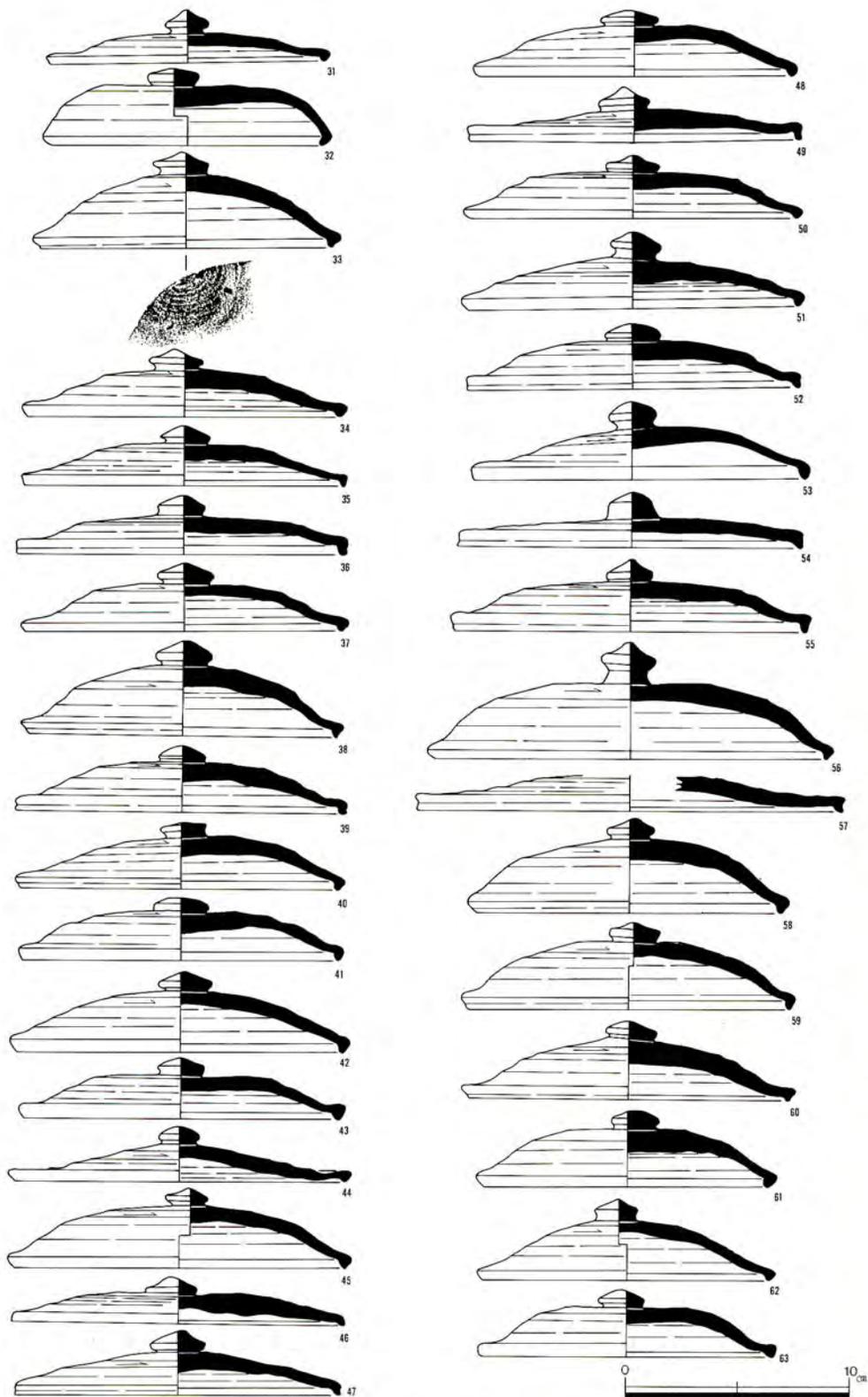
第76図 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(12)



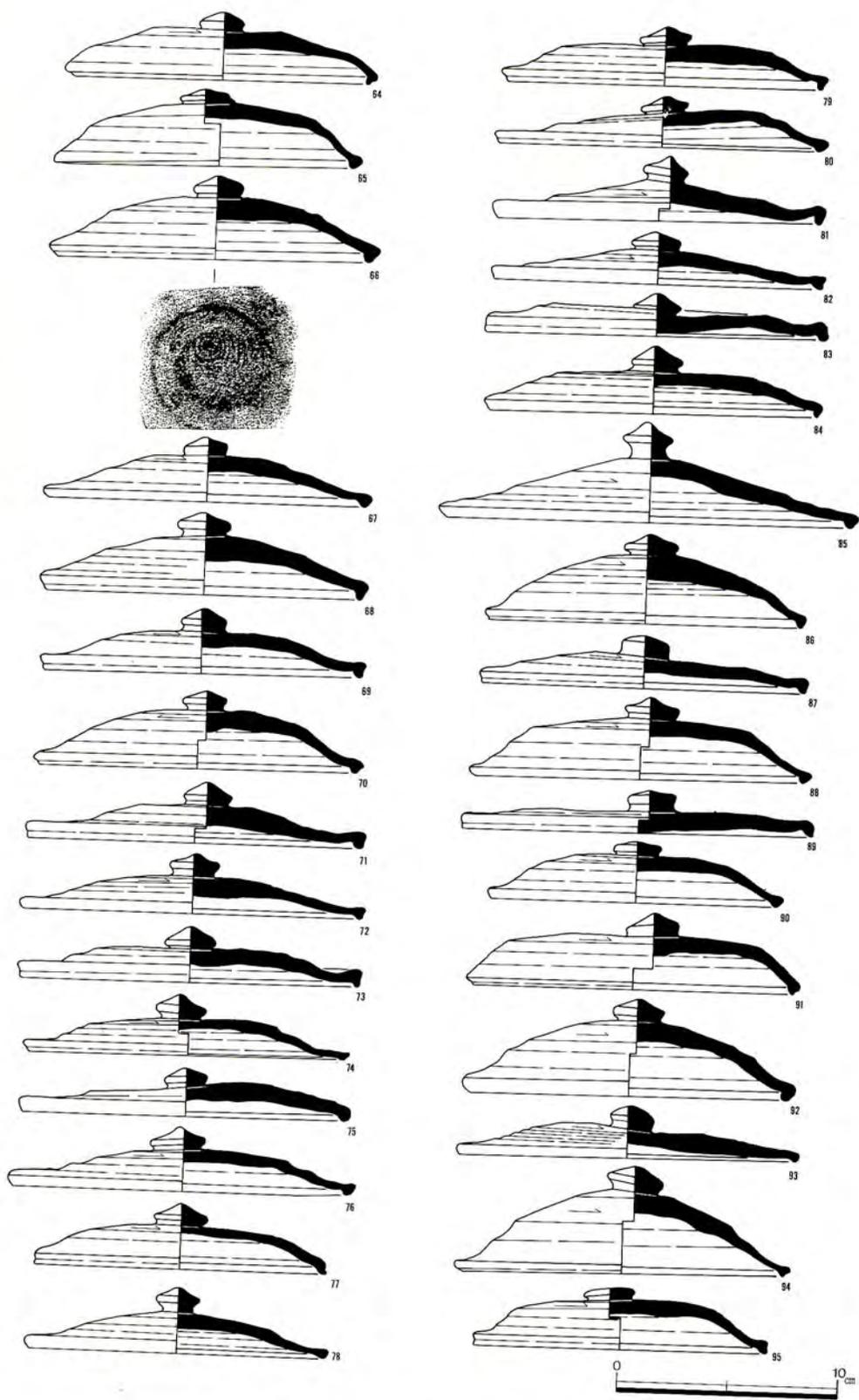
第77图 東笠子第44地点古窯跡出土遺物実測図(13)



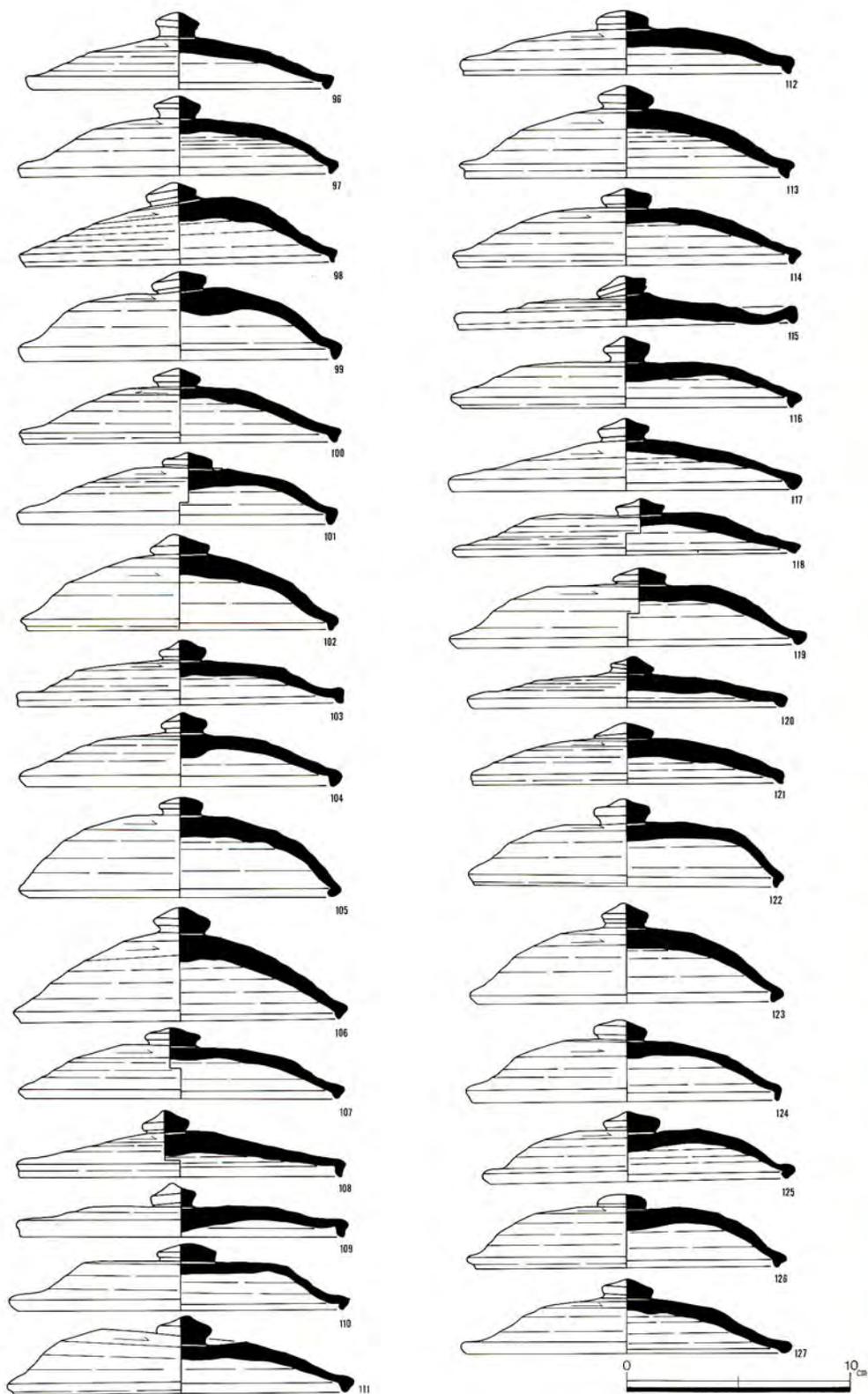
第78图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(1)



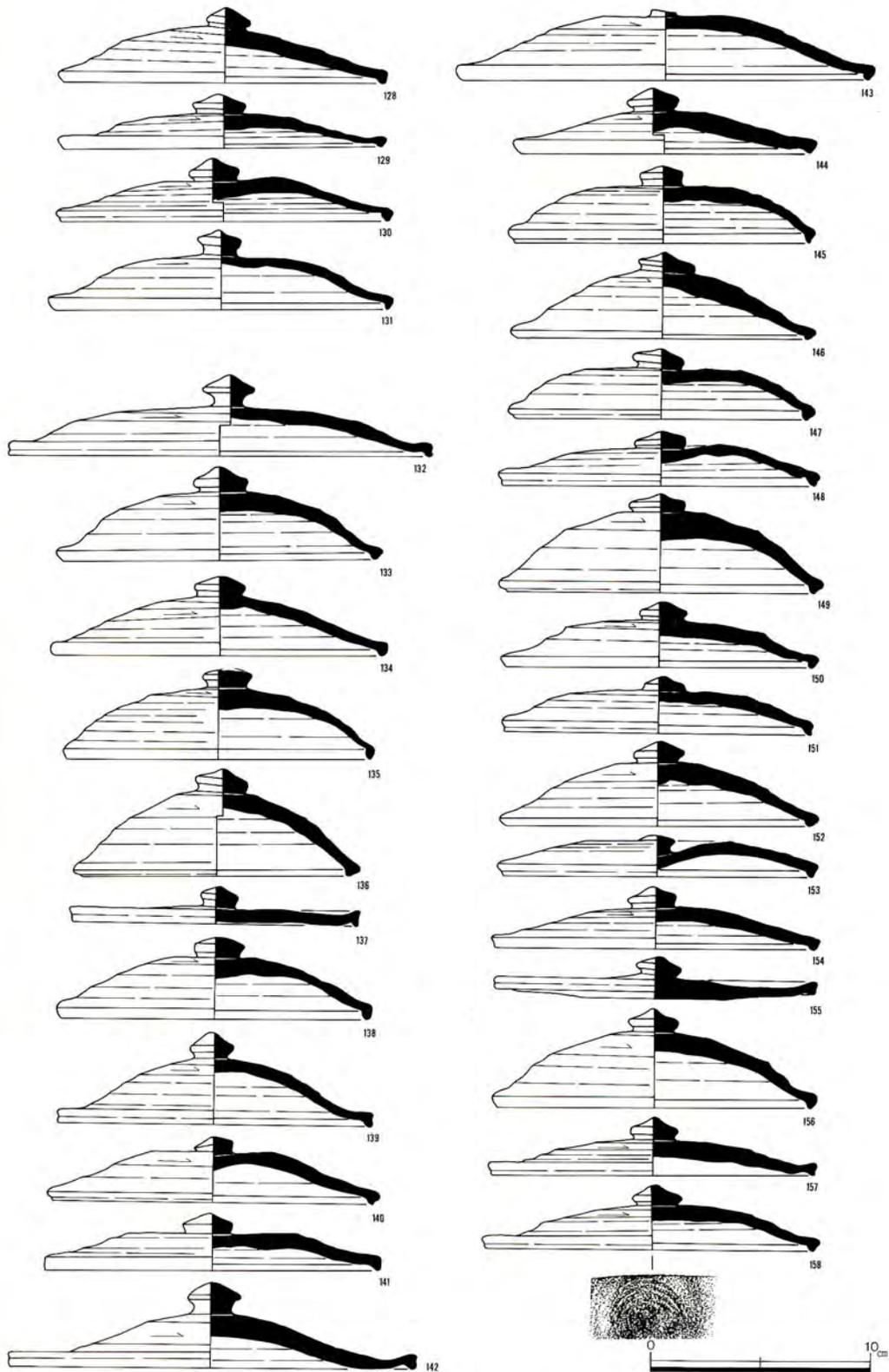
第79图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(2)



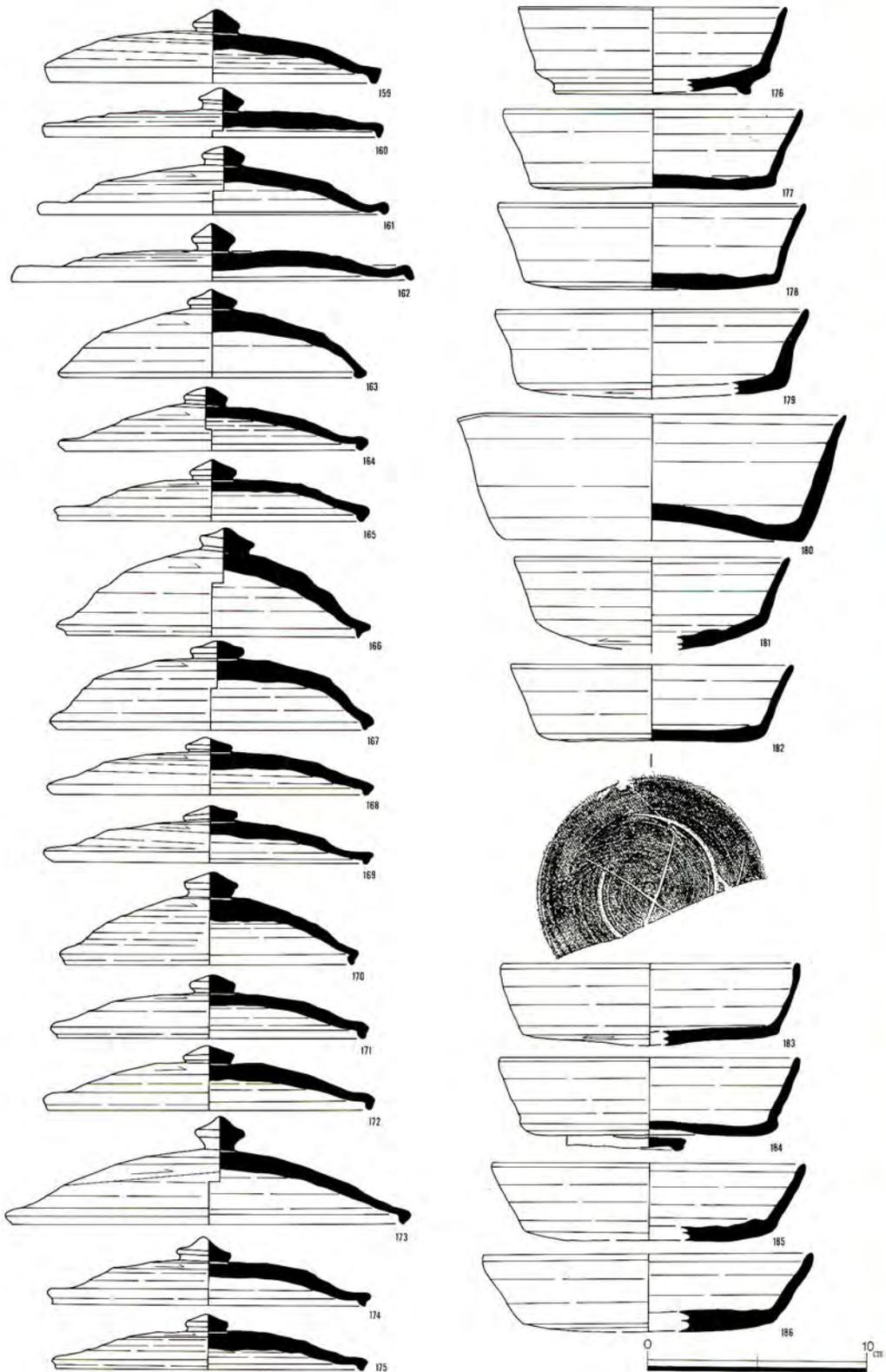
第80图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(3)



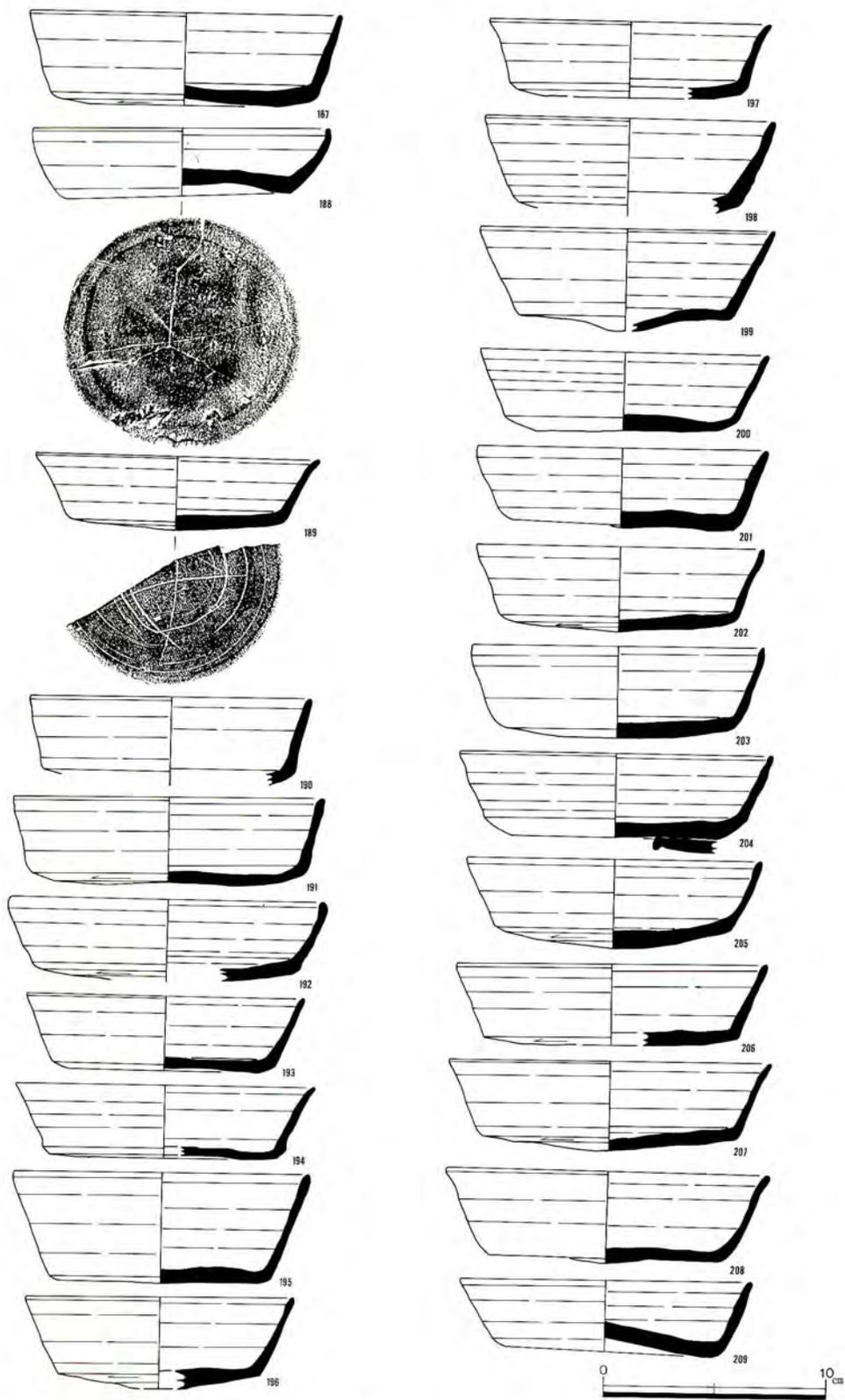
第81图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(4)



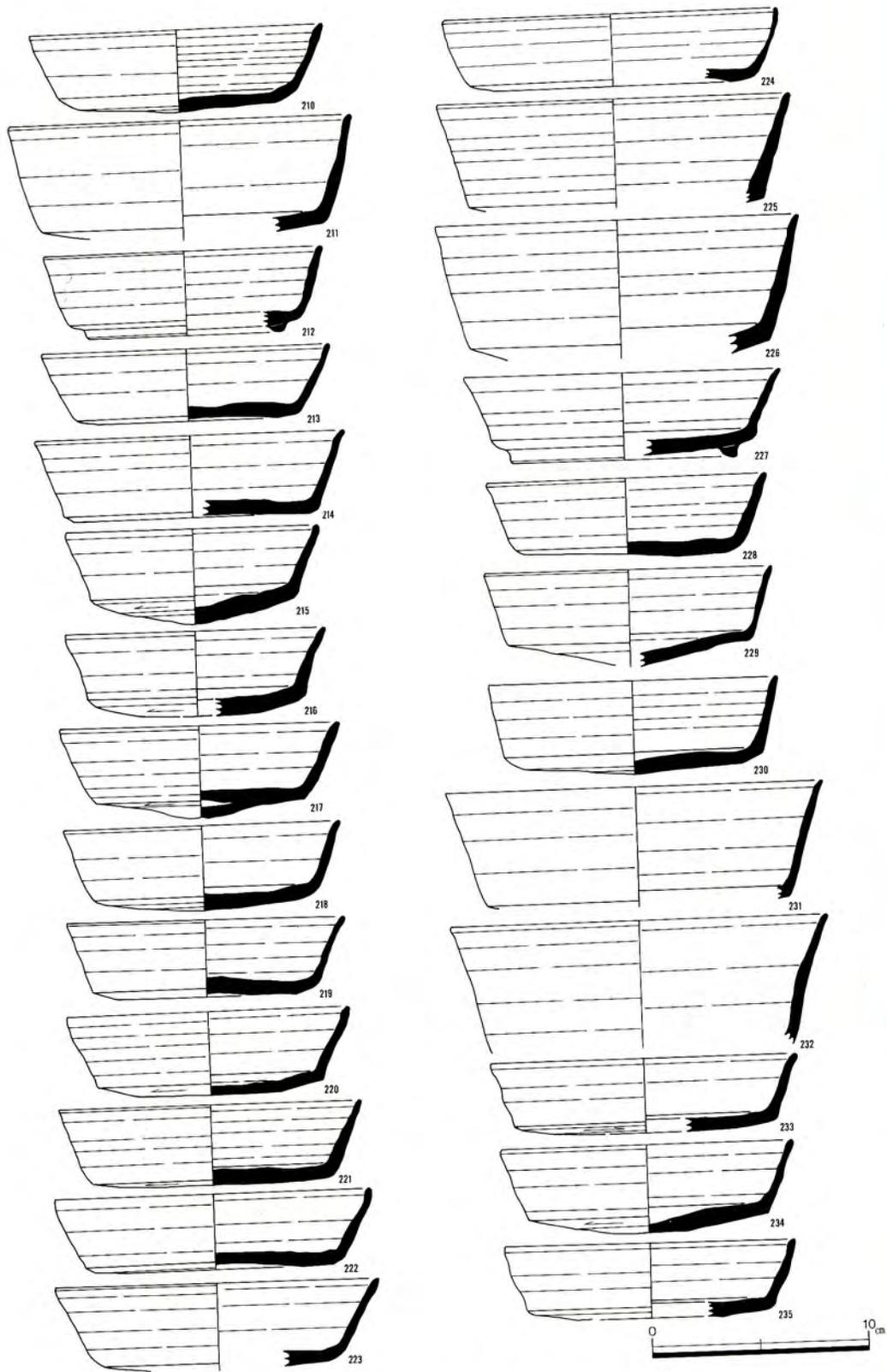
第82図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(5)



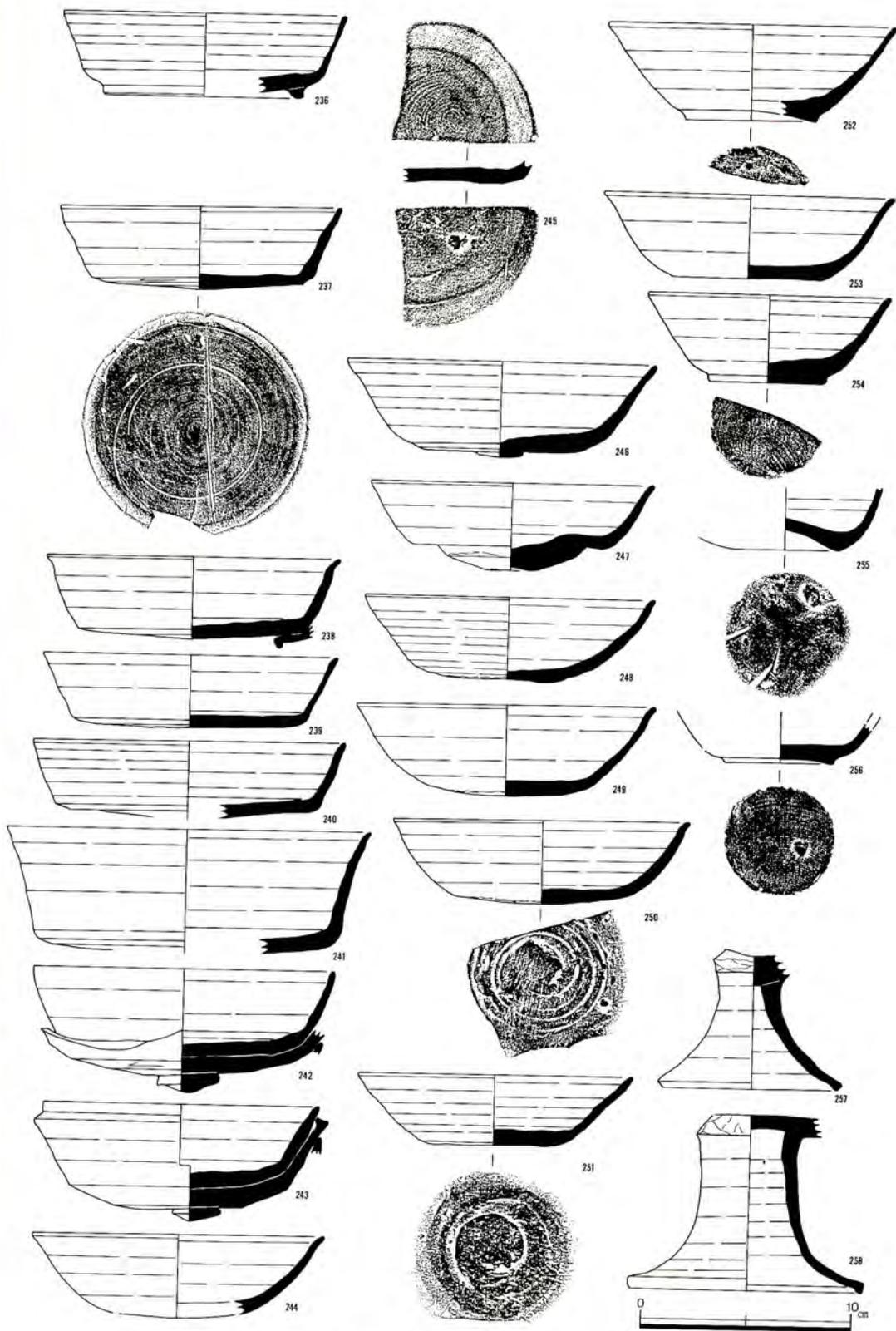
第83図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(6)



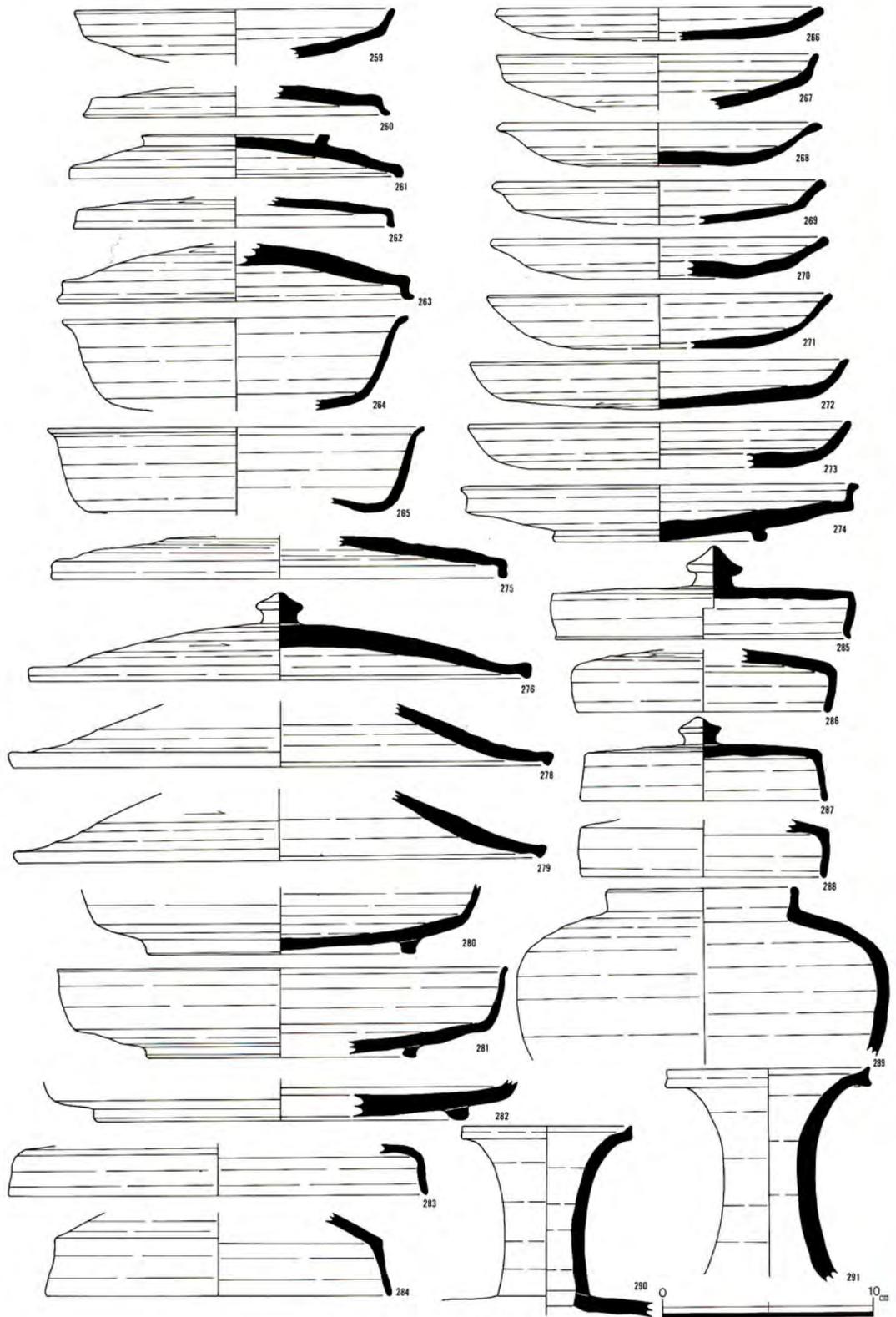
第84図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(7)



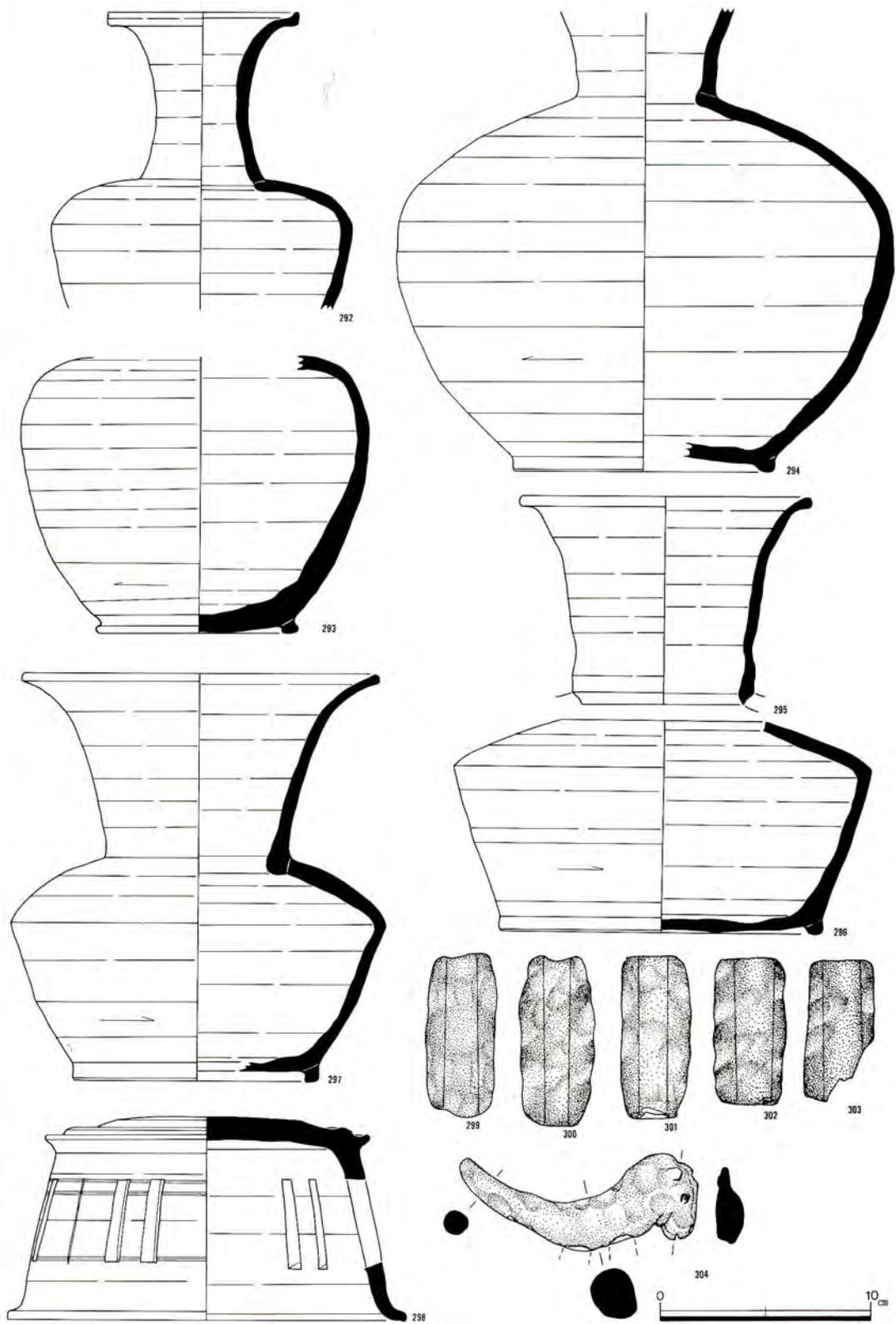
第85図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(8)



第86图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(9)

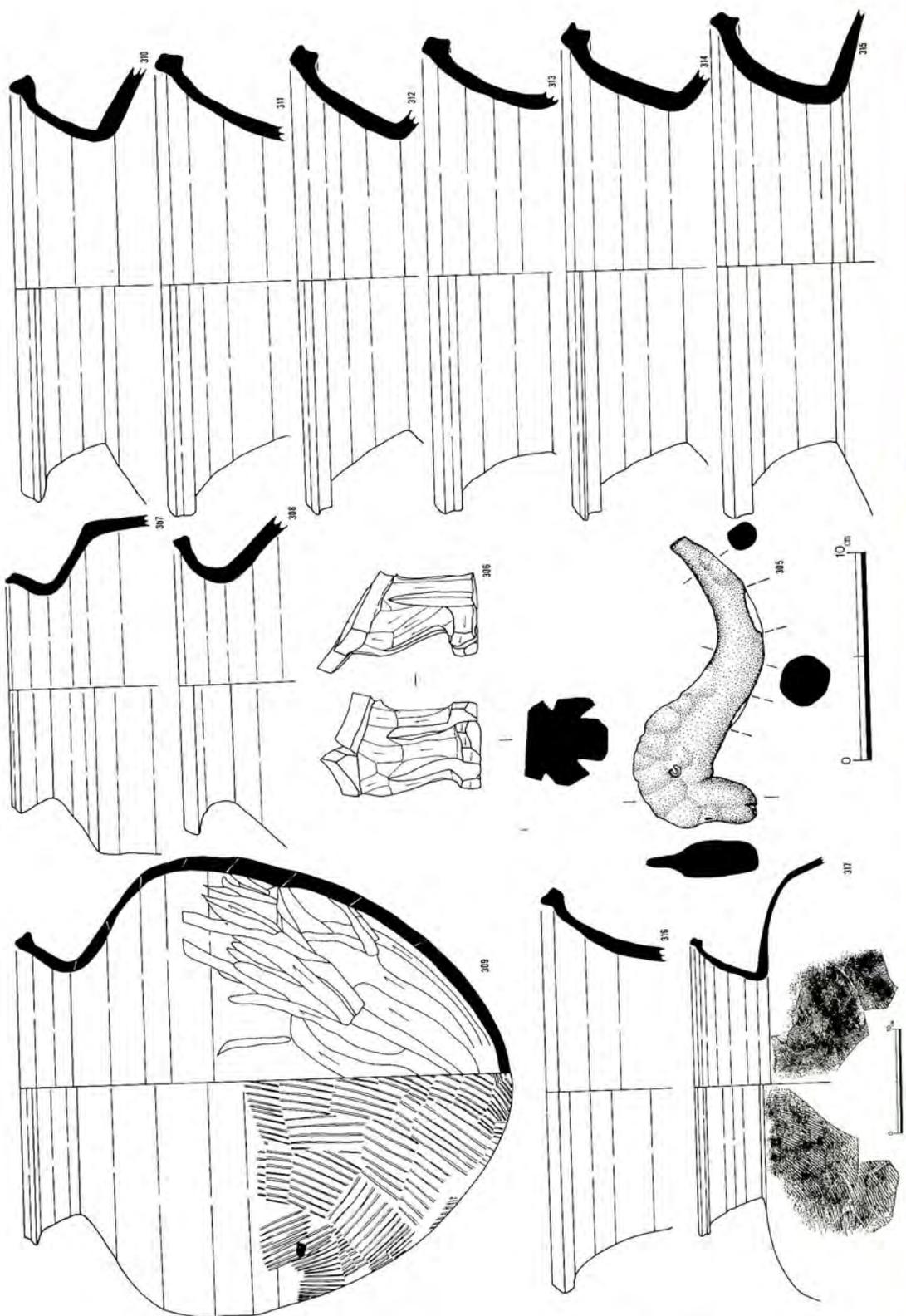


第87图 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(10)



第88図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(11)

No
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76



第89図 東笠子第43地点古窯跡出土遺物実測図(12)

表6 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(1)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
1	合子状坏蓋	1号窯埋土層	9.4	4.0				
2	"	"	10.5	4.0				
3	"	G-5土坑埋土層	9.9	3.8				
4	"	G-5土坑、H-4区下部灰層	9.0	3.5				
5	"	G-5土坑、G-4区中部灰層	9.7	3.1				
6	"	G-5土坑、H-5区下部灰層	9.5	3.3				
7	"	E-5土坑埋土層	9.2	3.6				
8	"	"	9.7	3.7				
9	"	"	9.9	3.3				
10	"	"	9.9	3.6				
11	"	E-5区上部灰層	9.2	3.1				
12	"	"	10.1	3.5				
13	"	F-5区中部灰層	10.5	5.9				
14	"	F-6区上部灰層	10.4	3.4				
15	"	"	10.5	4.0				
16	"	"	10.7	3.4				
17	"	"	10.9	3.7				
18	"	F-6区下部灰層	10.0	3.5				
19	"	"	9.8	3.5				
20	"	"	9.8	3.7				
21	"	"	10.2	3.6				
22	"	"	10.1	3.8				
23	"	F-6区下部灰層	10.2	3.6				
24	"	F-7区上部灰層	9.3	3.6				
25	"	"	10.0	3.8				
26	"	F-7区下部灰層	9.4	3.4				
27	"	"	9.6	3.2				
28	"	F-7区下部灰層	10.7	3.5				
29	"	G-5区上部灰層	11.1	4.5				
30	"	G-6区上部灰層	9.1	3.1				
31	"	"	9.4	3.2				
32	"	F-6区上部灰層	9.6	3.6				
33	"	G-6区上部灰層	9.7	3.7				
34	"	"	10.0	4.0				
35	"	"	10.8	4.4				
36	"	G-6区中部灰層	9.5	3.5				
37	"	"	10.3	4.0				
38	"	"	10.3	3.8				
39	"	G-7区上部灰層	10.0	3.7				
40	"	G-7区中部灰層	9.6	3.3				
41	"	"	9.4	3.2				
42	"	"	9.8	3.8				
43	"	"	11.1	4.2				
44	"	H-5区上部灰層	9.5	3.5				
45	"	"	10.2	3.9				
46	"	H-5区中部灰層	10.6	4.5				
47	"	H-5区下部灰層	9.8	2.9				
48	"	F-6区下部灰層	9.8	3.5				
49	"	H-5区下部灰層	10.0	3.4				
50	"	"	10.1	3.5				
51	"	"	10.5	3.8				
52	合子状坏身	1号窯埋土層	8.2	3.4	10.3			
53	"	"	8.4	3.2	10.8			
54	"	"	8.9	3.1	11.0			
55	"	"	9.4	3.0	11.1			
56	"	"	9.4	2.8	11.1			
57	"	"	9.2	3.2	11.2			
58	"	G-5土坑、G-4区上部灰層	8.0	2.9	9.8			
59	"	"	8.2	3.2	10.1			
60	"	"	8.4	3.9	10.5			
61	"	G-5土坑、G-4区中部灰層	7.7	3.2	9.4			
62	"	"	8.8	3.0	10.7			
63	"	G-5土坑、G-4区下部灰層	8.0	3.2	9.8			
64	"	"	8.3	2.8	10.0			
65	"	G-5土坑、G-4区下部灰層	8.0	3.3	9.6			
66	"	"	8.8	3.2	10.5			
67	"	G-5土坑、G-5区上部灰層	7.6	2.7	9.8			
68	"	"	9.1	3.2	11.0			
69	"	"	8.8	3.5	10.9			
70	"	G-5土坑、H-4区上部灰層	8.8	2.9	10.8			
71	"	G-5土坑、H-4区下部灰層	8.8	3.2	10.7			
72	"	E-5土坑埋土層	8.0	3.4	9.9			
73	"	3号窯前庭部埋土層	7.8	3.6	9.9			
74	"	E-5区上部灰層	8.6	3.5	10.2			
75	"	E-5区中部灰層	8.6	2.9	10.4			
76	"	E-6区中部灰層	8.2	3.3	9.8			

表7 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(2)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径/底径	鈕径	鈕高	備考
77	合子状坏身	E-7区上部灰層	8.2	3.4	10.0			
78	"	"	8.6	3.2	10.0			
79	"	"	8.6	3.1	10.1			
80	"	F-5区中部灰層	8.6	3.3	10.4			
81	"	"	8.8	3.8	10.7			
82	"	F-6区上部灰層	8.0	2.9	9.7			
83	"	"	7.8	3.4	9.5			
84	"	"	8.2	3.3	10.2			
85	"	"	8.0	3.3	10.1			
86	"	"	8.4	3.5	10.6			
87	"	F-6区下部灰層	8.6	3.2	10.0			
88	"	"	8.6	3.2	10.1			
89	"	"	8.8	3.1	10.3			
90	"	"	8.5	3.5	10.0			
91	"	F-7区上部灰層	8.0	2.1	9.7			
92	"	"	7.8	2.7	9.5			
93	"	F-7区上部灰層	7.6	2.8	9.3			
94	"	"	7.7	3.1	9.2			
95	"	"	8.0	3.4	9.8			
96	"	"	8.6	3.0	10.7			
97	"	"	9.4	3.6	10.8			
98	"	"	8.7	3.9	10.8			
99	"	F-7区中部灰層	7.6	2.9	9.5			
100	"	"	9.0	3.5	10.9			
101	"	G-5区下部灰層	7.7	3.3	10.0			
102	"	G-5区上部灰層	9.8	3.9	11.7			
103	"	G-6区上部灰層	7.1	3.0	8.8			
104	"	"	7.8	3.2	9.7			
105	"	"	8.2	3.2	9.6			
106	"	"	8.4	3.3	10.2			
107	"	"	8.2	4.0	10.0			
108	"	"	8.6	3.6	10.5			
109	"	"	8.6	3.8	10.6			
110	"	"	8.7	3.6	10.5			
111	"	"	8.8	4.1	10.7			
112	"	"	8.7	3.2	10.8			
113	"	"	8.8	3.9	10.5			
114	"	"	9.0	3.2	11.0			
115	"	"	9.2	3.8	11.1			
116	"	"	9.6	3.9	11.1			
117	"	"	8.8	3.9	11.1			
118	"	"	9.2	4.0	11.1			
119	"	G-6区中部灰層	8.8	3.5	10.6			
120	"	"	8.8	3.8	11.1			
121	"	"	9.7	3.7	11.4			
122	"	G-6区中部灰層	9.6	4.2	11.4			
123	"	"	10.0	4.0	11.8			
124	"	G-7区上部灰層	8.2	3.3	9.4			
125	"	G-7区中部灰層	8.4	2.9	10.2			
126	"	"	8.3	3.5	10.2			
127	"	"	8.1	2.7	10.3			
128	"	"	8.7	2.9	10.6			
129	"	"	8.8	3.5	10.6			
130	"	H-5区上部灰層	8.3	2.8	10.1			
131	"	H-5区中部灰層	8.2	3.5	10.3			
132	"	"	8.8	3.4	10.6			
133	"	"	9.0	3.8	10.9			
134	"	"	9.8	3.7	11.8			
135	"	H-5区下部灰層	8.3	3.2	10.2			
136	"	"	8.1	3.5	10.0			
137	"	H-6区下部灰層	8.4	2.6	10.0			
138	かえり付坏蓋	G-5土坑上層	7.6	2.9	9.7	1.7	0.5	凹状つまみ
139	"	"	8.2	3.2	10.4	1.5	0.7	宝珠状つまみ
140	"	"	8.8	2.9	11.7	2.1	0.6	"
141	"	G-5土坑 G-4区上部灰層	9.0	2.5	11.7	1.8	0.6	"
142	"	G-5区, E-6区上部灰層	12.7	2.7	15.2	4.0	0.7	凹状つまみ
143	"	G-5土坑 G-5区上部灰層	13.4	3.2	15.4	4.0	0.6	"
144	"	G-5土坑 G-4区中部灰層	7.5	2.6	10.6	2.2	0.5	宝珠状つまみ
145	"	"	8.5	2.6	11.3	2.0	0.5	"
146	"	3号窯2次床面直上	13.2	3.5	15.4	4.0	1.0	凹状つまみ
147	"	E-5区上部灰層	6.7	3.1	8.7	1.0	0.6	乳頭状つまみ
148	"	G-5土坑上層	8.0	3.4	10.7	1.4	1.1	宝珠状つまみ
149	"	E-5区上部灰層	7.9	3.2	10.2	1.8	0.7	凹状つまみ
150	"	"	8.8	2.7	10.2	1.5	0.5	"
151	"	E-6区上部灰層	7.0	—	8.9	—	—	"
152	"	"	7.6	2.7	9.7	1.2	0.8	宝珠状つまみ

No	器種名
153	かへり付坏蓋
154	"
155	"
156	"
157	"
158	"
159	"
160	"
161	"
162	"
163	"
164	"
165	"
166	"
167	"
168	"
169	"
170	"
171	"
172	"
173	"
174	"
175	"
176	"
177	"
178	"
179	"
180	"
181	"
182	"
183	"
184	"
185	蓋
186	"
187	"
188	"
189	"
190	"
191	"
192	"
193	"
194	"
195	"
196	"
197	"
198	"
199	"
200	"
201	"
202	"
203	"
204	"
205	"
206	"
207	"
208	"
209	"
210	"
211	"
212	"
213	"
214	"
215	"
216	"
217	"
218	"
219	"
220	"
221	"
222	"
223	"
224	"
225	"
226	"
227	"
228	"

表8 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(3)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径/底径	鈕径	鈕高	備考
153	かえり付坏蓋	E-6区上部灰層	7.3	2.4	9.8	1.2	0.6	宝珠状つまみ
154	"	E-6区中部灰層	7.8	2.5	10.0	1.0	0.8	"
155	"	F-6区上部灰層	8.3	—	10.0	—	—	—
156	"	"	8.4	3.3	10.4	2.0	0.6	凹状つまみ
157	"	"	8.7	3.8	11.5	0.9	0.9	乳頭状つまみ
158	"	F-7区上部灰層	8.9	4.1	11.0	1.6	1.3	宝珠状つまみ
159	"	G-5区上部灰層	8.0	3.7	10.2	1.7	0.9	"
160	"	G-5区上部, H-5区中部灰層	12.3	3.8	14.4	3.9	0.8	凹状つまみ
161	"	"	13.0	3.4	14.8	3.9	0.8	"
162	"	G-5区下部焼土層	8.2	2.5	10.0	2.2	0.4	"
163	"	G-6区上部灰層	7.4	2.8	9.0	1.0	0.8	乳頭状つまみ
164	"	"	7.4	3.5	10.1	1.1	1.2	"
165	"	"	7.8	3.0	10.5	1.4	0.8	宝珠状つまみ
166	"	"	7.5	3.0	10.6	1.3	1.0	"
167	"	"	6.5	3.0	8.9	1.1	0.9	"
168	"	G-6区中部灰層	6.9	3.5	8.8	1.0	0.9	乳頭状つまみ
169	"	"	6.8	3.1	9.1	1.2	0.9	"
170	"	"	8.2	—	10.2	—	—	—
171	"	E-6区上部灰層	7.0	2.5	8.8	0.8	0.5	乳頭状つまみ
172	"	G-7区上部灰層	7.9	2.5	10.1	1.3	0.9	宝珠状つまみ
173	"	"	9.1	2.9	11.7	2.0	0.5	凹状つまみ
174	"	"	10.7	4.6	13.2	1.9	1.6	宝珠状つまみ
175	"	G-7区中部焼土層	7.4 (9.2)	2.4 (2.9)	9.5	1.0	1.0	( )内は坏身法量値
176	"	H-5区中部灰層	12.2	3.1	14.4	4.0	0.7	凹状つまみ
177	"	"	12.4	3.4	14.5	4.0	0.5	"
178	"	H-5区下部焼土層	7.4	3.2	9.5	1.4	0.7	乳頭状つまみ
179	"	H-5区下部焼土層	12.2	3.0	14.8	3.9	0.8	凹状つまみ
180	"	H-6区上部灰層	9.2	—	11.2	—	—	—
181	"	"	9.4	2.4	11.5	2.4	0.5	凹状つまみ
182	"	G-6区上部灰層	6.5	3.4	9.3	0.8	0.7	乳頭状つまみ
183	"	"	7.2	3.5	10.2	0.8	0.8	"
184	坏蓋	G-5土坑上層	9.5	4.0	—	0.8	0.8	"
185	蓋付無台坏身	1号窯前庭部埋土層	9.1	3.7	—	—	—	—
186	"	1号窯埋土層	11.2	4.5	—	—	—	—
187	"	G-5土坑, G-5区上部灰層	9.5	3.7	—	—	—	—
188	"	G-5土坑, G-4区上部灰層	12.0	4.2	—	—	—	—
189	"	D-5土坑下層	10.0	3.6	—	—	—	—
190	"	"	12.0	3.8	—	—	—	—
191	"	E-6区中部灰層	9.2	3.5	—	—	—	—
192	"	F-6区下部灰層	8.9	3.2	—	—	—	—
193	"	"	10.0	3.8	—	—	—	—
194	"	G-6区上部灰層	9.5	3.5	—	—	—	—
195	"	"	9.2	3.5	—	—	—	—
196	"	"	10.0	3.7	—	—	—	—
197	"	"	10.1	4.2	—	—	—	—
198	"	1号窯前庭部埋土層	12.4	4.1	—	—	—	—
199	"	3号窯前庭部埋土層	12.7	4.6	—	—	—	—
200	"	I-6区灰層	10.3	4.8	—	—	—	—
201	"	F-7区中部灰層	10.0	5.1	—	—	—	—
202	坏	E-6区中部灰層	10.0	4.0	—	—	—	—
203	"	H-5区上部灰層	11.2	4.2	—	—	—	—
204	"	E-6区上部灰層	11.6	4.3	4.3	—	—	—
205	"	"	12.0	4.1	—	—	—	—
206	"	G-6区上部灰層	9.6	3.3	—	—	—	—
207	蓋付有台坏身	G-5土坑, G-4区上部灰層	10.5	4.6	8.4	—	—	—
208	ワシ	E-4区平坦面覆土	16.9	5.6	11.6	—	—	—
209	坏蓋	3号窯前庭部埋土層	15.0	3.5	—	2.9	0.5	宝珠状つまみ
210	"	I-5区灰層	15.4	4.1	—	3.6	0.7	"
211	"	3号窯2次床面直上	15.1	4.0	—	3.0	0.7	"
212	"	3号窯2次階段部	15.6	—	—	—	—	—
213	"	"	15.0	—	—	—	—	—
214	"	3号窯前庭部埋土層	14.0	4.2	—	3.0	0.9	"
215	"	"	14.5	2.6	—	3.6	0.6	"
216	"	3号窯前庭埋土層, D-5区灰層	15.1	3.4	—	3.0	0.9	"
217	"	3号窯1次床面直上	15.0	3.5	—	3.0	0.8	"
218	"	D-5区灰層	15.7	4.1	—	3.4	1.0	"
219	蓋付有台坏身	H-5区上部灰層	15.3	3.1	9.0	—	—	—
220	"	3号窯2次階段部・床面	14.1	5.2	8.2	—	—	—
221	"	3号窯前庭部埋土層	14.5	3.1	9.0	—	—	—
222	"	C-5区灰層	—	—	—	—	—	重ね焼き
223	坏	I-5区灰層	—	—	—	—	—	"
224	ハソウ	E-5区上部灰層	11.9	—	—	—	—	—
225	"	F-7区下部灰層	9.9	—	—	—	—	—
226	ハソウ	I-5区灰層	11.1	—	—	—	—	—
227	"	E-7区上部灰層	10.8	—	—	—	—	—
228	"	G-5土坑下層	11.0	—	—	—	—	—

表9 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覧表(4)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径/受径	鈕径	鈕高	備考
229	ハソウ	G-7区灰層	12.0	—	—	—	—	
230	"	F-6区下部灰層	10.0	—	—	—	—	
231	"	H-5区上部灰層	—	—	—	—	—	
232	"	E-6区中部灰層	—	—	—	—	—	
233	"	F-6区上部灰層	11.9	—	—	—	—	
234	高坏	E-6区上部灰層	13.1	11.6	10.4	—	—	
235	"	D-5土坑埋土層	15.4	11.0	10.7	—	—	
236	"	H-5区上部灰層	15.1	10.5	9.1	—	—	
237	"	F-7区上部灰層	14.5	—	—	—	—	
238	"	F-6区下部灰層	15.0	12.2	10.7	—	—	
239	"	H-6区上部灰層	15.0	12.5	11.7	—	—	
240	"	1号窯埋土層	16.2	12.4	11.7	—	—	
241	"	E-6, H-5 上部灰層	14.0	12.2	10.2	—	—	
242	"	F-6区上部灰層	14.8	—	—	—	—	
243	"	H-5, 6区上部灰層	13.1	—	—	—	—	
244	"	G-6区下層	16.5	11.0	9.3	—	—	
245	"	E-7区上部灰層	14.8	11.5	11.4	—	—	
246	"	G-5土坑上層	14.4	6.3	9.8	—	—	
247	"	G-6下部灰層, H-6上部灰層	14.6	—	—	—	—	
248	"	G-5土坑埋土層	14.5	—	—	—	—	
249	"	G-6区上部灰層	15.3	—	—	—	—	
250	"	G-6, 7区上部灰層	15.6	—	—	—	—	
251	"	F-6区下部灰層	—	—	11.1	—	—	二方二段透し
252	"	G-6区上部灰層	9.8	8.4	8.5	—	—	
253	"	G-6区下部灰層	—	—	8.5	—	—	
254	脚	G-5土坑下層	—	—	10.6	—	—	
255	"	H-7区灰層	—	—	10.0	—	—	
256	"	G-6区上部灰層	—	—	8.8	—	—	
257	"	E-6, 7 上部灰層	—	—	10.2	—	—	
258	高盤	"	19.8	—	—	—	—	
259	"	G-5土坑, E-7上, H-5上, G-6中	27.4	14.9	16.4	—	—	
260	"	G-5土坑埋土層	—	—	13.8	—	—	
261	"	F-6区上部灰層	—	—	13.5	—	—	
262	鉢	G-6区上部灰層	14.6	4.9	—	—	—	
263	"	1号窯前庭部埋土層	15.3	6.6	—	—	—	
264	"	F, G-6下部灰層	16.1	—	—	—	—	
265	"	G-5土坑埋土層	15.4	6.5	—	—	—	
266	"	G, H-6区上部灰層	16.2	10.7	—	—	—	
267	"	E-6区上部灰層	16.8	—	—	—	—	
268	"	"	18.0	—	—	—	—	
269	"	I-5区灰層	23.6	9.9	10.0	—	—	
270	"	G-7区上中部灰層	29.2	7.0	15.4	—	—	
271	こね鉢	E-6区上中部灰層	15.6	—	—	—	—	
272	"	G-6区上部灰層	15.1	—	—	—	—	
273	"	F-6区上部灰層	21.6	—	—	—	—	
274	平瓶	G-5区上部灰層	5.0	4.5	—	—	—	
275	"	F-7区上部灰層	6.4	5.0	—	—	—	
276	"	F-6区下部灰層	5.9	5.5	—	—	—	
277	"	E-6区中部灰層	6.4	7.0	—	—	—	
278	"	G-7区上部灰層	6.4	6.4	—	—	—	
279	"	G-5土坑下層	8.3	10.0	—	—	—	
280	"	F-7区上下部灰層	9.1	9.7	—	—	—	
281	"	H-6区上部灰層	6.9	18.0	6.0	—	—	
282	"	"	7.4	—	—	—	—	
283	"	3号窯前庭部埋土層	13.2	19.4	—	—	—	
284	"	G-7区上部灰層	13.2	—	—	—	—	
285	長頸瓶	E-6区下部灰層	9.0	(7.0)	—	—	—	
286	"	F-6区下部灰層	9.8	(7.0)	—	—	—	頸部のみ
287	"	G-7区上部灰層	10.1	(9.1)	—	—	—	"
288	"	"	10.8	(9.7)	—	—	—	"
289	"	G-7区上部灰層	9.7	(9.2)	—	—	—	"
289	"	"	9.7	(9.2)	—	—	—	"
290	"	H-6区上部灰層	10.5	(9.7)	—	—	—	"
291	"	1号窯灰原, H-5区上部灰層	9.6	(9.2)	—	—	—	"
292	"	G-5土坑上層	9.0	(9.0)	—	—	—	"
293	"	H-6区上部灰層	9.2	(8.2)	—	—	—	"
294	"	H-5区上部灰層	11.2	(10.0)	—	—	—	"
295	"	"	11.5	(11.0)	—	—	—	"
296	"	G-7区上層	—	—	—	—	—	"
297	"	3号窯前庭部埋土層	11.5	26.5(13.5)	8.6	—	—	"
298	"	H-6区上部灰層	10.7	24.0(11.4)	8.4	—	—	"
299	"	3号窯前庭部埋土層	12.6	24.4(12.4)	8.5	—	—	"
300	"	G-5土坑中層	9.6	(9.0)	—	—	—	"
301	蓋付長頸瓶	G-7区上部灰層	—	—	10.0	—	—	"
302	"	E, F-7区上部灰層	—	—	9.4	—	—	"
303	蓋	G-5土坑中層	5.8	—	—	—	—	"

表10 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(5)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径/受径	鈕径	鈕高	備考
304	蓋	F-6 上下,G-6下	5.8	—	—	—	—	—
305	壺蓋	H-6区上部灰層	6.3	3.0	8.8	0.8	1.0	乳頭状つまみ
306	"	G-7区中部灰層	6.6	3.2	9.4	1.3	1.2	宝珠状つまみ
307	"	G-7区上部灰層	8.0	2.9	10.4	2.8	0.6	"
308	"	G-6区下部灰層	6.8	3.5	9.2	1.0	1.1	"
309	"	F,G-6区上部灰層	6.0	3.1	8.7	1.1	1.0	"
310	"	G-6区上部灰層	6.4	2.8	8.2	0.9	0.8	乳頭状つまみ
311	"	F-6区下部灰層	6.8	—	9.4	—	—	—
312	"	E-6区中部焼土層	6.9	3.2	9.9	0.8	1.2	乳頭状つまみ
313	"	G-5土坑上層	6.5	—	9.5	—	—	—
314	"	"	7.2	2.9	10.2	0.9	0.9	乳頭状つまみ
315	壺蓋	G-5土坑,H-4区上部灰層	6.9	3.0	9.5	2.4	0.8	凹状つまみ
316	"	G-6区上部灰層	3.7	2.3	7.4	1.3	0.8	宝珠状つまみ
317	"	G-6区中部灰層	6.8	2.1	9.5	—	—	—
318	"	G-5土坑,H-4区灰層	8.4	1.8	—	—	—	—
319	"	G-7区上部灰層	6.8	3.7	—	1.6	0.7	宝珠状つまみ
320	"	E-6区灰層	11.0	6.0	—	2.7	1.0	凹状つまみ
321	壺	H-5区上部灰層	11.3	—	—	—	—	—
322	"	E-6中,F-6UE,G-6下,G-7中	11.6	—	—	—	—	—
323	"	3号窯灰層	9.0	10.1	7.2	—	—	—
324	"	G-6区下部灰層	11.4	—	—	—	—	—
325	"	F-7区上部灰層	12.4	—	—	—	—	—
326	"	F-6区上部灰層	14.0	—	—	—	—	—
327	"	G-6区上部灰層	12.5	—	—	—	—	—
328	凹面硯	G-7区上部灰層	11.7	8.0	11.6	—	—	—
329	陶馬	"	—	—	—	—	—	—
330	陶錘	2号窯床面直上	3.0	7.9	—	—	—	73g
331	"	I-5区灰層	3.5	7.6	—	—	—	80g
332	"	2号窯埋土層	2.9	7.4	—	—	—	65g
333	"	H-6区灰層	3.6	9.0	—	—	—	105g
334	"	G-7区中部灰層	3.1	8.4	—	—	—	91g
335	"	2号窯床面直上	3.4	8.9	—	—	—	112g
336	"	I-6区灰層	3.2	7.8	—	—	—	84g
337	土師器甕	E,G-6区上部灰層	19.3	—	—	—	—	—
338	"	E-5区上部灰層	21.2	—	—	—	—	—
339	横瓶	E-5土坑埋土層	—	—	—	—	—	—
340	甕	D-5土坑埋土層	15.8	—	—	—	—	—
341	"	1号窯埋土層	26.4	—	—	—	—	—
342	"	G-5土坑埋土層	30.4	—	—	—	—	—
343	"	G-5土坑,E-6上,H-6上	20.5	—	—	—	—	—
344	"	G-6区上下部灰層	21.7	—	—	—	—	—
345	大甕	G-5土坑,G-6上部灰層	—	—	—	—	—	—
346	"	G-5土坑,E-6上,F-5E7上下	—	—	—	—	—	—
347	"	G-5土坑,E-6区中部灰層	—	—	—	—	—	—
348	"	G-5土坑上部灰層	—	—	—	—	—	—
349	"	G-5土坑,E-67上中,F-7,G-7	35.5	—	—	—	—	—
350	"	F-6上,G-6,7上	—	—	—	—	—	—
351	"	G-5土坑埋土層	—	—	—	—	—	—
352	"	1号窯前庭部埋土層	—	—	—	—	—	—
353	"	F-6区上部灰層	—	—	—	—	—	—
354	"	E-67上中,F-6下,G-67上中	40.0	—	—	—	—	—
355	合子状坏蓋	G-7区上部灰層	9.7	3.5	—	—	—	—
356	"	G-5区上部灰層	9.5	4.0	—	—	—	—
357	"	"	10.0	3.1	—	—	—	—
358	"	"	10.3	3.2	—	—	—	—
359	"	"	10.3	4.0	—	—	—	—
360	"	"	10.3	3.9	—	—	—	—
361	"	"	10.8	4.7	—	—	—	—
362	"	"	11.0	4.2	—	—	—	—
363	"	"	10.5	3.6	—	—	—	—
364	"	"	11.1	4.5	—	—	—	—
365	"	"	11.0	4.5	—	—	—	—
366	"	"	11.0	4.0	—	—	—	—
367	"	"	11.0	4.3	—	—	—	—
368	"	"	11.3	4.4	—	—	—	—
369	"	G-5区上部灰層	11.3	4.3	—	—	—	—
370	"	G-6区下部灰層	9.2	3.2	—	—	—	—
371	"	"	9.8	4.1	—	—	—	—
372	"	"	9.8	3.9	—	—	—	—
373	"	"	10.9	4.2	—	—	—	—
374	"	"	11.0	4.2	—	—	—	—
375	合子状坏身	G-5土坑上部灰層	8.6	3.3	10.8	—	—	—
376	"	F-6区下部灰層	8.4	3.0	9.9	—	—	—
377	"	G-5区上部灰層	8.0	3.0	10.0	—	—	—
378	"	"	8.6	3.0	10.4	—	—	—
379	"	"	8.6	3.2	10.4	—	—	—

表11 殿田第4地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(6)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
380	合子状坏身	G-5区上部灰層	8.4	3.7	10.4			
381	"	"	9.8	3.9	11.4			
382	"	"	9.4	3.8	11.4			
383	"	"	9.4	4.2	11.3			
384	"	"	10.0	4.0	11.6			
385	"	"	9.8	3.9	11.7			
386	"	"	9.6	4.3	11.6			
387	"	"	9.8	4.2	11.6			
388	"	"	9.8	4.2	11.8			
389	"	"	9.8	4.2	11.8			
390	"	"	10.0	4.3	11.8			
391	"	G-6区下部灰層	8.0	3.4	9.7			
392	"	"	7.6	3.3	9.8			
393	"	"	8.0	3.7	9.9			
394	"	"	8.2	3.3	9.8			
395	"	"	8.0	3.3	9.9			
396	"	"	8.0	3.1	10.0			
397	"	"	8.4	3.6	10.2			
398	"	"	8.6	3.7	10.3			
399	"	"	8.4	3.2	10.4			
400	"	"	8.4	3.4	10.4			
401	"	"	9.0	3.2	10.8			
402	"	"	9.4	3.7	11.2			
403	"	"	9.6	4.2	11.5			
404	"	"	10.0	4.2	11.7			
405	"	"	9.8	4.2	11.6			
406	蓋付無台坏身	"	8.4	3.9				
407	"	"	9.1	3.8				
408	"	"	9.4	3.7				

東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(1)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
1	合子状坏蓋	Ⅲ号窯埋土層	13.0	—				
2	"	"	13.5	—				
3	把手	"	—	—				
4	合子状坏蓋	I号窯埋土層	9.4	3.2				
5	"	"	10.0	3.5				
6	"	"	10.4	3.9				
7	"	I号窯前庭部埋土層	10.4	3.8				
8	"	"	9.4	4.1				
9	"	1号住居埋土層	10.8	3.8				
10	"	C-3区灰層	10.6	4.0				
11	"	C-4区灰層	10.0	3.6				
12	"	C-3区灰層	11.8	4.4				
13	"	"	9.4	3.2				
14	"	"	10.2	4.1				
15	"	G-5区灰層	10.0	3.4				
16	"	D-3区灰層	9.1	3.4				
17	"	"	9.8	4.2				
18	"	"	10.4	4.1				
19	"	"	11.6	4.7				
20	"	D-4区灰層	9.6	3.4				
21	"	"	10.0	3.6				
22	"	"	10.4	3.5				
23	"	"	10.6	3.6				
24	"	D-3, 4灰層	9.6	3.5				
25	"	D-4区灰層	10.0	3.3				
26	"	"	10.0	3.4				
27	"	"	10.2	3.7				
28	"	D-4区灰層	9.4	4.2				
29	"	"	10.4	4.4				
30	"	"	10.8	4.6				
31	"	D-4区焼土層	10.4	4.0				
32	"	"	11.2	4.0				
33	"	D-5区表土	9.0	3.9				
34	"	"	10.0	3.7				
35	"	D-5区焼土層	8.8	3.5				
36	"	"	9.4	3.3				
37	"	"	10.4	3.8				
38	"	"	10.8	3.9				
39	"	"	10.0	4.0				
40	"	E-3区表土	8.8	2.7				
41	"	"	9.2	2.9				
42	"	"	9.4	2.8				

表12 東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(2)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径	鈕径	鈕高	備考
43	合子状坏蓋	E-3区表土	10.0	3.4				
44	"	"	10.6	4.3				
45	"	E-4区表土	9.9	4.6				
46	"	E-4区灰層	9.6	2.9				
47	"	"	9.8	3.6				
48	"	"	10.0	3.4				
49	"	"	10.2	3.5				
50	"	"	10.2	3.5				
51	"	"	10.6	3.7				
52	"	"	11.1	4.4				
53	"	E-4区焼土層	9.4	3.7				
54	"	"	9.6	4.1				
55	"	"	10.4	3.9				
56	"	E-5区灰層	9.6	3.5				
57	合子状坏身	I号窯前庭部埋土層	9.0	3.5	10.6			
58	"	I号住居埋土層	9.6	4.7	11.9			
59	"	C-4区灰層	7.4	2.5	9.2			
60	"	"	8.7	3.5	10.5			
61	"	"	8.6	3.3	10.4			
62	"	C-5区表土	8.6	3.0	9.8			
63	"	D-3区表土	8.2	2.3	10.0			
64	"	"	8.6	2.8	10.4			
65	"	"	8.4	3.5	9.9			
66	"	"	9.6	4.0	10.6			
67	"	D-3区灰層	9.1	4.0	11.0			
68	"	D-4区灰層	8.0	3.2	9.8			
69	"	"	8.6	4.2	10.3			
70	"	"	9.0	3.7	10.9			
71	"	D-4区灰層	9.4	3.0	11.1			
72	"	"	10.0	3.7	12.2			
73	"	"	8.3	3.8	10.0			
74	"	"	9.0	3.5	10.5			
75	"	D-4区灰層	8.4	3.3	10.4			
76	"	"	9.4	3.9	11.1			
77	"	D-4区灰層	9.6	3.6	11.6			
78	"	D-4区焼土層	8.8	3.1	10.6			
79	"	"	9.4	3.9	11.1			
80	"	D-5区表土	8.0	4.0	9.8			
81	"	"	9.2	3.5	11.1			
82	"	D-5区焼土層	8.4	3.1	10.4			
83	"	"	8.8	4.0	10.6			
84	"	"	9.4	3.4	11.4			
85	"	"	9.2	3.5	11.5			
86	"	"	9.4	3.7	11.5			
87	"	E-3区表土	8.4	2.6	10.1			
88	"	"	8.2	2.8	10.4			
89	"	E-4区表土	8.1	3.4	9.8			
90	"	"	8.0	2.7	10.0			
91	"	"	8.4	3.4	10.1			
92	"	E-4区灰層	7.0	3.7	8.8			
93	"	"	8.4	3.1	10.2			
94	"	"	8.8	3.7	10.4			
95	"	E-4区焼土層	8.6	4.0	10.0			
96	"	"	8.8	3.4	10.7			
97	"	E-5区灰層	8.2	3.0	9.8			
98	かえり付坏蓋	D-3区灰層	8.0	3.2	9.8			
99	"	"	8.2	3.8	10.2	1.2	0.7	乳頭状つまみ
100	"	D-4区灰層	7.4	3.2	9.4	1.4	0.7	凹状つまみ
101	"	E-4区表土	8.4	2.5	10.4	1.4	1.0	宝珠状つまみ
102	"	E-4区灰層	8.0	3.6	9.8	1.9	0.5	凹状つまみ
103	"	"	7.8	2.7	9.9	1.3	1.4	宝珠状つまみ
104	"	"	8.0	3.1	9.9	1.5	1.2	"
105	蓋付無台坏身	I号窯2次床面直上	9.4	3.0	10.4	2.4	0.6	"
106	"	C-4区灰層	8.8	3.6				
107	"	D-5区焼土層	9.6	3.4				
108	"	"	9.0	3.5				
109	"	E-4区灰層	9.4	3.6				
110	"	"	9.4	3.3				
111	"	D-4区灰層	8.4	3.8				
112	"	D-5,E-4 焼土層	8.2	3.9				
113	"	D-4区灰層	8.4	4.0				
114	"	D-4区焼土層	8.8	3.9				
115	小鉢	C-4区灰層	9.1	4.9				
116	"	D-4区灰層	9.3	4.8				

表13 東笠子第25地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(3)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	受径/底径	鈕径	鈕高	備考
117	小鉢	C-4区灰層	9.0	5.4	—	—	—	
118	坏蓋	I号窯前庭部埋土層	16.2	3.7	—	3.5	0.7	宝珠状つまみ
119	"	"	16.8	4.1	—	3.1	0.6	"
120	"	"	16.6	3.8	—	3.4	0.8	"
121	ワシ	C-4区灰層	12.0	—	—	—	—	
122	"	E-4区焼土層	—	—	8.2	—	—	
123	"	E-5区表土	—	—	9.6	—	—	
124	高坏	I号住居埋土層	14.6	—	—	—	—	
125	"	C-4, D-3区灰層	15.0	13.6	10.9	—	—	
126	"	E-4区焼土層	14.0	—	—	—	—	
127	"	D-4区灰層, E-4区焼土層	16.4	—	—	—	—	
128	"	E-4区灰層	16.5	11.3	10.2	—	—	
129	"	"	—	—	11.0	—	—	
130	"	"	—	—	10.4	—	—	
131	"	"	—	—	10.7	—	—	
132	"	E-5区灰層	—	—	10.7	—	—	
133	"	E-2区落ち込み	—	—	9.6	—	—	二方一段透し
134	ハソウ	E-4区表土	9.7	—	—	—	—	
135	壺蓋	E-4区灰層	7.1	3.3	9.4	0.9	0.7	乳頭状つまみ
136	"	"	7.2	3.4	9.6	0.9	0.8	"
137	"	E-4区表土	6.8	—	8.8	—	—	
138	"	D-5区灰層	8.3	3.9	—	1.0	0.9	宝珠状つまみ
139	"	C-4区灰層	8.0	3.9	11.2	0.9	0.9	"
140	小壺	C-3, 4区灰層	—	—	—	—	—	
141	平瓶	E-3区表土	—	—	—	—	—	
142	"	DE-4区表土, C-4区灰層	—	—	—	—	—	
143	"	III号窯埋土層, E-5区表土	—	—	—	—	—	
144	"	C-4区灰層	5.3	13.6	—	—	—	
145	こね鉢	E-4区焼土層	17.0	12.2	10.8	—	—	
146	"	"	—	—	10.2	—	—	
147	鉢	D-4区灰層	20.4	—	—	—	—	
148	長頸瓶	"	9.8	(8.2)	—	—	—	頸部のみ
149	"	C-3区灰層	10.0	(8.6)	—	—	—	"
150	"	C-5区灰層	9.9	(9.0)	—	—	—	"
151	"	D-4区灰層	9.0	(8.6)	—	—	—	"
152	"	D-3区灰層	9.1	(8.1)	—	—	—	"
153	"	D-4区灰層	9.4	(9.4)	—	—	—	"
154	"	I号住居埋土層	—	—	—	—	—	
155	"	"	—	—	—	—	—	
156	"	"	—	—	—	—	—	
157	"	"	—	—	—	—	—	
158	陶鉢	C-5区灰層	1.4	4.8	—	—	—	4g
159	"	C-5区表土	1.4	5.0	—	—	—	8g
160	"	"	1.8	5.0	—	—	—	11g
161	"	E-3区表土	2.7	6.6	—	—	—	53g
162	"	E-5区灰層	4.2	7.0	—	—	—	100g
163	"	E-4区灰層	4.4	7.7	—	—	—	120g
164	"	E-3区表土	3.9	7.8	—	—	—	145g
165	"	"	4.3	8.2	—	—	—	114g
166	"	D-5区灰層	4.7	9.0	—	—	—	163g
167	"	E-4区灰層	4.7	9.5	—	—	—	170g
168	"	E-5区表土	4.6	10.0	—	—	—	185g
169	"	E-5区灰層	4.7	10.3	—	—	—	200g
170	壺	C-4, D-3区灰層	10.8	17.3	—	—	—	
171	甕	E-4区焼土層	16.8	—	—	—	—	
172	"	I号窯前庭部埋土層	17.0	—	—	—	—	
173	"	III号窯埋土層	22.6	—	—	—	—	
174	大甕	E-4区灰層	—	—	—	—	—	
175	"	C-34, D-4区灰層	—	—	—	—	—	
176	"	E-4区灰層, C-5区灰層	—	—	—	—	—	
177	"	C-45, E-4区灰層	—	—	—	—	—	
178	"	C-3区灰層	—	—	—	—	—	

No
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74

表14 東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(1)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
1	坏蓋	I号窯前提部埋土層	14.6	3.7		2.5	1.1	
2	"	"	15.6	3.2		2.7	0.8	
3	"	I号窯埋土層	15.4	3.0		2.7	1.1	
4	"	"	15.4	4.2		2.6	1.0	
5	"	I-3土坑埋土層	13.4	2.1		2.3	1.1	I号窯に伴う
6	"	"	15.6	3.3		3.1	0.8	"
7	"	"	15.8	3.4		2.9	1.0	"
8	"	"	16.0	3.5		2.8	0.9	"
9	"	"	16.0	3.0		2.4	0.9	"
10	"	II号窯床面直上	15.6					"
11	"	I-4区灰層	12.6	3.8				"
12	"	"	13.6	3.3		3.0	1.0	"
13	"	"	14.2	2.3		2.6	1.4	"
14	"	I-5区灰層	14.0	4.3		2.4	1.3	"
15	"	I-4区灰層	14.2	3.3		2.6	0.9	"
16	"	H-4区灰層	14.6	3.8		2.8	0.9	"
17	"	I-4区灰層	15.4	3.9		2.9	1.0	"
18	"	"	15.0	3.8		2.8	0.8	"
19	"	"	14.8	3.7		2.4	0.7	"
20	"	"	15.2	2.6		2.9	1.3	"
21	"	"	15.6	3.0		2.5	0.8	"
22	"	"	15.8	2.7		3.0	1.4	"
23	"	"	15.4	3.1		2.4	0.7	"
24	"	H-4区灰層	16.0	3.8		2.6	1.0	"
25	"	"	16.0	3.3		3.0	1.3	"
26	"	I-5区灰層	16.2	3.2		2.4	1.1	"
27	"	I-3土坑埋土層	16.2	3.1		2.9	1.1	"
28	"	H-4区灰層	16.4	3.6		2.7	1.0	"
29	"	I-4区灰層	16.8	3.8		3.1	1.2	"
30	"	I-5区灰層	16.4	3.4		2.9	1.2	"
31	"	I号窯前提部埋土層	16.0	3.9		3.0	1.1	"
32	"	I-5区灰層	16.6	2.5		3.4	0.7	"
33	"	I-4区灰層	16.6	2.1		2.7	1.1	I号窯に伴う
34	"	I号窯前提部埋土層	17.4	4.2		2.6	1.0	"
35	"	H-4区灰層	15.0	3.2		3.4	0.6	"
36	"	III号窯埋土層	14.6	3.4		2.6	0.7	II号窯に伴う
37	"	"	15.2	3.0		3.0	1.0	"
38	坏蓋	IV号窯床面直上	17.0	4.1		3.3	0.7	
39	"	IV号窯前提部	15.8	4.2		3.0	1.0	
40	"	"	16.4	3.8		2.7	0.9	
41	"	IV号窯埋土層	15.4	4.1		2.6	0.8	
42	"	"	16.2	3.1		2.8	0.9	
43	"	"	15.6	4.4		3.5	0.7	
44	"	"	15.4	4.8		3.2	0.9	
45	"	"	16.6	3.1		2.9	0.9	
46	"	"	16.4	4.0		2.6	1.1	
47	"	"	16.6	4.4		3.1	0.7	
48	"	"	16.8	3.3		3.2	0.7	
49	"	"	16.6	4.3		2.8	1.3	
50	"	"	16.2	4.4		3.1	0.6	
51	"	"	16.0	4.2		3.3	0.8	
52	"	"	16.6	2.9		3.3	0.7	
53	"	"	17.8	4.5		2.7	0.9	
54	"	F-3土坑埋土層	14.4	4.2		3.1	0.9	
55	"	"	14.6	3.8		2.9	0.9	III号窯に伴う
56	"	"	14.8	3.3		3.2	0.8	"
57	"	"	15.0	3.4		3.3	0.7	"
58	"	"	15.2	3.8		2.7	0.9	"
59	"	"	15.2	3.5		3.1	0.8	"
60	"	"	15.6	2.7		2.8	0.8	"
61	"	"	15.7	4.3		2.4	0.9	"
62	"	"	15.8	4.0		3.6	1.2	"
63	"	"	15.6	3.6		2.7	0.8	"
64	"	"	16.0	3.8		3.1	1.1	"
65	"	D-3土坑埋土層	16.0	2.9		3.2	1.0	III号窯に伴う
66	"	F-3土坑埋土層	16.2	3.5		3.4	1.0	"
67	"	"	16.4	3.5		2.8	0.9	III号窯に伴う
68	"	"	16.2	3.4		2.9	0.9	"
69	"	"	16.0	3.4		3.3	0.9	"
70	"	"	16.8	4.3		2.7	0.9	"
71	"	"	16.8	3.6		3.4	0.8	III号窯に伴う
72	"	V号窯埋土層	15.2	3.5		3.1	0.6	
73	"	V号窯2次床面直上	15.6	4.1		3.1	0.9	
74	"	V号窯埋土層	15.4	4.2		3.5	0.8	
						3.7	0.8	

表15 東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(2)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
75	坏蓋	F-3土坑埋土層	14.2	4.4		3.6	0.9	V号窯に伴う
76	"	"	15.4	3.6		3.4	0.6	"
77	"	"	15.4	3.2		3.5	0.9	"
78	"	"	15.6	3.3		3.3	0.9	"
79	"	"	15.8	3.2		3.3	0.7	"
80	"	"	16.2	4.2		3.5	0.9	"
81	"	"	16.6	3.1		3.7	0.8	"
82	"	"	16.6	4.0		3.4	0.9	"
83	"	D-3土坑埋土層	14.0	3.4		3.3	1.0	"
84	"	F-3土坑埋土層	14.6	3.3		3.4	0.8	"
85	"	D-3土坑埋土層	14.4	3.4		2.6	1.1	"
86	"	"	14.6	3.3		2.7	0.7	"
87	"	"	14.6	3.5		3.3	0.7	"
88	"	"	15.2	2.9		3.1	0.8	"
89	"	"	15.2	3.8		3.3	1.2	"
90	"	"	15.4	4.0		3.2	0.9	"
91	"	"	15.2	4.1		3.1	1.0	"
92	"	"	15.6	2.9		3.3	1.1	"
93	"	"	15.8	3.7		3.4	0.8	"
94	"	"	16.0	3.0		3.8	0.9	"
95	"	"	15.6	4.1		3.6	0.9	"
96	"	"	16.0	3.9		3.3	1.1	"
97	"	"	15.6	3.1		3.9	0.8	"
98	"	"	16.0	4.5		3.3	1.0	"
99	"	"	16.0	3.5		3.4	1.1	"
100	"	"	16.2	3.1		3.2	0.8	"
101	"	"	16.2	3.5		3.3	0.9	"
102	"	"	16.2	4.4		3.4	0.9	"
103	"	"	16.5	2.7		2.9	0.9	"
104	"	"	16.6	3.4		3.6	1.0	"
105	"	"	16.0	2.6		3.0	0.5	"
106	"	"	16.6	4.7		3.4	1.0	"
107	"	"	16.6	3.7		3.1	1.0	"
108	"	"	17.0	4.4		3.2	0.9	"
109	"	"	17.0	3.4		2.8	1.0	"
110	"	VI号窯埋土層	15.4	2.8		3.1	1.0	"
111	"	VI号窯床面直上	13.2	3.4		2.1	1.2	"
112	"	VI号窯埋土層	14.6	—		—	—	"
113	"	VI号窯床面直上	14.8	—		—	—	"
114	"	"	14.6	2.9		2.3	1.0	"
115	"	"	15.2	3.1		2.5	1.0	"
116	"	"	15.0	3.5		2.5	0.9	"
117	"	"	14.6	3.8		2.4	1.0	"
118	"	"	17.8	—		—	—	"
119	"	"	17.6	—		—	—	"
120	"	"	18.4	3.8		2.8	1.4	"
121	"	"	18.0	—		—	—	"
122	"	"	18.4	4.2		2.4	1.8	"
123	"	VII号窯前部埋土層	13.5	3.7		2.2	1.0	"
124	"	"	14.6	3.2		2.3	1.1	"
125	"	"	14.6	2.9		2.6	0.9	"
126	"	"	15.0	3.5		2.2	0.9	"
127	"	"	15.4	3.5		2.2	0.7	"
128	"	VII号窯灰層	13.0	3.1		2.1	1.1	"
129	"	"	13.6	3.9		2.6	0.9	"
130	"	"	13.8	3.9		2.3	0.9	"
131	"	"	14.2	3.7		2.4	1.1	"
132	"	"	14.6	1.6		2.0	1.0	"
133	"	"	14.0	3.2		2.2	1.0	"
134	"	"	14.6	3.8		2.2	1.3	"
135	"	"	13.8	2.6		2.6	0.9	"
136	"	"	14.2	4.1		2.4	1.1	"
137	"	"	14.2	2.8		2.2	0.9	"
138	"	"	14.4	4.0		2.6	1.1	"
139	"	"	14.5	3.3		2.5	0.9	"
140	"	"	13.6	4.2		2.3	0.8	"
141	"	"	14.4	3.6		2.3	0.9	"
142	"	"	14.4	3.7		2.3	1.0	"
143	"	"	14.4	3.0		1.9	0.7	"
144	"	"	14.7	3.6		2.3	1.0	"
145	"	"	14.5	4.1		2.4	0.9	"
146	"	"	14.8	3.2		2.0	0.9	"
147	"	"	15.0	3.7		2.7	1.0	"
148	"	"	15.0	3.9		2.4	1.0	"

No
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222

表16 東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(3)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
149	坏蓋	Ⅶ号窯灰層	14.6	4.8				
150	"	"	15.2	3.9		2.3	1.1	
151	"	"	14.8	3.1		1.9	1.0	
152	"	"	16.0	3.8		2.0	0.8	
153	"	"	17.0	6.9		2.7	1.1	
154	"	"	18.0	4.2		2.4	2.0	
155	"	"	18.0	6.0		1.3	2.2	
156	"	"	18.4	4.1		2.4	1.5	
157	"	"	20.0	4.9		2.2	1.6	
158	"	"	20.0	4.5		2.6	1.2	
159	蓋付有台坏身	I号窯前提埋土層	12.7	3.8	9.4	2.2	1.4	
160	"	"	13.0	4.7	9.6			
161	"	"	14.0	4.1	8.4			
162	"	"	14.9	3.3	10.4			
163	"	I号窯埋土層	13.9	3.5	9.4			
164	"	"	15.0	4.0	11.4			
165	"	"	14.8	4.3	10.8			
166	"	I-3土坑埋土層	13.8	3.8	9.8			
167	"	"	14.1	3.2	10.2			
168	"	"	14.5	3.0	10.0			
169	"	"	14.4	4.1	11.0			
170	"	"	15.0	3.7	9.4			
171	"	Ⅱ号窯床面直上	13.6	4.3	10.4			
172	"	"	14.0	4.3	9.8			
173	"	Ⅱ号窯埋土層	13.6	4.7	9.6			
174	"	"	13.8	4.0	8.4			
175	"	"	14.0	3.8	10.0			
176	"	H-4区灰層	12.7	4.0	11.4			
177	"	"	11.8	3.4	8.8			
178	"	I-4区灰層	12.0	3.5	9.4			
179	"	"	12.7	3.4	9.1			
180	"	I-5区灰層	13.6	3.9	10.0			
181	"	H-4区灰層	13.4	4.2	10.1			I号窯に伴う
182	"	I-4区灰層	13.8	3.9	10.1			
183	"	"	13.8	3.8	10.8			
184	"	"	14.0	3.7	9.8			
185	"	"	14.2	3.7	9.8			
186	"	"	14.2	3.6	11.0			
187	"	"	14.3	4.4	10.6			
188	"	I-4, 5区灰層	14.4	3.7	10.2			
189	"	H-4区灰層	14.4	3.6	10.0			
190	"	I-5区灰層	14.4	3.8	10.2			
191	"	"	14.4	4.3	10.0			
192	"	I-4区灰層	14.7	4.0	10.1			
193	"	H-3区灰層	14.4	3.8	10.5			
194	"	H-5区灰層	14.6	4.1	9.8			I号窯に伴う
195	"	H-4区灰層	14.9	4.2				
196	"	H-5, I-4区灰層	14.8	4.2	10.8			
197	"	H-4区灰層	14.8	4.2	11.1			
198	"	I-4区灰層	15.0	3.8	11.4			
199	"	I-5区灰層	15.0	4.6	9.7			
200	"	H-4区灰層	15.0	3.8	11.0			
201	"	"	15.8	4.0	11.0			
202	"	I-4区灰層	15.8	6.0	12.0			
203	"	H-5区灰層	17.0	4.5	12.3			
204	"	Ⅱ号窯灰層	13.6	3.9	10.8			
205	"	H-5区灰層	15.0	4.3	10.4			
206	"	"	15.6	4.1	10.4			
207	"	Ⅳ号窯埋土層	13.8	3.8	9.8			
208	"	D-3土坑埋土層	13.8	3.9	9.6			
209	"	Ⅳ号窯埋土層	13.3	3.9	9.4			
210	"	"	15.0	4.9	10.2			V号窯に伴う
211	"	"	15.4	4.1	10.8			
212	"	"	15.5	4.6	10.4			
213	"	Ⅳ号窯床面直上	15.6	4.3	10.8			
214	"	V号窯2次床面直上	14.2	4.1	9.7			
215	"	V号窯埋土層	15.1	5.0	9.4			
216	"	D-3土坑埋土層	12.7	3.9	9.1			V号窯に伴う
217	"	"	13.6	4.7	8.2			
218	"	"	13.6	4.5	8.4			
219	"	"	14.0	4.2	8.4			
220	"	"	14.8	4.6	10.2			
221	"	"	14.8	4.2	10.8			
222	"	"	15.4	4.2	10.2			

表17 東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(4)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
223	蓋付有台坏身	F-3土坑埋土層	14.0	4.1	8.8			V号窯に伴う
224	"	D-3土坑埋土層	12.4	4.2	10.0			"
225	蓋付無台平底坏身	F-3土坑埋土層	14.0	3.9	9.6			"
226	"	"	16.4	4.3	11.4			V号窯に伴う
227	"	"						重ね焼き
228	"	VII号窯床面直上	12.8		8.9			
229	"	"	13.0	3.1	9.4			
230	"	"	13.4	4.7	10.8			
231	"	"	13.4	3.6	10.0			
232	"	"	13.2	3.4	11.0			
233	"	"	13.4	4.1	9.6			
234	"	VII号窯床面直上	14.0	4.6	10.0			
235	"	VII号窯前提部埋土層	12.9	3.7	9.6			
236	"	VII号窯灰層	11.8	3.6	9.4			
237	"	"	11.6	4.1	9.4			
238	"	"	12.2					
239	"	"	12.4	3.6	9.6			
240	"	"	12.6	4.3	9.4			
241	"	"	13.0	4.7	10.0			
242	"	"	13.1	3.6	9.2			
243	"	"	13.1	3.7	10.2			
244	"	"	13.2	3.8	9.6			
245	"	"	13.2	4.0	11.0			
246	"	"	13.3	3.7	7.5			
247	"	"	13.2	4.1	10.8			
248	"	"	13.7	3.7	9.6			
249	"	IV号窯床面直上	15.6	4.3	11.1			
250	"	VII号窯灰層	13.5	3.5	10.0			
251	"	"	13.5	3.4	10.4			
252	"	"	13.4	3.2	10.4			
253	"	"	13.4	3.8	11.2			
254	"	"	13.7	4.6	10.1			
255	"	"	13.6	3.5	10.0			
256	"	"	13.5	3.7	9.7			
257	"	"	13.9	3.8	13.9			
258	"	"	13.8	4.5	12.2			
259	"	"	13.6	4.5	10.2			
260	"	"	13.8	3.6	9.6			
261	"	"	14.0	3.9	10.4			
262	"	"	14.4	3.6	10.0			
263	"	"	14.2	3.5	11.6			
264	"	"	15.3	5.1	11.2			
265	"	"	16.0	4.0	12.4			
266	"	"	16.9	5.9	13.2			
267	"	"	16.8	5.5	13.3			
268	坏	I号窯埋土層						
269	"	"	13.6	4.0				
270	"	"	13.6	3.7				
271	"	H-4, 5区灰層	13.5	3.7				
272	"	H, 1-5区灰層	13.8	3.8				
273	"	H-4区灰層	14.0	3.8				
274	"	"	14.0	4.3				
275	"	H-5区灰層	14.0	4.6				
276	"	I-4区灰層	14.2	4.9				I号窯に伴う
277	"	"	15.2	4.1				"
278	"	"	15.2	4.6				"
279	"	"	15.2	4.6				"
280	"	I-3土坑埋土層	14.2	4.9				
281	"	I-5区灰層	13.6	3.7				
282	"	I-3土坑埋土層	14.4	3.9				
283	"	III号窯埋土層	15.0	3.9				
284	"	IV号窯埋土層	14.2	4.7				
285	"	I-4区灰層	13.5	3.8				
286	"	V号窯埋土層	15.0	4.5				
287	"	"	18.0	3.9				
288	"	D-3土坑埋土層	13.8	4.6				
289	"	VII号窯床面直上	13.2	4.9				
290	"	VII号窯灰層	12.4	3.9				
291	"	F-3土坑埋土層	14.2	3.8	9.0			IV号窯に伴う
292	"	VII号窯灰層	13.5	4.4				
293	"	"	14.7	4.0				
294	"	D-3土坑埋土層	9.0	6.4	6.4			
295	"	"	9.6	4.4	6.8			IV号窯に伴う
296	"	"	10.1	3.9	6.6			"

No
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344

No
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21

表18 東笠子第44地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(5)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
297	坏	D-3土坑埋土層	11.0	4.0	6.2			
298	陶鉢	VII号窯埋土層	4.3	12.0				IV号窯に伴う
299	"	VI号窯前提部埋土層	3.3	8.3				131g
300	"	VII号窯灰層	3.8	7.3				51g
301	"	"	3.3	8.3				76g
302	陶馬	I-4区灰層						78g
303	ワ	"	14.0	3.7	10.6			I号窯に伴う
304	"	H-4区灰層	14.4	3.7	10.2			
305	"	I-5区灰層	14.8	3.4	10.6			
306	"	"	15.3	3.5	11.0			
307	"	VII号窯灰層	16.4	5.7	11.4			
308	蓋	"	18.8	3.4				
309	皿	VII号窯前提部埋土層	18.1	2.7	9.0			
310	"	VII号窯灰層	18.0	1.7	8.2			
311	"	I-4, 5区 H-4区灰層	21.2					
312	壺蓋	I-4区灰層	17.0	5.8				
313	"	VII号窯灰層				3.6	1.5	I号窯に伴う
314	"	"				2.3	1.3	5穴あり
315	"	"	13.9					
316	皿	VII号窯灰層	11.6					
317	"	"						
318	"	"	24.9	4.3	15.8			
319	平瓶	I-4区灰層	25.7	3.8	17.6			
320	"	"	5.3	7.1	5.8			
321	"	"	5.2	7.7	6.0			
322	壺	H-4区灰層	6.5	7.8	7.4			II号窯に伴う
323	"	I-3土坑埋土層	10.6					
324	"	D-3土坑埋土層	9.8					V号窯に伴う
325	"	H, I-4区灰層	13.4					
326	鉢	H-5区灰層	20.6	8.2				
327	"	II号窯埋土層	20.6					
328	すり鉢	H-5区灰層	21.8					
329	長頸瓶	II号窯埋土層			7.6			
330	"	VII号窯灰層	6.3	4.8				
331	"	"	6.8	6.3				
332	"	F-3土坑埋土層, I号窯灰層	12.0	25.8	7.6			
333	"	"	10.6	12.5				
334	"	I号窯前提部埋土層					8.6	
335	"	"	7.9	22.9	7.8			
336	広口壺	IV, VII号窯埋土層						
337	"	I-4区灰層	18.4					
338	"	H-4区灰層	19.4					
339	甕	I号窯前提部埋土層	21.1	19.0	15.2			I号窯に伴う
340	"	H-4区灰層	18.4					
341	大甕	VII号窯灰層	22.6					I号窯に伴う
342	"	F-3土坑埋土層						
343	"	F-3土坑 V号窯埋土層	40.0					V号窯に伴う
344	"	IV号窯床面直上	47.4					
	"	VII号窯灰層	50.4					

東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(1)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
1	坏蓋	I号窯床面直上	14.4	2.9		1.8	0.9	
2	"	"	14.4					
3	"	"	14.8					
4	"	"	17.5					
5	"	"	17.5					
6	"	"	17.6					
7	"	"	17.8					
8	"	"	18.4	4.6		2.3	1.8	
9	"	I号窯埋土層	14.0					
10	"	"	13.8	3.1		2.1	0.8	
11	"	"	13.6	3.0		2.3	1.1	
12	"	"	14.2	3.0		2.1	0.9	
13	"	"	14.4					
14	"	"	14.2	3.0		2.1	1.0	
15	"	"	14.4	4.0		2.5	1.0	
16	"	"	14.4	3.2		2.3	1.0	
17	"	"	14.6	2.9		2.3	0.9	
18	"	"	13.6	5.0		2.4	1.2	
19	"	"	13.4	4.6		2.9	1.0	
20	"	"	13.4	3.8		2.2	0.8	
21	"	"	13.7	3.5		2.2	0.9	

表19 東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(2)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
22	坏蓋	I号窯埋土層	14.4	2.6		2.1	1.0	
23	"	"	13.8	4.1		2.0	1.0	
24	"	"	14.2	3.4		2.0	1.0	
25	"	"	14.6	3.2		2.1	0.8	
26	"	"	17.6					
27	"	"	17.0	5.9		2.4	2.3	
28	"	"	17.8					
29	"	"	18.6	5.8		2.3	1.9	
30	"	"	18.8	4.4		2.2	1.6	
31	"	I号窯前堤部灰層	12.0	2.4		1.9	1.1	
32	"	"	12.0	3.5		2.3	0.8	
33	"	"	13.0	4.4		2.5	1.1	
34	"	"	13.9	3.1		2.4	1.0	
35	"	"	14.2	2.8		2.2	0.9	
36	"	"	14.4	2.7		2.1	0.9	
37	"	"	14.0	3.1		2.5	1.0	
38	"	"	13.6	4.3		2.5	1.1	
39	"	"	14.6	3.0		2.0	0.7	
40	"	"	14.0	3.1		2.0	0.7	
41	"	"	13.8	2.4		2.4	0.7	
42	"	"	14.5	3.7		2.4	0.9	
43	"	"	14.0	2.8		2.1	0.8	
44	"	"	14.8	2.5		1.9	0.7	
45	"	"	14.8	3.7		1.9	0.8	
46	"	"	14.8	2.1		2.3	0.9	
47	"	"	14.0	3.0		2.4	1.0	
48	"	"	14.0	3.0		2.6	0.7	
49	"	"	14.8	2.6		2.3	1.1	
50	"	"	14.4	2.9		2.4	0.7	
51	"	"	14.8	3.5		2.3	1.2	
52	"	"	14.6	3.0		2.5	0.8	
53	"	"	14.6	3.5		2.1	1.3	
54	"	"	15.4	2.5		2.0	1.2	
55	"	"	15.4	3.3		2.0	1.0	
56	"	"	17.4	5.3		2.5	1.9	
57	"	C-4区灰層	18.4					
58	"	II号窯床面直上	13.4	4.3		2.1	1.0	
59	"	"	14.4	4.0		2.2	1.0	
60	"	"	14.2	4.0		2.5	0.9	
61	"	II号窯埋土層	12.6	3.5		2.1	0.8	
62	"	"	12.8	3.7		1.9	1.0	
63	"	"	13.0	3.1		2.1	0.8	
64	"	"	13.2	3.2		2.0	0.9	
65	"	"	12.8	3.6		2.2	0.7	
66	"	"	14.0	3.8		2.3	1.0	
67	"	"	14.2	3.0		2.0	0.9	
68	"	"	14.0	4.8		2.4	1.1	
69	"	"	14.2	3.0		2.1	1.1	
70	"	I号窯埋土層	14.2	3.6		2.0	0.9	
71	"	II号窯埋土層	15.0	2.8		2.2	1.1	
72	"	"	15.2	3.0		2.3	1.0	
73	"	"	15.2	2.6		2.3	1.0	
74	"	C-3土坑灰層	14.2	2.8		2.3	1.1	
75	"	"	14.5	2.2		2.0	0.9	
76	"	"	15.2	3.0		2.5	1.1	
77	"	B-3区灰層	13.2	3.1		2.5	1.1	
78	"	"	13.8	3.1		2.0	1.2	
79	"	"	14.2	2.7		2.3	0.8	
80	"	"	14.6	2.4		2.2	0.8	
81	"	"	14.6	3.0		2.0	1.2	
82	"	"	14.8	2.4		2.2	0.9	
83	"	"	15.2	2.0		2.2	1.1	
84	"	"	14.8	3.1		2.3	1.1	
85	"	"	18.2	4.7		2.3	1.7	
84	坏蓋	B-3区灰層	14.8	3.1		2.3	1.1	
85	"	"	18.2	4.7		2.3	1.7	
86	"	"	14.2	4.2		2.5	1.0	
87	"	B-4区灰層	14.4	2.5		2.1	1.0	
88	"	"	14.8	3.8		2.5	1.0	
89	"	"	15.8	2.0		2.2	0.9	
90	"	B-5区灰層	13.2	2.8		2.2	0.7	
91	"	"	14.5	3.6		2.3	1.1	
92	"	"	14.2	4.5		2.3	1.0	
93	"	"	15.2	2.5		2.0	1.1	

表20 東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(3)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
94	坏蓋	B-5区灰層	14.5	5.1				
95	"	C-3区灰層	13.2	2.9		2.6	1.2	
96	"	"	13.2	3.5		2.4	0.6	
97	"	"	14.0	3.7		2.0	1.1	
98	"	"	13.8	3.9		2.1	1.0	
99	"	"	14.0	4.1		2.2	0.9	
100	"	"	13.8	3.5		2.5	0.9	
101	"	"	13.8	3.3		2.1	0.9	
102	"	"	13.6	4.6		2.2	0.8	
103	"	"	14.4	3.0		2.6	0.9	
104	"	"	13.8	3.4		2.1	1.0	
105	"	"	13.6	4.6		2.1	1.0	
106	"	"	14.2	5.2		2.0	0.8	
107	"	"	14.0	3.3		2.6	1.2	
108	"	"	14.4	3.1		2.5	0.8	
109	"	"	14.4	2.5		2.1	1.1	
110	"	"	14.6	3.1		2.0	1.1	
111	"	"	14.8	3.6		2.6	0.8	
112	"	"	14.6	2.9		2.5	1.3	
113	"	"	14.4	4.3		2.4	0.9	
114	"	"	15.0	3.6		2.5	1.2	
115	"	"	15.0	2.3		2.3	1.0	
116	"	"	14.8	3.3		2.3	1.0	
117	"	"	15.2	3.2		2.1	1.2	
118	"	C-6区灰層	15.2	2.6		2.3	1.0	
119	"	C-3区灰層	15.4	3.6		2.2	0.8	
120	"	C-4区灰層	13.8	2.4		2.4	0.8	
121	"	"	13.8	2.8		2.0	0.8	
122	"	"	13.6	4.0		2.6	0.8	
123	"	"	13.2	4.6		2.6	1.2	
124	"	"	13.6	3.8		2.1	1.1	
125	"	"	13.2	3.2		2.4	0.9	
126	"	"	13.5	2.4		2.5	1.1	
127	"	"	14.2	3.4		2.2	0.8	
128	"	"	14.5	3.5		2.3	0.9	
129	"	"	14.4	2.6		2.0	1.0	
130	"	"	15.0	2.9		2.4	0.9	
131	"	"	15.0	3.7		2.3	1.1	
132	"	"	19.2	3.7		2.0	1.1	
133	"	C-4区上部灰層	14.2	4.4		2.4	1.5	
134	"	"	14.8	3.7		2.5	1.1	
135	"	"	13.8	4.2		2.3	1.0	
136	"	"	12.0	5.0		2.2	1.0	
137	"	"	13.0	1.8		2.4	1.0	
138	"	"	14.0	3.8		1.7	1.0	
139	"	"	14.0	4.3		2.3	1.0	
140	"	"	14.5	3.1		2.0	1.2	
141	"	B-3区灰層	15.2	2.7		1.8	0.9	
142	"	C-3土坑内灰層	18.0	4.0		2.3	1.0	
143	"	C-4区下部灰層	18.4			2.4	1.5	
144	"	C-5区灰層	13.2	3.1				
145	"	"	13.4	3.6		2.3	1.1	
146	"	"	13.2	4.0		2.0	1.0	
147	"	"	13.2	3.2		2.6	0.9	
148	"	"	14.2	2.5		2.3	0.9	
149	"	"	14.0	4.6		2.3	0.9	
150	"	"	13.8	3.1		2.6	0.8	
151	坏蓋	"	14.0	2.7		2.2	0.9	
152	"	"	13.8	4.0		2.0	0.7	
153	"	"	14.0	2.0		2.3	1.1	
154	"	"	14.4	2.9		2.1	0.9	
155	"	"	14.4	2.0		2.2	1.0	
156	"	"	14.2	4.7		2.1	0.9	
157	"	"	14.6	2.7		2.3	1.1	
158	"	"	14.8	3.1		2.2	1.1	
159	坏蓋	C-5区灰層	14.8	3.4		2.2	0.9	
160	"	"	15.0	2.3		2.1	1.1	
161	"	"	15.6	3.2		2.1	1.0	
162	"	"	18.0	2.7		1.9	1.0	
163	"	C-6区灰層	13.6	4.1		2.0	1.3	
164	"	"	13.5	3.0		2.2	0.9	
165	"	"	13.8	2.9		2.0	1.0	
166	"	"	13.2	5.1		2.1	1.0	
167	"	C-3区灰層	14.0	4.1		2.5	1.1	
						2.5	0.8	

表21 東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(4)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
168	坏蓋	C-6区灰層	14.2	3.7		2.1	0.7	
169	"	"	14.2	2.7		2.4	0.8	
170	"	D-4区灰層	13.0	4.3		2.5	1.1	
171	"	"	14.0	3.0		2.1	0.9	
172	"	"	14.6	3.0		2.3	0.9	
173	"	"	17.6	5.0		2.3	1.5	
174	"	"	14.2	3.2		2.5	1.1	
175	"	D-6区灰層	14.0	2.6		1.9	0.8	
176	蓋付有台坏身	II号窯埋土層	12.2	4.0	8.8			
177	蓋付無台平底坏身	I号窯床面直上	13.6	3.6	10.8			
178	"	"	14.0	4.4	11.4			
179	"	"	14.2	4.1	12.0			
180	"	"	17.6	5.8	13.5			
181	"	I号窯前提部灰層	12.4	—	—			
182	"	"	12.8	3.5	9.0			
183	"	"	13.6	3.8	11.6			
184	"	"	13.6	3.6	11.2			
185	"	"	14.2	3.6	11.0			
186	"	"	15.0	3.7	9.2			
187	"	I号窯埋土層	14.0	4.2	11.2			
188	"	"	13.2	3.2	10.1			
189	"	II号窯2次床面直上	12.8	3.4	9.4			
190	"	"	12.0	—	—			
191	"	"	13.8	4.0	12.0			
192	"	"	14.0	—	—			
193	"	II号窯床面直上	12.5	3.4	8.6			
194	"	"	13.5	3.4	10.2			
195	"	"	13.4	5.1	8.8			
196	"	II号窯埋土層	12.0	4.2	9.0			
197	"	"	12.6	3.5	10.1			
198	"	"	12.8	—	—			
199	"	"	13.3	4.7	9.6			
200	"	C-3土坑灰層	13.0	3.6	8.2			
201	"	"	13.0	3.7	10.0			
202	"	"	12.8	10.8	3.9			
203	"	"	13.1	10.2	4.2			
204	"	"	14.0	3.9	9.2			
205	"	C-3区灰層	13.4	4.1	10.6			
206	"	"	14.0	3.7	11.4			
207	"	"	14.6	4.1	11.4			
208	"	"	14.6	4.2	10.5			
209	"	C-4区灰層	17.2	—	—			
210	"	"	13.6	3.9	9.0			
211	"	"	15.8	—	—			
212	蓋付有台坏身	"	12.8	4.0	9.0			
213	蓋付無台平底坏身	C-4区上部灰層	13.2	3.4	10.4			
214	"	C-4区下部灰層	14.4	3.9	11.8			
215	"	C-5区灰層	16.8	4.5	9.2			
216	"	"	12.0	4.0	9.4			
217	"	"	13.0	4.3	9.6			
218	"	"	12.8	4.0	10.2			
219	"	"	12.8	3.6	10.4			
220	"	"	13.0	3.9	10.4			
221	"	"	14.0	3.8	11.0			
222	"	"	14.6	3.5	11.0			
223	"	"	15.0	—	—			
224	"	"	15.2	3.4	11.0			
225	"	"	16.2	—	—			
226	蓋付無台平底坏身	C-5区灰層	16.8	—	—			
227	蓋付有台坏身	C-6区灰層	14.6	4.1	10.4			
228	蓋付無台平底坏身	B-3区灰層	13.0	3.6	9.2			
229	"	"	13.3	4.5	11.2			
230	"	"	13.4	4.4	10.2			
231	"	"	17.4	—	—			
232	"	"	17.2	—	—			
233	"	B-4区灰層	14.0	3.5	12.2			
234	蓋付無台平底坏身	B-5区灰層	13.6	4.1	11.1			
235	"	"	13.5	3.5	10.6			
236	蓋付有台坏身	D-4区灰層	13.2	4.1	9.5			
237	蓋付無台平底坏身	"	13.4	4.0	10.4			
238	"	"	14.0	4.0	10.8			
239	"	"	14.0	3.5	11.0			
240	"	"	15.0	3.7	11.4			
241	"	"	17.4	6.0	14.0			

表22 東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(5)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
242	重ね焼き	D-4区灰層	—	—	—	—	—	
243	"	"	—	—	—	—	—	
244	坏	I号窯埋土層	—	—	—	—	—	
245	蓋付無台平底坏身	C-5区灰層	13.8	—	—	—	—	
246	坏	II号窯埋土層	14.7	4.6	7.1	—	—	
247	"	C-3土坑灰層	13.8	3.7	10.8	—	—	
248	"	B-3区灰層	10.8	4.1	9.2	—	—	
249	"	C-3区灰層	14.2	4.4	—	—	—	
250	"	C-4区灰層	14.1	4.0	—	—	—	
251	"	C-4区灰層	13.1	3.4	—	—	—	
252	"	II号窯床面直上	13.8	4.6	6.2	—	—	糸切り底
253	"	"	13.8	4.0	7.0	—	—	
254	"	II号窯埋土層	11.6	4.2	5.4	—	—	糸切り底
255	"	"	—	—	—	—	—	"
256	"	"	—	—	—	—	—	"
257	高坏	I号窯埋土層	—	—	—	—	—	
258	"	C-6区灰層	—	—	8.2	—	—	
259	"	I号窯前提部灰層	—	—	11.0	—	—	
260	ワン蓋	"	15.2	—	—	—	—	
261	"	D-4区灰層	14.6	—	—	—	—	
262	"	C-3区灰層	13.2	3.5	11.2	—	—	
263	"	I号窯埋土層	15.2	—	—	—	—	
264	ワン	I号窯埋土層	17.0	—	—	—	—	
265	"	I号窯前提部灰層	16.4	—	—	—	—	
266	"	I号窯床面直上	17.8	—	—	—	—	
267	皿	II号窯埋土層	15.6	1.6	—	—	—	
268	"	C-4区灰層	15.2	—	—	—	—	
269	"	II号窯埋土層	15.4	2.1	—	—	—	
270	"	"	15.8	2.1	—	—	—	
271	"	"	16.0	2.0	—	—	—	
272	"	"	16.2	2.6	10.0	—	—	
273	"	C-5区灰層	18.0	2.3	—	—	—	
274	"	C-3区灰層	18.2	2.2	—	—	—	
275	台付皿	I号窯埋土層	18.8	2.7	10.0	—	—	
276	皿蓋	II号窯床面直上	21.6	—	—	—	—	
277	欠番	I号窯埋土層	23.4	4.2	—	2.2	1.5	
278	皿蓋	C-5区灰層	25.2	—	—	—	—	
279	"	I号窯床面直上, 埋土層	24.6	—	—	—	—	
280	皿	B-4区灰層	—	—	12.8	—	—	
281	"	C-5区灰層	21.4	4.3	12.8	—	—	
282	"	C-4区灰層	—	—	17.4	—	—	
283	壺蓋	D-4区灰層	19.8	—	—	—	—	
284	"	B-3区灰層	16.4	—	—	—	—	
285	"	C-5区灰層	14.0	4.5	—	2.6	2.0	
286	"	B-3区灰層	12.0	—	—	—	—	
287	"	C-4区灰層	11.6	4.0	—	2.0	1.3	
288	"	C-4区下部灰層	11.6	—	—	—	—	
289	蓋付壺	C-4, 5区灰層	9.1	—	—	—	—	
290	長頸瓶	B-4区灰層	8.0	8.2	—	—	—	
291	"	C-5区灰層	9.6	9.9	—	—	—	
292	"	C-3土坑, B-3区灰層	9.0	—	—	—	—	
293	"	I号窯前提部, C-4区灰層	—	—	—	9.6	—	
294	"	C-4区灰層	—	—	—	12.4	—	
295	広口壺	B, C-5区灰層	13.8	9.5	—	—	—	
296	"	C-3, 5区灰層	—	—	15.3	—	—	
297	"	B-4, C-4区灰層	16.6	19.6	11.6	—	—	
298	陶硯	I号窯前提部, B-4, C-3区灰層	15.2	9.8	18.8	—	—	
299	陶鉢	D-4区灰層	3.3	8.0	—	—	—	
300	"	II号窯2次床面直上	3.4	8.2	—	—	—	79g
301	"	"	3.2	7.9	—	—	—	101g
302	"	"	3.4	7.0	—	—	—	88g
303	"	"	3.2	—	—	—	—	90g
304	陶馬	B-3区灰層	—	—	—	—	—	
305	"	I号窯前提部灰層	—	—	—	—	—	
306	獸脚	"	—	—	—	—	—	
307	壺	D-4区灰層	10.8	—	—	—	—	
308	"	"	13.6	—	—	—	—	
309	"	C-3土坑灰層	14.2	23.3	—	—	—	
310	甗	C-3, 4区灰層	19.4	—	—	—	—	
311	"	C-5, D-4区灰層	21.0	—	—	—	—	
312	"	D-4区灰層	21.4	—	—	—	—	
313	"	C-3区灰層	22.0	—	—	—	—	
314	"	C-4区灰層	22.6	—	—	—	—	
315	"	II号窯埋土層	23.6	—	—	—	—	

表23 東笠子第43地点古窯跡出土遺物法量値一覽表(6)

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鈕径	鈕高	備考
316	甕	B-3, C-6区灰層	18.4	—	—			
317	"	D-4区灰層	28.0	—	—			

## 8. 湖西市内の埴輪

### (1)はじめに

近年、埴輪の研究が著しく進展してきた。それは、埴輪が墳丘や外堤で容易に採集されることから、古墳が未調査であっても、その古墳の年代を決めることができるからである。各地で行われている古墳の編年的研究において、その編年基準を埴輪の編年に負う所が大きい。

全国的視野に立って、埴輪の編年を行ったのは、春成秀爾氏（春成1977）や川西宏幸（川西1978）である。精緻に行われた川西氏の編年ではあるが、強い地域色が存在するなど、必ずしも氏が予想したような型式変化が見られない地方地域もある。また須恵器技術が導入されてからは、特に工人の移動、他系統の工人との接触交流などにより、地域色はより一層複雑となっているようにも思われる。

東海地方では、赤塚次郎氏が尾張を中心に、1991年に「尾張型埴輪について」『池下古墳』、1992年に「東海」『古墳時代の研究9古墳3. 埴輪』（赤塚1991・1992）と題して埴輪を系統的にまとめている。

筆者も静岡県西部の遠江を中心に、窯窯焼成導入後の埴輪について、系統的に整理を行い、また、底部に段をもつ「淡輪系埴輪」と呼ばれる円筒埴輪について、遠江の他、伊勢・伊賀の例についても紹介してきた（鈴木1990・1991）。

筆者は遠江の淡輪系埴輪をまとめている時に、ちょうど今回報告される峠場古窯跡出土例を見せていただいた。遠江の淡輪系埴輪の編年を考えるのに、須恵器との共伴がはっきりしているだけに、本例はその定点となる資料として重要な位置を占めるものと思われた。

今回、湖西市教育委員会の御好意により、再び埴輪についてまとめる機会が与えられた。そこで、今まであまり公になっていない湖西市内に存在する埴輪について紹介し、次に峠場古窯出土の淡輪系埴輪について、その編年的位置を明らかにしたい。

### (2)湖西市内の埴輪の概要

現在湖西市内では、埴輪の出土が知られている遺跡は、古墳では、一の宮古墳、一の宮南古墳、御経塚北古墳、利木古墳の4基、古窯では明通り古窯と峠場古窯の2遺跡で、合計6遺跡である。ではさっそく紹介していこう。

#### ①湖西市一の宮古墳（第90～96図）

浜名湖の南西部に存在する古墳であり、浜名湖に注ぐ一の宮川を見降ろす丘陵上に存在する。この地域には、大きな平野はなく、小河川により開析された小規模な谷底平野が形成されているに過ぎない。この古墳の眼下にもこうした小規模な平野が南北に延びている。

発掘調査は、芳賀陽氏らにより、自費で行われたが、報告書はまだ出されていない。すでに墳丘は削平されていたため、墳裾の一部が確認されたにすぎない。それでも墳裾がくびれていることから、円墳ではなく、帆立貝形古墳もしくは前方後円墳であることが推定される。後円

部は直径が10m前後で、全長はせいぜい15~20m程度の古墳であったと推定される。

主体部は、完全に削平されていたため、その構造および副葬品は不明である。ただし削平された盛土の中には、大きな石は全く見られず、また拳大の石もほとんど見られなかったことから、主体部は木棺直葬もしくは、木棺を被覆するためにわずかな粘土が用いられた程度の施設であったと推定される。さらに外部施設には埴輪のみで、葺石は存在しなかったと思われる。埴輪列も切れ間なく並べられていたのではなく、0.5~1mの間隔を置いて並べられていたようである。また明確な周溝は作られていなかった。

出土遺物には、埴輪の他に須恵器の坏身の口唇部が存在したが、現在は所在が分からない。TK23型式ではなかったかと記憶しているが、自分に都合良く解釈している可能性もある。埴輪には、円筒埴輪と、形象埴輪として人物形と馬形が存在する。朝顔形埴輪の存在は明確ではない。

全形は、ほとんど規格化されたものであり、口径31~34.5cm(平均33.5cm)、高さ36.5~38.5cm(平均38cm)、底径19.5~21cm(平均20cm)の量をもつ。また断面M字形の突帯は2段で、突帯間に円形の透かしが1対存在するものである。第1突帯(下から数えて最初の突帯)の所で一度乾燥させており、成形、調整は、2工程で行われている。

調整も極めて規格化されている。外面調整は櫛目状の細かな刷毛で、一次調整タテハケ、二次調整回転ヨコハケ(C種ヨコハケ=川西1978)が行われている。ヨコハケは、口縁部で2回転、突帯で1回転、基部では第1突帯に接して1回転行われる。なおヨコハケを底部ぎりぎりまで施すものも存在する(12,13)。これは形象埴輪の基部もしくは朝顔形埴輪の可能性もある。また櫛目状の細かな刷毛ではなく、通常のハケ工具を用いたものも少数存在する(7,8)。

内面調整は、第1突帯の所でヨコハケを加え、さらに底部からナデ上げを行っている。底部内面はヨコナデが施されている。上段はヨコハケを3~4回転施している。

底部は、すべて段状になっている。この段の一部には、刻目状の圧痕が存在する。

器壁はやや厚目であり、底部では少し肥厚する。4のようにおおきく底部を肥厚させるのは例外的である。9~11は明赤色で、調整も他の円筒埴輪と異なっている。これらは朝顔形埴輪の可能性が高く、12や13のような底部を有していたのかもしれない。

円筒埴輪の焼成は大半が須恵質であるが、一部土師器的なものも存在する。しかしすべて無黒班であり、窯窯焼成によるものである。ただし須恵質ではあるが、器表面だけが黄赤色を呈するものであり、焼成の最終段階に、酸化炭焼成を行ったものと考えられる。これは、本来埴輪は、赤いものであるとする考えが存在したために、故意に行われたものと推定される。

形象埴輪は15~23に示している。15は人物形埴輪の巫女の背中部分で、着衣の左裾部であろう。襷掛けと帯びを突帯で表現している。16~18は人物形埴輪の腕であろう。19は頭部の破片で、円環状の突帯は耳を表現したものかもしれない。

20~23は馬形埴輪である。20は尾であり、21~23は鞍の破片である。ただし21はたてがみの可能性もあろう。

形象埴輪の焼成、色調は9～11と同じように明赤色で、軟質である。円筒埴輪のように完全に須恵質をしたものは存在しなかった。

14は円筒埴輪と共に出土した土師器の甕形土器である。やや長胴化した胴部に、安定の悪い平底の底部を有している。口縁部はくの字形に折れ、外面調整はタテ板ナデである。24は土師器の高坏である。風化がかなり進んでいる。甕も高坏も、TK23型式の時期と考えて矛盾はなさそうである。

### ②一の宮南古墳（第97図）

一の宮古墳の存在する丘陵から、小さな谷を1つ挟んで、南側に位置する古墳である。一の宮古墳とは直線距離にして100m位である。峠場古窯とは、500m弱離れて、一の宮の谷を挟んで対峙する。

古墳は、北側がミカン畑の開墾により、南側が宅地により大破している。この古墳は、埴輪が採集されるまで周知されていなかったものである。採集された埴輪は、第97図1～3に示している円筒埴輪の細片のみである。いずれも黄赤色で土師器的ではあるが、無黒斑であり、窖窯焼成によるものである。外面調整は一次がタテハケで、二次がC種ヨコハケである。内面はヨコハケが見られる以外は、ナデのようである。突帯は比較的高い台形である。透かしは円形と考えられるが、その部分の破片はない。底部の破片はなく、形態は不明である。

これだけの資料では、一の宮古墳や峠場古窯の埴輪を比較することはむづかしいが、突帯を見る限りでは、2者のものより先行する可能性がある。実年代では5世紀後半であり、6世紀代に降るものではないと思われる。

### ③明通り古窯（第98図）

一の宮川に面した丘陵斜面に存在する。峠場古窯や一の宮南古墳から上流（南）へ1kmほどの所に位置する。古窯本体はミカン畑の造成により破壊され、現状ではどこに存在したのかも分からない状態である。造成中に採集されたものが湖西市教育委員会に保管されている。

埴輪は3点が確認されている。いずれも円筒埴輪である。復元的に図示したのが第98図8である。口縁部と底部の破片はない。

突帯は断面形がM字形をしたものであるが、何条存在したかは不明である。しかし遠江に存在する同じ淡輪系の埴輪が、いずれも2条突帯であることから、本例も2条と推定される。透かしは、その部分の破片がなく明らかではないが、年代から考えて、円孔であろう。

外面調整は一次タテハケ、二次ヨコハケである。基部では、第1突帯の破片の下にもヨコハケが加えられていることから、1条程度は存在した可能性が高い。基部内面にはタテ方向のナデが認められる。また第1突帯直下の内側にもヨコハケが見られる。この部分が乾燥単位であり、2工程で製作されたと考えられる。

一の宮古墳の埴輪と比べると、器壁が薄く、やや新しい傾向の埴輪である。

伴出須恵器は坏身と坏蓋である。これらの坏身・坏蓋の型式は、プロポジション、ケズリ調整の範囲、口唇部の処理の仕方から考えて、陶邑編年のTK23型式に位置付けられよう。言う

までもないが尾張の猿投系統の須恵器ではなく、陶邑系統の製品である。

#### ④御経塚北古墳（第97図）

豊橋市から繋がる天白原台地の東縁部に立地する。この古墳が存在する所からは笠子川流域の平野と浜名湖、そして遠景に富士山を臨むことができる。この場所には御経塚古墳と呼ばれている一辺15mの方墳が存在する。墳裾には周溝が巡らされており、周溝の外で、一辺20mほどの規模である。墳頂部の南側が大きく盗掘を受けているが、石材が見られないことから、横穴式石室ではなく、木棺直葬もしくは簡易な粘土槨を主体部とした中期の古墳と考えることができる。

御経塚北古墳は、御経塚古墳とは県道を隔てて30～50m北側に位置する。彦坂良平氏の「古代街道に関する一考察」（彦坂1963）に記載されている「御経塚古墳北方約50mの所に存在していた古墳」であったかもしれない。明治の末に取り崩され、古墳の面影は当時すでになかったと言うが、取り崩し作業にあたった人の話により、古墳であると推定されたと言う。彦坂氏の説によれば『遠江風土記伝』の遠江国塩見坂の二子塚は、御経塚古墳とこの古墳であったとする。

第97図に示した埴輪は、1984年の削土により出土したものである。4～7が円筒埴輪、8と9が形象埴輪である。4は口縁部に近い所の破片である。外面はタテハケ、内面はヨコハケで調整されている。5は突帯の部分であるが、突帯の大半は欠失している。外面はタテハケ、内面はヨコナデで調整されている。突帯の落ちた跡にもタテハケが見られる。6は外面にタテハケ、内面にヨコナデが施されている。7は外面にヨコハケ、内面にヨコナデが施されている。

8は人物形埴輪の手の破片である。先端部には指も表現されている。9は円筒部に突帯が付けられたものである。馬形埴輪に鞍の破片の可能性もある。埴輪の焼成はいずれも無黒斑であり、窖窯焼成である。焼き上がりは土師器的で黄色を呈し軟質である。胎土は須恵器と同様細かい。

10は須恵器の甕である。内面は同心円の叩きの後に、横位に板ナデされている。11も須恵器の甕もしくは壺の体部破片である。外面に格子目叩き、内面に同心円叩きが見られる。須恵器の甕10は7世紀以降の製品であり、古墳に伴うものなうものではないと考えられる。11は格子目叩きで内面に明瞭な同心円叩きをもつことから6世紀代の製品と推定される。しかし小片であり、年代を限定できるものではない。

古墳の築造年代は、埴輪が無黒斑であり、また人物形埴輪をもつことから、5世紀後半以降と言えらる。さらに7のように二次調整を欠くものが存在することから、古墳の築造は6世紀初め、須恵器の型式ではMT15型式頃まで降ると見た方がよいと思われる。

#### ⑤利木古墳（第99～100図）

浜名湖につき出た宇津山の北側は、松見ヶ浦と呼ばれている入江である。この松見ヶ浦の北岸は利木と呼ばれている。利木古墳がある所までは、小規模ながら谷部に平野は存在するが、これ以东では猪鼻瀬戸までまったく平野はなく、山裾が海岸線となっている。

利木古墳は、海岸線から100m弱の台地上にある。静岡県史(静岡県1930)によれば、1892年に土地を開墾した時に埴輪が多数出土し、大部分は東京帝室博物館へ提出されたと言う。またこの時にはすでに墳丘の形跡や石室は見られず、大きな岩石が付近に散在していたと言う。

東京国立博物館で保管されているものは、人物形埴輪が10体分、手の破片が2点、馬形埴輪の口部破片が1点、そして円筒埴輪が3点以上、朝顔形埴輪が1点以上である。人物形埴輪を、県史を基に説明していこう。

写真図版の人物形埴輪1は冑と短甲を着用した武人であり、高さが36.4cm存在する。胴部下半以下と右肩部を欠損している。胸部には短甲の豎上の部分、背中には押付板が表現されている。冑は鋳がついたものであり、衝角付冑を表現したもののようである。しかしかなり簡略化されており、断定はできない。また肩部にも肩鎧らしき表現がある。

人物形埴輪2は、頭部に鬘を施し、後頭部でこれを結んでいる。また腹部には太い帯を巻いている。手足を欠損している。この人物形埴輪は立像ではなく、あぐら座りをしていたようであり、男子像と考えられる。高さは43.1cmである。

人物形埴輪3は、2と同じように帯を締めており、類似するが、頭には何かをかぶっているようである。腰から下と手を欠く。高さ36.4cm存在する。

人物形埴輪4は島田髻を結び、両手を前に出して、物を捧げる様子の女子像である。肩から、打懸けた衣服の痕がある。高さは40cmである。

人物形埴輪の頭部破片は、5例が存在する。5~7と9の4例は、男女の別が不明なものである。8は島田髻が表現されていることから女子像である。

人物形埴輪10は、小型の壺を持つ手の破片である。リアルに作られている。高さは8.2cmである。

その他今回の写真図版には掲載していないが、武人の胴部下半部の破片が存在する。県史では723ページに写真が掲載されている。短甲をつけ、腰には草摺を着用している。また左側には大刀をつけていた痕跡がある。高さは44cmである。

形象埴輪には人物形埴輪以外には、馬形埴輪が確認されているだけである。それも全体形が分かるものではなく、東京国立博物館に口の部分が、湖西市教育委員会に剣菱形杏葉を表現した部分がそれぞれ存在する。

写真図版の円筒埴輪A・B・Cと朝顔形埴輪はいずれも東京国立博物館に所蔵されているものである。Aが実測図の1、Cが3、朝顔形埴輪が13である。円筒埴輪Bは実測していない。

円筒埴輪は2突帯で、突帯間に円孔透かしを2個もつものである。大きさや調整法などよく規格化されている。成形法で注目されるのは、第1突帯付近で、粘土紐の向きが逆転していることである。つまりある程度円筒状に積み上げた後に、天地も逆転させ、当初底部だった所から上へ、再び積み上げて行く技法が採用されている。これは倒立技法と呼ばれているもので、尾張を中心に存在する。倒立技法で作られているため、底部は口縁部と同じ形状を呈しており、粘土の自重で肥厚したり、歪んだりしたものはない。また当然、底部調整も不要であった。

外面調整は、例外なく一次調整がタテハケであり、二次調整がC種ヨコハケである。C種ヨコハケは、第1突帯以上（口縁部と突帯間）に施される。なお1の底部にあるヨコハケは、一次調整時のものである。内面調整は、風化が進んでいるため、はっきりしたものは少ない。1は突帯間の内側でヨコハケ、下半ではナデやオサエ、口縁部内面ではタテナデで調整されている。3は突帯間の内側にヨコハケが見られ、下半では板ナデ、上半ではタテハケが見られる。その他の多くはヨコナデやナデのようである。

突帯は比較的突出が大きく、断面台形を呈するものが多い。また、突帯の上を工具ナデするものが見られる。9はハケ工具で強くナデ調整しているために、突帯は扁平になっている。

朝顔形埴輪は、13と14の2例を図示している。13は円孔の透かしが、2段に互い違いに1対ずつ施されていることから、突帯は3段以上存在したと推定される。頸部にも突帯が施されている。外面調整は、一次調整がタテハケ、二次調整がC種ヨコハケである。頸部の直上は、ヨコハケは施されておらず、一次タテハケのみである。円筒部の内面はナナメハケが、頸部内面はヨコハケが施されている。

14は頸部破片である。頸部の突帯の上には一次タテハケが、内面にはヨコハケが見られる。

円筒埴輪も形象埴輪も、無黒斑であることから、焼成は窖窯焼成である。しかし黄赤色を呈し、軟質な土師器的なものが多い。反面、円筒埴輪には灰色を呈した完全に須恵質のものも少量認められた。

須恵器は現存しないが、浜松市博物館館長の向坂鋼二氏の話によると、1960年代に利木古墳が存在した所にあった小祠の中には、現在湖西市教育委員会で保管されている埴輪の他に須恵器の坏身の底部もしくは坏蓋の天井部が存在したと言う。その破片は器径の大きなものであり、当時遠江須恵器編年のII期に比定されるものと考えたと言うことであった。

埴輪の年代観と、向坂氏が記憶している須恵器の年代観（II期）とは矛盾するものではない。ただし武人が、短甲を着用していることから、埴輪の年代はもう少しさかのぼる可能性はある。

写真図版	県史P 425-426%	県史P 714~ 723写真%
人物埴輪 1	3	(五)
2	1	(三)
3	2	(二)
4	5	[一]
5	7~10	
6		
7		
8	5	
9	7~10	
10	11	
なし	4	(四)

(県史 = 『静岡県史』 1930年)

利木古墳出土人物形埴輪実測図と写真対比表

つまり当地方においても6世紀前半には、すでに短甲ではなく掛甲が普及していたからである。年代観は、須恵器のTK47型式～MT15型式頃と考えておくのが妥当であろう。

### (3) 技法的系譜関係について

埴輪の製作技法および焼成において須恵器技法が、導入されるのは、5世紀後半(TK216～208型式の頃)である。東海地方には、尾張・美濃・西三河の「尾張型埴輪」、遠江の「遠江型淡輪系埴輪」、東三河の「三河型埴輪」、北伊勢の「伊勢型淡輪系埴輪」、南伊勢の「伊勢型畿内系埴輪」の5系統の地域色を有する埴輪が存在する。顕著に地域色を有するが、分布はそれぞれの地域を越えて見られるのも事実である。たとえば遠江では「遠江型淡輪系埴輪」だけでなく、豊田町上坂上古墳や磐田市安久路古窯のように、外面調整が板ナデを基調とした「三河型埴輪」や浜松市吉影D3号墳のように底部ケズリ調整を施す「尾張型埴輪」が存在する。しかし他系統の埴輪は少数であり、主体を占めるのはあくまでも遠江型(淡輪系)埴輪である。

前述した5遺跡の埴輪は、一の宮古墳と峠場古窯の埴輪が遠江型淡輪系埴輪、利木古墳のものが尾張系埴輪である。一の宮南古墳と明通り古窯の埴輪も確証はないが、淡輪系である可能性は高い。

御経塚北古墳の埴輪は、豊橋市水神古窯との関係から、南伊勢型畿内系埴輪の可能性もあると考えられるが、出土点数が少なく何とも言えない。

遠江型淡輪系埴輪については次節で説明するとして、ここでは、利木古墳の円筒埴輪についてもう少し言及しておこう。

赤塚次郎氏は底部の直径を決めるのに針金状の工具を使い、ヨコ回転動作が内・外面に見られ、倒立・乾燥面タタキ・底部ケズリという技法を組み合わせるものを尾張型埴輪と定義している(赤塚1992)。また尾張型埴輪には、内面調整と最下段の状況に現れる6段階の変遷が認められると言うことである。しかし、系譜と想定される型式変化が細かく、日頃見慣れていない筆者には、容易には理解できない。

利木古墳の埴輪の形態は2突帯で、比較的口径と底径の差が小さい円筒状のものである(赤塚の形態B)が、基底部(底部から第1突帯の間)の高が高く、また口縁部(第2突帯より上)も長いものである。尾張にはあまり見られない形態である。

底部の設定技法は、一度天地をひっくり返して製作されている(赤塚の2分割倒立技法)ため、観察することはできなかった。突帯は幅と高さがほぼ同じ(赤塚の1:1突帯)である。外面調整は1次調整タテハケで2次がC種ヨコハケである。タタキは見られない。原則的に基底部にはヨコハケは施されず、施されてもそれは回転を用いないものである。内面調整は、ヨコハケやヨコナデが存在するものの、施される範囲は狭い。それよりもタテナデ、タテ板ナデ、ナメハケ、ナメ板ナデなど回転を用いない縦位の調整が目立つ。突帯は板やハケ工具で調整されるものが存在し、尾張のものと同じである。

赤塚の編年に照合するのであれば、倒立技法の存在、内面の横方向の調整の後退、基底部の

二次調整の省略化など考え合わせると、尾張型埴輪の後半代、つまり6世紀前半代(TK47~MT15並行)の製品と見ることができる。この年代観は、伴出した須恵器および人物埴輪が着用していた甲の年代観とも一致する。

遠江において利木古墳の他に、尾張型埴輪もしくはその影響を受けた埴輪を出した古墳には、浜松市郷ヶ平古墳6号墳、同市吉影D3号墳、引佐郡細江町中平古墳、袋井市衛門坂古窯、小笠郡大東町星川古窯、小笠郡菊川町高田原古墳がある。尾張型埴輪のルールを良く守っているのは、吉影D3号墳と利木古墳であろう。その他のものは在地化が著しい。詳しくは別稿で紹介することにした。

#### (4) 峠場古窯出土埴輪の評価 (遠江型淡輪系埴輪について)

峠場古窯と一の宮古墳出土埴輪は、底部に段をもつことから淡輪系埴輪と呼ばれている。全国的にこのように底部に輪をはめ、底径を規格化させ、しかも須恵器技法を多用した埴輪は、大阪府泉南の淡輪地域、三重県北伊勢地域、静岡県遠江地域の3地域に集中して検出されている。その他には、福岡県で2例、岐阜県美濃で1例、愛知県三河で4例、福井県で1例、石川県で1例が確認されている。

畿内と北九州のものは、TK73型式に伴うもので、須恵器生産が日本で開始されたばかりの時期のものである。三重県や静岡県のもは少し遅れて、TK216型式の段階から生産され、TK10型式の段階まで行われた。北陸のものはさらに遅れ、MT15型式の段階のものである。年代が示すように大きくは、淡輪→東海→北陸と伝播したと見ることができる。

遠江で淡輪系埴輪を出土した遺跡は、古墳で15基、古窯で2遺跡4基である。しかしこの内には、遠江に近接する三河の例を4例含めている。これらの埴輪は、外面調整により、以下のように大きく2形態に分けることができる。

I類—外面調整 タテ板ナデ→C種ヨコハケ

II類—外面調整 タテハケ →C種ヨコハケ

#### I類

I類とした実例は、千人塚古墳、光明山古墳、京見塚古墳出土埴輪である。京見塚古墳は伴った須恵器からTK208型式を降らないと考えられる。それに対し千人塚古墳は三角板革綴短甲、石製斧頭をもつことから、京見塚古墳よりは先行するものと思われる。また埴輪技法の統一化、画一化の方向性にも矛盾するものではない。そうした流れから考えると千人塚古墳→光明山古墳→京見塚古墳の順になる。

しかし光明山古墳の資料は、表面採集品という資料的制約もあり、千人塚古墳の後に編年するのになや不安が残る。それは1点ではあるがタタキが施された埴輪と思われる破片が認められたからである。つまりタタキの存在は淡輪からの系譜であって、古い要素と考えられるからである。千人塚古墳が先行するとしても、技法の近似性から、光明山古墳との間にはそれほど時間差が存在したとは考えられない。また淡輪系埴輪の導入は、千人塚古墳の方が先行して

築造されているとしても、遠江の首長である光明山古墳の被葬者に係わりがあったと推定される。

## II類

II類は、一次調整にタテハケ、二次調整に回転ヨコハケを行うものである。まずI類とII類の違いについて明確にしておこう。

①外面調整—I—一次調整タテ板ナデ→二次調整回転ヨコハケ（粗い櫛目状）

II—一次調整タテハケ→二次調整回転ヨコハケ（細かな櫛目もしくは通常のハケ工具）

②底部—II類では明瞭な段を有するものばかりとなり、切断やケズリなどの調整は行われない。また底部が大きく肥厚するものは原則的には無くなる。また器壁全体も薄いものが多くなる。

③突帯—2.類になると低いM字形もしくは台形だけとなる。また突帯にヨコハケを加えることはしない。またI.類に存在した突帯下に沈線を入れることもしなくなる。

以上の3点に要約されよう。ではII類の細分に入ろう。基本的には大きな変化はないが、二次調整のヨコハケを施す範囲が漸次縮小する傾向が見られる。それを基準に細分される。

II a—基部にもヨコハケを施すもの—二子塚古墳、磐田352号墳、一の宮古墳ハケは基本的に櫛目状の細かなものを用いる。器壁はやや厚く、底部も厚めである。

II b—基部のヨコハケを完全に省略するもの—陣内平3号墳、権現平山6号墳、郷ヶ平3号墳、古村積神社古墳ハケは一般的なハケ状の工具が多くなる。また器壁は薄く、底部もほとんど肥厚しない。

II c—ハケ調整はほとんど行われなくなり、行うとしても突帯間のみヨコハケを施す程度のも—亀塚古墳内面に粘土紐を顕著に残すなど粗雑な作りである。類例は亀塚古墳の1例だけであり、資料的にも不十分である。よって技法の内容ははっきりしない。

以上の3型式に細分される。

II aは、二子塚古墳と一の宮古墳の出土須恵器がTK23型式の段階と考えられることから、5世紀末葉の年代が与えられよう。ただし一の宮古墳の場合、一般的なハケ工具も用いられ、基部のヨコハケも第1突帯直下に1回転行われているのみで、II aの段階では新しい様相をもつものと言えよう。二子塚古墳・磐田352号墳→一の宮古墳の築造順序が考えられる。

II bは、類例がもっとも多く、遠江において淡輪系埴輪が盛行した段階と言える。年代を示すものとして、陣内平古墳と郷ヶ平3号墳でTK47型式の須恵器が、古村積神社古墳ではMT15型式以前の甕が伴出している。峠場古窯ではMT15型式の須恵器が共伴している。また権現平山6号墳からもMT15型式と推定される器径の大きな坏身が出土している。よってTK47型式からMT15型式の時期の埴輪と考える。ところで、峠場古窯では、先行する一の宮古墳出土埴輪と同じ、II aでも新しい傾向の埴輪が残存していた。

II cは、淡輪系埴輪が形骸化してしまったもので、亀塚古墳にしか今のところ類例はない。

この古墳からはTK10型式の須恵器が表採されていることから、この時期のものと考えておきたい。それまで保守してきた淡輪系埴輪としての技法的一貫性は失われ、在地の別系譜の埴輪技法と融合してしまっている。

遠江型淡輪系埴輪の編年をまとめると以下のようになろう。

I - TK 216~TK 208型式 千人塚・光明山→京見塚

II a - TK23型式 二子塚・磐田 352号（・念仏塚5号?）→一の宮

II b - TK47~MT15型式 陣内平・郷ヶ平3号→古村積神社・権現平山6号・峠場古窯

II c - TK10型式 亀塚

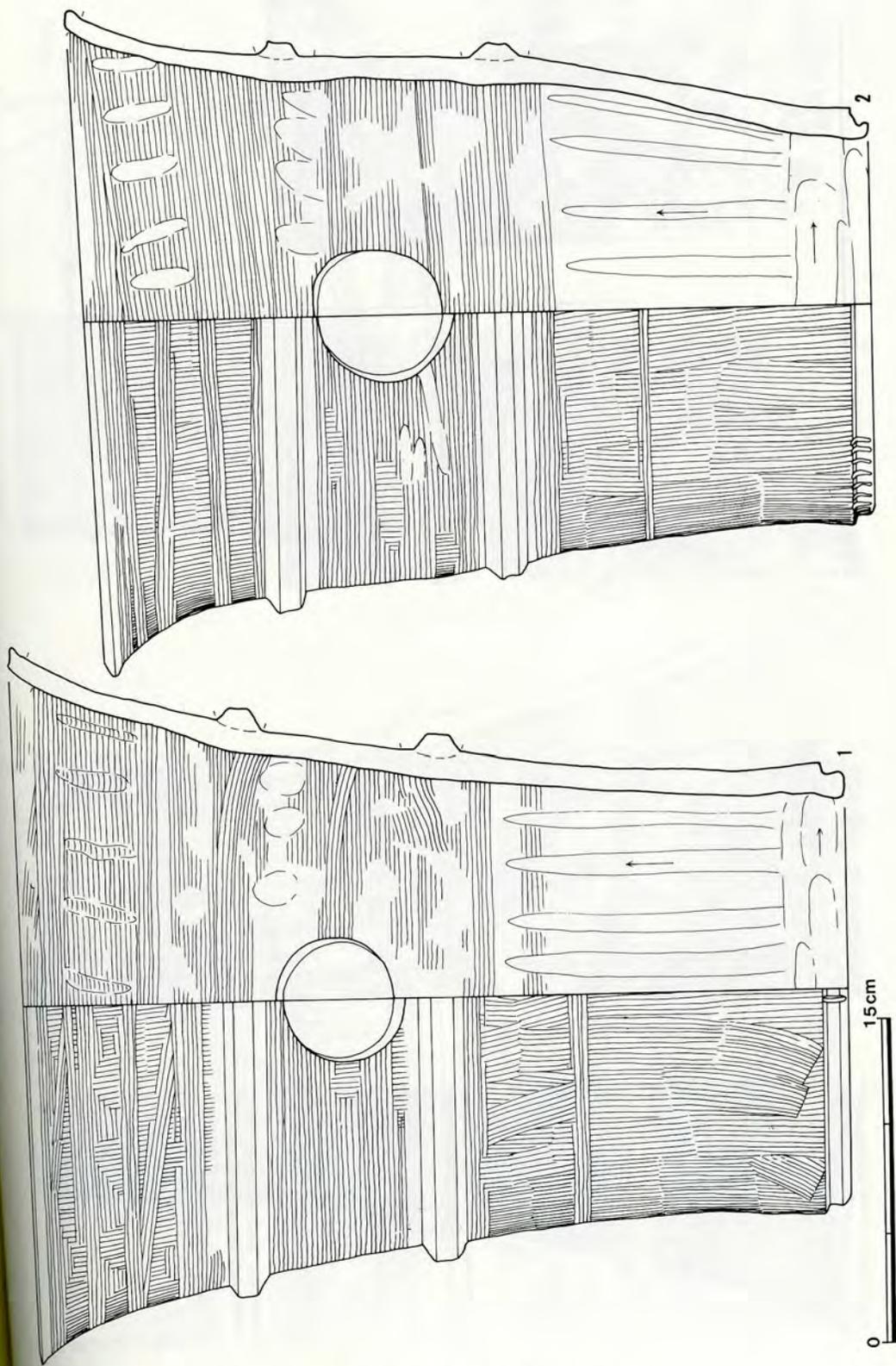
遠江型淡輪系埴輪の編年について述べてきたが、峠場古窯が発見されるまで、生産跡=古窯は、京見塚古墳の外堤にあった古窯と、明通り古窯が存在しただけであった。京見塚の例は、出張生産の例であり、恒常的な生産の場ではなかった。また明通り古窯の例は、底部を欠き淡輪系埴輪と断定できるものはなかった。峠場古窯が発見されたことにより、同じ谷にある明通り古窯の埴輪が淡輪系埴輪であった可能性が一層高くなった。さらに淡輪系埴輪の工人が湖西市の一の宮を本拠地として須恵器生産に携わっていた工人であった可能性も高くなったと言える。

また遠江における淡輪系埴輪の導入が、TK208型式を降らないことから、TK208型式の段階にはすでに、湖西古窯跡群内で須恵器生産が開始されていた可能性も十分あると言える。しかし、この生産は6世紀後葉以降のような大規模なものではなく、限られた工人により生産が行われていたと推定される。

峠場古窯の須恵器はMT15型式並行であり、須恵器生産が開始されてから、かなりの時期が経過している。そのため在地的変容は受けているものの、陶邑系統の須恵器製作技法を継承していると考えられる。淡輪系埴輪の生産が、陶邑系須恵器の導入に伴って、開始されたことが一層明確になったと言えよう。

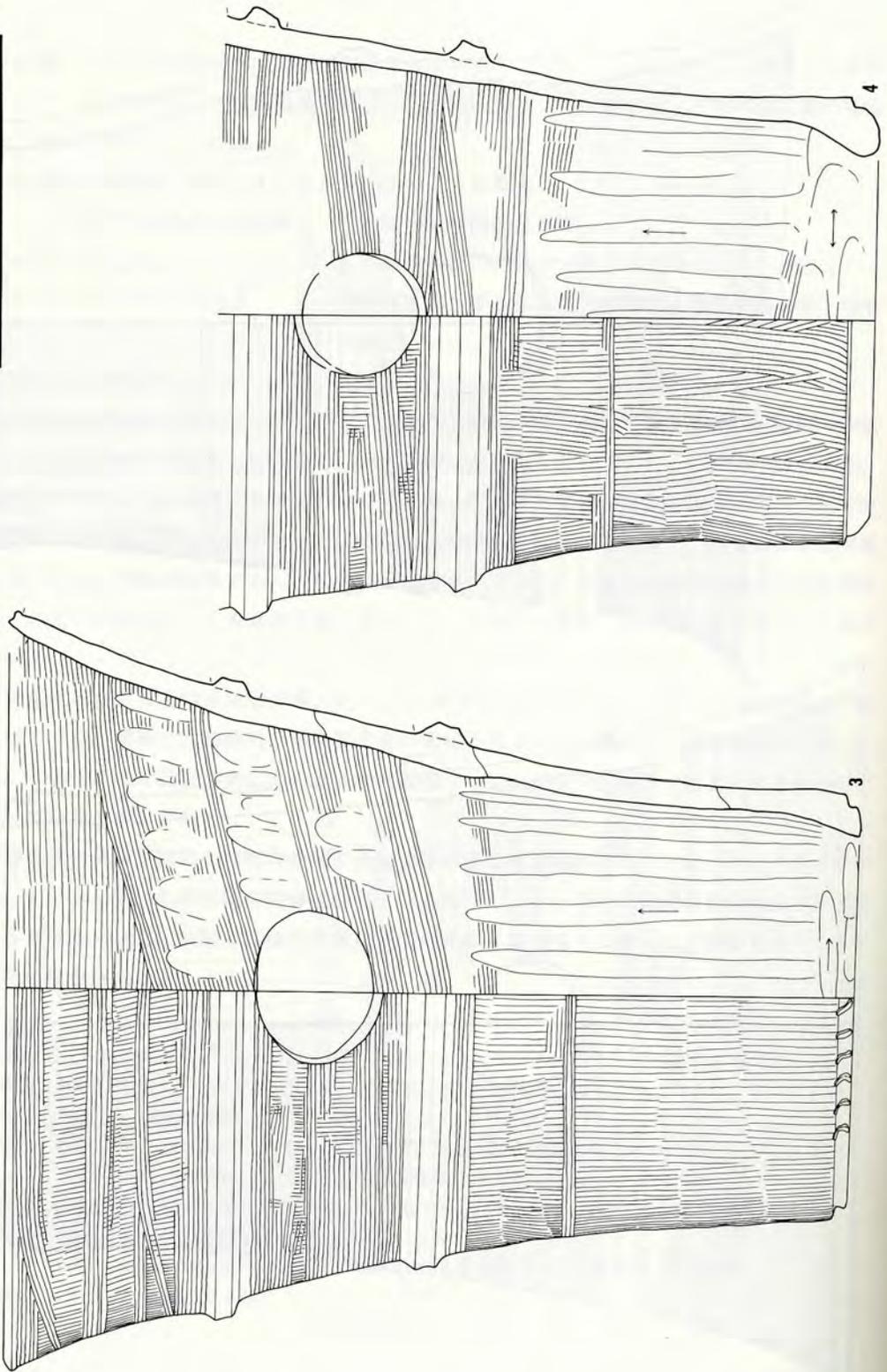
#### 参考文献

- 春成秀爾 1977 「埴輪」『考古資料の見方（遺物篇）』柏書房  
川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2  
赤塚次郎 1991 「尾張型埴輪について」『池下古墳』（財）愛知県埋蔵文化財センター  
1992 「東海」『古墳時代の研究9 古墳III埴輪』雄山閣  
彦坂良平 1963 「古代街道に関する一考察」『湖西の文化』第2号 湖西市文化研究協議会  
鈴木敏則 1990 「遠江の淡輪系円筒埴輪」『転機』3号  
1991 「伊勢の淡輪系円筒埴輪」『Mie history』vol.3 三重歴史文化研究会  
静岡県 1930 『静岡県史第1巻』

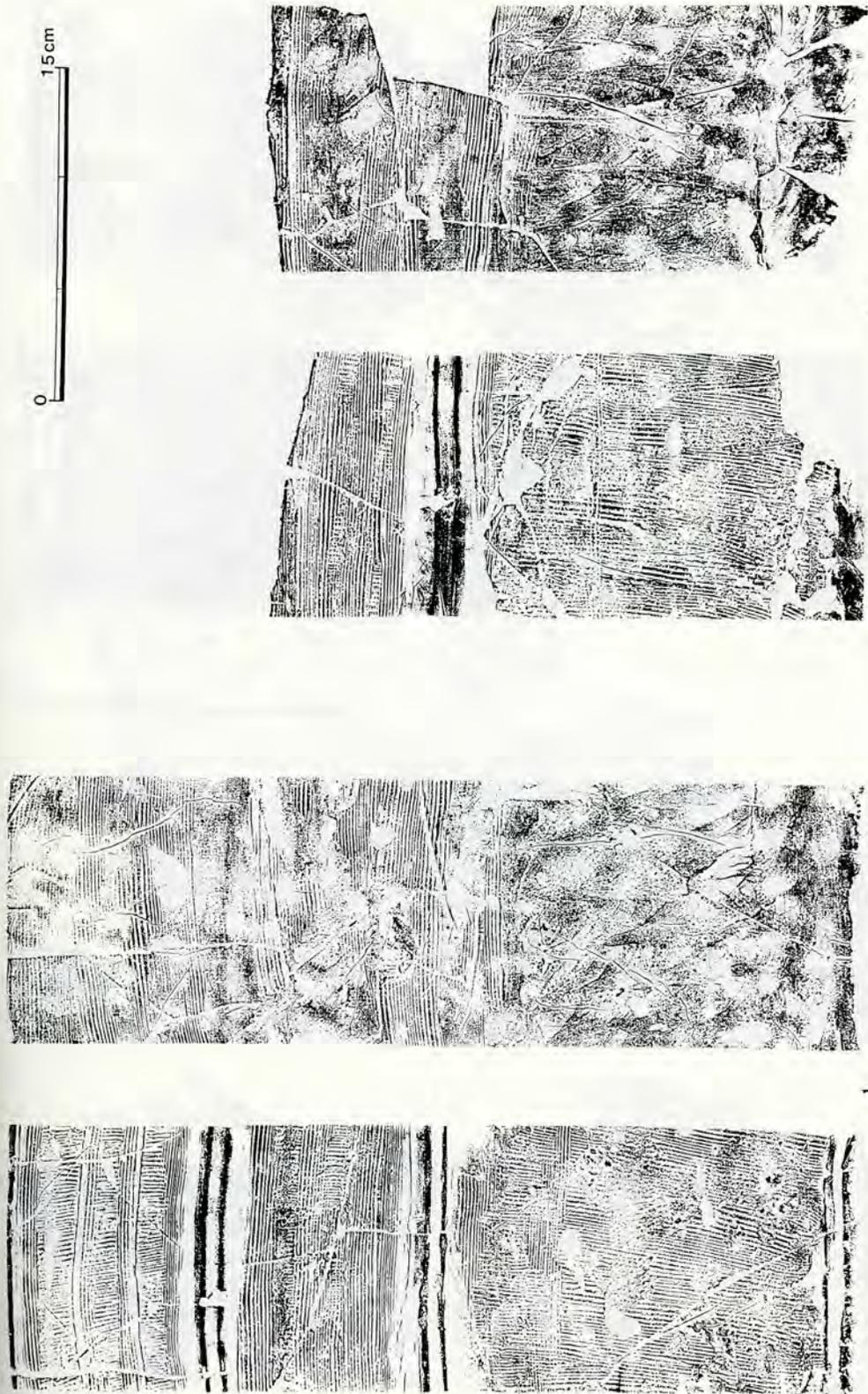


第90図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(1)

0 15 cm



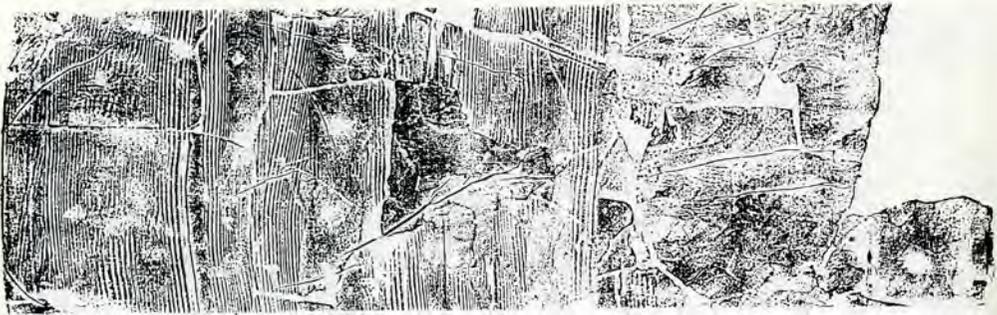
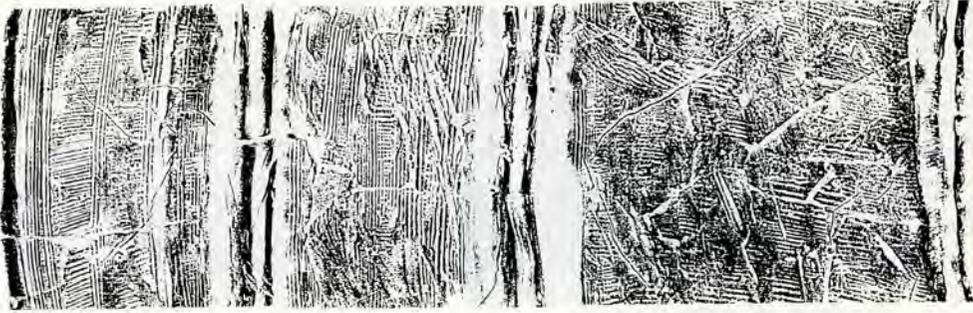
第91図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(2)



第92図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(3)



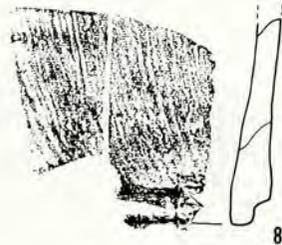
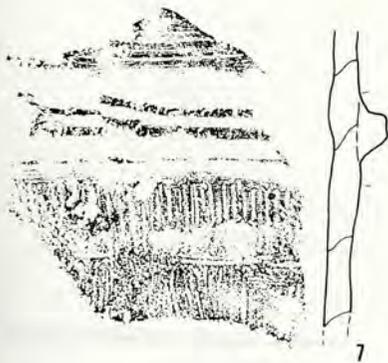
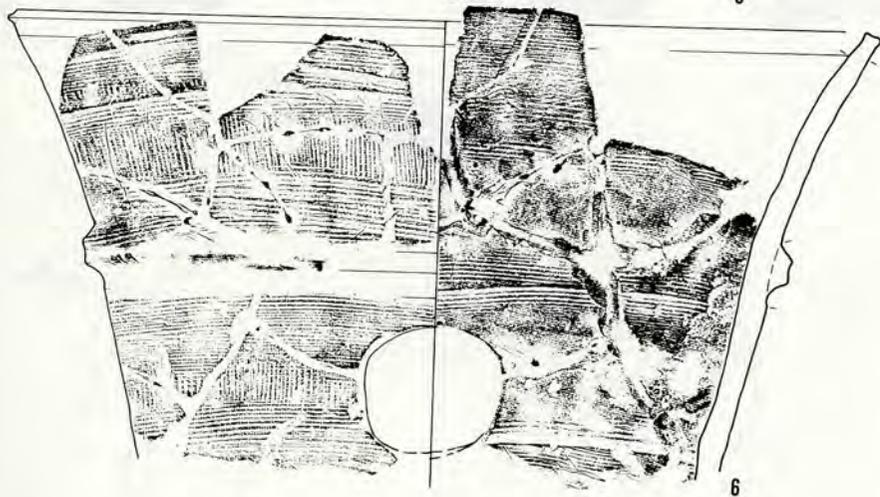
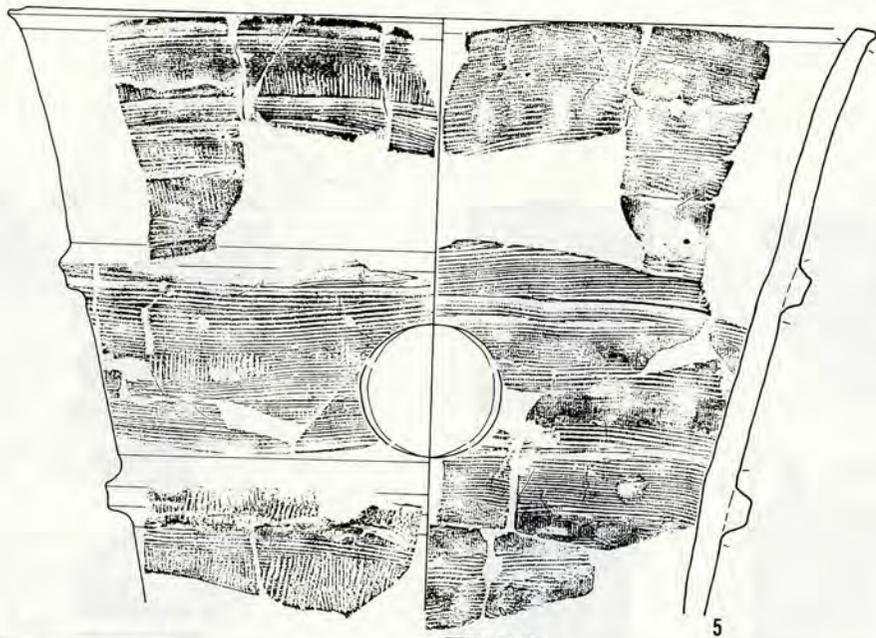
2



3

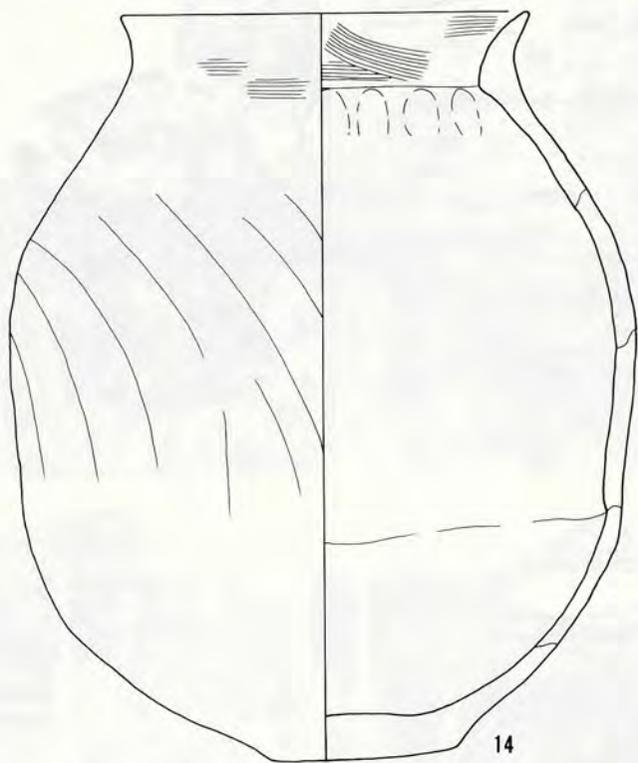
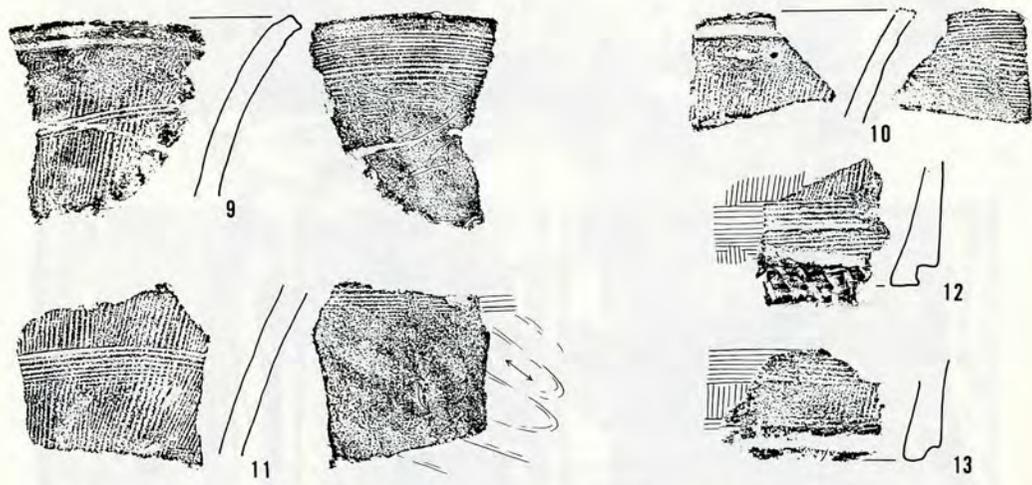


第93図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(4)

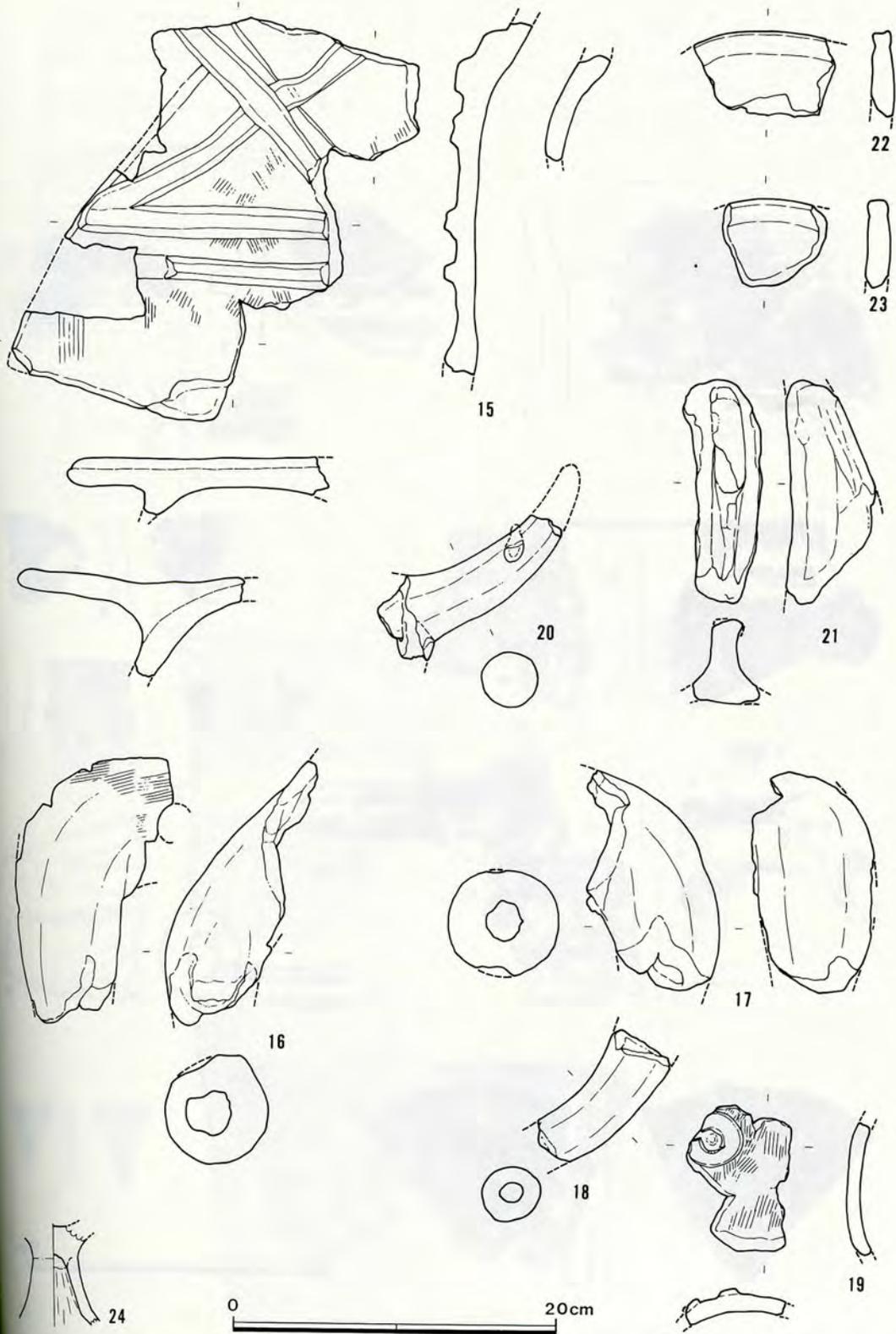


0 15cm

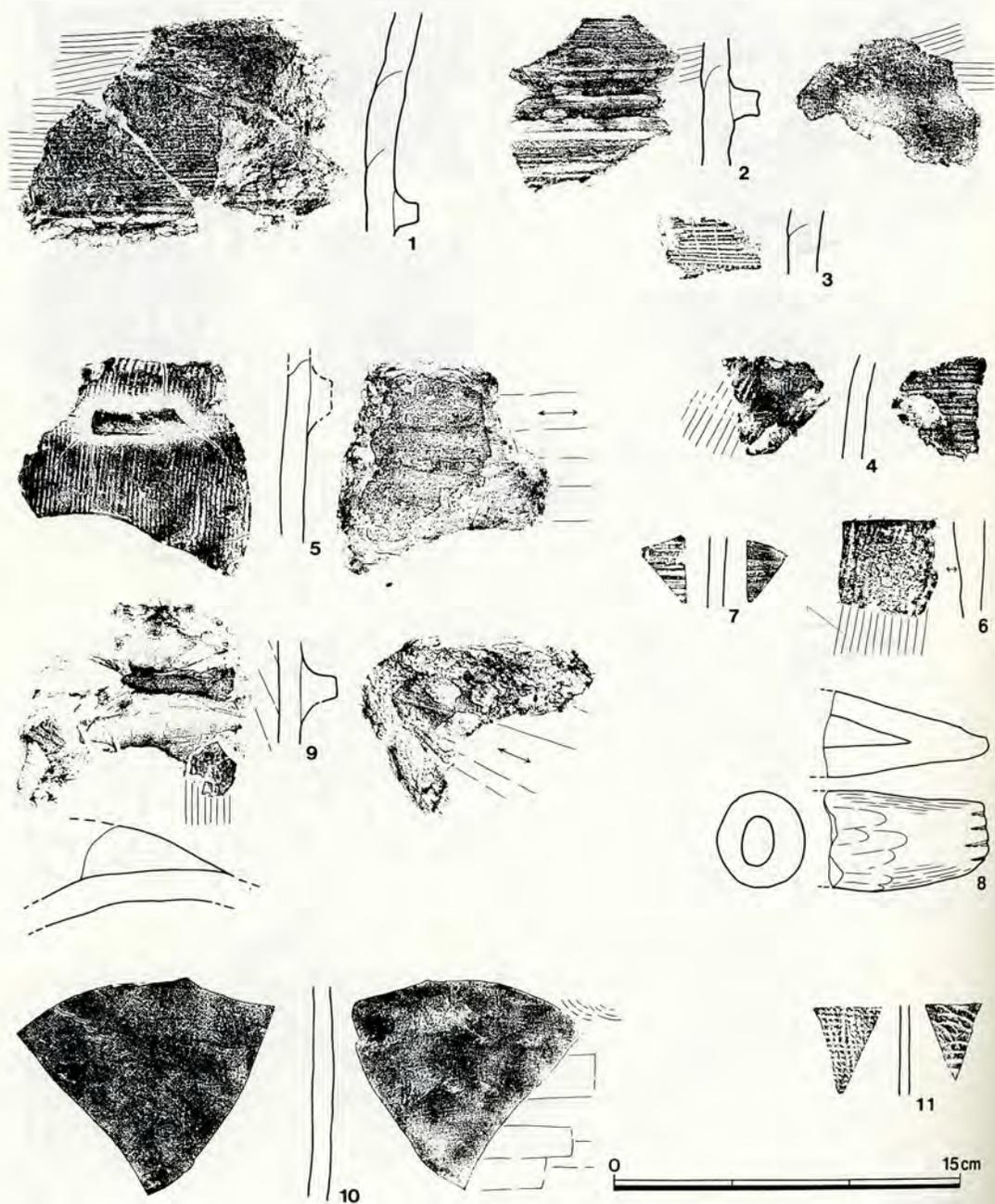
第94図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(5)



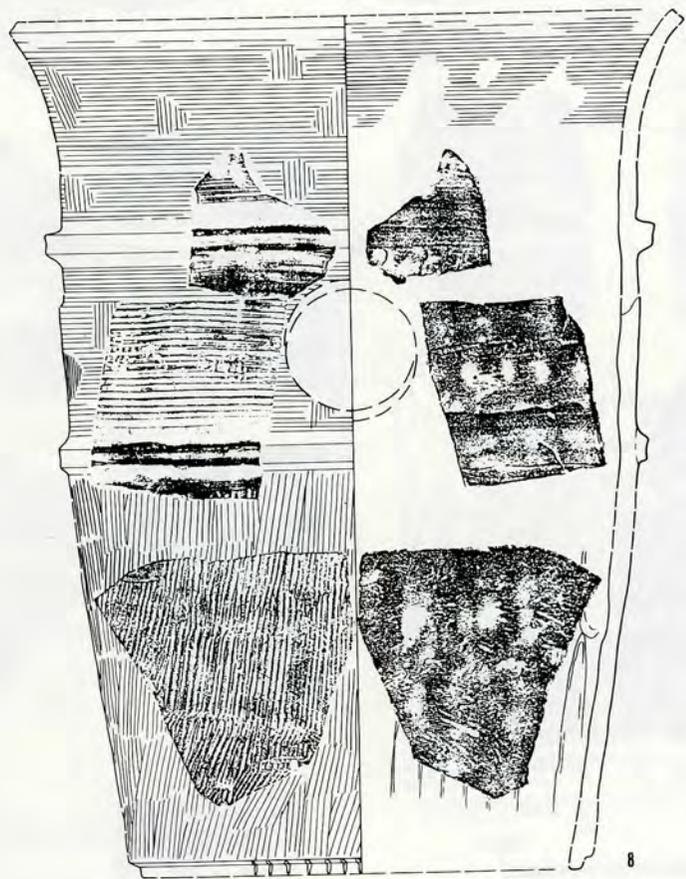
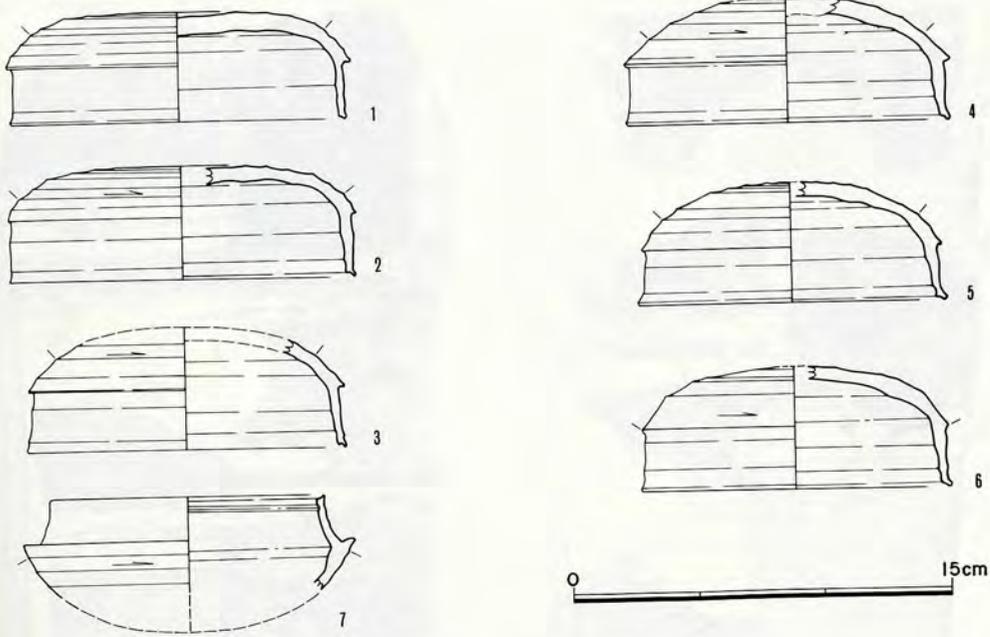
第95図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(6)



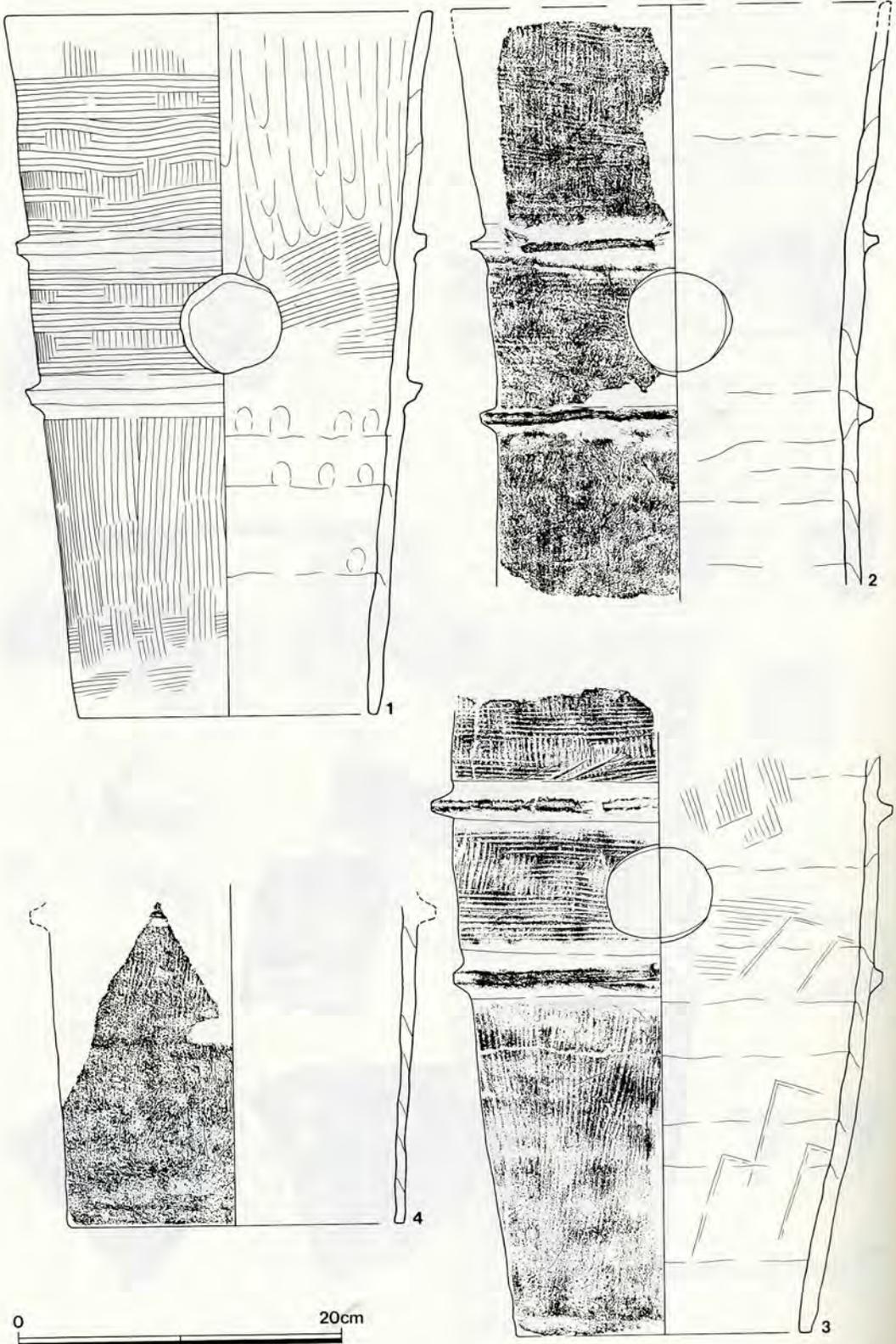
第96図 湖西市一の宮古墳出土埴輪(7)



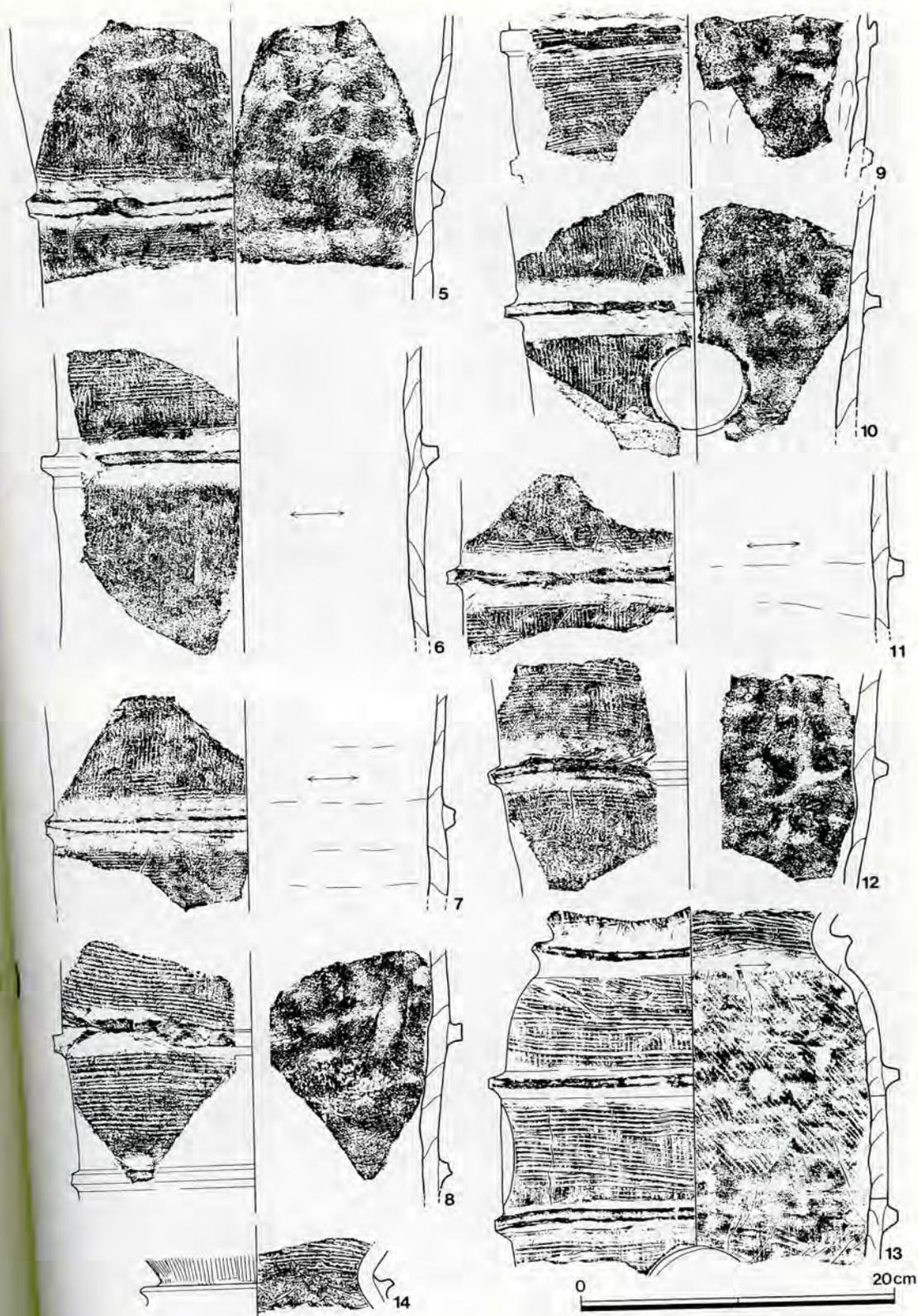
第97図 湖西市一の宮南古墳・御経塚北古墳出土埴輪



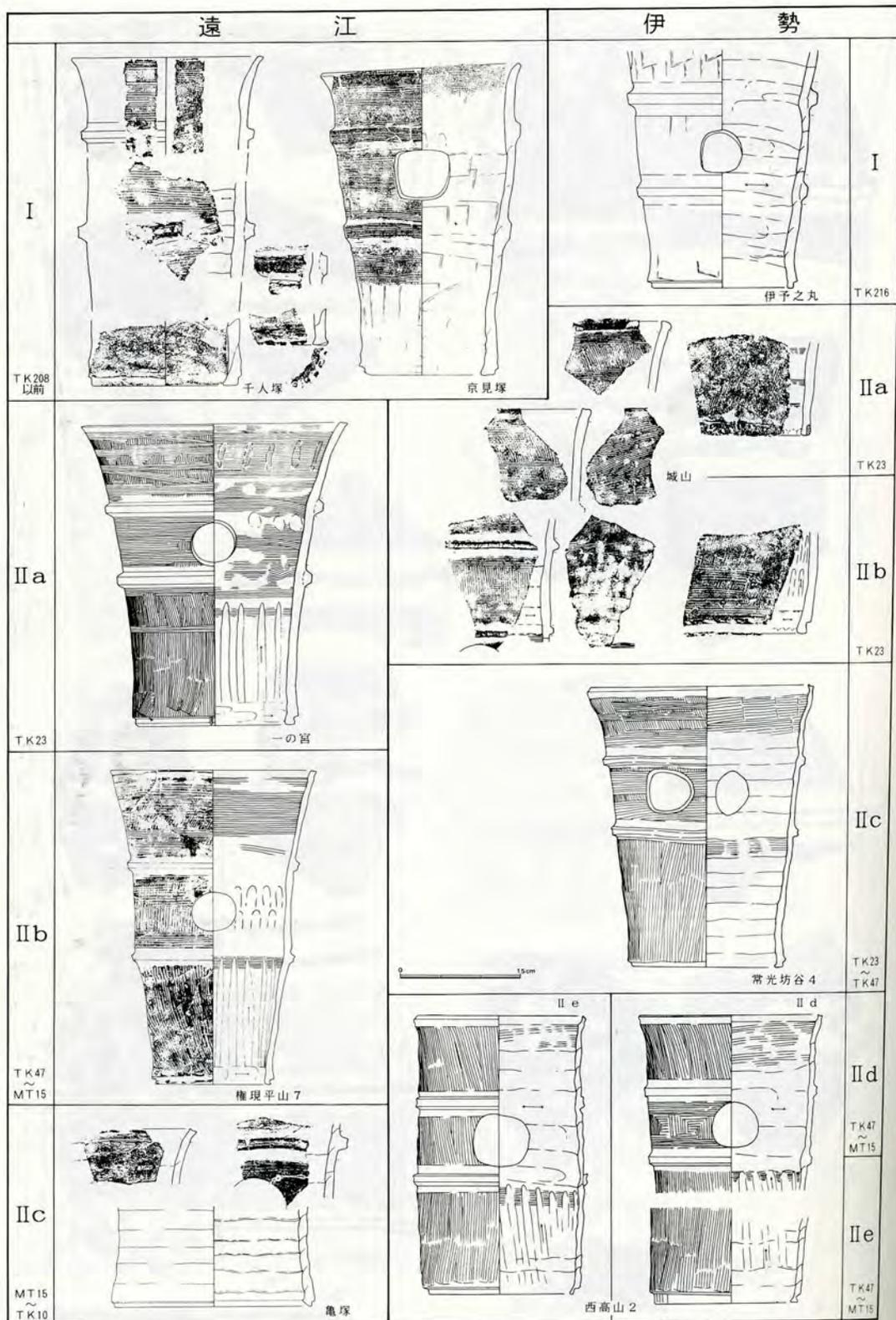
第98図 湖西市明通り古窯出土埴輪



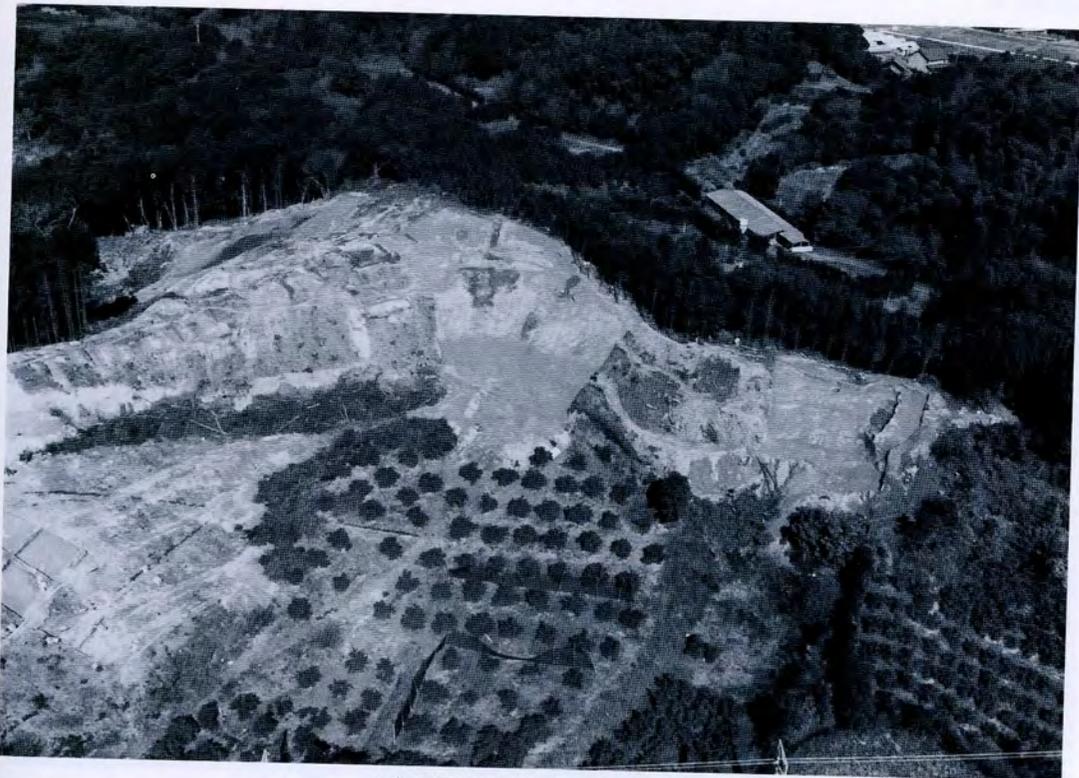
第99图 湖西市利木古墳出土埴輪(1)



第100图 湖西市利木古墳出土埴輪(2)



第101図 遠江と伊勢の淡輪系埴輪の編年図



A) 調査区全景 (南より)



B) 調査区近景 (南より)



A) 一ノ宮峠場第1地点Ⅰ・Ⅱ号窯跡(南より)



B) Ⅱ号窯跡全景(南より)

図版 3



A) II号窯跡側壁（東南より）



B) II号窯跡階段部（南西より）

図版 4



A) 一ノ宮峠場第1地点1号窯跡1次面(南より)



B) 1号窯跡2次面(南より)



A) 1号窯跡3次面(南より)



B) 1・II号窯跡作業風景(南西より)



A) 一ノ宮峠場第1地点Ⅲ・Ⅳ号窟跡（南より）



B) Ⅳ号窟跡（西より）



A) 一ノ宮峠場第1地点V号窯跡 (南より)



B) V号窯跡床面状況 (南より)



A) 一ノ宮峠場第2地点全景（北西より）



B) 1号窯跡と土坑（北西より）



A) I号窯跡 (西より)



B) I号窯跡階段部 (北より)



A) I号窠前提部と土坑 (東より)



B) 土坑 (北西より)



A) I・II号窟跡 (西より)



B) II号窟跡 (北西より)



A) 灰原 (西より)



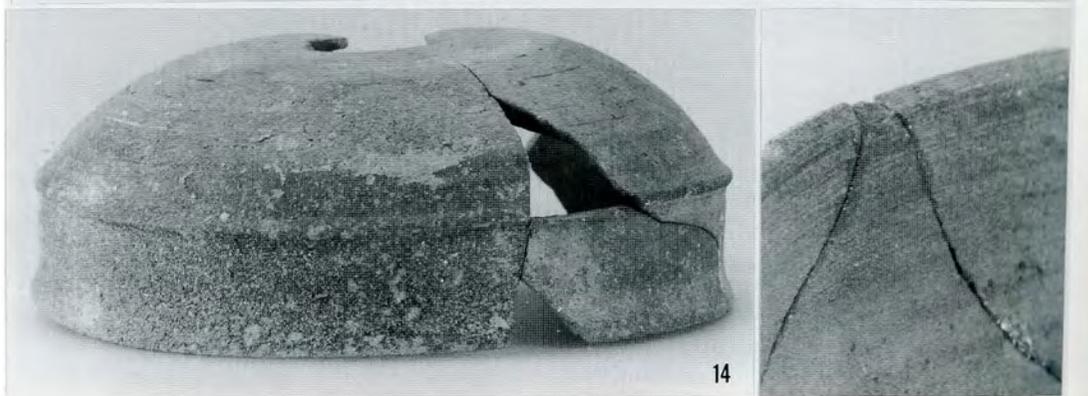
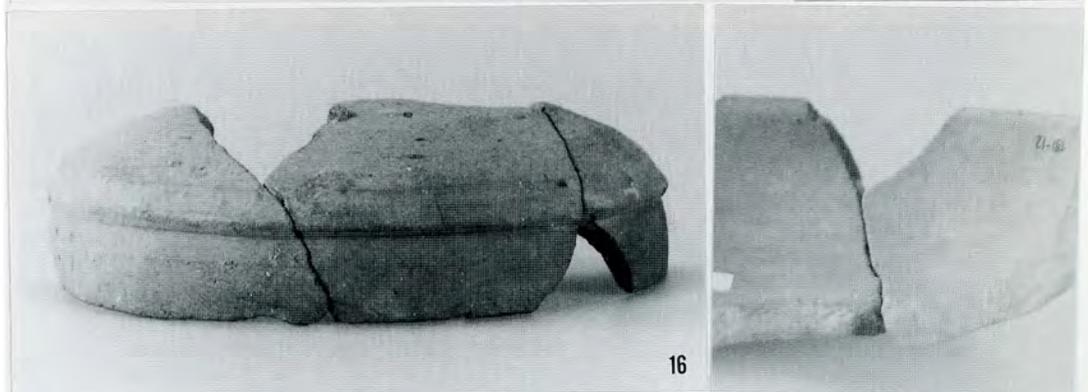
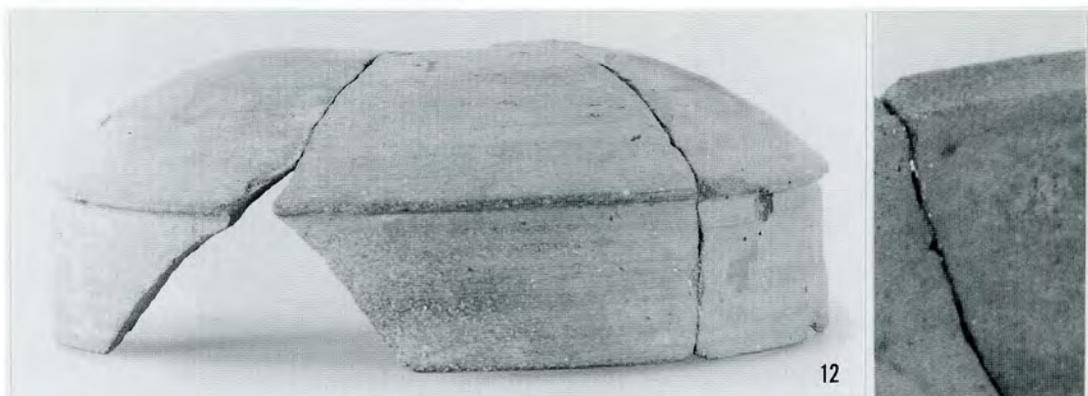
B) 作業風景 (西より)

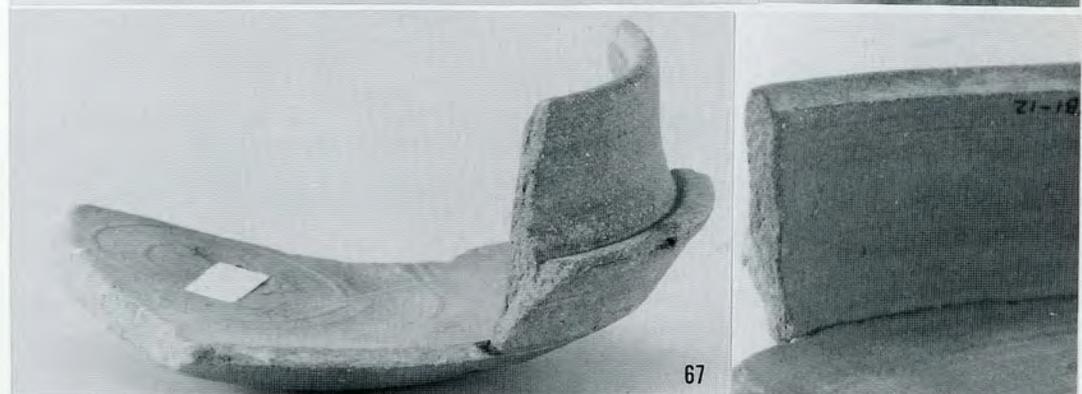


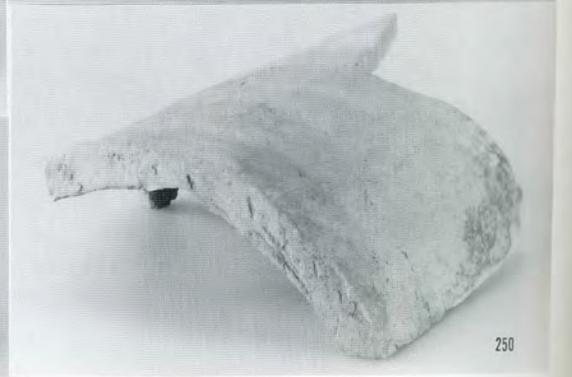
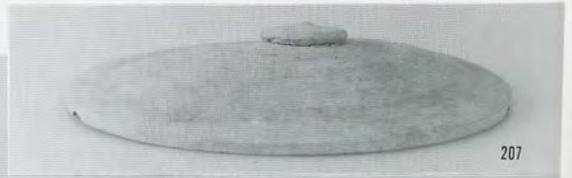
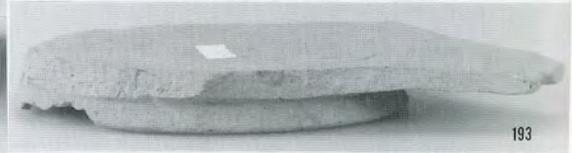
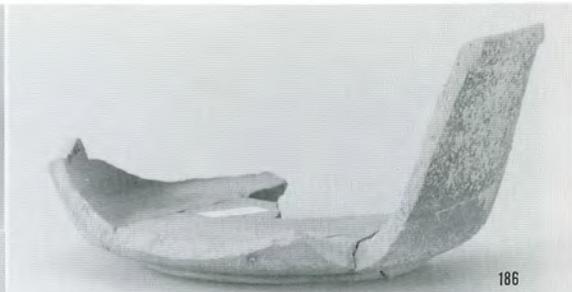
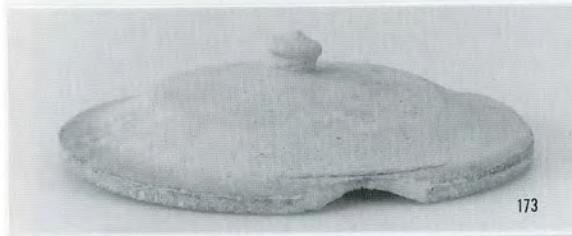
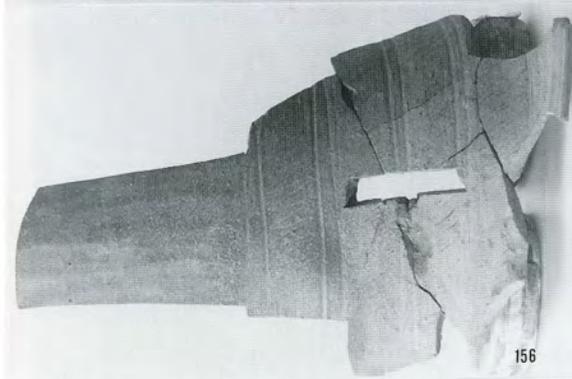
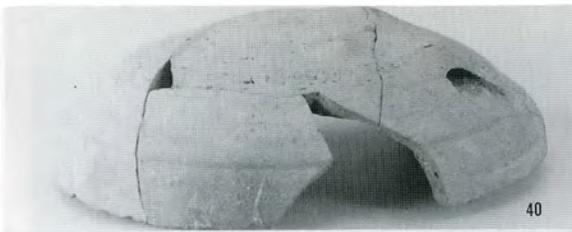
A) 一ノ宮事業場古窯跡全景（北東より）



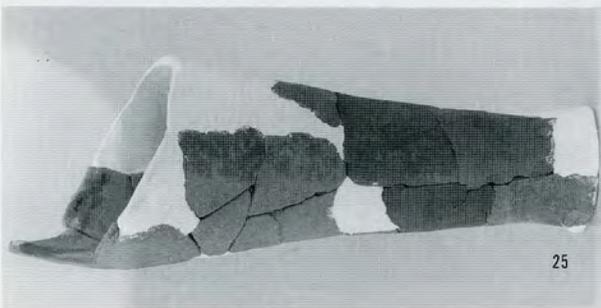
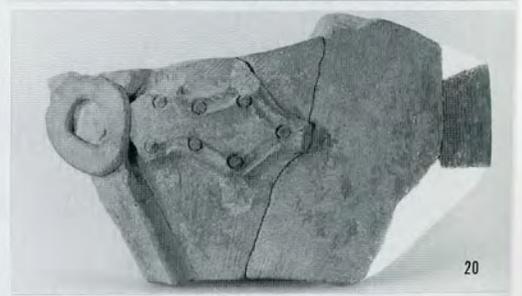
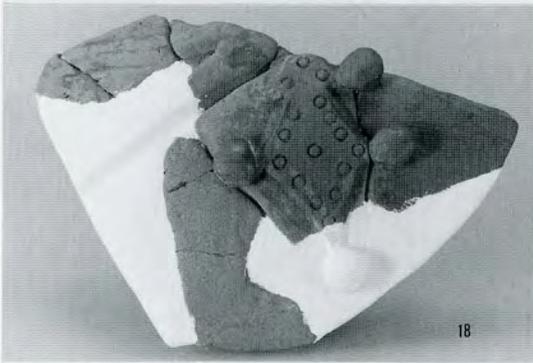
B) 作業風景（北東より）

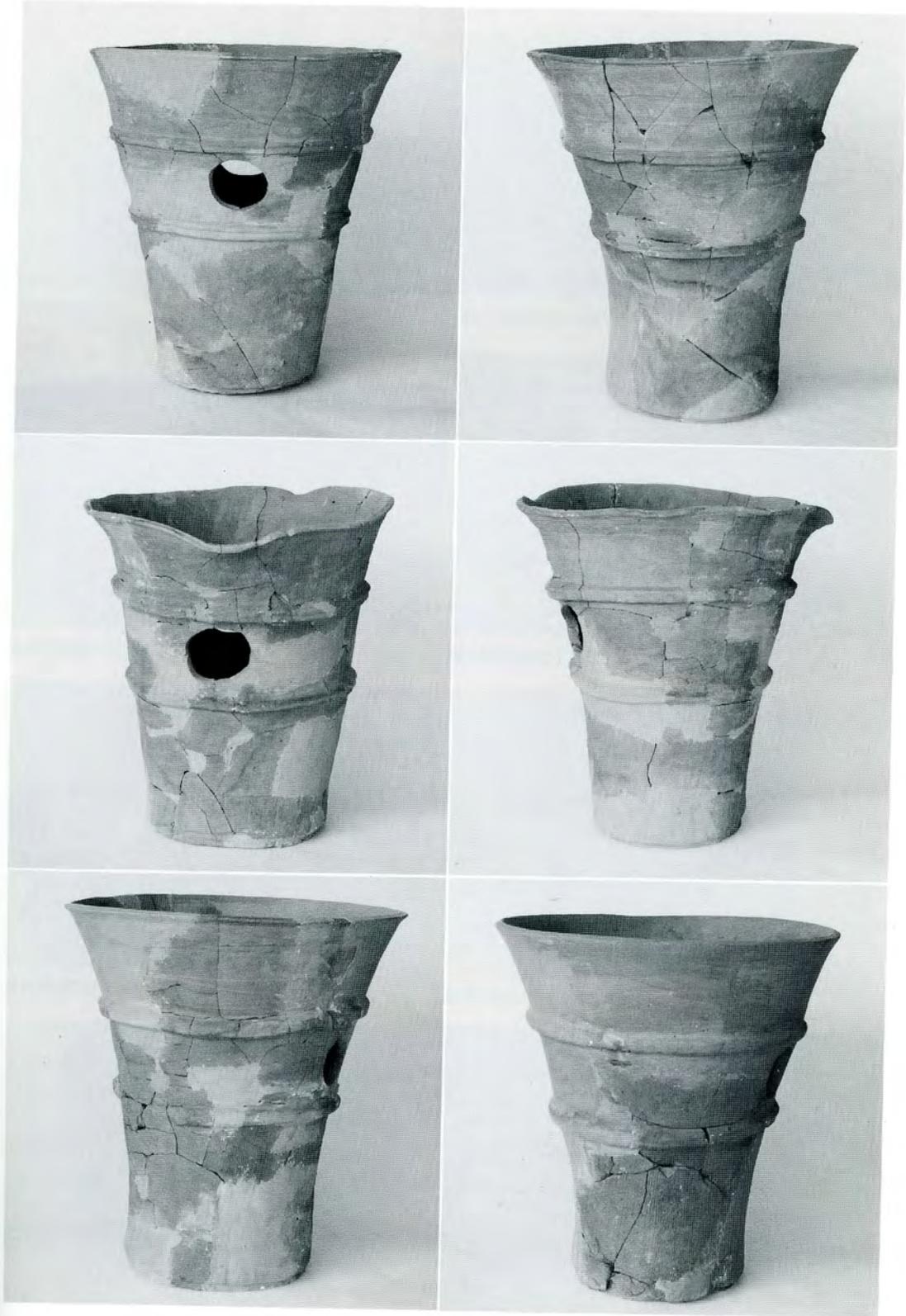












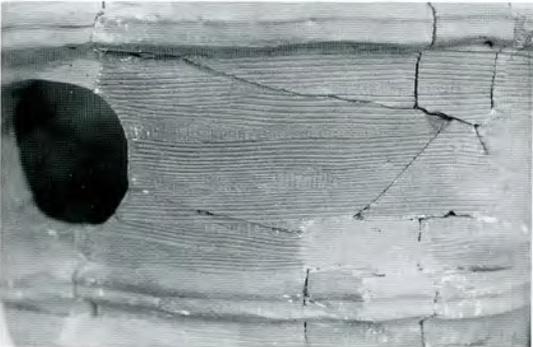
上段No. 1 中段No. 2 下段左No. 3, 右No. 4



No. 1 口縁部外面



No. 1 口縁部内面



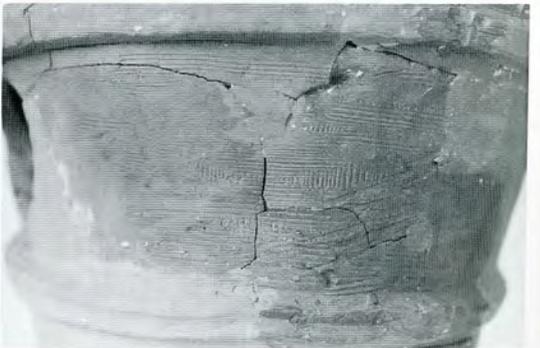
No. 1 突帯間外面



No. 2 口縁部外面



No. 1 基底部外面



No. 2 突帯間外面



No. 1 底部段 (輪の結束痕)



No. 2 基底部外面



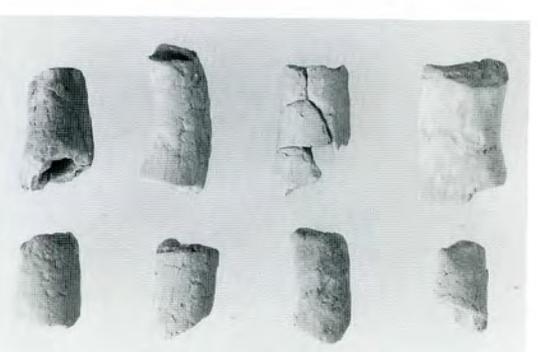
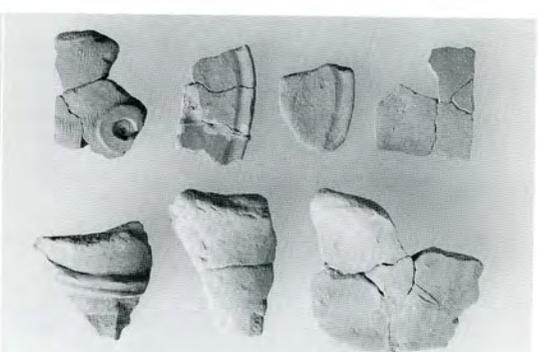
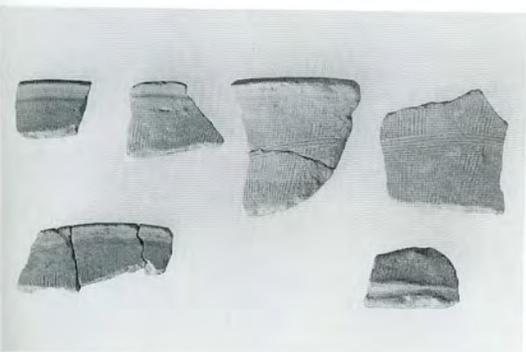
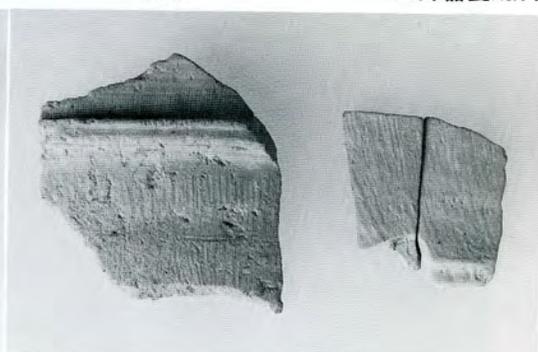
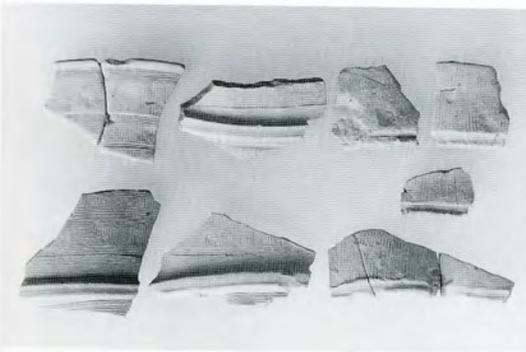
No. 6

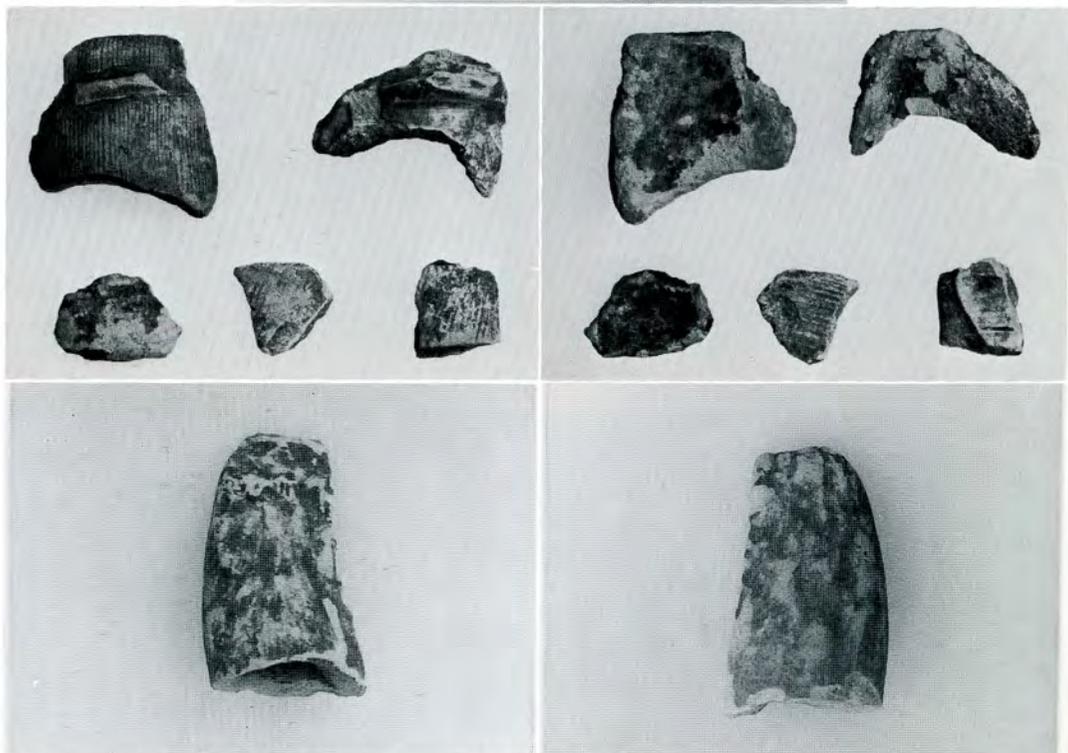


No. 5



土師器壺No.14



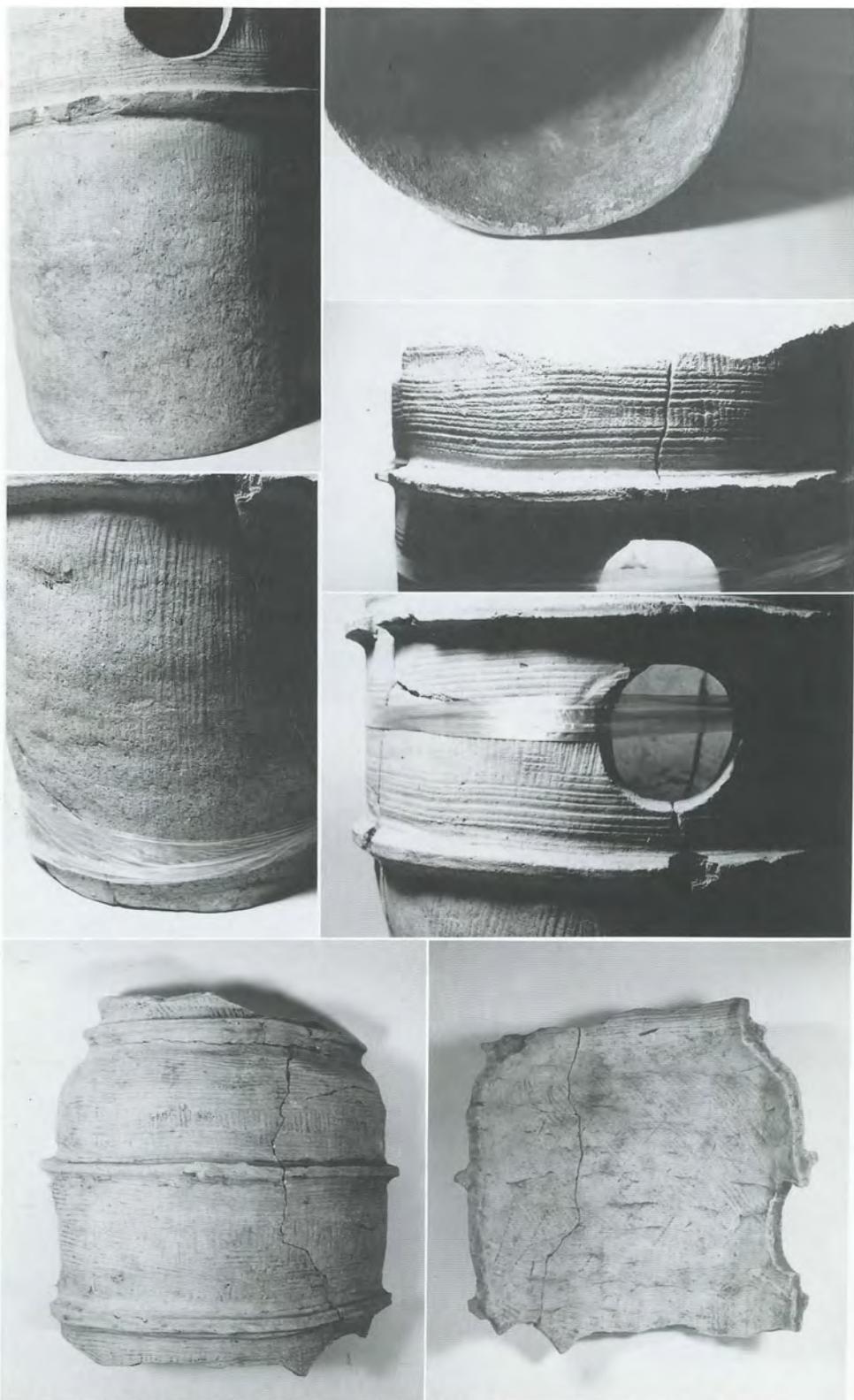


上段 一の宮古墳人物形埴輪 No.15 中段 御経塚北古墳埴輪  
下段 御経塚北古墳 人物形埴輪手 (左内、右背)



上から円筒埴輪 A, B, C ( Aが図のNo. 1 )  
 Cが図のNo. 3 )

上から Aの口縁部内面 Bの口縁部内面  
 Bの口縁部外面 Bの突帯部外面



Bの基底部・朝顔形埴輪外面No.13  
Cの基底部

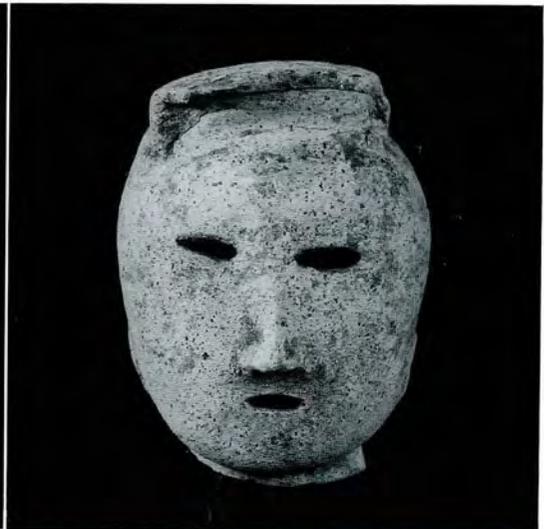
Bの底部  
Cの口縁部外面

Cの突帯間外面  
朝顔形埴輪内面No.13



上から人物形埴輪1 人物形埴輪3

上から人物形埴輪2 人物形埴輪4



上から人物形埴輪 5 人物形埴輪 6  
人物形埴輪 7

上から人物形埴輪 8 人物形埴輪 9  
人物形埴輪10 (壺を持つ手)

湖西市文化財調査報告第29集  
湖西一ノ宮工業団地内遺跡発掘調査報告書

平成4年3月27日

編集 静岡県湖西市教育委員会

発行 静岡県企業局

静岡県湖西市教育委員会

印刷 浜松共同印刷株式会社